

タイトル	芸術文化主導の自治体政策： 自信の窓 が開くときを求めて
著者	中井，征夫； Nakai， Masao
引用	
発行日	2017-09-30

平成 29 年度 博士論文

**芸術文化主導の自治体政策
—〈自信の窓〉が開くときを求めて—**

北海学園大学大学院
法学研究科・政治学専攻・博士(後期)課程
学生番号 7 8 1 3 1 0 1 ・ 中井 征夫

目次

はじめに	2
第1章 分析枠組みについて	4
第1節 協働の窓モデルを導出した先行研究の概要	
1 ゴミ箱モデル	
2 政策の窓モデル	5
3 組織的知識創造モデル	6
4 改訂・政策の窓モデル	7
5 協働促進・抑制要因モデル	
6 協働形成モデル(ローバー)	8
7 協働形成モデル(タカハシ&スマートニー)	
第2節 協働の窓モデル	9
1 協働の窓モデルの概要	
2 協働の窓モデルの構成要素	11
3 参加者の特定化と協働の場の設定・活用	
4 問題の認識・定義と解決策の生成・特定化	12
5 組織のやる気の生成と活動	
6 協働の実現と協働の展開	13
7 協働の窓モデルの特徴	
8 研究方法・事例研究	15
9 データ収集と事例の作成	
第3節 改訂版・協働の窓モデル	18
1 自信の窓の定義	
2 分析手法	20
3 時代背景	21
4 今回3市町を採り上げた理由	22
第2章 写真のまち東川の戦略的協働	24
第1節 前史(第1期)	25
第2節 協働形成期(第2期)	26
第3節 協働実現期(第3期)	28
第4節 協働展開期(第4期)	29
写真のまち年代記	33
写真のまち分析結果	41
1 参加者と協働の場	43
2 問題の流れ	45
3 解決策の流れ	47
4 組織のやる気の流れ	48
5 活動の流れ	50
6 4つのパッケージ	
第3章 美術館のまち美唄の戦略的協働	52
第1節 前史(第1期)	
第2節 協働形成期(第2期)	55
第3節 協働実現期(第3期)	57
第4節 協働展開期(第4期)	59
美術館のまち年代記	62

美術館のまち分析結果	72
1 参加者と協働の場	74
2 問題の流れ	75
3 解決策の流れ	76
4 組織のやる気の流れ	78
5 活動の流れ	79
6 4つのパッケージ	80
<hr/> 第4章 演劇のまち富良野の戦略的協働	81
第1節 前史(第1期)	82
第2節 協働形成期(第2期)	83
第3節 協働実現期(第3期)	85
第4節 協働展開期(第4期)	87
演劇のまち年代記	90
演劇のまち分析結果	96
1 参加者と協働の場	98
2 問題の流れ	99
3 解決策の流れ	100
4 組織のやる気の流れ	101
5 活動の流れ	102
6 4つのパッケージ	103
<hr/> 第5章 自信の窓	105
第1節 自信の窓の概要	
第2節 写真のまち東川	107
1 君の椅子	
2 水道普及率ゼロのまちづくり	108
3 東川米	110
4 行政サービス事例	111
5 自信の窓通過候補	112
第3節 美術館のまち美唄	114
1 利雪のまちづくり	
2 行政サービス事例	118
3 その他	119
第4節 演劇のまち富良野	121
1 フラノマルシェ	122
2 行政サービス事例	123
まとめ	124
<hr/> おわりに	125
参考文献等	128
参考資料	133

表・目次		頁
1 - 1	年代記の様式	7
1 - 2	協働の窓モデルに導入した事項	15
1 - 3	8つのモデルh閣	16
1 - 4	プロジェクト分析表	17
2 - 1	写真のまち年代記	33
2 - 2	写真のまち分析結果	41
3 - 1	美術館のまち年代記	62
3 - 2	美術館のまち分析結果	72
4 - 1	演劇のまち年代記	90
4 - 2	演劇のまち分析結果	96

図・目次		頁
1 - 1	ゴミ箱モデルノ概念図	5
1 - 2	政策の窓モデルの概念図	6
1 - 3	SECIモデルの概念図	7
1 - 4	協働の促進・抑制要因モデル	8
1 - 5	協働形成モデル ローバー	8
1 - 6	協働の窓モデルの概念図 (43頁)	10
1 - 7	問題等が活動の流れの中で浮遊するプロセス	
1 - 8	先行研究と協働の窓モデルの関係	16
1 - 9	自信の窓の概念図 (107頁)	19
2 - 1	市町の位置図	25
2 - 2	東川町人口の推移	25
2 - 3	写真甲子園予選応募校の推移	31
2 - 4	〔協働の窓モデル概念図のうち〕「問題の窓」と「問題」	45
2 - 5	〔同上〕「解決策の窓」と解決策	47
2 - 6	〔同上〕「組織のやる気の窓」と「組織のやる気」	48
2 - 7	〔同上〕「活動」	50
2 - 8	〔同上〕「4つのパッケージ」	51
3 - 1	〔協働の窓モデル概念図のうち〕「問題の窓」と「問題」	75
3 - 2	〔同上〕「解決策の窓」と解決策	76
3 - 3	〔同上〕「組織のやる気の窓」と「組織のやる気」	78
3 - 4	〔同上〕「活動」	79
3 - 5	〔同上〕「4つのパッケージ」	80
4 - 1	〔協働の窓モデル概念図のうち〕「問題の窓」と「問題」	100
4 - 2	〔同上〕「解決策の窓」と解決策	101
4 - 3	〔同上〕「組織のやる気の窓」と「組織のやる気」	102
4 - 4	〔同上〕「活動」	103
4 - 5	〔同上〕「4つのパッケージ」	104
5 - 1	美唄市と東川町の水稲収量の推移	113

芸術文化主導の自治体政策
— 〈自信の窓〉が開くときを求めて—
中井征夫
北海学園大学大学院博士(後期)課程

Art-and-Culture-Driven Public Policy in Hokkaido:
How To Make the Self-Confidence Window Opened

Masao Nakai
Ph.D. candidate. Hokkai-Gakuen University

Recent sharp population decline becomes a serious problem for almost all towns and cities in Japan, which is called the “fatally-survival issue” here in Japan. In order to being selected as a survivor, the city/town has to pay attention not only to the role of central and local governments but also to that of private nonprofit and for-profit entities. This paper as a whole is intended as a comparative study of art and culture policies in Hokkaido, Japan, based on the

Window Model of Collaboration (designed by Hiromitsu Kojima and others) based the so-called Window of Kingdom. Since my research goes further beyond, I redesign the Kojima`s model and rename it the Revised

Window Model of Collaboration, which uniquely focuses on the additional window called the “self-confidence window”. I will mainly describe Higashikawa, Bibai, Furano case study here.

Concretely, Participants and others may gain confidence when cultural policy produces results. So trying to investigate the next two casea.

(1)What kind of process did cultural policy succeed? (2)Self-confidence gained Participants attached idea of originality policy?

Especially (2) is to make expectant for other local governments to become a trigger to originality idea.

Key words: Self-confidence Window. Higashikawa. Bibai Furano.
originality idea.

はじめに

日本創成会議が、人口減少問題に関連し「消滅可能性都市」を発表したことは記憶に新しい(2014年5月8日)。

同提言によれば、北海道は、2040年までに178市町村と札幌市10区のうち、20～39歳若年女性人口減少率が50%未満の市区町村はわずか41であり、147(78%)が50%以上という。非常に厳しい試算の内容である。

このような提言に対して、なんの対応策も講じることなく放置するならば、やがて北海道という自治体自体の存続さえ危うくなるだろう。

従来、人口減少の対応策の一つとしては、広域合併により乗り切ろうとする動きもみられ、市域が増加し町村が減少した県の事例もみられるものの、こと北海道に関しては、各市町村の面積が道外と比較して広大¹であるとともに、人口密度も低くしかも散居形態の農村部が多いことなどからこの、利点は限定的である。

このため、市町村の存続や行政サービスの確保に向けては、各団体の財政事情等が異なることから単純な一般化は厳しいが、自治体間の連携(地域間連携)をさらに進める²とともに、自治体内の連携、すなわち地域社会における行政と市民組織および企業間との協働により乗り切っていくべきを得ないのではないかと考えた。

加えて、地域を維持していくうえで雇用の場の確保が、喫緊の課題ではある。とはいえ企業誘致などは、交通アクセスに乏しい北海道においては難しい。

北海道では、「農業と観光」が主体との論評が多いことから、これらを中心として全国等の視野から見て今後とも強みとなるもの、かつハコモノなどの投資をあまり必要としないものが望まれるが、これらは容易に選択できるものでもないことから、何らかの糸口を見出すためにも本研究の存在理由がある。

従来、全国の多くの市町村は、直面する課題解決に向け国庫補助金頼りで地域振興策やまちづくりなどを進めてきた。しかし、今後は国の財政難からこれまでの全国一律的な内容を期待することは困難な状況にある。

さらに、昨今の地方創生拠点整備事業等に関しては、国会の成り行き次第で予算化が大きく遅れることが考えられる。このため、予算成立後即座に申請できるように前もって準備するなどして好機を逃さない工夫が求められている。

このような状況下にあつて北海道の一部には、市民を巻き込んで文化・芸術のプロジェクトを行うとともに、独自の取り組みでまちづくりを進めている市町村があることに着目した。

それはあまたある行政テーマのなかでも、とりわけ特定の芸術文化政策に特化して、突出した振興策を行政・企業・市民(NPO)の協働で取り組む自治体の存在

¹ 北海道の面積は、一都二府十九県にほぼ匹敵している(参考資料 表1を引用)。

別海町(1,319.63 km²)は、島嶼地域の小豆島等を含む香川県の面積(1,876.72 km²)の約70%に相当している。

² 地域間連携等は、参考資料巻末に3市町の事例を掲載している。

である。

例えば、自治体として初めて1985年に「写真の町を宣言」し「国際写真フェスティバル」を開催するとともに、後年度に「写真甲子園」の開始や、子育て支援、Iターンなどの移住促進等を行っている上川管内の東川町がその内のひとつである。加えてイタリアで活躍する美唄市出身の世界的な彫刻家・安田侃のディレクションを得て、元炭住街に立地する旧小学校廃校舎を再利用した美術館「アルテピアッツァ美唄」を展開している美唄市である。

さらに、テレビ放送された「北の国から」で知られる脚本家・倉本聰や地元篤志家などの参加を得て全国第1号のNPO法人が運営する公設の小劇場「富良野演劇工場」を擁する富良野市である。

これら市町村の関心自体は早くから持ち、資料収集も2009年頃からすでに着手したものの、漠然と資料収集を続けていても、問題の所在と研究の切り口を明らかにすることが困難であった。このため、小島廣光(元北海道大学)らの事例研究に着目して研究に取り掛かってみたが、果たして分析枠組みとしての「協働の窓モデル」がどのプロジェクトにも応用が可能であるのかはいささか疑問であった。

プロジェクトに取り組むスタンスは、市町村ごとに当然異なっているからである。そこで既存の分析枠組み(「協働の窓モデル」)をそのまま流用するのではなく、今回の事例比較に重点を置いた研究に即したかたちに自身で修正を加えることで、より使い勝手の良い分析枠組みによって行うこととした。

より具体的には、小島らの「協働の窓モデル」は、NPO、政府、企業の3つのセクターを時間軸に区切りながら、それぞれの取り組みを比較分析することから同時代的な出来事をダイナミックに整理可能であることから、本研究にきわめて親和性のある分析手法であった。

しかしながら、他方で、「協働の窓モデル」は、ひとつのプロジェクトを終えた段階で完結しており、協働に参加し主導的な役割を果たした人々(アクター)が、それぞれの成功体験から自信を強め、さらに新たな政策を創出するという過程が見えてこないきらいがあった。

ここに、筆者独自の「自信の窓」という要素を付加し、「改訂版・自信の窓モデル」として新たに分析枠組みを組み立て直すこととした。

結果、協働による芸術文化政策のひとつの試みとその結果が、やがて他の(芸術文化政策以外の)政策にも様々なかたちでポジティブな影響を及ぼすことの一端を記述することを、本研究の成果のひとつとして記した。もちろん、この「自信の窓」という筆者独自の着想は、これに先行する「協働の窓」という壮大かつ緻密な理論モデルに較べると文字通り付加的な要素にすぎないことは(小島らの努力に敬意を払う意味においても)強調しておきたい。「協働の窓」モデルという先行研究なくては本研究の「自信の窓」は決して開くことはなかったのである。

第1章 分析枠組みについて

第1節 協働の窓モデルを導出した先行研究の概要

「協働の窓モデル」は、7つの先行研究モデルに対し小島らによって「批判的検討」が重ねられ、「論理構造と構成概念」の中から、有効な部分を採用するとともに、不要な部分を削除し、不足部分を補充したものである。このため、第1節では、協働の窓モデルを導出した先行研究を比較する必要性が認められることからそれらの概要を掲載している。第2節では、協働の窓モデルの分析枠組みを採り上げている、第3節では、「協働の窓モデル」の分析枠組みで取りまとめた内容を時系列でみていくうえで、不足する次の部分を補って、改訂版協働の窓モデル(仮説)として概要を述べている。不足する部分とは、プロジェクトが達成された後の過程を追跡し、協働の経験によって新たな政策が創出されたのかを確認するとともにその効果についても若干触れていこうとすることである。

1 「ゴミ箱モデル」

1972年にCohen、Olsen、およびMarchによって提示されている。

ゴミ箱モデルの考え方は、組織に関し次の3つの特質から「組織化された無秩序」とされる。その特質とは、「不明確な選好、明らかでない技術、および流動的な参加」(宮川 1995-154)である。

不明確な選好とは、例えば業務方針の意思決定の際、組織内に多種多様な考え方があるため、多くの意見を採用しやすいためあまり絞り込まないアバウトな方針案を提示し、最後に煮詰めて選好するというような方策にせざるを得ないという事である。

明らかでない技術とは、特に大きな組織で自らが属する技術分野には十分に会得しているが、組織全体のプロセスをよく把握していないという事である。

流動的な参加とは、組織的意思決定に際し多種多様な議題であるがゆえに、構成員の取り組む意思に濃淡が生じというものである。

したがって、組織的意思決定は、「選択機会」という「ゴミ箱」のような流れの中に、「問題、解決案、参加者」(宮川 1995-155)の流れが合流することで、一定の意思決定が行われるものの、問題の解決に向けて「最善の解決案を選択する」というような「論理的手順に従って進むものではない」(宮川 1995-156)という。しかしながら、ゴミ箱モデルの考え方は、後発する政策の窓モデル等に大きな影響を及ぼしている。

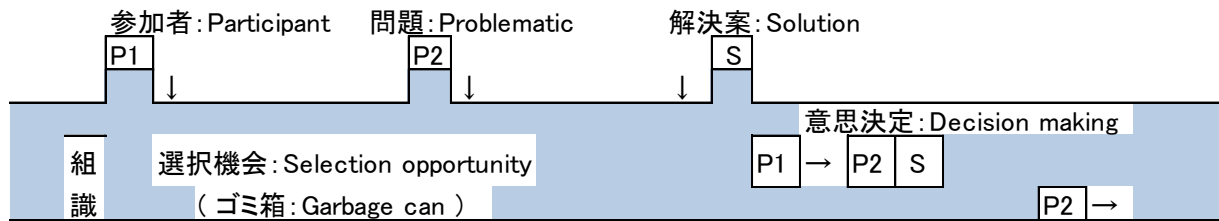


図 1-1 ゴミ箱モデルの概念図 出所:(宮川1995-155)を基に筆者が試案として作成

図 1-1 の説明：ゴミ箱モデルには、それぞれ独立した「4つの流れがある」。

選択機会とゴミ箱という二つ名を持つ流れには、参加者(P1)、多くの問題(P2)や解決案(S)が入り込み浮遊するが、参加者は解決策に協力しゴミ箱の中から対応が可能な問題だけでも処理していこうとするモデルである。したがって、解決案と結合されなかった(解決不可能な)問題(P2)は、浮遊後に単独で退出する。

2 「政策の窓モデル」

1984年に Kingdon によって提示された「政策のアジェンダ」とは、政府職員らが「ある特定の時点に真剣な注意を払う」問題の集積であり、研究としての評価が高いという。

なお、このモデルは、「ゴミ箱モデル」から始められているが、「組織化された無秩序」に対し、「無秩序よりも組織化された」を強調している。

当モデルは、「参加者とプロセスとを区分」されているが、プロセスには、「①問題、②政策案、政治」と三つの流れがある。

「第一の流れは、問題である」政府職員などの注意を引きつけ、政策アジェンダとしなければならない。

「第二の流れは、政策代替案」であり、アイデアが生かされるためには次の三条件をクリアしなければならない。

一番目は、十分に練られており「技術的に実現可能性」があること。

二番目は、政策担当者間において価値観の「整合性」が採られていること。

三番目は、「政策提案」に対する「予算」の確保を始め、市民や「議員の支持」が得られること。

なお、条件が整い政策の窓が開いたときには、即座に対応できるように政策案を事前に練っておくことが必要となる。

「第三の流れは、政治的な流れである」、それには、「国民のムード」や「利益集団」などの動向等があり、合意などでは「取引によって行われる」という。

(宮川 1995-180-186)

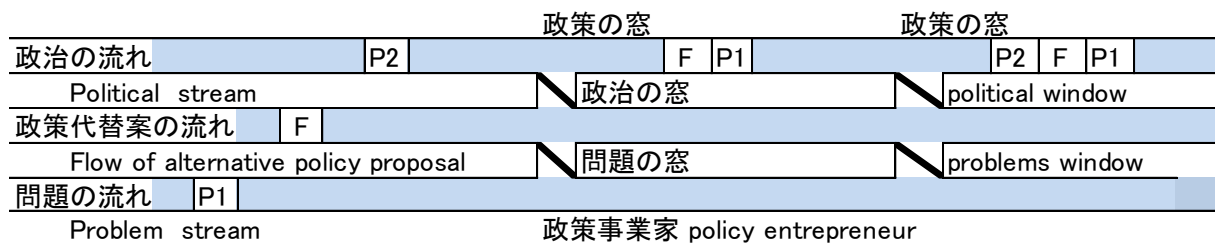


図 1-2 政策の窓モデルの概念図

出所:(宮川1995-186)等を基に筆者が試案として作成

図 1-2 の説明：政策の窓モデルは、政策形成の分析を目的としており、そのツールとして問題、政策代替案、政治とそれぞれ独立した 3 つの流れを設置している。政策事業家は、問題の窓と政治の窓をこじ開け三つの流れを合流せしめ、問題、政策代替案、政治のパッケージ(P2+F+P1)に結合させ「政策の窓が開いたことを」知らしめ、「自ら(が)支持する政策を推進しよう」としている。

3 「組織的知識創造モデル」

組織的知識創造モデルは、Nonaka と Takeuchi が 1995 年に提示しており、単一企業内の新製品開発を分析対象としていることから、「単一組織(の)知識創造であるイノベーションプロセスを、きわめて能動的な知識創造プロセスとして捉えている」(小島 2011-11)。

その基本的前提は、次の 4 項目である。

- a 「知識とは正当化された真なる信念(belief)と定義」されている。
- b 知識は、経験や感覚といった個人的な(主観的)「暗黙知①」と、業務方法書や実施要領等の書物や口述で集団(客観的)に周知する「形式知②」がある。
- c 「人間の創造活動」により、暗黙知①と形式知②は、「互いに作用しあい」①と②とが互いに「成り替わる」。出所：(小島 2002-158)
- d 組織の知識は、暗黙知と形式知という異なる「タイプの知、そして異なった内容の知を持った個人が相互に」変換する作用によって創造される。

したがって、「知識変換」という次に示す「知識創造」が考えられる。

- e 兄から弟へ、体験を共有しながら伝達する知識という「共同化」。
- f 体で会得した鍛造の技術(暗黙知)を、手引書(形式知)で共有する「表出化」。
- g 職場で共有していた形式知と、研修等によって得られた形式知とが結びついて体系化されるという「連結化」。
- h こうして体系化によりブラッシュアップされたことで、自信を付け暗黙知として「内面化」される。

組織の知識は、図 1-3 に示す四種を巡る渦巻き状の作用により創られる。

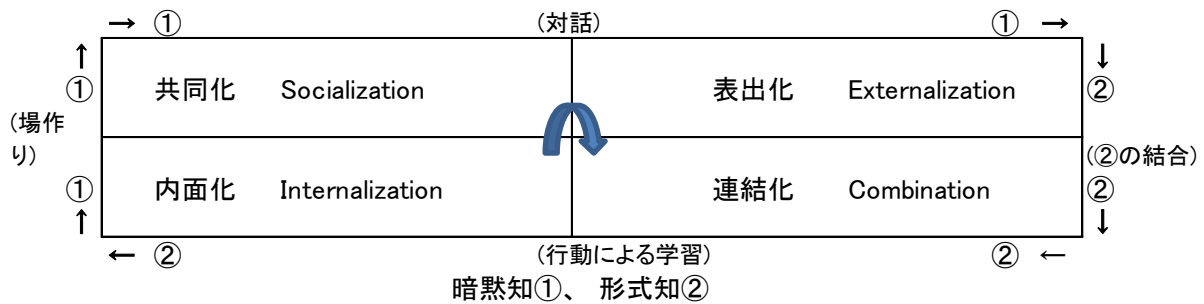


図 1-3 SECIモデルの概念図
出所:(梅本訳、野中・竹内1996-93、106)を基に筆者が加工・作成

4 「改訂・政策の窓モデル」 小島 (2003年)

「改訂・政策の窓モデルの基本的な論理構造は、ゴミ箱モデルを基礎とする Kingdon の政策の窓モデルを継承」しているが、考慮される要素のうち能動的な知識創造の場と動態的モデルのうちのストックについて、Kingdon のモデルでは考慮が不十分であったものを、小島のモデルでは十分に考慮している。

「組織的知識創造モデル」からは、「構成概念の一部を導入」しており、その内容は、「ナレッジ・アクティビスト」を「政策アクティビスト」に、「コンテクストとしての場」を「政策形成の場」に、「知識資産」を「アジェンダ及び政治状況」にとそれぞれ対応している。

「加えて、政策形成の動態的な分析を可能とするために」当モデルは、「年代記」(小島 2011-11)の研究法を採り入れている。

表 1-1 年代記の様式 (協働の窓モデル)

年	月	NPO	政府	企業

年代記の研究法とは、「事象を年代順に並べ……事象間の相互関係を経時的に記述・分析し、因果関係を確定する」(小島 2011-37)手法である。

5 「協働促進・抑制要因モデル」 1989年 Gray

グレイは、競争環境と制度環境が、協働の形成・実現と協働の展開の各過程に及ぼす影響を把握しようとする目的で、参加者がNPO法人、政府、企業という戦略的協働による組織で事例研究を行っている。

その分析結果は、次の2通りである。

(1)競争環境と制度環境は、協働の各プロセスにおいて促進要因にも抑制要因にもなり得る結果であった。

(2)「協働は、競争環境や制度環境と共進化するダイナミックな現象である。すなわち、環境変化に適応する」(小島 2011-12)には、協働の再編が必要という。

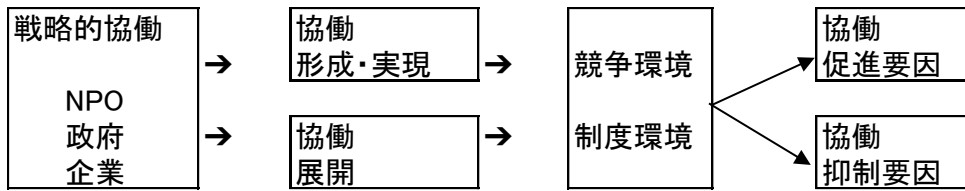


図 1-4 協働促進・抑制要因モデル 出所:(小島2011-12)を基に筆者が作成

6 「協働形成モデル」 1997年 Lober

このモデルは、Kingdon の「政策の窓モデル」の政策のアジェンダ設定を参考にして立ち上げている。そして、NPO と企業によるゴミ減量プロジェクトの協働が、なぜ、どのように「形成・実現されたのかを解明するために」このモデルを発表している。当モデルの「協働システム」は、「独自のパターンを持った……問題の流れ、解決策の流れ、組織のやる気の流れ、社会・政治・経済の流れ」を持ち、協働の窓を開くとされているが、小島によれば次の点が不十分という。すなわち、①協働の実現は、「協働企業家の存在が不可欠」である。②協働の場が不明であること。③協働を推進する活動がみられないこと、④問題や解決策、そして、組織のやる気の蓄積が見られないことなどである。

しかしながら、「組織のやる気」と「組織のやる気の流れ」の採用が注目されるという。

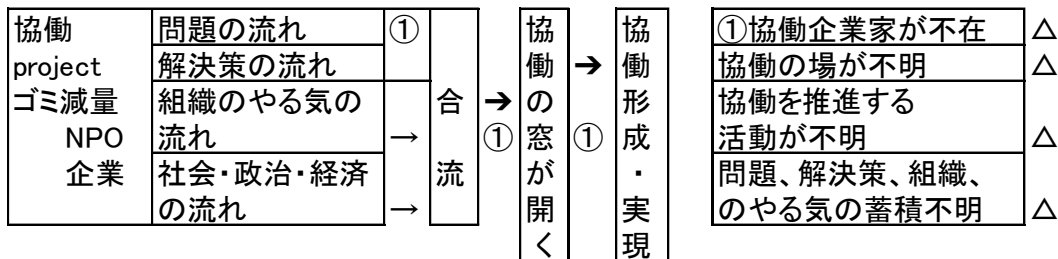


図 1-5 Loberの協働形成モデル 出所:(小島2011-12-13)を基に筆者が作成

7 「協働形成モデル」 2002年 Takahashi & Smutny

Takahashi らは、Lober の「協働形成モデルを適用し」、HIV 感染者らの「治療サービスを提供する」NPO と政府および企業による協働プロジェクト³の事例研究を行っている。その目的は、「協働プロジェクトの形成・実現」と「展開プロセス」に着目していたからであった。しかし、Lober の「協働形成モデルは、……協働の形成・実現プロセスを解明する……理論的枠組に過ぎない」ことから、「展

³ HIV Wellness Collaboration (以下 HWC プロジェクト³)

開プロセス」(小島 2011-13)の解明には至らなかった。

その後、プロジェクトの中心人物である「協働マネージャー」は、規模の大きな「協働のガバナンス」(小島 2009-161-162)を統率できるだけの力量が不足していたため、このプロジェクトは後に解散している。

なお、Takahashi らは、Lober のモデルでは示していなかった「協働のガバナンス⁴」の「構成概念」(小島 2011-14)を採り上げている。

第2節 協働の窓モデル

「協働の窓モデルは、多様な参加者」により形成、実現、展開される。「複雑な現実の戦略的協働を分析するための理論的枠組」である。

1 協働の窓モデルの概要

図 1-6 の「協働の窓モデル概念図」に示すように、「協働システムにおいては、独自のパターンを持った 4 つの流れ」があり、上から①「問題の流れ」、②「解決策の流れ」、③「活動の流れ」、④「組織のやる気の流れの 4 つである」。

各流れは、「左から右へ時間の経過とともに流れていく」。このうち①、②、④の流れは、「特定の時点⁵に、協働の窓を開くことによって」③の「活動の流れに合流する」(小島 2011-14)。

「協働システムの多様な参加者、特に協働アクティビストは、これら 4 つの流れの中にさまざまな問題、解決策、組織のやる気、活動を投げ込んでいる」。

図 1-6 では、協働アクティビストを **CA** と記述している。

図中の (P1) とは、(問題 1) のことであり、協働アクティビストによって (P2) と結びつけられ(あるいは偶然に結合し)て、アジェンダ (P1+P2) と 1 つに融合され蓄積されて多くの参加者に共有化される。同様に、解決策 (S1) の場合は、(S2) と結合して諸解決策に、組織のやる気 (M1) は、(M2) と結合して組織のやる気状況に、そして、活動 (A1) は、(A2) と結合し活動状況となりそれぞれが共有化される。

図 1-6 に示されるように、問題、解決策、組織のやる気(以下：三者とすることがある)と活動は、それぞれの流れの中で、もしくは活動の流れの中で、協働アクティビストによって能動的に結びつけられたり、偶然に結びついたりする。こうして、アジェンダ、諸解決策、組織のやる気状況、活動状況の 4 つのストックが

⁴ 協働ガバナンスは、Agenda「における複数の問題の優先順位の設定、参加者の選択、資金調達・評価会計責任の尺度の開発等に焦点を合わせた活動」(小島 2009-161)

⁵ 協働アクティビストにより、① 特定の問題を他の参加者に注目させる、② 自らが有効と考える解決策を推進する、③ 特定の組織のやる気を生成させたりする好機を指す。このため、協働の窓には、問題(P)の窓、解決策(S)の窓、組織のやる気(M)の窓がある。(小島 2011-14 を一部加工)。

形成される」。

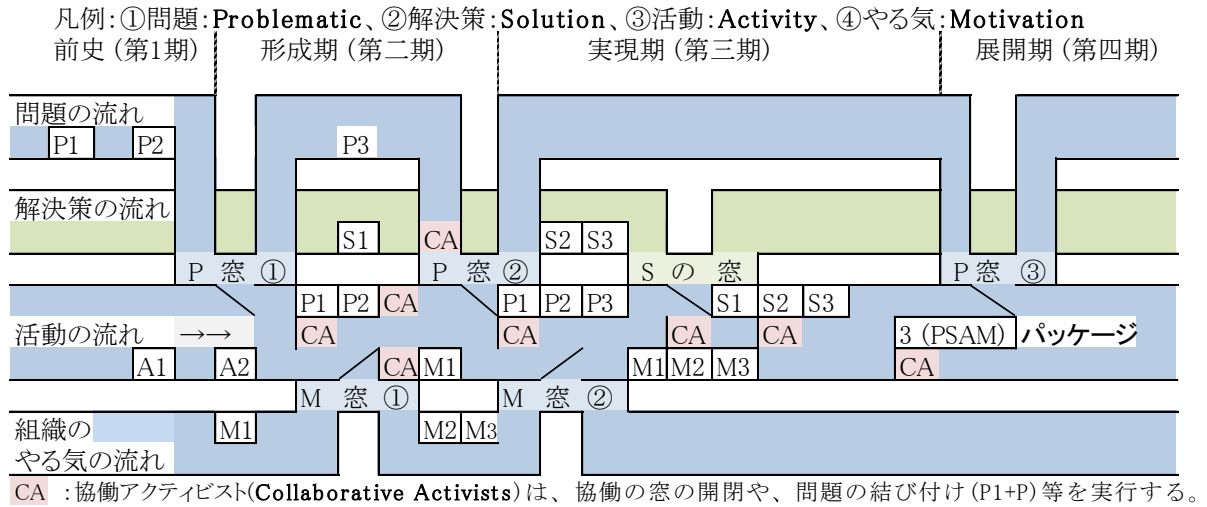


図 1-6 協働の窓モデル概念図 出所:小島(2011-15)を基に筆者が加工

これらのストックは、三者と活動の寄せ集めではない。それは、問題のストック(P1+P2)であるアジェンダは、「複数の問題が1つに融合され、多くの参加者によって共有される必要がある」からであり、他のストックの「諸解決策、組織のやる気状況、活動状況」の場合も同様である。

なお、協働アクティビストが4つのストックのうち1つでも、十分な結合要件を満たしていないと判断した場合は、「協働が実現」しないこととなる。

時期的な経過に伴っては、アジェンにさらにP3が加わることなどから、共有化が進み、(P1+P2+P3)+(S1+S2+S3)+(M1+M2+M3)+(A1+A2+A3)と協働アクティビストにより「パッケージ」を構成したと断定した場合には「協働が実現」され、それに基づき「参加者によって協働が展開される」(小島 2011-14-20)。

問題、解決策、組織のやる気の場合	
→	協働の窓の開放を契機に協働の場において、問題は認識・定義され、解決策は生成・特化され、組織のやる気は生成され、それぞれの流れの中に投げ込まれる
	開いている協働の窓を通して、活動の流れの中に入り浮遊する
→	協働の窓の開放を必ずしも契機とせず、協働の場において、問題は認識・定義され、解決策は生成特化され、組織のやる気は生成され、それぞれの流れの中に投げ込まれる
	当期に開いている協働の窓がある場合、協働の窓を通して、活動の流れの中に入り浮遊する
	当期に開いている協働の窓がない場合、生成された後、それぞれの流れの中で浮遊する
活動の場合	
	協働の場において生成された後、活動の流れの中に投げ込まれ浮遊する

図 1-7 問題、解決策、組織のやる気、活動が生み出された後、活動の流れの中で浮遊するプロセス 出所:小島(2011-16)の図2-3を基に筆者が加工

図 1-7 は、三者と活動が生成された後にそれぞれの流れと活動の流れの中で浮遊するプロセスを示したものである。

次に、戦略的協働⁶で採り上げる協働のプロジェクトは、協働前史(第 1 期)、協働形成期(第 2 期)、協働実現期(第 3 期)、協働展開期(第 4 期)に区分される。

協働前史(第 1 期)とは、例えば、**市民、行政、企業(以下：参加団体**とすることがある)のうち一部または「すべての参加者が、特定の協働プロジェクトを開始する以前の期間」を指している。前史を取り組むこと理由は、時代背景や協働に参加するメンバーの活動がどのような状況であったのかを知ること、今後の「協働プロジェクト」の推進に便宜となることも期待されるからである。

協働形成期(第 2 期)は、参加団体の全部または一部が、「特定の協働プロジェクトを開始し、協働の実現に向けた諸準備を行う期間」といわれている。

協働実現期(第 3 期)は、「形成期を経てアジェンダ、諸解決策、組織のやるき状況、活動状況の 4 つが完全に結びつき、協働が実現するまでの期間」という。

協働展開期(第 4 期)は、「実現期の終わりに実現された協働を」、参加団体によって「展開している期間」といわれている。

なお、協働アクティビストは、各期にわたって「結び付け」を行っている。

2 協働の窓モデルの構成要素

「戦略的協働は、多様な活動によるプロセス」といわれている。そのため、戦略的協働を構成する活動の種類は、「①参加者の特定化、②協働の場の設定・活用、③問題の認識定義、④解決策の生成・特定化、⑤組織のやる気の生成、⑥活動の流れの中で浮遊する狭義の活動、⑦協働アクティビストによる結び付け、⑧協働のガバナンス」が通説であることから、プロセスも多様な活動からなる戦略的協働である。

このうち、③④⑤⑥は、「協働アクティビスト」による結び付け活動から、最終的には「協働の実現と協働の展開」へと進むこととなるのである。

3 参加者の特定化と協働の場の設定・活用

これらは、「戦略的協働が「なぜ」そして「どのように」進展するのかを規定する第 1 の要因である」。戦略的協働は、参加団体によって行われるが、参加の誘因に関しては、各セクターとも戦略的協働の取り組みによって、概ね 6 件程度の有利性がみられることから、プロジェクトの参加を促すことも望まれる。

協働アクティビストは、7 つの役割⁷を持っており、協働の形成・実現・展開に

⁶ 「NPO、政府、企業と 3 つの異なるセクターに属する参加者が、単一もしくは 2 つのセクターの参加者だけでは生み出すことが不可能な新しい概念や方法を生成・実行することで、多元的な社会的価値を創造するプロセス」(小島 2011-5)

⁷ ①参加者を特定する。②問題に対し関心を高める。③自らが有効であるとする解決策を推し進める。④問題、解決策、組織のやる気活動の同質同士を(問題+問題)を結び付け

において、中心的な活躍が期待されるという責務を負っている。

協働の場とは、協働アクティビストが協働を形成・実現・展開するために不可欠な場である。

4 問題の認識・定義と解決策の生成・特定化

これは、「戦略的協働が「なぜ」そして「どのように」進展するのかを規定する第2の要因である」。

(1) 問題の認識・定義とは、数値目標等から状況を把握し、価値を侵害するような重大な事柄を採り上げて問題として認識するとともに、協働の参加者によって問題のストック(集積)が認識・定義される。

(2) 解決策の生成・特定化とは、協働アクティビストが、自らが有効であると考えた解決策を煮詰めて事前に準備し参加者などに繰り返し提示することが必要である。

5 組織のやる気の生成と活動

(1) 組織のやる気の生成、

組織のやる気は、「参加者である組織が、協働の形成・実現・展開に際し、特定のタスクを自発的に遂行しようとする意欲」とされる。

組織のやる気の生成は、外部からの評価や組織内における使命感などがあげられている。一方、協働の窓モデルにおける組織のやる気は、①当期に組織のやる気の窓が開いたことから活動の流れに入り込むやる気、②当期にその窓が開かずに組織のやる気の流れを浮遊するやる気、③組織のやる気が集積され組織のやる気状況に共有化され無事役割を果たしつつあるやる気である。

(2) 活動

「協働の窓モデル」において、「特定の期に分析対象となる」活動は、①当期に「生成され、活動の流れの中に投げ込まれ浮遊している活動」である。

協働のプロジェクトでは、「参加者の役割や活動を監視・調整する活動」が「戦略的協働のガバナンス」といわれ、次の3つのタイプがある。

①「自己ガバナンス」は、「協働の参加者間の定期的な会合」や日常の交流を通じて「活動の監視・調整」を行うものである。

②「リーダー組織によるガバナンス」は、いわば協働アクティビストや参加者により「活動の監視・調整」を行うものである。

③「協働管理組織によるガバナンス」は、独立した「公式組織」の設立(並びに既設の監査法人等)によって「活動の監視・調整」を委託するものである。

アジェンダ、諸解決策、組織のやる気状況、活動状況を形成する。⑤④で形成した4件を結び付け、1つの完全なパッケージを構成する。⑥協働の場を主体的に設定し活用する。⑦協働の進展をリードする。

6 協働の実現と協働の展開

(1) 協働の窓の開放：3種類の窓とは、①問題の窓、②解決策の窓、③組織のやる気の窓であり、3つの窓が開くことにより、①の2、問題は認識・定義され、②の2、解決策は生成・特定化され、③の2、組織のやる気は生成される。そして、それぞれの流れの中に投げ込まれる。その後、それぞれが中心的役割を持った流れである活動の流れに入り浮遊し、①の3、(問題1)+(問題2)と接着した結果アジェンダに。②の3、で諸解決策に。③の3、で組織のやる気状況となるとともに、④活動は、④の3、活動状況となる。

なお、「協働の窓は、偶然に」開くこともあるが、「協働アクティビスト」が「こじ開ける場合も」ある。窓が開く回数は、3回以上で、短時間しか開かないことから「迅速な対応が必要」なため、事前準備が必要不可欠である。

(2) 実現と展開とは、さきのアジェンダ、諸解決策、組織のやる気状況そして、活動状況等が十分なる内容を具備していると協働アクティビストが判断後、これらが結び付けられて完全なパッケージが構成される。そしてめでたく協働が実現され、参加者によって展開されることとなる。

(3) 波及とは、戦略的協働が「成功裏に展開されると」、例えば、何々甲子園といった「類似の協働プロジェクトが多数展開」されうるということである。

7 協働の窓モデルの特徴

「協働の窓モデル」は、7つの先行研究のモデルに対し小島らによって「批判的検討」を重ね、「論理構造と構成概念」中から、有効部分を採用、逆に不要を削除、不足部分の補充など行ったものである。

表 1-3 で先行研究モデルと⑧協働の窓モデルを比較している。なお、表の出所の加工とは、文献が2頁であるのに対し、本稿では1頁としたということである。

表 1-3 の概略を説明する。協働の窓モデルの分析対象が戦略的協働であるのに対し、ゴミ箱モデルのそれは、組織的意思決定であること。

(1) 参加者間の相互関係：協働の窓モデルの参加者は、NPO、政府、企業から構成され相互関係を分析するが、他のモデルでも考慮されている。

(2) 能動的な知識創造、①協働アクティビストは、「能動的な知識創造の中心的な参加者」であるが、Grayのモデルなどでは考慮されていない。②協働の場とは、「情報を解釈」するなどの場であり「知識創造」には不可欠である。

(3) 問題と解決策は、「問題の認識・定義と解決策の生成・特定化」を解明す

るために考慮されなければならないが、Grayなどは考慮していない状況である。

(4) 組織のやる気は、問題等と共に「重要な要因」であり「協働の分析」には「不可欠な変数」であるが、Loberや小島⑧のモデルなどで考慮されている。

(5) 活動は：協働の窓モデルでは、「活動の流れが協働システム(において)中心的な流れ」であり、「協働の形成・実現・展開があわせて分析される」が、考慮が不十分か考慮されていないモデルが3つある。

(6) 偶然性：協働窓モデルは、「協働アクティビストの出現」や、「協働の窓の開放に伴う問題、解決策、組織のやる気の3つの生成」と3つを活動の流れへに合流させること、問題、解決策、組織のやる気、活動が生成された後に4つの流れに放り込むこと(生成後育成せずに遺棄する事案もありうる)である。「戦略的協働」では、すべてにおいて予測が不可能という。

(7) 動態的モデル：「協働の窓モデルは、動態的モデルである」ため「協働の決定正当化までの実現プロセスと、決定正当化以降の展開プロセスとがあわせて考慮」が必要である。さらに、「モデルの構成要素として、協働の進展とともに構成されるストック」の考慮が必要である。

(8) 成果

参加者と社会全体の価値が創造されることで、波及が期待される。

「成果の波及が考慮」されているのは、協働の窓モデルほか4つのモデルである。

「ゴミ箱モデル」は、1972年に発表されているが、その後に発表された各種モデルの嚆矢となっている。例えば、1984年発表のKingdonの「政策の窓モデル」は、部分的に「ゴミ箱モデルの論理構造を適用」(小島2011-10)しており、さらに小島の改訂・政策の窓モデルの「基本的な論理構造」は、Kingdonの「政策の窓モデルを継承している」(小島2011-11)。このように各種モデルは、先行研究の部分的採用や研究対象に特化した内容となっている。

小島らの「協働の窓モデル」は、表1-2にみられるように、それぞれのモデルから協働により政策遂行を行ううえで望ましい先行研究の要素を導入している。

表 1-2 協働の窓モデルに導入した事項

モデル	導入事項
ゴミ箱モデル	大きな変化の決定・正当化の説明が可能な論理構造
政策の窓モデル	構成概念や論理構造
組織的知識創造モデル	構成概念の一部
改訂・政策の窓モデル	政策の窓モデルの基本構造
協働の促進・抑制要因モデル	競争の促進・抑制要因としての外部環境に対する考慮 協働の動的な理解の重要性に関する視点
協働形成モデル Lober	組織のやる気と組織のやる気の流れ
協働形成モデル Takahashi & Smutny	協働のガバナンスの構成概念

出所:小島・平本(2011-10--13)を基に著者作成

8 研究方法・事例研究 (小島 2011-37-39)

「事例研究は、特定の現象が「なぜ」そして「どのように」(して)生じるのかを問うための研究方法である。その特徴は単一あるいは複数の事例を「掘り下げて考察することとなる。「戦略的行動を構成する」内容は、「年代記⁸」によって3つのセクター間の動きを同時に表わすことが出来る。

「協働プロジェクトの全期間を、協働前史(第1期)、協働形成期(第2期)、協働実現期(第3期)、協働展開期(第4期)の4期に区分し、各期における参加者の行動と行動間の相互関係を、次の4つの手続きによって記述・分析する」。

①年表は、各期に分け「NPO、政府、企業の参加者ごとの行動を整理」する。

②「参加者の行動と行動間の相互関係」は、「年代順に詳細」な記述を要する。

③「各期及び全期間における参加者の行動と行動間の相互関係」は、「協働の窓モデルに」基づき「詳細に分析する」。なお、その場合には、「協働の窓モデルの構成要素」を、表1-4の各項目を整理して記帳する。

④「戦略的協働の一般的特徴を命題として」整理する。(小島 2011-37-39)

9 データ収集と事例の作成 (小島 2011-41-42)

①2次データの収集は、新聞や雑誌記事、研究論文、書籍、リーフレット、ウェブサイトなどから実施する。

②1次草案の作成は、「2次データを利用し協働の窓モデル」により作成する。

③1次草案でみられた不明確な部分は、協働アクティビスト等の実施根協並びに当初から懸念していた危機管理等の内容である。

④前項③に示す不明確な部分への対策は、中心的人物等への聴き取りと内部資料の収集を行う。

⁸ 年代記アプローチは、事象を年代順に並べることによって、事象間の相互関係を経時的に記述・分析し、因果関係を確定する方法である」。

表 1-3

8つのモデル比較

		①ゴミ箱 モデル Cohen, March & Olsen	②政策の 窓 モデル Kingdon,	③組織的 知識創造 モデル Nonaka Takeuchi	④改訂・ 政策の窓 モデル 小島
分析対象		1972	1984	1995	2003
		組織的 意思決定	政策形成	単一企業 内の新製 品開発	政策形成
考慮 され る 要 素	(1) 参加者間の相互関係	○	○	○	○
	(2) 能動的な知識創造				
	① 協働アクティビスト	×	○	○	○
	② 協働の場	△	△	○	○
	(3) 問題と解決策	×	○	○	○
	(4) 組織のやる気	×	×	×	×
	(5) 活動	×	○	△	○
	(6) 偶然性	○	○	×	○
	(7) 動態的モデル				
	① 実現プロセスと展開 プロセスの同時考慮	×	×	×	×
② ストック	×	△	○	○	
(8) 成果	×	○	×	○	

		⑤協働促 進抑制要 因モデル Gray	⑥協働 形成 モデル Lober,	⑦協働形 成model Takahashi & Smutny	⑧協働の 窓モデル
分析対象		1989	1997	2002	
		協働	協働	協働	戦略的 協働

①ゴミ箱モデル
②政策の窓モデル
③以下、表 1-2
の通りである。

考慮 され る 要 素	(1) 参加者間の相互関係	○	○	○	○
	(2) 能動的な知識創造				
	① 協働アクティビスト	×	○	○	○
	② 協働の場	×	×	×	○
	(3) 問題と解決策	×	○	○	○
	(4) 組織のやる気	×	○	○	○
	(5) 活動	△	○	○	○
	(6) 偶然性	×	○	○	○
	(7) 動態的モデル				
	① 実現プロセスと展開 プロセスの同時考慮	○	×	△	○
② ストック	×	×	×	○	
(8) 成果	×	○	○	○	

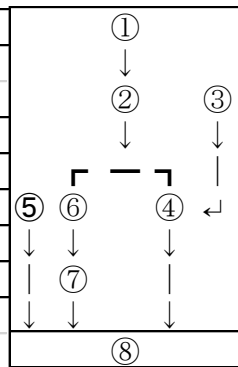


図 1-8 先行研究と協働の窓モデルとの関係 出所:小島(2011-9)を基に筆者作成。

出所: 小島(2011: 32-33)を基に筆者が加工。(注) 表中の記号の意味は次の通りである。○:考慮されている、△:不十分ながら考慮されている、×:考慮されていない。

⑤ 2次草案の作成に当たっては、前項④の資料と2次データとの突合を実施する。

⑥ 2次草案の作成時には、次に示す不明確な事項が明らかとなった。それは聞き取りした内容の中には、個人ごとに見解が相違している点や確実性に疑問が見られることから、再考の余地があるためである。

⑦ 前項⑥の不明確な部分への対策は、再び聞き取り調査が必要となる。

⑧ 3次草案の作成は、前項⑦の聞き取り調査に基づいて実施する。

⑨ 前項⑧の3次草案の正確さを確実なものとするためには、聞き取り調査を行った相手に対し、草案を提示して当該部分の内容の正確さを再度確認するとともに、3次草案全般の内容が事実即したものとなっているかの確認を依頼する。

⑩ 完成版の作成に当たっては、指摘事項の更確認を経て修正する。

表 1-4 プロジェクト分析表

	1期	2期	3期	4期
協働アクティビスト				
参加者				
協働の場				
問題の流れ				
アジェンダ A				
問題				
問題の窓				
解決策の流れ				
諸解決策 B				
解決策				
解決策の窓				
活動の流れ				
活動				
活動状況 D				
組織のやる気の流れ				
組織のやる気の窓				
組織のやる気				
組織のやる気状況 C				
各期の終わりのアジェンダ、諸解決策、組織のやる気状況、活動状況、の4つの結びつき (A,B,D,C)				

第3節 改訂版協働の窓モデル

(Revised Window Model of Collaboration)

第2節の「協働の窓モデル」は、戦略的協働で文化政策などを成し遂げたプロセスを詳細にわたり分析を行う手法である。

一方、当該課題を達成せしめたプロジェクトの主要な参加者たる協働アクティビストのその後の動きは、全く見えてこないという状況である。

なぜならば、彼らの戦略的協働による成功体験は、従来のワン・セクターといういわば仲間内の活動とはまったく異なり、示唆に富んだ多くの体験からさらにブラッシュアップし、自信⁹をつけたに相違ないと確信されるからである。

したがって、新たに取り組んだ政策課題を把握するためには、協働の窓モデルに「自信の窓」(self-confidence window)を新たに付け加え、改訂版協働の窓モデルとして新たに創作された新政策の内容を把握しようとしている。その目的は、新たな政策内容と創作の過程が、他地域のまちづくりにおいて多くの示唆を与えることが期待されるからである。

1 自信の窓の定義

本稿で示す「自信の窓」とは、次のように定義する。すなわち、文化政策などを戦略的協働によって成功させた参加者が、協働の学習経験と成功とによってさらにブラッシュアップし、新たな課題に向けて取り組み次に示す自信の窓が開く条件を達成しながら成功へ導くツールである。

自信の窓が開く条件とは、次に示す四項目であるが、経済的な面に関しては、行政サービスなどで除外することもある。

- ① 自信の窓は外部の人(Outsider-Driven)などで開くことができる(略号：O)。
- ② 協働(Collaboration-Driven)などで自信の窓を開くことができる(略号：C)。
- ③ 自信の窓は経済的(Economy-Driven)なものなどで開くことができる(略号：E)。
- ④ 市民の支持(Supporter-Driven)などを得ることにより、自信の窓を開くことができる(略号：S)。

この中で、①の外部の人などとは、人々との交流によって彼らの考え方や着想に対し、門前払いなどをせず傾聴するとともに、そのうえで地域の実態に応じた工夫を凝らしながら前向きに検討するということを指している。

⁹ 自信(self-confidence)とは、G. R. ファンデンボスによると「自分は課題の要求をうまくやり遂げることが出来るという信念のこと」(2013-356)。齋藤(2013-260)は、持つことによって「能力は最大限に発揮させていく力となる」と述べている。

②の協働などとは、市民¹⁰、行政¹¹そして企業¹²とそれぞれが資源を持ち寄るとともに、対等な立場で政策課題などに取り組むことを指している。

③の経済的なものなどとは、取り組む政策課題に対し持続可能性を確保するため、採算性も考慮する必要があることを指している。

そして、④の市民の支持などとは、多くの人々から共感が得られるものでなければならないという事を指している。

自信の窓の概念図は、図 1-9 に示すとおりである。この中で協働アクティビスト(以下：CA とすることがある)は、外部の人、協働、経済的そして市民の支持などを確認の上、それぞれが達成されたと認めた場合にこれらを梱包して〈自信の窓〉をこじ開け新たな政策として送り出す役割を持っている。

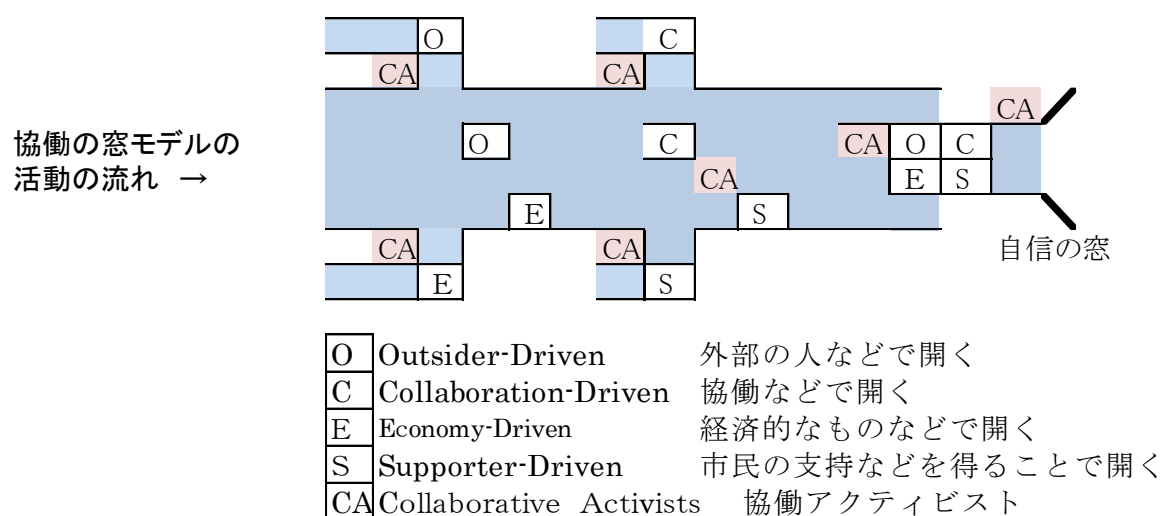


図 1-9 自信の窓の概念図

自信の窓に関する補足的な説明は、次のとおりである。

協働に関しては、従来の行政主導に依存するという対応ではなく市民、行政、企業などが一丸となって、不足する資源を持ち寄りながら取り組む必要があるという事である。例えば地域の課題である人口減少などについては、自分たちの共通認識として危機感を共有しながら、真剣に解決に向け取り組んでいくことが必要となる。なぜならば、地方創生拠点整備交付金事業等の採択では、従来多くの地域でみられたような金太郎飴的施策は見られず、地域の実態を活かしつつ先取りのメニューの採択も垣間見られるからである。

¹⁰ ここでいう市民とは、一般市民、ボランティア、NPO 法人、企画委員、作家、農協組合員や職員、商工会加盟店、観光協会や学会等各種団体の会員、医師会、市町村等職員等である。

¹¹ ここでいう行政とは、市町村、北海道、国、独立行政法人や政府機関等である。

¹² ここでいう企業等には、マスコミや各種企業、農協本体などである。

一方、協働の推進における留意事項は、当然のことながら参加者が手柄を独り占めするようなわがままは許されず、さらなる協調性と自己統制により、それぞれが対等な立場(フラット型)で真剣に対話を繰り返しながら推進していくことが求められる。

さらに、協働の過程における問題の解決策については、構成員の知を結集することで壁を打ち破り(breakthrough)それぞれの責任を果たしていくという心構えが必要となる。

外部とりわけ全国から訪れる人々との交流では、例えば自分たちが日常的な空間として捉えていた景観などが、あたりまえではなく希少な価値を持つものと気づかされることがある。このため、現実をしっかりと再認識するとともに、外部の人の提案や着想などに対し拒否反応などをすることなく、参考となるものは工夫を加えて採り入れるなどが必要となる。

経済面においては、当然のことながら採算がとれることが求められる。それは国庫における法人税収の伸び悩み、災害復旧復興対策費の増大、少子高齢化対策等からくる厳しい財政状況をかんがみれば地方交付税の配布額増など期待できないばかりでなく、各種補助金の継続なども不安視されるからである。

このため採算に関して一時的に取り繕う(patching up)といったものではなく継続的な取り組みが必要である。

但し、ルーチン業務的な行政サービスにはなじまない項目でもあろうが、ハコモノなどにおいては、稼働率の多寡を問わず維持費や保守費とりわけ光熱費などが高額な負担となるような事態は避けなければならないのである。

市民の理解や支持を得るとは、様々な取り組みが市民の利便性や安心や安全を確保するとともに、多少なりとも市民が潤うなどの地域益があるなどの利点があることや、自然との共生が図られていることなどから共感を得ることが望ましいという事である。

2 分析手法

分析手法は、協働の窓モデルに準じて行うとともに、最終的に自信の窓による分析を行う。

分析の概要は、市民、行政、企業等によって行われる第1期から第4期に及ぶ、すなわち、協働前史、協働形成期、協働実現期、そして協働展開期において、協働の参加者がどのような活動内容であったのかなどを把握しようとしている。

具体的には、文化政策がどのような過程で推進されたのか、自信をつけた協働の参加者などが独創的な考え方で新たな政策を構築したのかである。このため可能な限り集められた活動の具体的な内容は、年代記(表 1-5)として整理し、戦略的協働を取り巻く原因と結果を時系列的に把握し分析を行う。

年代記に取りまとめにあたっては、反復して聴き取り調査を行うほか、文献、新聞、官公庁資料、各種刊行物等から幅広く、かつ網羅的に収集して実施する。

さらに、協働の参加者による活動の進展や成果の状況、問題や解決策などの分析、組織のやる気状況等、そして、最終段階で自信の窓通過状況によって取りまとめることとしている。

3 時代背景

近時、ボランティア団体や NPO 法人が多くみられるが、その契機としては後に「ボランティア元年」とも言われた 1995 年の阪神・淡路大震災の復興活動といわれているが、時代背景も多少取り上げてみる。

戦後の復興期以降における大きな動きとしては、高度経済成長(1955～1973 年)に伴う当時の内閣による所得倍増計画などから労働力人口の三大都市圏への流出がある。

府県の農村部では、祖父母と主婦による三ちゃん農業と称され、1963 年に国会でも取り上げられる。農業基本法の制定(1961 年)に基づいて、農業構造改善事業等による圃場の基盤整備や営農用機械¹³の導入に伴い農作業の省力化の進展から更に余剰労働力の都市部へ流出している。

企業の合理化や公害対策等に伴うエネルギー政策の第一次的な転換(1955 年の石炭鉱業合理化臨時措置法の施行や、1963～1973 年炭鉱の閉山、1973～1980 年オイルショック以降の省エネ技術の飛躍的な発展)がこれに続く。

地方交付税規模の縮小(2002 年)や地方自治法の一部改正(公設民営化の推進いわゆる指定管理者制度の創設 2003 年)等々があり、地方においても従来とは異なった時代に突入したのである。

このような中であって、当時の大分県知事が提唱した一村一品運動(1980 年)や、「北海道文化振興条例」(1994 年)や 2001 年「文化芸術振興基本法」の制定、そしてエネルギー政策の第二次的な転換¹⁴などもあって、地方においても風力発電等建設の立地条件があることなどから、新たな振興策として期待が寄せられた。

一方、わが国における人口減少(少子高齢化 2005 年)や中国の台頭により貿易に占めるシェアの低下(2010 年 GDP が世界第 2 位から 3 位に)、法人税収の伸び悩み等が地方自治体の財政(2014 年)にも影響を及ぼしており、地方行政の自主的かつ総合的に実施する役割の一部についても代替(alternative)的に NPO 法人や市民団体等との協働で行わざるを得ないといった状況が垣間見られたのである。

¹³ 稲作の営農用機械では、「乗用型田植機」、刈取装置と自動脱穀機能を備えた「自脱型コンバイン」、もみ(など)乾燥用の「穀物(熱風)乾燥機」などがあげられる。

¹⁴ (2009 年「エネルギー供給事業者による非化石エネルギー源の利用及び化石エネルギー原料の有効な利用の促進に関する法律」)

3 今回 3 市町を採り上げた理由

協働プロジェクトにおける事例研究は、文化芸術活動の取り組みが顕著であることから、次の 3 つの事例を第 2 章から第 4 章にかけて採り上げている。

第 1 に、写真のまち東川は、大雪山国立公園に一部が含まれているなどから、風光明媚で景観に恵まれたまちであるとともに、道内有数の良質米産地として知られる穀倉地帯である。

町では、写真文化によってまちづくり、生活づくり、人づくりの文化田園都市を目指し、1985 年に「写真の町」を宣言している。

写真に関する具体的なプロジェクトは、1985 年開始の「東川国際写真フェスティバル」と、1994 年開始の全国高校生の写真部を対象にした「写真甲子園」を開催しており、市民とともに「写真映りのいい風景・生活づくりの奨励・推進」等をまちづくりの基本として取り組んでいる。

なお、写真の町事業の開始には、自治体初の「写真の町に関する条例」(昭和 61 年 3 月 24 日条例第 9 号)を制定し、これに基づいてイベント等を実施している。

イベントの実施に当たっては、行政主導とはいいながら広く市民を巻き込んで実施するとともに多くの企業の協賛を得るなど、市民、行政、企業がいわば「戦略的協働」的に取り組んでいること。写真文化の東京一極集中が続く中であって、東川国際写真フェスティバルの「東川賞」は、国内の権威ある「土門拳賞」や「木村伊兵衛賞」などに劣らない賞として写真関係者に浸透していること。さらに、「写真甲子園」は、写真選手権の予選応募校が 23 年間で述べ 6607 校、東川等での出場校が延べ 347 校に達していること。加えて、高校生などと市民との交流が活発であること等から写真のまち東川を選定している。

第 2 に、美術館のまち美唄は、炭都として栄えたまちであったが、その後、国のエネルギー政策の転換により同市にあったすべての炭坑が閉山するに至る。

美唄市は、1976 年になって 1980 年に举行される開基 90 周年・市制施行 30 年に向けて、炭鉱の記憶等のため同市出身でイタリアにおいて大理石等の彫刻に取り組んでいる世界的な彫刻家安田侃に記念碑の制作を依頼している。そして、1980 年に故郷初作品となる「炭山(やま)の碑」を美唄市我路(がる)ファミリー公園に設置している。

なお、当時の炭住街に隣接していた栄小学校も閉山に伴って閉校しているが、市民等の有志により旧校舎や校庭を利活用した安田侃作品を展示する美術館建設の機運が盛り上がり、美唄市も乏しい予算規模の中から理解を示し今日の「安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄」の発展を見ているのである。

なお、指定管理者としては、「認定 NPO 法人アルテピアッツァびばい」が運営

し、次世代に美術作品群を引き継いでいくのだという熱心な活躍の下市民ボランティアの協力やアルテ市民ポポロ制度を創設して、市民から一口 3 千円や一部企業からの協賛も得て鑑賞料無料で取り組んでいる。

ちなみに当美術館には、2003 年に天皇皇后両陛下が行幸啓されており、これを契機として市民の理解が一気に増加していくのである。

第 3 に、演劇のまち富良野は、北海道のほぼ中心部に当たることから「へそのまち」として知られていた。その後の 1977 年には、ワールドカップフラノ大会(スキー)の開催と、同年に首都圏から移住した作家倉本聰により、1981 年から放送の「北の国から」によってその名がようやく知られる¹⁵ようになった。

作家の主宰による役者や脚本家を養成する「富良野塾」は、1984 年に設立され 2010 年に閉塾するまで 375 名を送り出している。作家が移住した翌年の 1978 年に医師の夫とともに富良野に転入した篠田信子は、1997 年頃に市民の組織として富良野演劇文化財団の設立に奔走しているが、1999 年 2 月に NPO 法人の全国第 1 号として認証を受けるに至った。これが「NPO 法人ふらの演劇工房」である。

富良野市は、厳しい財政状況の中 2000 年に関係条例を制定するとともに、約 9 億円を費やして小劇場である「富良野演劇工場」を設置している。

管理運営は、NPO 法人が受託しており、2004 年には指定管理者制度に基づいて引き続き管理運営を受託している。

なお、その後における NPO 法人の役員には、企業の代表者など多くの市民が引き継いで市民らを巻き込んで活発に運営しているとともに、役者集団「富良野 GROUP」は、市民を対象にした演劇指導や各種ワークショップなどに取り組んでいるなどからである

¹⁵ それ以前には、倉本に山林の使用を提供している麓郷(ろくごう)木材工業(株)社長の仲世古善雄によると修学旅行先の関西方面で、富良野を「ふりょうの高校生の皆さんようこそと」いわれる状況であったという。

第 2 章 写真のまち東川の戦略的協働

写真のまち東川のまちづくり

北海道東川町は、北海道のほぼ中央部に位置し面積 247.3 km²で、日本最大の自然公園「大雪山国立公園¹⁶」にその一部が含まれている。その中には、北海道最高峰の旭岳 2,291m や、旭岳温泉と天人峡温泉があり景観に恵まれた町である。

一方、西部の平坦部は、道内有数の良質米産地で知られる水田地帯である

町では、開拓 90 周年に当たる 1985 年に 100 年に向けた町民のたつての願いの実現や、一村一品運動の一環として、写真文化によってまちづくり、生活づくり、人づくりの文化田園都市を目指し、「写真の町」を宣言している。

具体的には、東川国際写真フェスティバル(Higashikawa International Photography Festival)¹⁷ (以下：東川国際写真フェスとする)と、写真甲子園¹⁸(1994 年)を開催しており、市民と密接な関わりのある「写真映りのいい風景・生活づくりの奨励・推進」等をまちづくりの基本としている。

なお、写真の町事業の開始には、自治体初の「写真の町に関する条例」(昭和 61 年 3 月 24 日条例第 9 号)を制定し、これに基づいてイベント等を実施している。

交通アクセスは、町の市街地から旭川空港まで 7 km、旭山動物園まで 15 分であり、通勤通学にも至便な立地である。

以来、東川国際写真フェスは、毎年国際写真賞の授与をはじめとする写真イベントを開催し、内外から高い評価を得ている。さらに、全国の高校写真部やサークル等を対象とした全国高等学校写真選手権大会(愛称：写真甲子園)は、2013 年の第 20 回大会の場合、8 月 5 日から 9 日にかけて、全国 522 校・8 ブロックの中から初戦で選抜された 18 校が、当年度限りの特別記念枠 2 校とともに同一器材等の条件の下で本戦の撮影に挑んでおり、地元市民を始め全国から熱い声援を集めてきた。なお、写真甲子園の予選参加(出品)校の推移は、概ね 500 校台と安定的に推移している。

東川町写真の町実行委員会(以下、実行委員会と略記することがある)は、東川町や観光協会、農業協同組合、商工会等の地元経済界や、多くに市民で構成する企画委員会である。市民・行政・企業の協働で運営される組織で、東川国際写真フェスや写真甲子園の運営を委ねられている。

写真甲子園の場合は、数市町と北海道新聞社等で構成するためこれらの団体と東川町写真の町実行委員会等で写真甲子園実行委員会を設けている。

¹⁶ 東川町域は旭岳などを含む約 1 万 ha であるが、全体面積は 226.8 千 ha で神奈川県の約 94%と日本最大である。

¹⁷ 東川国際写真フェスにおける海外作家賞は、2017 年現在 33 回大会まで重複国を除き 26 カ国・地域に及んでいる(参考資料の表 7 から引用)。

¹⁸ 写真甲子園は、2016 年の 23 年間で応募校が延べ 6607 校、出場校が 347 校である。参考資料の表 5 から引用。なお、各賞受賞校は、表 6 に記載している。

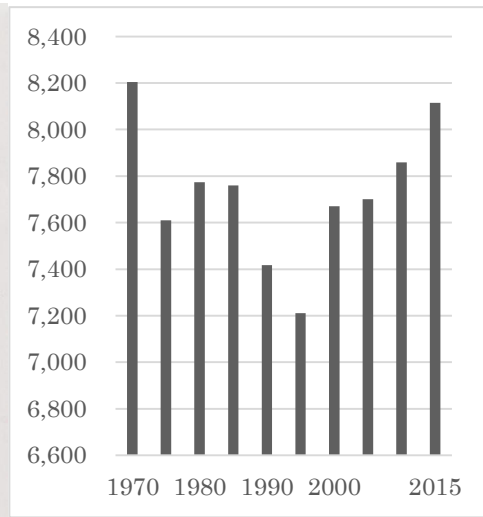


図 2-1 市町の位置図(出所：筆者作成)

図 2-2 東川町人口の推移

(図 2-2 の出所：国勢調査を用い著者作成。1995 年より 904 人増加)

第 1 節 前史 (第 1 期) ～(1990 年 12 月)

写真の町宣言以前から文化ギャラリー開設まで

1 行政(東川町、北海道、国)

1 行政(東川町、北海道、国)

先述したように環境に恵まれた町内には、「1928 年から写真を始めたという飛弾野数右衛門」(北海 2.7.7)がいた。歴史的人物の飛弾野は、東川カメラクラブを結成したとされ、後に膨大な記録を残している。後年度になってこのネガの整理にあたっては、時の自治体職員が国の助成金を得て、企画会社へ委託のうえ取りまとめているが、この冊子(写真帳)は、昭和時代の地域社会におけるハレとケなどの貴重な記録となった(勇崎 2002 を基に作成)。

一方、1967 年に町長に就任した中川音治は、1976 年になって「東川町新まちづくり計画策定委員会条例」を制定するなどまちづくりに尽力したが、1984 年になって、「観光入込客数減」(北海 94.9.27)への対応策を練ることを余儀なくされ、イベントの発掘を札幌の企画会社「HELP!NETWORK 社」に依頼した。その中心的な企画こそが写真イベントの開催であった。

中川は、議会や地元経済界等との協議を始めカメラクラブなどの応援を経て 1985 年に「写真の町」を宣言(北海 85.5.27-夕刊)し、国や北海道、企業の協力を得ながら第 1 回東川国際写真フェスを開催している。

当時多くの自治体あつては、大分県の平松守彦知事が 1979 年頃に提唱していた「一村一品運動」がブームであったこと、日本政府が、3 年後の 1988 年になって「ふるさと創生事業を創設するなど、今までには見られないような地域振興策が日の目を見る時代背景にあった。写真の町を内外に積極的に発信することとなっ

た東川町も、1989年に写真の常設展示などを行う施設である文化ギャラリー建設のため1億8,620万円を計上するとともに、「ふるさと創生事業基金規則」の制定後は3,400万円を事業費に充当している。

2 市民

写真の町宣言を契機に商工会青年部の高木正晴らは、1988年から街並みの景観を考慮し商店街の「木彫り看板」作りに取り掛かっている(北海 89.11.1-タ刊)。これは、1985年に部員らと西ドイツ(当時)やオーストリアの街並みを調査し、金属製などの看板に魅せられたためである。製作にあたっては、主要家具産地¹⁹の一つ旭川家具の約三割を占める東川であること、素材には町木のカツラ²⁰にすること、ぬくもりのある木彫りとし高さもそろえる事などを仲間らと語らいながら次々と取り決めを行っている。

製作に際しては、町からの「一軒あたり五万円の補助」北海(89.11.1-2)を活用し年に二十店分ずつ完成している。今日では、百余点に達し街並みの景観として全国から注目されるに至っている。

写真の町宣言に対する市民の反応については、肯定的な意見がある反面、「何が『写真の町』だ、写真で厳然と町おこしが出来るのか」(立木 2014: 2)といった厳しい声が寄せられるなど、反対が存在していたことも事実である。

第2節 協働形成期(第2期) (1991年～2002年)

写真の町事業見直しから特別対策室設置前まで

1 行政(東川町、北海道、国)

町長選で写真の町事業を見直す(やめる)と公約した山田孝夫(1991～2003年、3期 12年)が当選する。その当時市民の多くは、町の独断専行的な行事であることに加え、東京しか見ていない企画会社がやっているイベントと冷ややかに見る向きもあったという。

新町長は、「東川町新まちづくり計画策定委員会条例」に、公募委員を含める等の改正案を議会に提出し、成立後(改正・第16号)、通称百人委員会(公募委員69名)に事業の中止か継続かの審議を委ねている。

同委員会の答申は、「町費の充当に対し投資効果はいかかなものか」(北海 91.6.2)、「町が全国に発信され知名度が向上しており長期的視点を要する。……今、中止という確たる理由が見当たらない」(『チビスロウ』2012-20)等の答申を経て事業が継続されることとなった。

町が写真の町事業に関連して、内外にその情報を発信する必要にせまられて取

¹⁹ 旭川、静岡、飛騨、府中(広島)、徳島、大川各家具産地。

²⁰ カツラ Japanese Judas tree (*Cercidiphyllum japonicum*)

り組まれたインターネット開設は、1998年当時北海道内自治体で千歳市に次ぐ二例目であり、そのアクセス数たるや「六～八千件、うち海外が約千件」(聴き取り2011年)を数えるまでになった。

2 市民と東川町〈写真の町〉実行委員会

この当時市民は、プロの写真はよく理解できない、子どもに見せられない等の「不満」(北海 94.9.27)を持っていた。具体的には、国内作家賞を受賞した作家の展示作品の中に「いたずらに性欲を興奮または刺激させ、かつ普通人の正常な性的羞恥心を害し、善良な性的道義観念に反するもの」(刑法 第 175 条)といった判例に抵触が懸念される展示写真があったものと推測される²¹。1991年当時写真の町に関する市民アンケートでは、「従来通り進めるべき 8.6%、町民参加型で進めるべき 41.5%、テーマを写真以外にも拡大すべき 14.9%、やめるべきは二番目ながら 32.9%も占めていた、その他 2.1%」(鬼塚 1991-84)であった。このような市民の意向にも注意深く配慮しつつ、全国高等学校写真選手権大会は、1994年から開始された。

なお、愛称を「写真甲子園」としているが、「きっかけは、学習研究社の高校生向け写真雑誌 CAPA が町内で主催していた「フォトオリンピア」という写真イベント」(浜辺 2006-6)の名称を参考としたという。

このようにして名付けられた写真甲子園(Photography Koshien)の開始に際しては、大雪山国立公園を有する近隣町が実施する事業と位置づけ、当町と美瑛町そして上富良野町の 3 町で連携し、北海道新聞社も加わり実行委員会形式で実施されている。

実行委員会の企画委員長であった浜辺啓は、写真甲子園が「写真の町」事業に対する「市民の参加意識を醸成させた」と後に述べている。

なお、第 2 期には、写真イベントと「従来からの産業まつりのどんとこい祭りが一つに統合」(鬼塚 1991-84)している。このため、祭りの参加には、小学生から高齢者クラブにまで及ぶとともに、多くのサポーターの分担により町を挙げて取り組んでいる。その一事例としては、老人会の写真部会が 1998 年に誕生し S.T. 会長は「今まで考えたこともなかったけれどこんな美しいところに住んでいたのか」(北海 98.4.29)と気づかされた旨述べている。

そして、写真甲子園スタート二年後の 1996 年からは、全国の「OG、OB が来町してボランティア」(北海 8.10.18)として同イベントの盛り上げに大いなる役割を果たした。

²¹ なお、当該写真家は日夜町民と交流を深めるなど庶民感覚が旺盛であった模様。

第3節 協働実現期(第3期) (2003年～2006年)

特別対策室設置から市民が選ぶ特別賞開始まで

1 市民と実行委員会

平成の大合併に合わなかった場合、地方交付税減額の蓋然性が高まることについて市民は、「先人の開拓時の苦勞を思えば耐えられる」と町の自立を選択している。なお、市民の代表である企画委員は、2004年に12名から「28名へと増員」(北海 4.7.24)されているが、この増員等によって翌年の「大会直前の企画会社の倒産」(玉村 2013-93)という予期せぬ出来事においても関係者が一丸となって乗り切るとともに、これが契機となって市民の参加が爆発的に増加している。

市民参加の代表的な事例は、企画委員の提案によって①高校生を市民宅に泊める、②トマトなど地元農産物を収穫体験してもらいつつ食べてもらう、そして、③写真甲子園の表彰に先立って市民が選ぶ「特別賞」を設ける、④食事は地元産品を使い農家等主婦の手作りを提供する、さらに付け加えるならば、⑤各自の農場施設などで樋浦哲夫ら企画委員が「ファームギャラリー」(北海 5.8.10)を開催するなどである。なお、手料理は、日頃コンビニ弁当や店屋物に飽き飽きしている写真関係者等に大好評であった。浜辺は、この料理の提供が市民ボランティアの増加につながった一因と述懐している。

なお、全国から集まった写真甲子園のOGらは、十周年を記念して7月31日に同窓会を開催するとともに、講師を務めた立木義浩写真家ら三名に手作りの感謝状を手渡している(北海 03.8.I)。

2 行政(東川町、北海道、国)

町長選では、近隣町との合併を公約した現職に対し、合併せずに小さいままでよいとする「自立する町東川を考える会」(北海 6.5.1)の推薦を受けた松岡市郎が当選する。就任後は、写真の町事業専任の特別対策室や、子育て支援策の一環としてマイホーム建築支援事業等を次々と設けるとともに、職員を前に次の提唱をしている。それは、「脱公務員化、前例がない、他の町でやっていない、予算がないからの脱却、……変革、挑戦、好機を掴む精神、町長への直接提案方式へ転換」(守屋 2011-178)等である。

なお、写真映りのいいまちづくりの一環として町の取り組みは、仙台以北で第一号の「景観行政団体」(北海道都市計画課 2006)の指定を受け、旧役場庁舎(郷土館)の改修や、東川町景観住宅建築支援事業を開始している。そのほかには、①新生児プレゼント用に「君の椅子プロジェクト」(東川町 2010-26)を他の市町村に先駆けての取り組み、②2005年には写真甲子園の「作品展」(北海 5.2.17-夕刊)を美唄市のアルテピアッツァ美唄の市民ギャラリーで開催、③2006年には、企業からの協賛を受け東京都写真美術館で海外作家賞の作品を「東川賞コレクション展」(Latvija2006-6)として積極的な活動を展開している。

さらに、写真甲子園に係る大会予算は、「19年目を迎え2,700万円かかるが、町財政からは850万円程度で、残りはキャノンをはじめ企業の現物や資金による支援、財団などの補助金」(NIKKEI BUSINESS 2012-124)で運営している。

3 企業

東川国際写真フェスや写真甲子園の運営は、半分以上が「キャノン等写真器材メーカー等の協賛金」(北海 3.8.18)で支えられている。そして、この当時から、マスコミの露出度が年々増加している。

一方で、JA ひがしかわ²²は、「東川米」の特別栽培米基準として品質管理を徹底するとともに生産者の顔写真貼付など十項目を設けコメのブランド化に取り組んでいる。

第4節 協働展開期(第4期) (2007年～2015年)

写真の町課・写真の町推進室設置以降

1 市民と実行委員会

長沢義博企画委員長は、「町外の人と触れ合う機会が増え東川の良さを気付かせてもらった……町民をどう巻き込むか、今後も、みんなで発想を練って形にしていきたい」(北海 8.7.24)と述べている。「警備や会場の設営、食事の提供、ホームステイ」(『チビスロウ』2012-18)の受け入れや各種準備等、市民参加によるもてなしが高い評価を受け、2010年の「文化庁長官表彰」(北海 14.11.21)につながったとも述懐している。さらに、東川や旭川の高校生や、道内外から写真甲子園のOGやOB、や専門学校、大学の関係学部などの学生等で合計300名に及ぶボランティア(北海 7.11.7)が多くの場面で活躍していた。なお、高校生サポーターは、黄色のTシャツで、その他は、赤色や紺色のTシャツを着用するなどボランティアに対して、細やかな配慮が見られた。

被写体となって撮影された方々と高校生との交流では、東川町第二地区の川瀬初枝宅で、朝早くから昨年も来た浦添工業高校生が先生に連れられて「おばあ(おばあちゃん)元気？」と会いに来てくれたと述べるなど市民との交流が見られている。

なお、選手や関係者への「食事作り」(北海 7.11.12・夕刊)には、JAや商工会の女性部などの市民により引き続き行われている。写真家の石川直樹によれば写真甲子園は、「人を繋ぐ器」(北海 16.12.5)と述べている。

町内に「プロの写真家五名が移住」(町広報 2015・5)しているが、一部のカメラマンは、市民の百日齢祝いの新生児や数え年80歳の傘寿祝いの記念写真事業に贈呈する写真撮影を買って出るなどしている。

夏休みの小学生を対象とする写真絵日記のサポートには、町の学芸員と高橋ひろみ企画委員が「秋の子ども写真ワークショップ」を文化ギャラリーで開催している。さらに、小中学生14人による「写真少年団」(北海 13.5.28、14.1.8)を立ち上げるなど活躍している。一方で、根室では、「キッズ写真甲子園」(北海 12.11.18)

²² 農業協同組合法に基づき正式には、東川町農業協同組合であるが愛称名を表示。

が誕生するなどの波及効果もみられる。

写真甲子園の本戦参加常連校の「大阪工芸高校」(町広報 8.10)は、2008年二年生の250名が修学旅行の目的地として東川町に宿泊している。そして、氷彫刻発祥地の東川ならではの体験では、当該高校生たちは会得が早く手先が器用の模様であった。さらに、この年には、写真の町事業を全国に発信する役割を担う「インタープリター」(北海 8.4.23)には、長らく担当していた元町職員が市民等から選出されている。

町内の市民は、「米誌『ナショナルジオグラフィック』の2016年旅行写真家コンテストの自然部門で1位に輝いている。……被写体は、キタキツネのカップルであり3月の雪原で追いつける事7日目の夕暮れにして(種の継続に関する)ある行動の瞬間をとらえたもの」(北海 16.11.5)である。

2 行政(東川町、北海道、国)

次に、東川町の写真の町事業関係の摘記事項は、次の通りである。

当事業の組織体制を強化するため、機構を改正し写真の町課・写真の町推進室を新設するとともに後年度には、「吉里演子学芸員」(北海 11.5.22)を配属している。さらに、国の地方税法の一部を改正する法律の制定に際しては、それ以前に職員提案により設けられた株主制度²³を活用し、写真の町事業等への支援を全国に発信し一定の成果を上げている。これに対しては、2015年に弘前市などと共に「ふるさと知事ネット」主催の「ふるさと納税未来大賞」(聴き取り 2016年2月)を受賞している。さらに付け加えるならば、2010年に「韓国江原道(カンウォンド)寧越(ヨンウォル)」(北海 10.11.3)と写真等文化交流協定の締結、そして、2014年には、「写真文化首都宣言」(日経 14.6.6)を、東アジア写真文化国際フォーラムの開催「東アジア写真文化連盟」(ひがしかわ 2014)を結成している。同じく、2015年には「第一回高校生国際交流写真フェスティバル」(北海 15.8.10)等を開催した。また、当期には、東神楽町と旭川市が写真甲子園の共催に参加している。

文化庁は、地域活性化に連動し地方自治体の文化芸術活動を支援する「地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ事業」(北海 12.6.19)に東川国際写真フェス(2012年)が採択されるとともに、写真のまち事業30年にあたり、創造都市事業(2014年)に13,500千円を、2015年には文化芸術による③地域活性化・国際発信推進事業で東川町国際写真フェスに8,800千円をそれぞれ交付している。そして、東川は2010年に、写真文化による地域活性化が顕著にみられたとして「文化庁長官表彰」(北海 10.3.24)を受けている。当時の長沢義博企画委員長は、市民の「盛り上げが表彰につながった」(北海 10.3.25)と述べている。

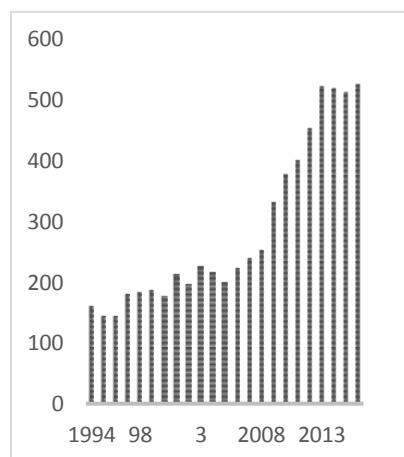
「高橋はるみ知事」は、2013年に実行委員会より写真甲子園の名誉会長に推挙され、表彰式で北海道知事賞の授与を行っている。写真甲子園の予選参加校は、2014年「521校」、2016年「全国11ブロック別審査会を、書面審査から公開審

²³ 株主制度は、町への寄付によって株主となりまちづくりに参加する制度である。

査を導入し……応募校は 527 校」となる²⁴。各年次の推移は図 2-3 に示している。

なお、写真甲子園の第 15 回大会では、地域活性化センターより「ふるさとイベント大賞の優秀賞を受賞」（北海 9.3.12）している。

一方、2011 年東日本大震災には、カメラ業界等の支援により被災した高校の写真部などにカメラなどの機材一式を町長らが届けている（北海 11.4.21）。



このように全国の高校生が応募し、各ブロックの代表校が参加することについて、世話役の一人である小岩昭市企画委員は、「高校生と町民の接点を重視」（北海10.7.25）していると述べている。

図 2-3 写真甲子園予選応募校の推移

出所：立木(2014)等を基に筆者作成

2016年(北海道新聞16.7.27)

「写真甲子園の目的は、高校写真部に活動の場、目標、出会い・交流の機会を提供し、創造性や感受性の育成と活動の向上・充実・特別活動振興寄与である。

応募に際しては、共同制作作品(組写真)を募集し、テーマ性、技術力、表現力・想像力により初戦の審査を行う。その後、全国 11 ブロック別公開審査後 18 校が選定され本戦(東川等)に挑む内容である。

競技は、各校 3 名(顧問 1 名)が制限時間内に同一器材で、ファーストステージ、セカンドステージ、ファイナルステージごとに心+技+眼の 3 要素を基準としたポイント評価による公開審査が実施される」(出所：ひがしかわ広報 2015 年、「写真の町通信」vol.29)。

3 企業

アマナホールディングス(東京)は、写真文化を育てる町への応援にと、自社株主優待のうち二千人に東川産のコメやトマトジュースなどを届けている(北海 10.7.26)。「高島屋は、2014 年新春の福袋で町内のコテージ滞在や移住者との交

²⁴ 出所：(北海 13.8.10、14.5.14、16.7.27)

流という移住気分を味わうツアーを販売」(北海 13.12.25)した。

報道各社が、写真甲子園を相次いで紹介することで注目度がさらに高まった。各社別では、「NHK 総合がドキュメントにっぽんの現場、BS フジは写真甲子園 85 分特番 2012 年、UHB は写真甲子園 2007～カメラがあれば強くなる」(北海 7.7.12-夕刊、8.6.18)、さらに、主催者招待ながら「沖縄タイムス、中日新聞、琉球新報、静岡新聞、河北新報、埼玉新聞」(北海 14.9.25)が写真甲子園を特集記事で報道している。

講談社は、写真甲子園を「写真の神様」と題した漫画単行本を発行する(北海 7.5.15-夕刊)。米村図書出版は、高二「教科書美術 B」で写真甲子園を掲載する(北海 7.6.12)。なお、地元 JA(農協)は、十項目にわたる特別栽培米基準を設けるなどが評価され「東川米」は、北海道米で第 1 号の特許庁の「地域団体商標」として登録される (JA ひがしかわ 2013 : 6)。

東川町国際写真フェス 2015 年大会の協賛企業等は、エプソン販売株式会社ほか多くの企業等」(出所：写真の町ひがしかわ写真の町通信 Vol.31-37)である。

²⁵主催や協賛企業等は、注記の通りである。

なお、東川町国際写真フェス 2016 年大会の主催等は、参考資料の表 2 に、写真甲子園の特別協賛等については、表 4 に掲載している。

²⁵ 「主催：東川町〈写真の町〉実行委員会、後援：外務省、環境省、文化庁、北海道開発局、北海道、北海道教育委員会、旭川市、公益社団法人日本写真協会、公益社団法人日本写真家協会、公益社団法人日本広告写真家協会、一般社団法人日本写真文化協会、日本旅行写真家協会、全日本写真連盟、日本写真家連盟、公益社団法人北海道観光振興機構、北海道新聞社、毎日新聞社、朝日新聞北海道支社、読売新聞北海道支社、日本経済新聞旭川支局、NHK 旭川放送局、札幌テレビ放送、HTB 北海道テレビ、テレビ北海道、UHB 北海道文化放送、AIR-G ‘エフエム北海道、FM ノースウェーブ、助成：平成 27 年度文化庁地域発・文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業、公益財団法人朝日新聞文化財団、

協賛：キャノンマーケティングジャパン株式会社、株式会社シグマ、株式会社スタート・ラボ、株式会社ニコン、株式会社ニコンイメージングジャパン、富士フイルムイメージングシステム株式会社、サンディスク株式会社、株式会社コスモスインターナショナル、一般社団法人日本写真映像用品工業会、一般社団法人日本カメラ財団、ソニー株式会社、ソニーマーケティング株式会社、株式会社大雪水資源保全センター、ハッセルブラッド・ジャパン株式会社、マンフロット株式会社、株式会社モンベル、株式会社堀内カラー、TOKYO INSTITUTE OF PHOTOGRAPHY、協力：Auckland Festival of Photography、TARO NASU。

表2-1 写真のまち 年代記
 写真の町宣言以前から文化ギャラリー開設までの協働前史
 (第1期、～1990年12月)

年	月	市民	行政	企業その他
1928	1	飛弾野数右衛門のスナップ写真は、昭和の貴重な記録。		・第16回衆議院議員選挙
34	12		大雪山が、国立公園に指定。	・函館大火
36			村は、サイレント映画撮影機を購入し「東川ニュース」を制作し始める。	・中谷宇吉郎が人工雪を製作 ・ベルリン五輪で前畑健闘
42				・食糧管理法制定 (法律第40号)
47			地方自治法施行：内務省北海道庁廃止。北海道設置。	
51	9		羽衣の滝が、北海道名勝特別天然記念物に指定。	・総理大臣は、吉田 茂
52		飛弾野数右衛門らは、東川カメラクラブを結成。	サンフランシスコ講和条約等が発効、(第二の開国)とも。	十勝沖地震
55			高度経済成長期(55～73年)	高松宮殿下が、勇駒別(現旭岳温泉)へ御成り。
64				三笠宮殿下御一家大雪山に御登山。東京五輪
67	2		中川音治が、町長に就任。	・巨人/大鵬/卵焼き
68		東川農協とホクリツ農協が合併して新たな東川農協誕生。		・文化庁設置
70			日本政府は、コメの生産調整(減反)を始める。	・農業基本法制定(1961年)
76	6		東川町新まちづくり計画策定委員会条例(条例第13号)	・石屋製菓「白い恋人」発売 ・鹿児島県で五つ子誕生
78	11	松田興一が、彫刻で日展に入選する。(80年も入選)		・日中平和友好条約調印
82	7		東川町旧庁舎が、郷土館に再活用し開館する。	北海道博覧会開催 ・ホテル・ニュージャパソ火災事故
84		東川カメラクラブの上田亮一森下滋らが、写真の町づくりの推進役となる。	中川音治が、観光入込客数減少の対策 ●	HELP ! NETWORK 社は、中川町長に写真構想を提案。 ・新紙幣発行
85	6		東川町は、「写真の町」を宣言 ●	・一村一品運動 1980年より ・両国国技館完成
	7	宣言後、内外からは厳しい声が寄せられる。「何が『写真の町』だ」「写真で町おこしができるのか」	第一回東川国際写真フェスティバル(人間謳歌、自然讃歌) 文化の香る街構想 ●	
86	3		町は、写真の町に関する条例を制定。●	・チェルノブイリ原発事故
	7	写真家が転入する。	町は、空き家情報バンク提供事業を開始。	

87	10	陶芸家やクラフト作家などが 転入し始める。		・釧路湿原が国立公園に指定 一等米出荷率が全道一になる
88		町商工会青年部は、木彫り看 板設置事業を開始。	国は、ふるさと創生事業創設 第4回HIPFが、秋山庄太郎 と花の会・写真展から開始。	北海道情報処理専門学校開校 ・世界食の祭典が札幌市内で 実施～横路道政。
89	3		町は、文化ギャラリー建設事 業費1億8,620万円を計上 (RC平屋約800㎡)。●	・昭和天皇崩御・平成元号 ・天安門事件 ・ベルリンの壁崩壊 ・バブル景気崩壊・株価暴落
	4	写真絵日記の子ども	町は、カナダ・キャンモア町 と姉妹都市締結(7月)。	
	10		町は、文化ギャラリーを開設	
	12		町は、ふるさと創生事業基金 規則を制定し、文化ギャラリ ーの建設事業に三千四百万円 を充当する。●	
90	4		羽衣の滝が、日本の滝百選と なる。	町 / JAは、米作り百選に指定 ・ラトヴィアがソ連からの 独立を宣言 二月

当年表は、聴き取りのほか、次の資料で補い筆者が作成した。北海道新聞、東川町、
1990 『チビスロウ』(2011～2012)、JAひがしかわ、JAてっぺんだより2015.3 (500)、『きずな』、

写真の町事業見直しから特別対策室設置前までの協働形成期
(第2期、1991年1月～2002年12月)

年	月	市民	行政	企業その他		
91	6	写真の町に町費の充当に対し 投資効果を指摘す声も。 一方、町も全国に発信され ており、長期視点を要すと。 (当時の意向調査) 事業反対34%、賛成9% (5年後は) ↓ 96年反対15%、賛成36% 「文化の香るまち」を本物に する必要があると。	町長就任の山田孝夫は、写真 の町事業見直し公約で当選。 ● 一方、当事業の評価は高く 日本写真協会PSJの功労賞に 選出されるが、町長は辞退 東川町新まちづくり計画策定 委員会条例(改正・第16号)	・バブル経済崩壊 ➡過去の実績を評価と 協会 ・湾岸戦争開戦		
			7	東川町新まちづくり計画策定 委員会(百人委員会、うち公募 69人)は、写真の町事業継続 を答申 ● 全町横断的組織「東川町〈写 真の町〉実行委員会」設立	被写体対象を日本政府が高く評価 ● 東川賞を基金化する。(1億円) ● 第7回HIPFが開催。	・雲仙普賢岳で大火砕流発生
			8	市民の声には、子どもに見せ たくない写真!との不満も。	鬼塚幹雄が、「新聞研究 483 号に「写真の町から」を投稿	・東西冷戦崩壊
	92	10	ラトヴィアのライモンズ・パ ウルズ文化大臣が、来町し交 流会で自作曲「マーラが与え た人生」を演奏する。なお、 旧ソ連ではこれを原曲に露語 作詞の百万本のバラを発売。 (大臣は、写真展で来町)		北海タイムス社長は、バルト 三国の特集記事を指示。	

年	月	市民	行政	企業その他
92	12	ばあちゃん写真展老人クラブ 写真同好会 19 人と、1910 年 生まれも健闘。		・毛利 衛スペースシャトル 搭乗
		市民は、ラトヴィアの日本語 学校に教材を贈る。		
93	4	実行委員会は、写真の町事業 の市民参加について検討を重 ねる。		戦後最悪の大凶作、水稲作況 指数、上川52、全道40。 (青森28、全国74)
	6	東川賞作家G・イトルビーデ の展示は渋谷のギャラリー。 関口哲也は、東京駅地下街。	東川町が都内で初の写真展を 二か所で開催。第六回海外作 家賞と第二回特別賞の作品。	東川賞の運営資金を広く募る 写真の町文化基金と、町の特 産品を直送する写真の町 町 友会・東川倶楽部への寄託や 入会を写真展で呼びかける。
	7		「写真の町推進室」が、ワー クショップ93を運営する。	
94	7	市民は、プロの写真は理解で きない。町費充当で費用対効 果が見えないなどの不満も。 ●	北海道は、北海道文化振興条 例を制定(3月)。	ZEBRA PLANETS Inc. の勇崎 哲史が高校生写真の企画を提 案し受託
			写真甲子園を開始 ●	・北海道中ひざくりげで放送 ・自社さ連立内閣発足
			東川賞が、写真界で評価。 写真甲子園実行委員会の発足 ●	
95		陶芸家、写真家は、ラトヴィ アで個展を開催する。 ラトヴィア国立写真博物館で 「写真の町」東川町を紹介。		・食糧管理法の廃止。 (食糧法施行) ・阪神大震災 ・地下鉄サリン事件
		東川町百年の礎『年輪の素顔』 展～八十八歳以上のうち五 十六人撮影。百七歳で長寿全 道一を含む。		
96		写甲OG、OBボランティアが 開始	「東川賞移動展」● 東川ネットワーク'96「人間へ の旅」展示、5月札幌市写真 ライブラリー。	
97		(社)日本広告写真家協会の全国 総会が町内で開催。これに合 わせ「写真の町の子供達展」 で770人の子供を撮影。	「東川賞移動展」活動③ 東川ネットワーク'97「光の 旅」展示、7月サッポロファ クトリーで17人の91点。	・北海道拓殖銀行が、経営破 綻。
98	4	町老人会に写真部会が誕生し 会長は、こんな美しいところ に住んでいたのかと気づかさ れたと述べる。	日本政府は、優良田園住宅の 建設促進に関する法律を施行	・長野冬季五輪
		第二小では、課外活動に写真 を採用。	東川は、インターネット開設 が道内で千歳に次いで二番目 写甲ネット動画中継開始等で 知名度が上がり、月間6～8 千件のアクセス。	
		「東川賞」は、「日本写真協 会賞」に次ぐと好評。	(自治体での順位)	

年	月	市民	行政	企業その他
1999	8	北海道大学大学院教授の越澤明は、町の風景づくりアドバイザーを受託。	町は、東川の風景づくりアドバイザーを委嘱する。	・男女共同参画社会基本法成立
	12	「飛弾野数右衛門写真展・昭和の東川」をギャラリーで開催。●	飛弾野数右衛門のネガ整理に国の助成金を申請。 町は、第25回日本写真家協会賞を受賞。	
2000	1	実行委員会が、北海道地域文化選奨の特別賞を受賞。	写甲本戦出場校が12→14に	日本写真家協会賞を祝う集い～写真の町・東川世界に羽ばたけが、札幌で開催。主催：写真業界関係者等。同協会の細江英公副会長、上川支庁長らが出席。 ・雪印乳業集団食中毒事件
	11		町は、景観に関する町民会議を設立。 文化ギャラリー収蔵13千点をデータベース化する。	
2001	3	市民らは、ラトヴィアと草の根交流を実施。	第8回写真甲子園対応に、専属13人を配置。	・札幌ドーム開業 写甲審査委員が五人に ・九・一一米中枢同時テロ 大雪山自然学校が設立される
		産業の「どんとこい祭り」と写真イベントが統合される。 「飛弾野数右衛門写真展・昭和の東川」が、審査委員の評価を受け、飛弾野が第十七回東川賞の特別賞を受賞。		
2002	1		美しい東川の風景を守り育てる条例を制定。	・田中耕一ノーベル化学賞 東川は、うるち米の産地格付で最上位の7 ランクとなる。(JA道中央会と北海道)
	3		東川町新まちづくり計画策定委員会条例(改正・第 3号)	

当年表は、聴き取りのほか、次の資料で補い筆者が作成した。

1991 『北海道新聞』 朝刊、全道版、旭川・上川版。東川町、JAひがしかわ、『チビスロウ』(2012)、
2002 守屋(2011)、北海道、立木(2014)、文化庁(website)、『自然と文化』(2002)、『電気のふるさと』

特別対策室設置から市民が選ぶ特別賞開始までの協働実現期
(第3期、 2003年1月～2006年12月)

年	月	市民	行政	企業その他
2003	2	「自立する町東川を考える会」が設立。	松岡市郎が、町長に就任する。	・イラク戦争 ・三浦雄一郎エベレスト登頂 ・JRタワー、駅近百貨店開業 ・台風10号、8月 平取町 ・十勝沖地震、9月 静内等 写甲本戦作品展が、キャノンギャラリーで開催。
	5	写甲初の同窓会、10周年で全国から24人が参集(8月)。	写真の町事業に特別対策室を設置。	
		半分以上が写真メーカー等の協賛金で支えられている。支出の大半は、招待した生徒と教諭の交通費と滞在費、企画運営など外部委託費。 一層の市民参加の必要性 ●	町は、マイホーム建築支援事業等を設ける(7月)。 「町長松岡市郎の提唱等」 脱公務員化「前例がない、他町でやっていない、金がないからの脱却」	

年	月	市民	行政	企業その他
2004		写真甲子園10周年記念PDF版 「写真甲子園への道」 写真甲子園実行委員会	横山大観らの日本芸術院所蔵 作品展を開催(11月)。●	<ul style="list-style-type: none"> ・駒大苫小牧 甲子園初優勝 ・台風18号、9月札幌等 ・函館市と四町村合併
		写甲インターンシップ受け入	「東川町国際写真フェス」が 20周年を迎え、企画委員を増 員(12から 28名へ)。 ●	
		写甲 2004 大会実行委員会の 会長松岡市郎は、来賓のカメ ラ財団理事長森山真弓に大会 名誉顧問を要請し快諾得る。		
		実行委員会の企画委員28名 が就任。		
2005	6	写真家が転入する。プロは五 名となる。		札幌のイベント企画会社が、 倒産。●
		実行委員会が急遽主体的に 対応●	町の主体的な対応●	<ul style="list-style-type: none"> ・駒大苫小牧が二連覇 ・郵政民営化選挙
	7	市民は、写真イベントを我が 町の大会と再認識する。 写真甲子園は、まんが甲子園 と並んで「文科系甲子園」の 先駆けといえる。	写甲デジタルカメラ使用開始	北海道文化放送(UHB)が、写 甲特番制作開始。 東川農協は、特別栽培米基準 で、生産者の顔写真を貼付す るなど十項目を実施。
	8	ファーム・ギャラリーを開催 樋浦哲夫ら企画委員。	より一層写真映りのいい町に ●	アルテピアッツァ美唄で、写 真甲子園作品展を開催。
2006	4	日本カメラ財団理事長の衆院 議員森山真弓が、東川町文化 ギャラリーで自らの写真展を 開催(4月)。	町は、景観行政団体に指定。 ● 東川町景観住宅建築支援事業 を開始する。	
		企画委員会による市民との触 れ合いの場を設定、●	町は、これまでの海外作家作 品を、東京都写真美術館で東 川賞コレクション展として開 催する。館長の福原義春は、 東川町国際写真フェスティバ ルは、フランス・アルルの国 際写真展に匹敵すると評価。 ● 第13回写真甲子園から、特 別賞を開始(7月)。	写真作家賞の「東川賞」は、 日本で初めて自治体により制 定されている。国内の権威あ る賞の「土門拳賞」、「木村 伊兵衛賞」にも劣らない賞の 一つとして写真関係者に浸透 ・トリノ五輪で、荒川静香が 金メダルを受賞。 忠別ダムが完成
		・市民宅に泊める ・トマト収穫の体験等 ・市民が選ぶ「特別賞」 ●		
		写甲に優勝旗登場 市民事前投票の「特別賞」は 優勝校の沖縄真和志が受賞。		
7	写真の町行事に対する住民参 加増は、東川賞を祝う集いで 農家の主婦らによる手料理へ の切り替え ●	君の椅子プロジェクト発祥の まち：事業を開始 2015年に実績が顕著 ●		
	9	カナダのパム・ドイルの写真 展が、文化ギャラリーで開催	東川町が、景観法の規定に基 づく景観計画を樹立。(11月)	

当年表は、聴き取りのほか、次の資料で補い筆者が作成した。

2003 『北海道新聞』、東川町、JAひがしかわ、北海道、守屋(2011)

2006 『電気のふるさと』、玉村(2013:93)、『チビスロウ』(2012)、

写真の町課・写真の町推進室設置以降の協働展開期

(第4期、2007年1～2015年12月)

年	月	市民	行政	企業その他
2007	5		町は、写真の町課・写真の町推進室を新設。●	
	6		東川町新まちづくり計画策定委員会条例(改正・第11号)	写甲が「写真の神様」講談社漫画単行本に。画・岡井 ハロ
	7	食事作りでボランティアが準優勝した広島庄原格致高生と交流。 より一層市民参加の必要性●	町はラトヴィア共和国のルーイエナ町と姉妹都市を締結。	写甲が高二「美術B」の教科書に登場する(米村図書出版) UHB「写甲2007～カメラがあれば強くなる～」が、北海道知事賞を受賞する。日本映画テレビ技術協会北海道支部主催、第13回映像コンクール、撮影・オーテック・大室成之。 ・年金記録未統合が五千万件
2008	4	実行委員会の長沢義博企画委員長は、よそ者との交流で町の良さが気づいたと述懐。 株主制度の配当は、農商工の産品を充当。	地方税法等の一部を改正する法律～ふるさと納税が開始。町は、職員提案のひがしかわ株主制度を採用し、写真の町事業等を支援。●	大雪旭岳源水が、平成の名水百選に選定される。 ・洞爺湖サミット開催 ・益川敏英ノーベル物理学賞 ・リーマンショック
	7	ボランティア・サポーターらのより一層の活躍。 ● ボランティアは、約300名。 より一層の市民とのかかわり●		アマナホールディングス(東京)が、株主優待のうち二千人に東川産のコメやトマトジュースなどを届ける。 写真文化を育てる同町への応援にと。
	10	写甲 O B・O Gが初の全国展写甲に恩返しをしたいと。全国から自由テーマで出品。写真の町を全国に発信する役割の「interpreter」を長く運営に携わった元吏員が市民等より推挙される。		写甲運営に全国新聞社事業協議会が参加 NHK総合「ドキュメントにっぽんの現場」で写甲全国へ 大阪市立工芸高から二年生約250人が修学旅行で9月に町内に宿泊。
2009	6	小学4年生の授業で、グループ発表の写真に取り組む。	写真の町 25年特別企画展で『えぞ王国』森の写真展を北海道文化財団と共催で実施。 ●	(株)Office K2が大連に進出。 写甲出場校が拡大14→18校
		写甲(第15回目)がふるさとイベント大賞優秀賞受賞。(財)地域活性化センター等主催 ボランティアの宮越は今年で六回目、参加を楽しむ。●	東神楽町と旭川市が写真甲子園の主催に参加。 ●	・民主党政権誕生 ・裁判員裁判が、スタート
2010	2	企画委員長は、町民の盛り上げが文化庁長官表彰にと。(長沢義博企画委員長)	文化庁長官は、文化芸術創造都市部門で表彰。 ●	・中国、GDP世界第二に 写甲閉会式で北海道文化放送
	7	飛弾野数右衛門賞開始 ●	増田寛也元総務大臣が、来町し独自の施策を町長から聴取	の水野悠希アナ(町観光大使)が司会を担当。

年	月	市 民	行 政	企業その他
2010		企画委員は、全国から参加する高校生と町民の接点を重視(小岩昭市企画委員)	町は、韓国・江原道寧越郡と写真等文化交流協定を締結 ●	・鈴木 章ノーベル化学賞
2011	5	写真の町実行委員会が震災支援 被災高校写真部支援プロジェクト実施(協働)	写真の町課に学芸員が配属(吉里演子) ● 町は、地下水保全条例を制定(6月)	・三・一一東日本大震災 ・福島第一原発事故 ・中国漁船船長を逮捕、釈放 そのほかの交流
	7	ボランティアスタッフは、選手らの食事を世話。● スタッフは、赤色や紺色のTシャツを着て運営を支える。 東川や旭川の高校生サポーターは、黄色Tシャツで活躍。	役場職員や各種団体の人々は大会運営を支えている。	開会式で東川高校生の司会等 幼児のエスコートで選手入場 東小スクールバンドでの演奏 ホームステイ受け入れ家族 写甲OB・OGも記念撮影等々 町民ボランティアの活躍
	8	小学生が、夏休み中「写真絵日記」に取り組んでいる。	町は、写真絵日記を仕掛ける	収穫体験の設定等 助成：朝日新聞文化財団ほか
	12	「HIPF 2012」 主催：町写真の町実行委員会 後援：日本写真協会ほか 多く報道で町への愛着増活動⑰	後援：日本政府、北海道、道教委、旭川市 ほか別途記載	協賛：エプソン販売(株)他 協力：(株)アマナホールディングス他 ほか別途記載
12	8	写真家は、小学四年生を対象に写真のワークショップ開催 新生児と傘寿の撮影を担当。 市民は、沖縄浦添工業高校生と交流。真和志高生のホームステイが縁。	町は、ひがしかわ株主制度により開拓百二十年記念事業で安田 侃モニュメントを創設 町は、記念写真プレゼント事業で、新生児百日祝いと傘寿祝い数え80 歳を開始。 ●	東川米 (JAひがしかわ) 地域団体商標・経済産業省を登録。 ● 写甲が、BSフジで8 5 分特番放送。 ・山中伸弥ノーベル賞 ・東京スカイツリー開業 ・衆院選で自公が政権奪還
	9	「秋の子ども写真ワークショップ」開催。文化ギャラリー吉里演子学芸員と高橋ひろみ企画委員	文化庁は、地域活性化へと連系する地方自治体の文化芸術活動を支援する地域発・文化芸術創造発信イニシアチブに東川町のHIPFを採択。	町出身旭川家具工業協同組合長の長原實が、北海道功労賞を受賞する(ものづくり産業の振興)。 根室でキッズ写真甲子園発足
	13	4 「写真少年団」東川町で開始。 ● 写真甲子園には、地元東川高校生もサポーターとして活躍 「ホームステイ先との交流」 今朝早く昨年の高校生が「おばちゃん元気と会いに来た。 岩見沢高等養護学校のホームステイは高木正晴宅に五名。	高橋はるみ写甲大会名誉会長 ・知事が、写甲表彰式出席。 地域団体商標・経済産業省を登録する(4月)。 タイ国ボンテープ・カンシャナ副首相らが、町内の専門学校等を視察する(22日)。	地域団体商標・経済産業省を登録。 大雪旭岳源水(JAひがしかわ)清酒「東川米」が北の誉酒造(株)から販売、JAひがしかわ等との協働。地理的表示制度 ・イチローが、4,000本安打 ・環太平洋連携協定(TPP)交渉に参加。
	11	第三回から写真甲子園の審査委員竹田津実が、第六十七回北海道新聞文化賞(社会部門)を受賞。正賞は、安田侃制作の「意心帰」(ホワイトローズ)。		第26回日本写真家連盟展「四季の彩り」展6月18日～ 東川展は七回目で竹田正明会長も毎年来町し、写真の魅力を皆さんに伝えたいと。
	12	東川第二小学校親子ふれあい写真展を実施。		東川米 新潟で販売！好評

年	月	市 民	行 政	企業その他
14	3	写品甲子園実行委員会は、写真甲子園9 4～1 3 年の間を編集し、写真家立木義浩監修で『写真甲子園-20年の軌跡-』を北海道新聞社から刊行。 (参考事項) New York Jazz Expressway 音楽交流事業で、東川中学校吹奏楽部が共演。N Y市立大東川町芸術文化招聘委員会の主催、町や教委の共催。(宝くじ収益金の助成)。5月	東アジア写真文化国際フォーラムを開催(2月)	高島屋は、14年新春の福袋で東川町のコテージ滞在や移住者との交流という移住気分を味わうツアーを販売
			東川町が、「写真文化首都宣言」実施(3月)●	
			産業競争力強化法に基づく認定市町村となる。中小企業庁「道北地域創業支援事業」	「なつかしの東川」NHK と町の共催。飛弾野数右衛門作品(4月)
			平成26年度事業計画(摘記) 收藏等作品の整理、データベース化、展示、写真集の発刊、写真文化国際フォーラム等を実施。	タイと台湾の日本語研修生が東川米試食会、越智 恵子が漬物とナマスの作り方を伝授。第21回写甲2014 の初戦審査会が、キャノンS タワーで開催。521校の応募。(6月)
	写甲2014 にタイと台湾から参加。オープン参加のため順位には関係しない、日本語研修が縁。タイは38 組から選抜町内在住写真家が旭岳など写真個展をモンベルひがしかわで開催	第三十回東川賞の受賞者を発表。(5月)	主催者招待で、本戦出場道外校の地元七新聞・写甲紹介 新潟日報 8/15 沖縄タイムス8/29 中日新聞 8/29 琉球新報 8/30 静岡新聞 8/30 河北新報 8/31 埼玉新聞 8/31 ・御嶽山噴火 九月二十七日 写甲審査委員長の立木義浩77が、文化庁長官表彰へ。 タイ留学生をクロスカン트리ースキーの五輪選手に育成～町や公社などの合宿の里推協自治体主体クロカンでは初 東川町立日本語学校を申請。	
		東川町美しい風景づくり賞を選考。個人3、団体、事業所各1 (条例に基づいて実施)(東川14.6)		
		文化庁創造都市事業でHIPFが、13,500千円採択される。(写真の町30年事業)		
		五輪合宿誘致に手を挙げる～五輪・パラリンピック、冬季夏季の合宿。		
	東アジア写真文化フォーラムを、日本写真協会、新発田、浦添、相模原、塩竈、奈良各市の団体や、北京市、台湾の団体の参加で九月に開催。写真文化推進協議会(会長・松岡市郎東川町長)の総会や仏国アルル国際写真祭ディレクターのフランソワ・エベル等の講演も併せて実施。	安田 侃モニュメント事業の作品「帰門」を新東川小学校に、大理石作品の「意心帰」を隣接の地域交流センターに設置し。	タイ留学生をクロスカントリースキーの五輪選手に育成～町や公社などの合宿の里推協自治体主体クロカンでは初 東川町立日本語学校を申請。	
		町の人口が、八千人を突破。十一月四日達成。	・中国経済減速世界同時株安	
二千六十年の人口は、北海道内で東川町だけが十年より増加目標を設定：地方版総合戦略(0.4%増)。		写真甲子園は、資金調達後に映画化へ。		
君の椅子が全国で千脚達成●		東川町の「株主制度」がふるさと納税未来大賞を受賞。		
15	東川町大雪山愛護少年団は、釧路市の前田一步財団の一步園ジュニア自然環境賞に選定される。	東川町立日本語学校が開校。	福井県など十三県で組織、ほかには、弘前市、岩手県、岐阜県笠松町、埼玉県宮代町。	
		文化庁の文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業でHIPFが8,800千円採択される		

調査機関：2010年～2015年。

出所：筆者作成

当年表は、聴き取りのほか、次の資料で補い筆者が作成した。

2007 『北海道新聞』。東川町、JAひがしかわ、東川町(2010)、『写真の町通信』 Vol. 28.29、
2016 守屋(2011:)、『チビスロウ』(2012)、写真の町通信号外(2008)、
東川町議会、北海道、文化庁、

表 2-2 第5節 写真のまち分析結果

	協働前史 (第1期) (第1期 ~90年12月) 写真の町宣言以前から文化ギャラリー の開設まで	協働形成期 (第2期) (第2期、1991年1月~02年12月) 写真の町事業見直しから特別対策室設 置前まで
協働activist	①浜辺啓(市民)、②木村重太郎(市民) ③中川音治(政府) ④鬼塚義幸(企業)	①浜辺啓(市民)、⑤長沢義博(市民) ⑥町幹部(政府)、④鬼塚義幸(企業) ⑦高山茂良(企業)、
参加者	①実行委員会 ②HELP!NETWORK ③キャンノ(株)等日本企業	①実行委員会 ②ZEBRA PLANETS ③キャンノ(株)等日本企業
協働の場	①東川町 ②実行委員会の会合	①東川町 ②実行委員会の会合
問題の流れ	アジェンダA 問題 1 ①写真の町宣言(1985年) 問題の窓 ①観光入込客数増への対応策 (1984年)	アジェンダ(問題①) ②新町づくり委員会が事業継続を答申 ③日本政府が高い評価 各(1991年) ②新町長の写真の町事業見直し (1991年)
解決策の流れ	諸解決策 B 解決策 1 ①写真の町に関する条例制定 (1986年) 解決策 の窓 ①文化の香るまち構想(1985年)	諸解決策(解決策①) ②写真甲子園の開始(1994年) ②プロの写真は理解しがたい (1994年)
活動の流れ	活動 1 ①文化ギャラリーの建設 (1989年) ②ふるさと創生事業基金の一部充当 (1989年)	③東川賞移動展開催:札幌市 (1996年) ④飛弾野数右衛門写真展の開催 (1999年)
組織のやる気の流れ	活動状況 D	活動状況(活動①~②)
組織のやる気の窓	①中川が観光入込客数減を懸念 (1984年)	②東川賞を基金化する(91年) ③写甲・実行委員会の発足(94年)
組織のやる気	①東川町のやる気 (1984年)	②実行委員会のやる気 (1991、1994年)
組織のやる気状況 C		組織のやる気状況(組織のやる気①)
自信の窓		
アジェンダ諸解決策・組織のやる気状況・活動状況の四つの結び付き (A,B,D,C)	【アジェンダ(問題①)、諸解決策(解決策①)、組織のやる気状況(組織のやる気①)、活動状況(活動①~②)】の間には、相互に部分的に結びついていた。 (A-1、B-1、D-1、C-1の間)	【アジェンダ(問題①②)、諸解決策(解決策①②)は、連結しておらず。組織のやる気状況(組織のやる気①②)と活動状況(活動①~⑤)】は、部分的に連結するが、AB間が不一致のため、パッケージを構成しなかった。
協働activist	には、紙面の都合上、実行委員と企画委	員等の一部を掲載している。

	協働実現期(第3期) (第3期、2003年1月～06年12月) 特別対策室設置から市民が選ぶ特別賞 開始まで	協働展開期(第4期) (第4期、2007年1月～15年12月) 写真の町課・写真の町推進室設置以降
協働activist	①浜辺啓(市民)、⑧藤田裕三(市民) ⑨松岡市郎(政府)、⑩板谷重徳(企業)	①浜辺啓(市民)、⑪高木正晴(市民) ⑨松岡、⑩板谷、⑫樽井功(企業)
参加者	①実行委員会 ③キャノン(株)等日本企業 ④政府(国、北海道) ⑤マスコミ	①実行委員会 ③キャノン(株)等日本企業 ④政府(国、北海道) ⑤マスコミ
協働の場	③東川町特別対策室 ②実行委員会の会合	④東川町写真の町課 ②実行委員会の会合
問題の流れ	アジェンダA 問題 1	アジェンダ(問題①～④)
	問題の窓	④実行委員会の企画委員を増員((04年) ⑤実行委が急遽主体的に推進(05年)
解決策の流れ	諸解決策 B 解決策 1	諸解決策(問題①～②)
	解決策の窓	③景観行政団体に指定(2006年)
活動の流れ	活動 1	③より一層写真映りのいい町に (2005年)
	活動の窓	④より一層の市民とのかわり (2008年)
組織のやる気の流れ	活動 1	⑤日本芸術院横山大観ら所蔵展。⑥町の主体的な主催。⑦東京都写真美術館で東川賞海外作家作品展開催。⑧企画委員会による市民との触れ合いの場を設定。⑨祝う集いでは手料理を提供。⑩特別賞等の設定。(2004年～06年)
	活動状況 D	⑪文化財団と共催展⑫東神楽と旭川が写真甲子園の共催に参加。⑬韓国ヨソウォル郡と写真文化交流協定⑭飛騨野賞創設⑮学芸員配置等⑯スタッフ等市民参加増⑰多くの報道で町への愛着増加⑱記念写真事業⑲写真少年団創設(09～13年)
組織のやる気の流れ	活動状況(活動①～④)	活動状況(活動①～⑩)
組織のやる気の流れ	④企画会社の倒産(2005年)	⑤写真の町課設置で活動開始(07年) ⑥文化庁長官表彰の受賞(2010年)
組織のやる気の流れ	③実行委員会企画委員の一層のやる気(2005年)	④写真の町課職員等の一層のやる気(07) ⑤企画委員の一層のやる気(2010年)
組織のやる気の流れ	組織のやる気状況(組織のやる気①～②)	組織のやる気状況(組織のやる気①～③)
自信の窓		①水道普及率ゼロのまちづくり(12年) ②東川米(12年)、③君の椅子(06～15年)
アジェンダ諸解決策・組織のやる気状況・活動状況の四つの結び付き(A,B,D,C)	協働のactivistは【A.B.C.D】の完全なパッケージを構成したことにより、活動⑨ 実行委員会の企画委員会による市民との触れ合いの場設定を含む協働が実現した。	activistは、第3期同様に【アジェンダ(問題①～⑤)、諸解決策(解決策①～④)、組織のやる気状況(組織のやる気①～⑤)活動状況(活動①～⑩)】の完全なパッケージを構成した。よって、活動⑩スタッフ等市民参加増加を含む協働が実現。なお、自信の流れが生じている。

出所:(著者作成)

(年代記分析の説明)

協働の窓モデルの概要は、図 1-6 に示される「協働の窓モデル概念図のように、独自のパターンを持った 4 つの流れがある」小島(2011-14)。

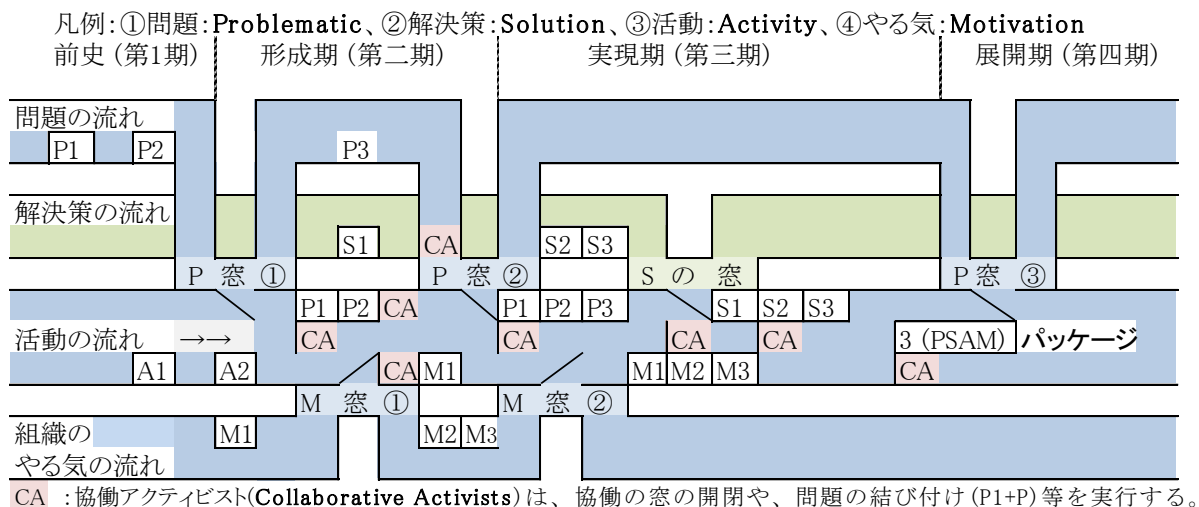


図 1-6 協働の窓モデル概念図 出所:小島(2011-15)を基に筆者が加工

1 参加者と協働の場

協働アクティビストで、全期間を通じ継続参加者は、市民代表の①浜辺啓²⁶である。一時的な参加者は、第 1 期が②木村重太郎町(当時)観光協会長、③中川音治町長、④鬼塚義幸東川町農業組合長(第 1 期～第 2 期)、第 2 期が⑤長沢義博(後の)企画委員長⑥町幹部、⑦高山茂良農協組合長である。第 3 期が⑧藤田祐三東川町建設業協会会長、⑨松岡市郎町長(第 3 期～第 4 期、⑩板谷重徳 JA 組合長(第 3 期～第 4 期)、第 4 期のみが⑪高木正晴企画委員長、⑫樽井功 JA 組合長である。

市民や企業の各代表者はそれぞれの場面で活躍するとともに、政府代表の中川は、第 1 期に東川カメラクラブの上田亮一(市民)らの応援を得て「写真の町」を宣言し写真文化を導入している。第 3～4 期の松岡は、写真の町事業を協働の実現期や展開期に市民や企業を巻き込み、協働をより一層推進している。第 2 期には、「写真の町」事業を見直すと公約した町長が就任したが、当事業に対する北海道や国そして写真業界等の評価が極めて高く、町の知名度も向上すると共に、町づくり委員会等の事業継続答申を尊重し事業を継続している。

継続的な参加者は、①東川町写真の町実行委員会(以下:実行委員会とする)と③キャノン(株)等の日本企業である。これらの継続的な参加者は、時期によって取り組みの強弱があるものの、協働プロジェクトに常に参加してきた。特に、③の日本企業は、資金面等の協賛・協力で大会運営等に多大な貢献を果たしている。

²⁶ 浜辺は、菓やのオヤジ、時に東川町商業協同組合専務理事、商工会役員、町議会議員や議長、観光協会長等々の要職をこなしつつ市民の立場で写真の町事業の重鎮として企画委員や実行委員に継続して参画している。

この中で、①実行委員会は、当初、東川町国際写真フェスティバル実行委員会として長らく多くの委員から構成されていたが、後に東川町写真の町実行委員会と改称された。現在では、東川町、町観光協会、JA(農協)、町商工会と、市民による企画委員会から構成されており、文字通り、市民、行政、企業との「戦略的協働」の運営といえよう。一方「写真甲子園実行委員会」は、東川町、に加えて美瑛町、上富良野町、東神楽町、旭川市と北海道新聞社、全国新聞社事業協議会そして「東川町写真の町実行委員会」から構成されているが、ここでは、「実行委員会」とまとめて表記している。

第1～2期の企画会社の②HELP!NETWORK社は、数年後に②ZEBRA PLANETS Inc.と社名を変更し写真愛好家向けや写真業界向けの企画を得意分野としていたが、第3期(2005年)の大会直前に倒産し、協働システムから退出した。

一時的ではあるが重要な役割を果たした参加者は、④行政(国、北海道等)、⑤マスコミである。行政のうち国は、ふるさと創生事業の創設や文化庁の助成、外務省等所管省庁の支援を果たしている。一方、北海道は、文化振興条例の制定、事業への後援、写真甲子園に北海道知事賞を設ける等実務面で頼もしいバックアップを果たしている。⑤マスコミは、写真のイベント等を全国的に報道し、写真甲子園への応募校も飛躍的に増加するなど文化の振興等に大いなる貢献を果たしている。

協働の参加者である実行委員会、行政、企業は、写真文化による町づくりの協働をそれぞれ次のように異なったものとして捉え、独自に活動していた。①の実行委員会は、写真文化によるまちづくり活動を協働として捉えていた。②の企画会社は、文化性の高いイベントとして協働を捉えていた。③の日本企業は、メセナ活動の一環として資金や器材の提供により文化、芸術活動の支援を協働として捉えていた。④の行政は、総合政策の一つとして協働を捉えていた。⑤のマスコミは、文化振興の広報として協働を捉えていた。

協働の参加者である①実行委員会、②企画会社、③キャノン(株)等日本企業、④行政(国、北海道の資源は、それぞれ次のようであった。①の実行委員会は、市民によって写真文化によるまちづくりの熱意やネットワークを持っていた、加えて、町の歳出枠の活用機会などを保持していた。しかし、写真芸術の企画等の十分な専門知識や、限られた予算のため十分な必要財源は持っていなかった。②の企画会社は、写真の専門知識を持っていたが、地域住民の視点という資源を持っていなかった。③のキャノン(株)等の日本企業は、写真文化の振興のための資金・情報等を持っていた。しかし、まちづくりに対する熱意は、①や③のようには持っていなかった。④の行政は、総合政策の企画や財源といった資源を持っていたが、地方公共団体における個々の「まちづくり」という具体策は持っていなかった。以上のように、参加者間には資源の相互補完性が見られた。

主要な協働の場は、①東川町(第1～2期)、②実行委員会の会合(第1期～第4期)、③東川町特別対策室(第3期)、④東川町写真の町課(第4期)、の4カ所であった。

協働アクティビストの中川町長らは、①の東川町での会合と②の実行委員会の会合を活用した。第3期と第4期の協働アクティビストは、第3期に②実行委員会の会合と③東川町特別対策室をの会合を活用した。さらに、第4期に多くの参加者の協働の場となった④東川町写真の町課を新たに設けている。これにより、協働の実現可能性が高まった。

2 問題の流れ

第1期に、問題の窓①「観光入込客数増への対応策」が開いた。この窓が開いたことを契機に、問題①(P1)「写真の町宣言」が認識・定義され、問題の流れの中に投げ込まれた。問題①は、開いている問題の窓①を通過して、活動の流れの中に浮遊した。

第2期に、問題の窓②²⁷「新町長の写真の町事業見直し」が開いた。この窓が開いたことを契機に、問題②(P2)「新町づくり委員会が事業継続を答申」と問題③(P3)「日本政府が高い評価」が認識・定義され、問題の流れの中に投げ込まれた。問題②と③は、開いている問題の窓②を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。

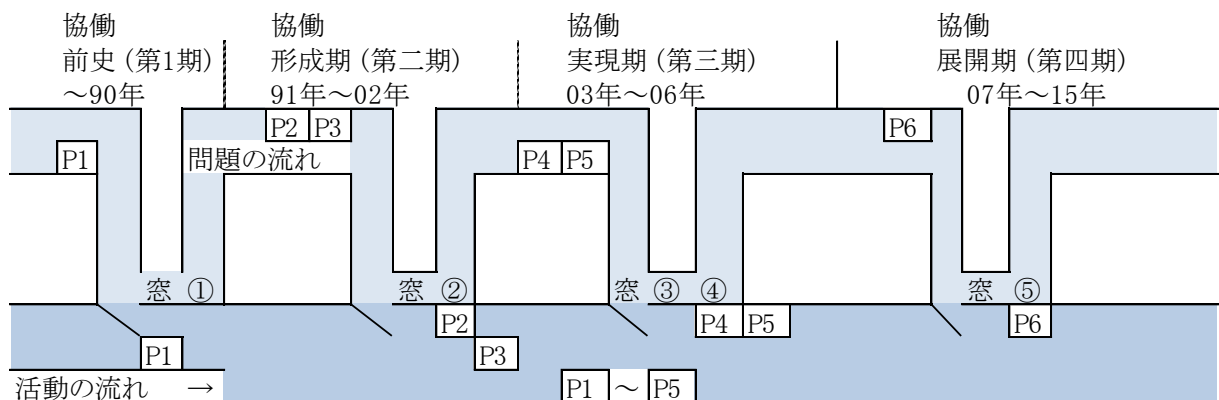


図 2-4 協働の窓モデル概念図のうち「問題の窓」と「問題」(Problematic :P)
 (運営・管理者は、継続及び期ごとに人の出入りがある協働アクティビストである)
 (問題の窓は、期ごとに二カ所ある場合にあっても一つとして表示している)

協働アクティビストの中川らは、問題①「写真の町宣言」を、第2期の浜辺らと町幹部やJA組合長は、問題②「新町づくり委員会が事業継続を答申」と問題③「日本政府が高い評価」を、それぞれ認識・定義した。

協働の契機となったこれら3つの問題が認識・定義された背景には、大雪山国立公園内にある天人峡温泉や旭岳温泉(当時の名称は、勇駒別温泉)への観光入込客数が減少傾向にあり、地域経済の停滞といった状況も存在していた。

²⁷ 本稿で述べる問題とは、地域における自主的かつ総合的に実施する役割を広く担う行政の施政方針に対する問題ではなく、分析枠組み上の分類である。

なお、第 2 期の問題の窓②「新町長の写真の町事業見直し」については、市民の中に町と企画会社がやっている事業であり、企画会社たるや東京の方ばかり見ているとの「不満」もあったようである。

一方で、町も全国に発信されており、長期的視点を要するとのことから、問題②の答申が出されるといった状況であった。

企画会社に関連してイベントの方向性については、東川国際写真フェスの東川賞は、国内作家賞、海外作家賞、特別作家賞、新人作家賞そして飛弾野数右衛門賞(2010年以降)からなりその審査員²⁸は中央に依存している。さらに、東川賞は、日本写真協会賞や毎日新聞社の土門拳賞、朝日新聞社の木村伊兵衛賞に劣らない賞と中央から評価されていること、プロの写真家にとって受賞は一生に一度か数度の得難いハレの場であること等から、東京の方を見るもやむを得ないこととみられるものの、市民に疎外感を与えることなく巻き込む工夫も必要といえよう。以上のように、協働アクティビストは、協働の契機となる問題を認識・定義した。

第 3 期の前半に、問題の窓③「一層の市民参加の必要性」が開いた。この窓が開いたことを契機に、問題④(P4)「実行委員会の企画委員を増員」が認識・定義され、問題の流れの中に投げ込まれた。問題④は、開いている問題の窓③を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。

同じく後半に、問題の窓④「企画会社が大会直前に倒産」が開いた。この窓が開いたことを契機に、問題⑤(P5)「実行委員会が急遽主体的に推進」が認識・定義され、問題の流れの中に投げ込まれた。問題⑤は、開いている問題の窓④を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。

協働アクティビストの松岡らは、問題④「実行委員会の企画委員を増員」と問題⑤「実行委員会が急遽主体的に推進」を、それぞれ認識・定義した。協働の契機となったこれら 2 つの問題が認識・定義された背景には、写真の町事業をあくまでも市民参加による活力のあるイベントと位置づけたからである。

第 4 期に、問題の窓⑤「より一層の市民参加の必要性」が開いた。この窓が開いたことを契機に、問題⑥(P6)「ボランティア・サポーター等のより一層の活躍」が認識・定義され、問題の流れの中に投げ込まれた。問題⑥は、開いている問題の窓⑤を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。

以上のように、第 1 期に、問題①「写真の町宣言」が、第 2 期に問題②「新町づくり委員会が事業継続を答申」と問題③「日本政府が高い評価」の 3 つの問題が認識・定義された。これらの問題から、第 3 期に問題④「実行委員会の企画委員を増員」と問題⑤「実行委員会が急遽主体的に推進」というやや具体的問題が新たに認識・定義された。さらに、第 4 期に協働が進展すると、問題⑥「ボランティア・サポーター等のより一層の活躍」とより具体的な問題が認識・定義された。協働アクティビストの浜辺らは、これら具体的問題を含むアジェンダ「市民がみずからの手で乗り切ろうと高校生を含む町内外 300 名のボランティア」を設定し

²⁸ 写真甲子園の審査員の中には、東川町内の野生動物写真家もいる。

た。そして、協働アクティビストの各個人は、実行委員会等の協働の場で、町を挙げての行事であることから、市民が一丸となって盛り上げることの重要性を説きアジェンダを認識させている。

3 解決策の流れ

第 1 期に、解決策の窓①「文化の香るまち構想」が開いた。この窓が開いたことを契機に、解決策①(S1)「写真の町に関する条例制定」が生成・特定化され、解決策の流れの中に投げ込まれた。解決策①は、開いている解決策の窓①を通して、活動の流れの中に入り浮遊した。

第 2 期に、解決策の窓②「プロの写真は理解しがたい」が開いた。この窓が開いたことを契機に、解決策②(S2)「写真甲子園の開始」が生成・特定化され、解決策の流れの中に投げ込まれた。解決策②は、開いている解決策の窓②を通して、活動の流れの中に入り浮遊した。

第 3 期に、解決策の窓③「より一層写真映りのいい町に」が開いた。この窓が開いたことを契機に、解決策③(S3)「景観行政団体に指定」が生成・特定化され、解決策の流れの中に投げ込まれた。解決策③は、開いている解決策の窓③を通して、活動の流れの中に入り浮遊した。

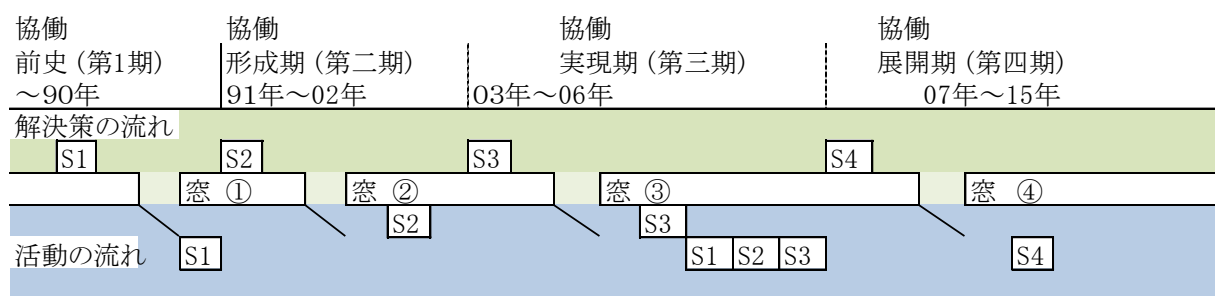


図 2-5 協働の窓モデル概念図のうち「解決策の窓」と「解決策」(Solution:S)
(運営・管理者は、継続及び期ごとに人の出入りがある協働アクティビスト)

第 4 期には、解決策の窓④「より一層の市民とのかかわり」が開いた。この窓が開いたことを契機に、解決策④(S4)「株主制度で事業を支援」が生成・特定化され、解決策の流れの中に投げ込まれた。解決策④は、開いている解決策の窓④を通して、活動の流れの中に入り浮遊した。

解決策のうち、特に④「株主制度で事業を支援」は、協働アクティビスト各個人を含む市民挙げての信念や思いから生成・特定化されている。それは平成の大合併²⁹により「人口一万人未満の市町村数は、1998年の1537から2005年の504

²⁹ 平成の大合併は、1999年から2006年にかけて行われている。その背景を横道は、次の通り記述している。「地方分権の推進、少子高齢化の進展、厳しい財政状況、日常生活圏の拡大……を踏まえて、市町村の財政基盤を強化、より効果的・効率的な行政運営の実現を図るため合併を行う必要があった」

と約三分の一に減少」(横道)するという状況下であった。このため、ひがしかわ株主制度の創設は、人口約 8 千人弱のこの町を応援して投資していただいた方々を特別町民に登録してカウントしていこうと、いわば背水の陣から町の若手職員らのアイディアで生み出されたものである。そしてその制度で写真の町事業の支援や水源保全等に取り組みされており、「8,349 人」(2016 年 3 月 31 日現在町の発表)に達している。

協働の参加者らは、写真の町宣言やその次の町長の写真の町事業の見直しといったプロセスや経験をもとに「実行委員会」をより発展させ、文化の香るまちを大きく進展すべきであるとの信念や思いを持っていた。そこで、実行委員会を拠点として多くの市民に「写真文化」を伝える活動を行い、「未来の子供たちに残していく」という具体的に表現された解決策が生成・特定化された。

協働アクティビストの浜辺らは、第 2 期のすべての期間を通じて、協働の参加者に対して解決策②「写真甲子園の開始」の融和を試みた。同じく第 2 期に協働アクティビストの長沢は、解決策②の実現可能性を高めるためのアドバイスを提供した。さらに、松岡を含む参加者は、解決策②を基盤として、解決策③から解決策④を統合し、諸解決策を生成・特定化し、協働の実現可能性が高まった。

4 組織のやる気の流れ

第 1 期に、1 つのやる気の窓が開いた。組織のやる気の窓①「中川が観光入込客数減を懸念」が開いた。この窓が開いたことを契機に、組織のやる気①(M1)「東川町のやる気」が生成され、組織のやる気の流れの中に投げ込まれた。組織のやる気①は、開いているやる気の窓①を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。

第 2 期に、組織のやる気の窓②「東川賞を基金化する」と後年にダメ押しするように組織のやる気の窓③「写真甲子園実行委員会の発足」が開いた。これらの窓が開いたことを契機に、組織のやる気②(M2)「実行委員会のやる気」が生成され、組織のやる気の流れの中に投げ込まれた。組織のやる気②は、開いているやる気の窓②と③を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。

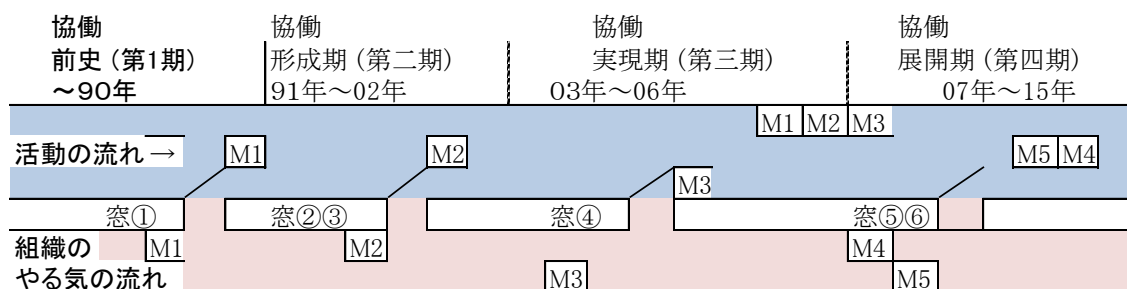


図 2-6 協働の窓モデル概念図のうち「組織のやる気の窓」と「組織のやる気」(Motivation: M)
 (運営・管理者は、継続及び期ごとに人の出入りがある協働アクティビストである)
 (組織のやる気の窓は、期ごとに二カ所ある場合にあっても一つとして表示している)

第 3 期に、組織のやる気の窓④「企画会社の倒産」が開いた。この窓が開いたことを契機に、組織のやる気③(M3)「実行委員会・企画委員の一層のやる気」が生成し、組織のやる気の流れの中に投げ込まれた。組織のやる気③は、開いているやる気の窓④を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。

第 4 期の前半に、組織のやる気の窓⑤「写真の町課設置で活動開始」が開いた。この窓が開いたことを契機に、組織のやる気④(M4)「写真の町課等職員の一層のやる気」が生成され、組織のやる気の流れの中に投げ込まれた。組織のやる気④は、開いているやる気の窓⑤を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。同じく後半に、組織のやる気の窓⑥「文化庁長官表彰の受賞」が開いた、この窓が開いたことを契機に、組織のやる気⑤(M5)「企画委員の一層のやる気」が生成され、組織のやる気の流れの中に投げ込まれた。組織のやる気⑤、開いているやる気の窓⑥を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。

第 2 期に、実行委員会のやる気は、写真甲子園の実行委員会の発足を契機として、新たなイベントで組織の強化策が講じられたことからやる気は高まった。

第 3 期に、実行委員会の企画委員の一層のやる気は、企画会社の倒産を契機として一気に高まった。これまで市民は、企画会社のその内容に対し写真愛好家向けの企画と冷ややかな思いを持っていたことから、新たに責任をもって企画を成し遂げようとしたことを契機に組織のやる気は高まった。

第 4 期の写真の町課設置は、東川国際写真フェスや写真甲子園に係る企業等からの協賛、国や北海道等とのそれぞれの所管事務に係る折衝や協議・助成金の申請、写真の町事業、写真に関する国際交流等々のより一層の推進が可能となった。

さらに、2011 年の学芸員の配属は、全庁的な人事交流が可能となるとともに、資料の収集、研究、整理分類、年間 500 余校にのぼるデータの保管、学術振興や文化の向上等の所掌事務の処理がより効率化された。

従って、これらの対応策によって、まさに協働の危機を乗り越え得る方策を実施しており、写真の町課職員や企画委員の一層のやる気が高まった。

5 活動の流れ

協働を必ずしも意図しない偶然生じた活動として、次の1つが挙げられる。活動⑥(A6)「町の主体的な主催」である。

第3期に、企画会社の大会直前の倒産に際しては、協働を全く意図した活動ではなかった。しかしながら、結果的には早急に乗り越えなければならないとの機運が高まった。このため、町を主体としながらも、実行委員会やその組織内の企画委員会の全面的な協力の下乗り切るといった状況であった。

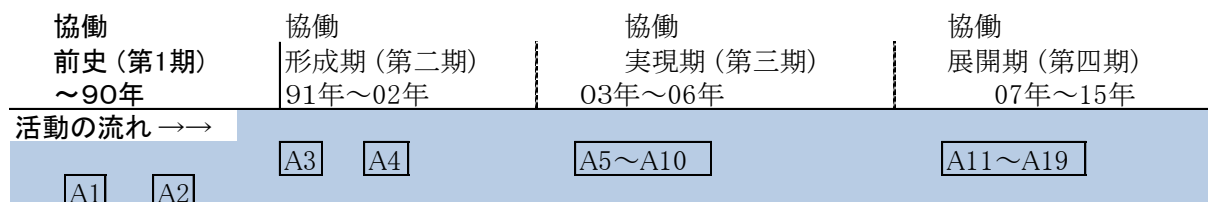


図 2-7 協働の窓モデル概念図のうち「活動」(Activity : A)

(運営・管理者は、継続及び期ごとに人の出入りがある協働アクティビスト)

なお、第3期に活動⑦(A7)「東京都写真美術館で東川賞の海外作家作品展」を開催している。開催に当たり運営経費の調達については、首長らの営業的な活動を通じて企業団体等からの協賛を得られた模様である。活動⑨(A9)「祝う集いでは手料理を提供」や活動⑩(A10)市民が選ぶ「特別賞の創設」など企画委員会の創意工夫によって多くの市民の巻き込みを進めていることが注目される。

協働の進展とともにガバナンスは、次のように形成された。第1期~第2期のガバナンスは、実行委員会と行政(町)による協働の参加者間の定期的な会合、および非公式かつ日常的な相互の付き合いを通じて、活動の監視・調整が行われる「自己ガバナンス」(小島 2011-326)であった。一方、第3期~第4期のガバナンスは、協働の中心的立場にある参加者の実行委員会によって活動の監視・調整が行われる「リーダー組織によるガバナンス」となっている³⁰。

6 4つのパッケージ

次の3種類の窓が、次々と開いている。第4期の問題の窓⑤「より一層市民参加の必要性」(2007年)、組織のやる気の窓⑤「写真の町課設置で活動開始」(07年)、解決策の窓④「より一層市民とのかかわり」(2008年)である。

第1期と第2期においては、アジェンダ(問題の集積)、諸解決策、組織のやる気状況、活動状況の4つは、パッケージを構成されなかったが、第3期に協働アクティビストが、アジェンダ、諸解決策、組織のやる気状況、活動状況の完全なパッケージを構成した。

³⁰ ハコモノなどに国庫補助金が含まれた場合には、会計検査院の検査の対象となる場合もある。

第4期にも新たな協働が実現しており、第3期の協働の構成要素は、第4期に引き継がれている。このため、問題、解決策、活動、組織のやる気を結び付け、完全なパッケージを構成した。これにより、活動⑧「実行委員会の企画委員会による市民との触れ合いの場を設定」を含む新たな協働が実現した。

凡例：①問題：Problematic、②解決策：Solution、③活動：Activity、④やる気：Motivation

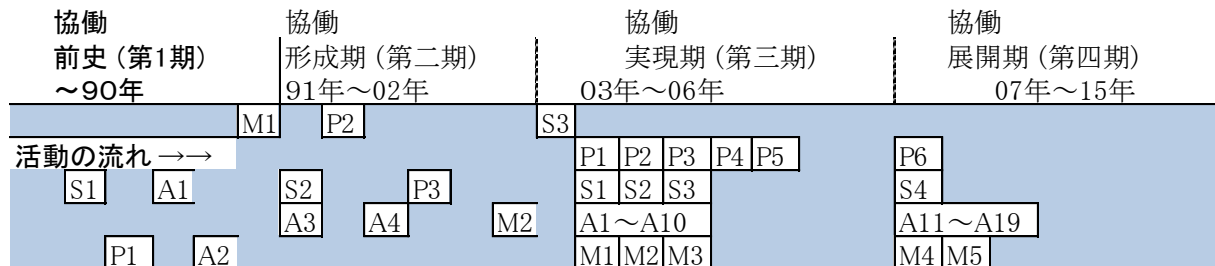


図 2-8 協働の窓モデル概念図のうち「4つのパッケージ」

(運営・管理者は、継続及び期ごとに人の出入りがある協働アクティビスト)

東川町〈写真の町〉実行委員会の協働が実現・展開されると、一つの流れとして「東アジア写真文化連盟」へと進展しつつある。これは、2014年初頭に東川町で「東アジア写真文化国際フォーラム」を開催しているが、参集範囲は、①相模原市・フォトシティさがみはら、②熊本県・芦北フォトフェスティバル実行委員、③山口県周南市、そして、④韓国・江原道(カンウォンド)寧越(ヨンウォル)郡、⑤台湾である。このように、実行委員会の協働は、他のまちづくりのNPO等の他の領域にも波及している。

第3章 美術館のまち美唄の戦略的協働

北海道美唄市は、開基90年・市制施行30年周年にあたる1980年を見すえ、4年前の1976年にイタリアを拠点に活動する美唄市出身で世界的な彫刻家安田侃に記念碑の制作を依頼している。このため彼は、イタリアから故郷初作品となる記念碑の構想を練るため数度里帰りした後の1980年になって、記念の年に美唄市我路(がろ)ファミリー公園に大理石の「炭山(やま)の碑」を完成させている。

なお、彼がこれまでに国内へ納めた作品は、企業の支援を得て北海道札幌郡広島町中央公民館に1975年「飛翔(ひしょう)」(北海2.7.3)と、緑葉公園に1979年「新生」(広島町広報82.9.15)、(北海2.7.31)の二作品である(現北広島市)。

ちなみに「炭山(やま)の碑」設置の経緯について触れておくこととする。

美唄市は、1915年の三菱美唄炭鉱に始まり、1928年以降には三井炭鉱等を開鉱し、1954年には約91,000人もの人口を擁する炭都であったが、エネルギー政策の転換や多くの人々が犠牲となった炭鉱のガス爆発事故などによって、1963年に三井石炭鉱業・美唄鉱、「第三次策以降の1967年に三菱鉱業・茶志内鉱、1972年三菱大夕張炭鉱・美唄鉱、1973年三美鉱業・南三美鉱等を最後にすべて閉山」(空知総合振興局2015:49-51)している。閉山後、市は炭住街など跡形もなくなる炭鉱の面影を残す「記憶と、人々の思い等」(久米2014-98)を形として表すために、記念碑製作を安田に依頼している。安田は、職を求めて散り散りとなった人々、「地中に眠る、死者の魂を、その地中の闇から吸い上げて天に放ち、家族らの元に戻す」(久米2014-99)という思いを込めて、3年もの歳月をかけて作品を製作している。なお、この「炭山の碑」には、次の碑文が刻されている。「美唄の炭坑は閉じ、多くの坑夫達は散りぢりに山を去った。石炭(すみ)を掘り、盆踊りのにぎわいも楽しくそれぞれに忘れ得ない生活のなりわいがあった。時代は過ぎ去り、人々は役割を終えて、もう誰もいない、ただ、静かに地底に眠り歴史を話しかける炭山だけが生きている」(北海道新聞社2002-118)

安田は、1996年8月に英国マンチェスターのブリッジウオーターホールに高さ1.5m、長さ約3.65m、カララ大理石製のタッチストーンを展示しており、「その際には、エリザベス女王が除幕」(Manchester Evening News 96.8.5)式典にご臨席されており、「女王に謁見し解説している」(北海1.3.28-夕刊)。

天皇皇后両陛下は、2003年7月に当美術館を行幸啓されており、その際作家はご案内役を北海道より依頼され努めている。

第1節 前史 (第1期)

市民有志の会発足まで (～1998年12月まで)

1 市民(作家)

後に、「安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄」となる「栄小学校」は、炭

鉱最盛期の児童数が 1,250 人からわずか「62 人」(久米 2014-143)に激減し、その後の 1981 年に「閉校」(北海 13.4.28)している。

なお、更科源蔵作詞による栄小学校校歌の二番は、「山底深く 埋もる火と心に眠る 地の泉 深く探りて 掘り進み 明るく伸びる 栄小」(山内栄治ら 2004-11)とまさに炭住街の学校を象徴している歌詞の内容であった。一方、栄幼稚園は、1970 年に校舎の 1 階に併設され現在も存続している。なお、安田がこの小学校跡地を利用することとなったのは、先の炭山の碑の「設置の際に基礎設計などを担当していた市建設課長の堂田賢治から彫刻の場として使ってみないかとの提案を受ける」(久米 2014-143)とともに、炭住街の盛衰を受け止め、人々の営みや炭鉱の活気を記憶として持ち続けていきたいとの思いがあったからである。

時を同じくする 1986 年に安田は、ローマから「トスカナ北西部の大理石の産地ピエトラサンタにある築 200 年」(安田 2014)の農家跡をアトリエに改築し転居している。

安田は、1983 年洞爺湖畔に「ゆかりの碑」(久米(2014-102)と、1984 年肺結核で倒れた教職員の慰霊に「回生」(久米 2014-103)を、さらに 1987 年になって「意心帰」を設置しており、「意心帰」などの「彫刻と景観(洞爺湖や中島)とのフォルムは実に美しくマッチしている。……ただ残念なことに「回生」の背後にその後遊覧船の発着場が建設されてしまい……空間が大きく弱められた」(佐藤 1990-140)という芸術作品や景観を生かすという配慮が不足していたようである。

市民とのかかわりのある大きな出来事としては、1998 年に旧栄小学校改修のため美唄等の市民有志を中心とした「アルテピアッツァ友の会」(北海 98.5.23)が発足し、芸術活動の支援として大きな役割を果たしている。

なお、指定管理者の「NPO 法人アルテピアッツァびばい」と施設の「安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄」との混同を避けるため、条例等で定めがある場合を除き前者を「NPO 法人びばい」に後者を「彫刻美術館」と表記する。ちなみに、アルテピアッツァ(Arte Piazza)とは、「芸術広場」の意という。

この「彫刻美術館」が開設された背景には美唄市を始め、作家の「誰もが気軽に立ち寄れる空間を築き後世に伝えたい」(安田 2014)との思いや、1975 年頃から始まった地元の開業医や市の若手職員そして市域内外市民の熱意があったからである

2 行政(美唄市)

美唄市は、空知地方のほぼ中央部に位置し、国道 12 号線、JR 函館本線、「北海幹線用水路」(美土里ネットほっかい 2008)を挟んで西部は、「石狩泥炭地の美唄原野」(松下 1985-71)であり、ラムサール条約登録湿地の宮島沼(41ha)などがみられる平坦な地形である。このように泥炭地の土壤地帯ではあるが、索道客土³¹等や基

³¹ 索道(さくどう)客土とは、泥炭土壌の改良を目的に、国道や国鉄(当時)の鉄路そして農業用水路を跨いで土を運び入れる必要性からロープウェイを利用した。

盤整備事業等により道内有数の穀倉地帯として変貌を遂げている。

一方、東部は、夕張山地に続く山岳地帯でかつては産炭地として繁栄していたが、前述の通り国のエネルギー政策の転換等に伴い各炭鉱とも閉山となった。

1979年に樹立された炭鉱跡地再開発計画では、栄小学校跡地再利用等について検討を開始している。その後、開基百年と市制施行四十年記念式典を1990年9月に挙行するとともに、翌年から旧栄小学校体育館の改修工事を、国土庁の平成三年度ふるさとC&C³²モデル事業の指定を受け着工している。そして、芸術文化交流施設「彫刻美術館」の設立根拠となる「アルテピアッツァ美唄条例」は、1992年3月に制定され、「自治省の若者定住促進緊急プロジェクトの指定を受け」（彩草2005-242）、旧栄小学校校舎（北海13.9.14）の整備に取り掛かっている。

1992年には、「改修された旧体育館の交流スペースやアートスペースに加え、野外スペースの整備や「無何有（むかう）」、「回生」などの野外常設展示を終え7月にオープン」（北海13.4.28）している。芸術広場での演奏会に際しては、ジャズシンガー、ピアニスト、サクソ奏者、チェリスト、ジャズピアニスト、そして二人の詩人（大岡信、谷川俊太郎）も駆けつけている。

「彫刻美術館」の第一期全体整備基本計画は、1993年に策定するとともに、レクチャー棟、野外アプローチ等を整備後、「真無（まむ）」や「吹雪」など5作品を展示している。

1996年には、一般駐車場とトリフォリオ（clover）広場や、「水の広場整備」（北海96.11.14）で「50トンもの大理石」（北海94.10.24・夕刊）のステージ（縦10m×横20m）、その上に「天モク」を設置しているが、「安田はピエトラサンタの石工職人ジョルジョらとともに1994年から取り組んだものである」（北海94.12.15）

なお、「天モク」は、天と地を繋ぐ意味が込められているとされるが、「天聖」と「天モク」について、美術評論家等の解説書の一部を参考までに掲載する「天聖・天モクは一見対称性を持ち計算された幾何学的な形であるが、まず粗削りの表面が完璧な対称性を崩している。「天聖」は空間を大きく四角に切り込み、「天モク」は地との接点に僅かな隙間を持つ、その空間が、あたかも相対性理論で説明される湾曲した時空を生み出し、そこから遥かに広がる宇宙の鼓動が聞こえてくるようだ」（Moretti 2008-63）。さらに、「彫刻美術館」の7ha（7万㎡）に及ぶ構内に入ると、「取り巻く空間全体の中心に丘の上の天聖と、それに対峙する天モク、そこから足元に向かって流れてくる水路がつながる。天空から丘に降りてくる自然の精霊の「気」は、「天聖」の枠を抜け、天モクの下のおずかな隙間を通り、水路をまっすぐに掠め、少しずつある地上の「地人」に伝えられる。この自然の気流を空間の軸に送り込む魂の軌道によってアルテピアッツァの空間全体の中核が創られている」（久米2014-149）と論評されるなど、神秘的なたたずまいと言えよう。

³² C&C事業は、過疎地域の空き家等の有効活用で交流の場に活用する事業。

第2節 協働形成期 (第2期)

1 市民(作家)

安田は、「彫刻美術館」の取り組みが評価され、2002年に「村野藤吾賞や井上靖文化賞を受賞」(圓山 2006-15)している。なお、村野賞の選考委員の一人である池原義郎は、「こころの視座に立つこの(旧小学校の)再生プロジェクトは、人々に感銘深い共感を与え、そこに時代へのひとつの重要な示唆があるように思う」と評している。作家は、「人の心や気持ちがあふれる場を創ることを、彫刻を通してやってきました。これからも人々の感性に語りかけるような空間を創っていきたい」(ポポロだより 2015・4)と述べている。

翌2003年の北海道立近代美術館と「彫刻美術館」で同時開催の「安田侃の世界展一天にむすび、地につなぐ」にむけては、イタリアからの作品輸送費の不足分を補うべく寄付を募る目的で、「安田侃の世界展サポーター会議」が発足している。それは、海運や陸運にかかる輸送費³³が多額を要するためである。サポーター会議のメンバーは、「幹事41名、サポーター786名」(久米 2003)に及んでおり、議長には建築家の「圓山杉雄」が就いている。なお、市民組織は、この活動の経験から多くの「市民参加」(北海 03.7.2)の必要性を実感している。

今上天皇皇后両陛下は、2003年7月「彫刻美術館」に「行幸啓」(北海 3.7.3-タ刊)されている。美唄市の広報誌によれば、「日頃ひっそりとしている道道・美唄富良野線の沿道には、4,000人を超える市民らがつめかけ、旗を振って両陛下をお迎え」、お見送りをしている。なお、多くの市民は、両陛下はもちろんのこと、日頃接するこのない高橋はるみ知事やお歴々の随行者に驚くとともに、日頃さほど関心を示さなかった「彫刻美術館」に対し、世界に誇れる施設と気づかされた模様である。従って、このような北海道史に残る大きな出来事を経て市民の多くは、「清掃活動の一環である落ち葉拾い」(北海 5.10.26)等々に対し積極的に参加する契機となっている。

「彫刻美術館」に対する両陛下へのご案内役は、北海道より依頼された安田が務めている。天皇陛下は、「本日は楽しみにして参りました。本当に良いものを創られましたね。これからもずっと、この場所を守ってくださいね」(タック編 2005: 85)とのお言葉を残されている。「帰門(きもん)」のご説明では「鬼門」と受け止められたのか一瞬表情を変えられたご様子のため、「鬼門ではなく、日常のしがらみを捨て我に帰る門との説明に(美智子さまも)大変ご関心を示されていた」(安田 2014)ご様子とされる。なお、「帰門」について安田は、「日常から離れて自分の心に帰っていただけることを」(彩草 2005-244)を願う想いを表している。

³³ 大理石の重量は1,520～2,860 kg/m³と重く、ブロンズ像は容積が大きいため特に輸送費が嵩むこととなる。

なお、この年の来館者数は、「35,000人」(美唄市議会会議録 2004.6-86)に達している(なお、参考までに記すと入場料金は、一切徴収していない)。

「NPO 法人びばい」の設立発起人会は、2004年に設立され翌年4月の「設立準備会」(メロディ 2005・6)で、250名の参加と賛同を得て後にNPO法人となる「NPO 法人びばい」(北海 5.4.2)を立ち上げ、設立趣旨書を2005年4月10日に定めている。その後は、「設立総会」(北海 5.4.15)を経て磯田憲一ら役員に選出し、8月に法人が認証されている。

一方、作家のイタリアにおける当時の出来事は、2000年7月には、「フィレンツェ街における彫刻・安田侃彫刻展」が開かれており前日の記者会見で、「歴史のある街に抽象彫刻を置く意義を問う記者に対し、パオルッチ地区芸術文化局監督官は、「自然が創り出した形と人間が創り出した形の違いが分かりますか？安田の作品は知識がなくても感じるができる。21世紀は感性の時代なのです」(久米 2014-126-128)と説得したとされる。

2 行政(美唄市、北海道。国)

美唄市と市教育委員会は、1999年旧栄小学校二階に市民ギャラリーを開設するとともに13点の安田作品を設置したことから市民参加増の契機となっている。さらに2000年には、体育館 626 m²、旧校舎 649 m²、野外彫刻空間の約7万 m²の初期整備を完工し、開拓百十周年・市制施行五十年式典を挙行している。

なお、旧栄小学校の整備状況については、「北海道開発局(2000)」による「第3章の活用事例集」から参考までに摘記する。

「主な改修工事とポイント～旧小学校体育館：鉄骨の見える天井アーチ、木製の床など昔の面影を再現し、床面張替・強化、内装・照明工事及び事務室やトイレの整備、アートスペース、展示空間以外にも演奏会や各種活動などに利用。旧小学校：床の補強や断熱材を入れるなど大掛かりな補強工事を実施。野外芸術空間：水の広場など自然景観と彫刻の調和した空間を構成。工事経費など初期整備工事(2000年完了)570百万円、内訳 補助金(国、道)90百万円、地方債 295百万円、美唄市 185百万円」

一方、翌2001年には、2002年度から2011年度までの工期で「彫刻美術館」第二期整備事業の基本計画と実施設計に向けての準備を行っており、その主な概要は、次の通りである。

2002年には、彫刻の丘と車いす利用者専用駐車場工事を、天翔の丘と音の広場を拡充整備計画に計上し、12月から第二期整備を開始している。2005年3月には、市議会が、「アルテピアッツァ美唄整備基金条例を」(北海 5.3.30)可決している。そして、音の広場工事や、作家との寄託契約で展示作品27点を締結しており(石巻市議報告 2012.10.25)、総作品数が41点となっている。そのほかの関連事項は、次の通りである。2001年に北海道「北のまちづくり賞」で知事賞を受賞。1999～2000年度の43事業における集客数は、11,806人で延べ47,606人である。2003

年には、指定管理者制度導入を検討開始するとともに、今上天皇皇后陛下が平成15年7月3日(木)芸術文化交流施設「彫刻美術館」に「行幸啓され施設概要をご聴取引き続きご視察された」(宮内庁)。

2005年度には、指定管理者制度で「三施設の公募」(北海 5.11.18)を実施しており、次年度に「NPO 法人びばい」が管理運営を受託している。

市政全般等で主な内容は、2002年10月に環境省が宮島沼を国指定鳥獣保護区とラムサール条約登録湿地に指定している。市では全国明るい雪自治体会議・第五回雪サミットを開催している。

2004年には、市長に桜井道夫が就任し、2011年まで務めている。同年に北海道幹線用水路が北海道遺産に選定。2005年には、市役所ロビーが雪冷房を実施している。

一方で、北海道は、2002年知事公館庭園に「意心帰」を、岩見沢市は、東山公園に天秘を設置している。

3 企業

各企業等は、安田の作品をそれぞれ設置している。2000年「意心帰」が JR 東日本総合研修センター(白河)。2002年「翔生」が JR 美唄駅、「妙夢」が電通本社(汐留)と JR 札幌駅。2003年「意心帰」が大阪びあ関西支社と伊東市野間自由幼稚園。「妙夢」が伊国ピエトラサンタ駅前広場。「生誕」がトヨタ U グループ本社プリズムビルに設置している。

札幌駅の設置時には、企画を「彫刻美術館」設立の応援団の一人であった JR 北海道アートデザイン企画室の勝見渥が担い、設置に反対者が多い中であって、後の 2008 年に社団法人北海道観光振興機構会長の職務も併任することとなった社長の坂本眞一がゴーサインを出している。

作家と懇意である東京都内の経営者は、「彫刻美術館の一助に」(北海 5.3.30)と美唄市に寄付を申し出ている。そのほかの特記事項では、JA びばいが、2000年に雪蔵でコメの貯蔵を開始するとともに、企業が雪冷房マンションを 1999 年建設している。そして、「空知の炭鉱関連施設と生活文化」が、2001年10月22日公表の北海道遺産に認定されている。

第 3 節 協働実現期 (第 3 期)

指定管理者受託から内閣府元気再生キックオフ事業選定まで
(2006年～2009年まで)

1 市民(作家・NPO 法人)

NPO 法人びばいは、「彫刻美術館」の指定管理者制度の管理運営を 2006 年から受託している。2007 年には、体験工房「ストゥディオアルテ(Studio Arte)」と、喫茶「カフェアルテ」がオープンし運営を受託する。体験工房で安田の全面的な

協力の下市民が大理石等での彫刻を行う「こころを彫る授業」を実施する。2008年には、日本NPO学会の「NPO夏の北海道セミナー」が開催された。

2009年には、①安田が文化庁長官賞を受賞、②NPO法人びばいが北海道新聞社の「北の未来奨励賞」(北海 9.10.7)を授賞、③年間に芸術鑑賞に訪れた人は「三万人」(北海 9.7.4)である。④平成21年度「地方元気再生事業」(加藤 2014-111)では、美唄元気再生「こころを耕すプロジェクト」キックオフ事業(内閣府 900万円)に採択され、「NPO事務局に加藤知美」(北海 10.6.14)が加わった。⑤札幌駅の「妙夢」(読売 9.4.21)が、市民の愛情によりキラリと磨かれた。⑥例年のことながら美術館周辺の落ち葉拾いなどでは、ボランティアが「市民が支える広場」(読売 9.5.10)として大活躍している。

2 行政(美唄市、北海道。国)

美唄市は、2006年①「NPO法人びばい」に、公設の「彫刻美術館」の管理運営を委託することに伴い「NPO法人びばい」(作家、市民)と協議を開始した。②「宮島沼水鳥・湿地センター」(北海 15.4.26)が2007年に開設された。③炭鉱メモリアル森林公園が、2007年経済産業省の近代化産業遺産に認定された。

さらに同市は、2008年6月に「美しきまちづくり条例」(平成20年3月28日条例第14号)を制定している。

3 企業(マスコミ)

各企業等は、安田の作品をそれぞれ設置している。三菱商事が2006年「天空」を本社ビルに。東京ミッドタウンが「妙夢と意心帰」を。鹿島建設が2007年「意心帰」を。2008年に代々木ゼミナールタワーが「意心帰」を。IKEUCHIが「相響」を。2009年に光塩短大(札幌)が「意心帰」を。米国セントルイスシティーガーデンが「帰門」等である。

北海道新聞社は、「NPO法人びばい」を表彰(北の未来奨励賞)している。NHK教育は、「2008年2月に新日曜美術館のアートシーンのコーナー」(アルテ便り 8.2.27)で「彫刻美術館」や安田侃のローマ展の様子などを放送している。札幌テレビ放送は「55分のドキュメントで『心を彫る 時を刻むー安田侃と「彫刻美術館」』」を放送している(アルテ便り 8.2.27)。

第4節 協働展開期（第4期）

アルテ市民ポポロ制度発足から NPO 法人認定まで
(2010年～2016年4月まで)

1 市民(作家・NPO法人)

「NPO 法人びばい」は、2010年・地域づくり「総務大臣賞」(北海 10.1.6)を、2013年第三回地域再生大賞優秀賞(全国地方新聞社と共同通信社)と、第20回北海道地域「文化選奨」(北海 13.2.19)を受賞している。

安田は、2010年に第64回北海道新聞文化賞(社会部門)と文化庁長官表彰を、2013年に「北海道文化賞」(朝日 13.10.10)を、2015年に北海道功労賞をそれぞれ受賞している。

地域を越えて「彫刻美術館」を支え合っていこうとする趣旨の「アルテ市民ポポロ³⁴」制度は、ポポロ会員が年三千円、中学生以下のコポポロ会員と市内在住の美唄ポポロ会員が年五百円、団体会員が年三万円で2010年に発足し「美唄の芸術は我らが守る」(読売 10.5.30)と活躍している。このようにたとえ少額であっても、多くの市民が支え合っていこうとすることは、まさに NPO 本来の主旨に沿ったものといえよう。

同年の7月には、「真無」コンサートが開催され、鑑賞者でかつてないほどの賑わいであった。翌2011年には、作家の来道で次の催しが行われている。「北海学園大学法学部カフェ」(「NPO 法人びばい」)を、7月9日に開催している。

「安田侃野外彫刻展一街に触れる」は、札幌市内の駅前通りなど五つの通りで、9月に開催されている。

安田作品の「じん肺根絶の碑」が、北海道じん肺基金によって「彫刻美術館」に2011年10月寄贈されている。

「彫刻美術館」20周年記念安田侃作品展「触れる」は、2012年7月に開催された。

2013年に「NPO 法人びばい」は、美唄市緊急雇用創出推進事業で、保存記録のアーカイブ事業を受託している。一方で、「彫刻美術館」の清掃に「ボランティアで札幌から」(北海 13.7.26)来てくれている武田真美江は、この年も元気に随時駆けつけている。さらに、安田の彫る授業には、遠く福岡県から大学教授も参加している。

日本建築家協会は、2013年の安田の講演会「イタリア・アートと歴史とまちづくり」を主催している。そのほか「NPO 法人びばい」のスタッフは、休みを利用

³⁴ ポポロとは、イタリア語とエスペラント語で *popolo*、人々、市民、民衆の意味とされる。なお、当「NPO 法人びばい」の磯田憲一が、「サントリー地域文化賞」(北海 9.10.17)を受賞している。一方で、北島三郎(北海 15.11.3)が、北海道新聞文化賞を受賞し、正賞に安田侃製作の「意心帰」が贈られている。

して洞爺湖畔にあるゆかりの碑を清掃している。なお、同法人は、道民税控除の指定 NPO 法人」(北海 13.12.26)となる。

旭川彫刻ファンド市民の会は、2011年に市民や企業・団体の「寄附」(北海 11.11.24)を募り旭川駅に「天秘」を設置している。除幕式で安田は、「ゆったりと、静かに、彫刻と対峙してほしい。……彫刻が行きかう人たちを見守っている」と述べている。市民の会の世話役は、「安田さんに、駅に彫刻をおきたいのだけれど、資金面でちゃんと集まるかどうか心配だ……と相談した時に、安田氏は、「お金のことは心配しなくてもいい。皆さんが精一杯集めてくれたお金でいい」と述べた」(maneno)。2013年に旭川駅では、市民が「作品周辺の清掃や、西御料地小の合唱、緑ヶ丘小の吹奏と団塊バンド演奏等で彫刻作品の市民への定着化」(北海 13.11.20)に取り組んでいる。

「NPO 法人びばい」は、2014年2月にこれまでの活動や市民ボランティアなどの協力、そして、先に述べた「アルテ市民ポポロ」制度などが評価され、北海道所管の認定 NPO 法人(北海道、平成 26年～平成 31年)として認定されている。

なお、「彫刻美術館」は、一般市民が気取ることなく芸術作品に触れられる場、コンサートを始め各種の展示や「こころを彫る授業」等の場、幼児からお年寄りまで市内外の人たちとの交流の場、炭住街で育ち遠隔地等から駆け付けた人々の心のふるさととして、また、木造校舎に郷愁を覚えかつ安心感が得られるなど多くの市民の交流の場として、そして市民が安らぎを得られる場となっている。

「彫刻美術館」に対し安田は、「ここには、都会の公園にある遊具は、ひとつもない」(圓山 2006-12)、「幼稚園や彫刻美術館、芸術文化交流広場そして公園でもあるとともに、誰もがもとに戻れる空間、喜びも悲しみも全てを内包した、自分自身と向き合える空間を創ろうと欲張ってきました。この移り行く時代の多様さのなかで、次世代に大切なものをつないで行く試みは、人の心や思いによってのみ紡がれます」(安田 2014「NPO 法人びばい」)と述べている。

2014年には、ニューヨークのクリスティーズ社の社長らが「彫刻美術館」を「神々が宿るような丘」(北海 16.4.4)と評価している。これが縁となってニューヨークの「ロックフェラープラザにあるクリスティーズ社で 2016年2月～3月に Kan Yasuda 展」(ポポロだより 16.4.7)が開催されるに至る。

2 行政(美唄市、北海道。国)

美唄市は、市制施行六十年(2010年)にあたり音の広場に「真無(まむ)」を設置している。これは、重量が 30トン、高さ 2.5m、幅約 4m、奥行が 1.7mで枠の中に球体があり、単体では当施設最大の作品である。同年の7月には、駐日伊大使ビンチェンツォ・ペトローネが「彫刻美術館」に来園し安田作品を絶賛している。翌 2011年には、美術館にブロンズ像の「天秘」を設置し、第二期整備事業が竣工

するとともに「市長に高橋幹夫が就任」(メロディ 2015.7)している。

なお、平成 25 年度の美唄市公開目録情報では、美術館の敷地図や整備基金そして条例の一部改正の「保存年限を 99 年」(住民情報サイト)とするなどの関係書類保存に関する整備を促進している。2012 年現在の彫刻美術館にある作品数は、市有財産が 15 点、寄託作品が 29 点、その他 1 点の計 45 点である。

中央政府としての国は、2012 年に改正 NPO 法を施行し認定 NPO 法人の認定を国から都道府県知事や政令指定都市の長に権限を委譲している。2016 年の市議会では、「彫刻美術館」に関する条例改正案が可決され、新年度より「安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄」(メロディ 2016.5)となり、博物館法に基づき学芸員の配置や調査研究、学校教育への協力等も行う組織へと移行した。さらに付け加えるならば美唄市に関する事項は、次の通りである。2014 年度文化芸術創造都市部門の文化庁長官表彰を授賞する。ハイテクセンター内に雪冷熱システムによるホワイト・データセンタ誘致を本格的に取り組む。

2013 年に新藤義孝総務大臣が訪れ、「彫刻美術館」等を視察するとともに、市民手作りの食事に感激する。2016 年度から市では、サイクリングによるまちづくりにも取り組む方針である。美唄市は、受動喫煙対策のため「受動喫煙防止条例」(北海 15.10.28)を 12 月 11 日に公布している。

3 企業

2011 年には、「天秘」が光塩学園調理栄養専門学校(札幌)に設置されている。

2015 年 3 月現在アルテ市民ポポロ制度で応援している企業・団体は、(有)東オートセンター、(株)岸本組、(学)光塩学園、札幌アルト(株)、札幌通運(株)さくらスマイル引越センター、(株)シー・アイ・エス計画研究所、玉田産業(株)、長延寺、医療法人はまなす医院、東戸公認会計士事務所、美唄市医師会、美唄市市議会銀塊、美唄匠の会、広瀬建設工業(株)、北星学園大学、北海道クリーン・システム(株)、医療法人社団北海道こども心療内科氏家医院、北海道中央労災病院せき損センター、村松法律事務所、(有)TOSHIO SHIMIZU ART OFFICE、他 1 社である(50 音順)。

美術館のまち年代記

表 3-1 年表 市民有志の会発足までの協働前史 (第1期、～1998年)

年	月	市民	行政	企業その他
1869	8		蝦夷地から北海道に改称	アメリカのお雇い外国人・地質学者ライマンらの調査隊がピパオイで石炭を発見する。 Benjamin Smith Lyman (～1875年)
88			北海道庁の本庁舎落成	上川道路・現国道十二号線の美唄～滝川間29.2 kmと日本一長い直線道路が着工する。 (樺戸集治監の囚人が開削) 完成は、1890年。
90	6		沼貝村設置	・第一回衆議院議員総選挙
91	6		屯田兵入植(1894年-400戸)	・日本鉄道上野―青森間開通
1915	4			三菱美唄炭鉱・開鉱
1919			北海道農事試験場・美唄泥炭地試験場	
24				北海幹線用水路・赤平～南幌着工。竣工は、1928年。
25	6		町制施行・沼貝町	・東京六大学野球開始
26	6		美唄町に改称	・十勝岳大噴火(5月)
28	8			三井美唄炭鉱・開鉱
29	4			・北海幹線用水路完成
41	3		太平洋戦争開戦	三菱美唄炭鉱・爆発事故
44	5			三菱美唄炭鉱・爆発事故
45	1	安田侃が、美唄で出生。	ポツダム宣言受諾	・ソ連軍北方領土を占領
47	5			・日本国憲法施行
49	4	栄小学校への通学は、主として隣接する三菱美唄炭鉱・炭住街の児童。	栄小学校が、開校	・湯川秀樹ノーベル賞受賞
50	4		市制施行・美唄市	・朝鮮戦争開戦～53年
	8		警察予備隊創設(*)	・北海道開発庁設置～2001年 国交省の北海道局に再編
52	10		保安隊に改組(*)	
53		第一回 美唄雪まつり開催	第一回 市民文化祭開催	
54	7		自衛隊となる(*)	洞爺丸転覆
55				泥炭土壌改良のため、索道客土を開始する。採土場の峰延3号ため池から縄文時代晩期(3000年前)の土器が出土する
56	4		人口92,150人、17,139戸	・売春防止法
63	4	安田侃が、北海道教育大学岩見沢分校の美術・彫塑科・彫刻を専攻。	翌64年市長・沢田孝夫が就任	・ケネディ大統領暗殺事件 三井美唄・三井石炭鉱業閉山 (株)美唄ガス設立
65	10		東明工業団地造成	・日韓基本条約締結(6月)。

年	月	市民	行政	企業その他
66		「第八回学生美術展全道展」 「裸婦立像」で文部大臣賞。	美唄川の氾濫で東明の家屋が 浸水(8月)	・日本の総人口一億人を突破 ・中国 文化大革命～76年迄
67		第22回全道展の「トルソ」 で全道展会友に推薦される。 東京藝術大学大学院彫刻科修 士課程へ入学		三菱鉱業㈱茶志内閉山 ・初の建国記念日 ・恵庭事件無罪判決
68				美唄炭鉱ガス爆発事故 ・小笠原諸島の日本復帰
69		第24回全道展の会友賞受賞。 東京藝術大学大学院修了		・日本のGNP世界第二に
70		伊政府招聘留学生として渡伊 安田が、ローマ・アカデミア 美術学校でペリクレ・ファッ ツィーニに師事。	栄小学校に幼稚園を併設する	
71		ローマ・アカデミア・デッサン 展等で受賞。		・イタイイタイ病原告側勝訴 札幌市営地下鉄と地下街開業
72		ヴァチカン市国サンピエトロ 大聖堂では、ミケランジェロ 制作のピエタが壊された。 普段関わりを持たない市民が 白い花で埋め尽くす。 石職人のクァーデルニ親方を 紹介され、午後に親方のもと に通う。		・札幌五輪開催 ・沖縄返還(5月) 三菱大夕張炭鉱(株)美唄が閉山
73		ギャラリー88、ローマで個展 を開催。「生誕」シリーズ等出 品しファツィーニに認めら れる。		三菱鉱業㈱南三美閉山(5月) ・第一次石油危機
74		クァーデルニ親方が他界。 ピエトラサンタに移り仕事。 後に石工職人ジョルジョ・ア ンジェリ親方の工房で制作を 始める。(親方は、イサム・ノ グチの大理石作品に永年関与)		・気象庁アメダス運用開始
75	9	一時帰国。渡伊以降も伊日に 数々の作品を出品。 美唄の病院長や市の吏員ら市 民は、安田侃作品の応援的 な役割を果たす。	市役所庁舎が、竣工する。 札幌郡広島町の中央公民館に 七十五年制作の「飛翔」が、 山浦砂利工業(株)の寄贈で設置 国設スキー場開設	三島富士エースゴルフクラブ に「対話」が設置。 (参考) 1971年に山浦砂利工 業の砂利採石場では、 <i>Bison</i> の化石を発見。
76		安田が、ローマに戻る。 美唄経済センターで個展開催	美唄市は、開基九十年・市制 三十年の節目、炭鉱の記憶等 のため、安田侃に記念碑の制 作を依頼する。 ●	・北海道庁爆破事件 ・ロケット事件。新自由が結成
77		この年、ジョルジョの工房で イサム・ノグチと出会う。	我路ファミリー公園開園	・有珠山が噴火・泥流被害 空知(工業)団地247.3ha 設置
78	6	第33回全道展(道立近代美術 館)で会員に推挙。 三島富士エースゴルフクラブ に「棒」が設置。	陸上自衛隊美唄駐屯地開設 (3月)	

年	月	市民	行政	企業その他
79	10	「新生」Rebirth 北広島市の緑葉公園に設置 (台座5m、彫刻2mの高さ)	広島町(穴田輝行町長)は、旭 ダウ(株)より寄贈される。 (安田侃作品の「新生」)	現・ダウ化工札幌工場設立十 周年記念で寄贈。
			美唄市は、炭鉱跡地再開発計 画を樹立(栄小跡地利用等)	・第二次石油危機
80	9	安田は、ゆかりの碑の制作を 依頼され、洞爺湖畔の現地を 訪問。	開基90年・市制施行三十年記 念式典を挙げる。	・北陸などで豪雪、翌三月迄 ・王貞治本塁打八六八号引退
			美唄市我路 ファミリー公園に、故 郷初作品の「炭山の碑」を設 置。 ●	
			美唄市長に獣医の滝正が就任 する (1996年まで)。	
			道立近代美術館に「生誕」が 収蔵。(10月)	
81	3	ゆかりの碑の制作を始める。	栄小学校が、閉校する。	・北炭夕張炭鉱ガス突出事故 ・石狩川中流域で水害が発生 北海道の五六水害で被害額は 2704億円 (北海16.9.15)
	10	ヴァチカン宮殿非公開の謁見 の間で、恩師ファッツィーニ 彫刻のキリストの「復活」を 再拝見する。	(最大時1,250人が62人に) 美唄川と産化美唄川の合流地 点の元村橋北部付近で氾濫。 台風12号、15号による出水	
82			道立近代美術館に「対話」が 収蔵される。(4月) 美唄ダムが完成する。 奈井江町本町公園に「吹雪」 を設置。(11月)	・東北新幹線盛岡駅まで開業
83	11	「ゆかりの碑」を虻田町(現 洞爺湖町)の道立教員保養所 跡地に設置。		大韓航空機墜落事件が発生
84	11	洞爺湖畔に肺結核で死亡した 道立教職員の慰霊に「回生」 が設置(現洞爺湖町)。	道立近代美術館に「無何有」 (ブロンズ)が収蔵。(6月)	空知中核工業団地分譲開始 ・日経平均株価一万円大台に
85	10	東京上田ウエアハウスの彫刻 展で、天聖と天モクを初出品 安田～作品を後世に伝えたい ●	「炭山の碑」の基礎設計を担 った市建設課長の堂田賢治は 安田に旧栄小の利用を提案。 市は、九月に核兵器廃絶平和 都市を宣言する。	・青函トンネル本坑が貫通
86		市民有志が韓国天安の望郷の 丘に静江廟を建立。		・伊豆大島三原山噴火(11月)
	3	ピエトラサンタで築二百年の 農家跡をアトリエに改築し転 居。		軽井沢の現助セゾン現代美術 館に、天聖、天モク、地人 を永久保存(堤 清二)。(8月)
87	9	有珠山噴火の泥流で、犠牲と なった子らの慰霊碑として洞 爺湖畔に「意心帰」が設置。	道央道美唄インター開業	・国鉄分割民営化
88	12	虻田町に洞爺湖彫刻公園設置 準備委員会が発足。	旧栄小体育館に安田侃作品を 収蔵する	・青函トンネル開業 ・札幌市営地下鉄東豊線開業
89				旭川赤十字病院に、無題設置 ・北京で天安門事件が勃発

年	月	市民	行政	企業その他
90		ミラノ「彫刻の道」展に世界の30人の一人として出品。	札幌芸術の森野外美術館には「間」 Interspaceが設置。 (枠型は1986年設置) 間げん	・ミラノでワールドカップが開催。 ・大学入試センター試験開始
			開基百年・市制施行四十年記念式典を挙げる(9月)。 旧炭鉱町の整備を ●	・東独が西独に編入し統一 ・イラクがクウェートに侵攻し湾岸戦争に発展。 岩内町荒井記念館(現荒井美術館)に「天光散」Dragonを設置。(7月)
91	4	ミラノ「彫刻の道」91展は、安田の個展。ヴィットリオ・エマヌエーレ二世通りに12点。そのうち「帰門」は、同市に寄贈されパルコ・ソラーリに永久設置。	美唄市は旧栄小学校体育館の改修着工。 ● 平成3年度国土庁「ふるさとC&Cモデル事業」を指定。体育館改修工事を着手する。	「棒」が、富士エースゴルフクラブから、沼津市淡島ホテルに移設。(9月) 天秘が恵佑会札幌病院に設置 ・旧Soviet 連邦が消滅
		92	3 平成3年度第42回芸術選奨文部大臣新人賞を受賞。 5 美唄市民栄誉賞を受賞。 7 芸術広場オープン等に際して次の音楽家等が駆けつける。 黒岩静江 ジャズシンガー 遠藤郁子 ピアニスト 坂田明 サックス奏者 林峰男 チェリスト 山下洋輔 ジャズピアニスト 大岡信 詩人 谷川俊太郎 詩人	アルテピアッツァ美唄条例が制定する。 ● 旧栄小学校跡地及び旧体育館に加え野外スペースを整備し芸術文化交流施設「彫刻美術館」が開設。 無何有～ブロンズ、回生～大理石、裸婦立像・座像・トルソ～石膏、立像、トルソ～木彫の七点や写真パネルを常設展示。 平成4年度自治省「若者定住促進緊急プロジェクト」の指定を受ける。
93		「ザイラー ピアノ デュオ廃校コンサート」を開催し高い評価を得る。	「彫刻美術館」全体整備基本計画を策定する。第一期は、平成8年度(1996)。 レクチャー棟、野外アプローチ等を整備し「真無や吹雪」等5作品を展示。 北海道は、「北海道地域文化選奨」の副賞として「妙夢」を選定。(2002年まで贈呈)	・細川連立政権誕生 ・北朝鮮がノドン一号試射 ・北海道南西沖地震発生(7月12日 M7.8 奥尻島)
		94	8 ピエトラサンタ国際彫刻賞を受賞。 9 安田侃野外彫刻展(英国ヨークシャー・スカルプチャー・パーク)を開催し、出品作のうち「生誕」 Birthが永久設置される。多光(TAKOO)は、50トンの大理石原石で制作。(94年9月～95年5月)	一般駐車場とトリフォリオの広場を整備。 野外ステージは、縦10m、横20mであり、その上にTENMOKU(Shadow and Void)を設置。 廃校の体育館・芸術施設に新たな息吹

年	月	市民	行政	企業その他
94	12	ピエトラサンタの石工職人ジョルジョらとともに「彫刻美術館」に大理石の舞台を設置 記念コンサート「彫刻の家・安田侃と法学の夕べ」が開催		
95	3	北海道国際文化協会より第十回「北海道国際文化交流賞」を受賞。	天聖を購入(石柱の枠型)。	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災発生 ・地下鉄サリン事件 ・空知炭鉱閉山～道内最後の坑内掘り内陸炭鉱
	8	「世界のヴェルシリア賞」を伊国で受賞。		
96	3	シニアワーク東京に「生思有感」が設置。	芸術的な水の広場を整備開始 流路幅2.5m、63mの長さ 大理石・百二十トン敷設・池径十四m、天聖とTENMOKU	東京国際フォーラムに：意心婦が設置。(1月) (民営)
	8	英国ManchesterのThe Bridge-water HallにTouchstone 意心婦を設置し安田は、開館式典でQueen Elizabeth II に謁見。	市長に井坂紘一郎が就任する	<ul style="list-style-type: none"> ・Yahoo! JAPAN 開始 ・クローン羊「ドリー」がスコットランドで誕生
97	1	作品数は野外10点、アートスペース6点となる。		<ul style="list-style-type: none"> ・時のアセスメント (磯田が北海道政策室長時提唱)
	6	「彫刻美術館」フォーラムin美唄・北海道文化財団文化講演会で、大岡信講演「私の好きな詩」にゲスト出演、対談安田。	札幌コンサートホールkitaraに「相響」三点が設置。	日赤横浜ビルに：天泉が設置
			中津川市アートピア付知文芸プラザに「天翔」が設置。	香川県直島コンテンポラリーアートミュージアムに・天秘が設置。(2月) (現)ベネッセ
			酒田市美術館に「翔生」設置	アートサイト直島。
		水の広場が完工する 農場離着陸場開港	板橋区山之内ロータスガーデンに：天秘が設置。(11月)	
1998	5	旧栄小学校校舎改修のため、市民有志を中心にアルテピアッツァ友の会が発足。 ●●	横浜国際プールに「天秘」が設置。(3月) 作家が「彫刻美術館」「13th「彫刻美術館」第一期整備計画が完成する。 ●	「白いたまご」が、札幌小学館ビルに設置(11月)。
	7	作家が「彫刻美術館」「13thサローネ・ディタリア・アルテピアッツァ・現代彫刻と音楽のひととき」で「現代彫刻の世界」を講演。	<ul style="list-style-type: none"> ・特定非営利活動促進法施行 (NPO法) 	

当年表は、聴き取りのほか、次の資料で補い筆者が作成した。

1869 『北海道新聞』、北海道通産局、美唄市、水土里ネットほっかい、北広島市、
1998 樽見(2003)、久米(2014)、『美唄市史』、彩草(2005)、美唄市議会会議録、北海道経済産業局
北海道新聞社(2002)、認定NPO法人アルテピアッツァびばい(以下：ポポロだより)

市民ギャラリー開設からNPO法人設立までの協働形成期
(第2期、1999年1月～2005年12月)

年	月	市民	行政	企業その他
1999	9	一層市民参加の促進 ●	川口市立西公民館に「天遊」(ブロンズ等)五点が設置。	・男女共同参画社会基本法が成立
			旧校舎二階に市民ギャラリーを開設 ●	雪冷房マンションが完成する(世界初) ●
2000	3	ゆかりの碑(83年)が泥流に遭遇	開拓百十周年・市制施行五十年記念式典を挙行。	・有珠山が噴火(3月31日)
	7	伊国フィレンツェ主催の安田侃彫刻展が、ピッティ宮ポーリ庭園などで開催～10月。翌年同庭園内に天秘が永久設置。	中津川市アートピア付知文芸プラザに：意心帰が設置。	白河市J R東日本総合研修センターに：生思有感や意心帰が設置。(3月)
		ブッチーニ野外劇場でオペラ「蝶々夫人」の舞台美術を担当し、「意心帰」などが舞台上に配置。	初期整備工事 ① 体育館 626㎡ ② 旧校舎649㎡ ③ 野外彫刻空間(敷地総面積 約7万㎡)	安田は、何だ、これはが理想で素朴な感動を与える作品に心掛けている。
		スペイン領カナリア諸島のガラチーコに：天聖、天・設置	岡崎市美術博物館に：天光散&ひとつがふたつが設置。(11月)	玄米の低温貯蔵に、雪蔵工房雪中米：JAびばい ●
2001	8	オペラ「蝶々夫人」日本公演の舞台美術を担当する。	東京都庭園美術館に：風が永久設置。	・認定NPO法人制度が成立 法人の組織や活動が適正かつ 公益性が高い。
		ブッチーニ財団「ブッチーニ特別賞」を受賞。	札幌ドームに：ひとつがふたつが設置。(6月)	①企業の寄付～一定割合が経費に参入可。②個人の寄付～一定割合を所得等から控除。
	9	旭川彫刻フェスタ2001「彫刻トーク」(北海道新聞主催) 安田は、「北の創作椅子展」最終審査を担う。(中札内村)	「彫刻美術館」整備事業第二期を策定する。 (2002～2011年度まで)	③法人税が一定条件で減税になる「みなし寄付金制度」。
10	「彫刻美術館」が、「北のまちづくり賞」で知事賞を受賞	1999～2000年度は、43事業で11,806人集客、開設後延べ47,606人。	④相続財産の寄付～その分相続税が非課税。 ・米国で同時多発テロ(9/11)	
2002	1	第九回：井上靖文化賞を受賞	彫刻の丘と車椅子用駐車場を整備	・小泉首相訪朝 J R美唄新駅舎に：翔生が設置
	5	安田侃が、村野藤吾賞を受賞「彫刻美術館」の取り組みを評価。	美唄市教育委員会は「彫刻美術館」の拡充計画で「天翔の丘、音の広場」の整備計画を発表。	汐留の電通本社に：妙夢が設置
	9	伊国で「詩のアルピ・アプアーネ特別賞」を受賞。	岩見沢市東山公園に：天秘を北海道知事公館の庭園には：意心帰を設置。(10月)	J R北海道アートデザイン企画室の勝見 渥は、札幌駅に安田侃作品の妙夢設置を企画
		作品展の輸送財源の不足 ●	宮崎県立美術館に：天泉を設置。(11月)	坂本眞一 J R北海道社長が設置に尽力
	10	「彫刻美術館」で作家の村野藤吾賞受賞記念講演会を実施	宮島沼が、国指定鳥獣保護区・ラムサール条約登録湿地に	・太平洋炭鉱閉山
12	「安田侃の世界」展の支援を目的として、市民有志による「安田侃の世界展サポーター会議」が発足。 ●	「彫刻美術館」整備事業第二期が開始される。 ● 美唄市第五回雪サミット(全国明るい雪自治体会議)	炭鉱関連施設が北海道遺産に認定	

年	月	市民	行政	企業その他
2003	5	安田は道庁より天皇のご案内役を依頼され務める。7月3日	立川の自治大学校に：天翔が設置(3月)。 新潟コンベンションセンター朱鷺メッセに：天秘設置。	
		「安田侃の世界展サポーター会議」		
	市民参加組織の必要性 ●	美唄市は、指定管理者制度導入について検討開始。 天翔の丘が完成する。		
	6	「安田侃の世界展」天にむすび、地につなぐ、を道立近代美術館と「彫刻美術館」で同時開催される。 期間：6月6日～7月13日 出展：56点 「安田侃の世界を語る」安田侃・道立近代美術館長水上武夫対談。	共催：道立近代美術館 共催：美唄市 彫刻の丘整備 天皇皇后両陛下が、「彫刻美術館」を行幸啓7月。 ● 「風」が、東京都庭園美術館に設置。寄贈式典。(9月)	
8	トスカーナ知事賞を受賞。			
2004	5	イサム・ノグチと谷口吉郎生誕百周年記念「万来舎」写真展、記念講演会が「彫刻美術館」で開催される。	意心帰が、県立青森南高等学に設置。 市長に桜井道夫が就任(2011年6月まで)	意心帰が、伊東市野間自由幼稚園に設置。 妙夢が、ピエトラサンタ駅前広場に設置。
	10	NPO法人設立発起人会が、組織される。 ●	北海幹線用水路が北海道遺産に選定	トヨタUグループ本社プリズムビルに、生誕が設置。 ・拉致被害者家族五人が帰国
2005	2	写真甲子園2004の作品展が、「彫刻美術館」ギャラリーで開催。 (青森南高、沖縄真和志高、旭川工業高校の3校)	市議会は、三月二十五日に議案第二十号で、アルテピアッツァ美唄整備基金条例を可決	安田と懇意の都内経営者が「彫刻美術館」整備費にと市に寄付を申し出る。230万円
	4	四月十日の設立準備会で二百五十名の参加と賛同を経て立ち上げる(前山勇治事務局長) アルテピアッツァびばい設立総会が開催。	音の広場工事。作品の委託契約を締結(作家と市)で27点(総作品数は41点) 市役所ロビーを雪冷房	・知床世界遺産に登録 ゆかりの碑(00年)が掘り起こされる。 トルナーレ日本橋に翔生設置
	6	フランチェスコ教会前で個展を開催。	いわて県民情報流通センターアイーナに天秘を設置(5月)。	
	8	NPO法人が認証される ● 運営の安定化の必要性 ●	指定管理者制度～三施設公募	「アルテピアッツァびばい」を「NPO法人びばい」とする ● ・島根県議会竹島の日を制定

当年表は、聴き取りのほか、次の資料で補い筆者が作成した。

1999 『北海道新聞』 朝刊、全道版、空知版。美唄市教育委員会、北海道開発局、久米(2014)、
2005 ポポロだより

指定管理者受託から内閣府元気再生キックオフ事業選定までの協働実現期
(第3期、2006年1月～2009年12月)

年	月	市民	行政	企業その他	
2006	4	指定管理者制度の管理運営を受託。 ●	指定管理者制度の管理運営の委託で、作家、政府、市民との本格的な協働となる。 兵庫県律芸術文化センターに天秘を設置。	・米国産牛肉に海綿状脳症の部位混入問題	
		釜山APECナル公園に慰霊碑：静江を設置。 より一層市民参加の必要性 ●		三菱商事本社ビルに：天空を設置。 函館五稜郭病院に：風を設置	
		安田 イタリア連帯の星勲章 コメントレ章叙勲		東京ミッドタウンに：妙夢と と意心帰を設置。	
	10	アルテの風音～上杉春雄ピアノリサイタル～		北海幹線用水路が疏水百選に選定される。北海土地改良区	
2007	4	「ストゥディオアルテ」体験工房と喫茶「カフェアルテ」が、オープン。 ●	宮島沼水鳥・湿地センターがオープン。	・中国GDP伸び率が10.7% ・夕張市が財政再建団体に	
	4	安田侃のこころを彫る授業開催。 ●	高橋昭五郎彫刻展 (音威子府村主催) (6月)	鹿島建設本社に意心帰を設置	
	8	こころのふるさとアルテ祭り	炭鉱メモリアル森林公園が、経済産業省の近代化産業遺産の認定遺産となる。		
	9	安田侃は、「ローマ展」の成功で確固たる評価を得る。「時に触れる」展 ローマ トラヤヌス帝の市場(9月)			
12	市内アカシア幼稚園長マンフレード神父は、「芸術は国境や時間を超えて創る人と見る人をつなぐものと講演。				
2008	6	伊国記念日を祝うイタリアワインと管弦楽の夕べを実施。 ● NHK 日曜美術館で紹介 ●	伊日財団、伊文化会館、美唄市、市教委共催により、マツシモ・カタラーニ展を開催。イタリア共和国との文化交流事業(道サミット関連資料) 美しきまちづくり条例を制定 6月	・中国製冷凍餃子事件 ・新テロ特措法 ・洞爺湖サミット開催 ・バラク・オバマ米大統領に ・ツール・ド・北海道が開催	
	7	2008年度第三回日本NPO学会「夏の北海道セミナー」開催 伊国功労勲章「連帯の星」を受賞(3月)。 トラヤヌス帝の市場に意心帰を設置。 プッチーニ野外劇場に意心帰、天聖、天・を設置。		東京代々木ゼミナールタワーに意心帰を設置(2月)。 IKEUCHI札幌に相響を設置 米の品種おぼろづきが、都庁デビューする	
		内閣府元気再生事業受託 ●			光塩短期大学(札幌)に意心帰が設置。 ・皆既日食を観測
		非営利法人の熟練者が参入 ● 札幌駅の妙夢が、市民の愛情でキラリと輝く 北のみらい奨励賞をNPOが受賞。 ●		石のステージ補修工実施。 年間約三万人が、芸術鑑賞	文化庁長官賞受賞(安田侃) 伊日財団主催Japan Awards賞受賞 アメリカ・セントルイスのシティーガーデンに帰門設置。

当年表は、聴き取りのほか、次の資料で補い筆者が作成した。

2006 『北海道新聞』、『読売新聞』、久米(2014)、ポポロだより、内閣府、加藤(2014)、

2009 農林水産省、日本NPO学会資料、

アルテ市民ポポロ制度発足からNPO法人認定までの協働展開期
(第4期、2010年1月～2016年4月)

年	月	市民	行政	企業その他
10	1	地域づくり総務大臣表彰受賞 ●	美唄市市制施行六十年セレモニー(5月)	・アイスランドで火山が噴火 ・殺人事件の時効が廃止に
		アルテ市民ポポロ制度を発足	音の広場に真無(30t)を設置。施設最大の作品。●	・夕張市が全国唯一の財政再生団体に移行。
	7	真無野外コンサートが大盛況 ●	敷地面積が、7万㎡になる。 ピンチエンツォ・ペトローネ駐日伊大使が、安田作品を称賛	安田侃が、第六十四回北海道新聞文化賞(社会部門)を受賞
		より広範の市民とのかかわり ●	加藤知美は、アルテ市民の広報に奮闘。 美唄の芸術は、我らが守る市民団体が活躍	安田侃が、文化庁長官表彰を受賞
11		イタリア トリノ「時に触れる」展 ヴァレンティーノ公園で10点設置。(5月～9月)	「彫刻美術館」に「天秘」設置・ブロンズ	特定非営利活動促進法改正案と新寄付税制関連法案が成立～絶対値基準や仮認定制度、税額控除方式らの導入、認証手続きの簡素化などが実現。
		7 北海学園大学法学部カフェ20周年記念で安田侃作品展	市長に高橋幹夫が就任する。 「彫刻美術館」整備事業第二期が竣工。●	光塩学園調理栄養専門学校に
	8 「触れる」を開催する。		：天秘を設置。 ・石勝線特急脱線炎上事故	
	9 札幌 「安田侃野外彫刻展一街に触れる」で駅前通り、地下歩行空間、創成川、大通り公園、狸小路などで開催し、それぞれの通りが果たしてきた役割なども散策の中で意識される作品の配置である。	美唄市公開目録情報 「彫刻美術館」 保存年限三年 ・市民ギャラリー利活用事業 ・総括・月次事業報告 保存年限五年 ・指定管理者制度	美唄市と浦臼町を結ぶ美浦大橋が開通し、美浦渡船が廃止	
	10 「じん肺根絶の碑」を設置。北海道じん肺基金が、作家に依頼していたものを寄贈。 ●	・安田侃彫刻作品の寄託契約 ・行政財産一部使用許可 ・モニタリング 保存年限九十九年 ・敷地図 ・条例一部改正	旭川駅に「天秘」が市民の有志で設置される11月。 シチリア「現代の神話」展(11年12月～12年2月) シチリアTaorminaの古代ギリシャ・ローマ劇場に意心帰等を設置した「現代の神話」展	
12	3 安田侃「こころを彫る授業」	彫刻作品45点(市～15点、寄託 29点、その他 1点)	積雪量百七十三cm観測史上最高を記録	
	5 「林峰男チェロリサイタル」ほか		英国ケンブリッジのフィッウィリアム美術館での「彫刻プロムナード2012」に：天聖・天モク・意心帰・天秘を出品	
	7 「彫刻美術館」二十周年記念安田侃作品展・触れるを開催 NPO法人の財政事情は厳しい ●	改正NPO法が施行。認定は知事か指定都市の長に改正。 雪冷熱システムでデータセンター誘致に取り組む(美唄ハイテクセンター内に)	(株)雪屋媚山商店美唄支店が開設される。十五年には、本社を美唄に移転。	

年	月	市民	行政	企業その他
13	1	「NPO法人びばい」が、 第三回地域再生大賞・優秀賞 を受賞：全国地方新聞社等	総務大臣新藤義孝が、来訪 (3月)。	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット選挙が解禁 ・JR北海道が事故等多発 旭川の彫刻ファンド市民の会 が、天秘の周りで清掃等。 安田侃講演会「イタリア・ア ートと歴史とまちづくり」 (日本建築家協会JIA主催)
		第20回北海道地域文化選奨受 ●	北海道は、当非営利活動法人 を道民税控除対象に指定する	
		美唄市緊急雇用創出推進事業 の受託。 ●		
		安田侃が、北海道文化賞受賞 アーカイブ事業に着手 ●		
		「NPO法人びばい」スタッフ が 非番に「ゆかりの碑」を清掃		
14	2	「NPO法人びばい」が、 認定NPO 法人に。 ●	美唄市が、文化庁長官表彰 ●	<ul style="list-style-type: none"> ・日本創成会議が消滅自治体 の試算発表 ・期限切れ肉使用の中国企業 返品の再出荷も(7月) ・「彫刻美術館」の周辺に熊 出没と七月十四日のラジオ。 クマ駆除～アルテピアッツァ から800 mで、地元猟友会が しとめる(体長約1.2m)。 ・平成26年8月豪雨 市民参加と企業の参加増 ●
		(認定NPO法人への寄付者 は、所得控除適用のほか、税 額控除を選択することができる (地方税含む最大50%)等。	十四年度・文化芸術創造都市 部門。(表彰状は15年6月)	
		ドメニコ・ジョルジ駐日イタ リア大使私的に来園。 安田侃作家が、案内。8月 イタリア大使が公的に再来園	NYのChristie's社の社長らが 「彫刻美術館」を神々が宿る ような丘と評価する。	
		「彫刻美術館」に来るとホッ ト安らいだ気持ちになる。	新東川小学校に「帰門」、隣 接の交流施設に「意心帰」が 設置される(東川町) 10月	
15	10	アルテ文庫に取り組む	美唄市は受動喫煙防止条例を 全国市町村に先駆市議会可決	安田侃が北海道功労賞を受賞 (自然と空間との創作活動) 磯田憲一が、サントリー地域 文化賞・第37回を受賞 北島三郎が、北海道新聞文化 賞を受賞。正賞は、意心帰・ ホワイトブロンズ製。
		アルテ〇〇学校(第三回)		
		(類似行事等は省略)	ふるさと美唄応援寄附金開始 「⑥「彫刻美術館」整備基金 」での応援も有り	
		台湾から延べ5,500人来訪 (9月中旬～10月中旬)		
16	2		自転車観光・サイクリングを 通じたまちづくりに取り組む	北海道新幹線新函館北斗と新 青森間が開業 熊本地震 4月14日、16日 益城町で震度7 を記録。 八月に台風が三回道内上陸 日ハム優勝
	3	Kan Yasudaの展覧会がN Yの ロックフェラーセンター内に あるChristie's社で開催。	Velo-city Global 2016台北で 市長が国際自転車会議に出席	
	4		「安田侃彫刻美術館アルテピ アッツァ美唄」と、博物館法 に基づく博物館(美術館)に 登録	

当年表は、聴き取りのほか、次の資料で補い筆者が作成した。

2010 『北海道新聞』、久米(2014)、ポポロだより、樽見(2007)、内閣府、北海道
2016 文化庁、『読売新聞』、美唄市、

表 3-2 第5節 美術館のまち分析結果

	協働前史(第1期) ～1998年12月 市民有志の会発足まで	協働形成期(第2期) 1999年1月～2005年12月 市民ギャラリー開設からNPO 法人 設立まで
協働activist	①安田侃、②花田太郎、③板東知史、 ④沢田孝夫⑤滝正⑥井坂紘一郎(政府)	①安田侃(作家)、⑦馬場克広(市民) ⑥井坂紘一郎、⑧勝見渥(企業)
参加者	①美唄市 ②美唄市教育委員会 ③市民有志	①美唄市 ②美唄市教育委員会 ④安田侃の世界展サポーター会議 ⑤NPO法人設立発起人会(前山勇治)
協働の場	①美唄市 ②旧栄小学校体育館	①美唄市 ③「彫刻美術館」
問題	アジェンダA 問題 1 ①ファミリー公園に「炭山の碑」を 設置(やまのひ)(1980年)	アジェンダ(問題①) ②安田侃の世界展サポーター会議が 発足(2002年)
流れ	問題の窓 ①開基90年(市制施行30年)に際し炭鉱 の記念碑の制作を依頼(1976年)	②安田侃の世界展作品の輸送等の財 源不足(2002年)
解決策	諸解決策 B 解決策 1 ①旧栄小学校体育館の改修工事着工 ②アルテピアッツァ美唄条例の制定 (1991年)と(1992年)	諸解決策(解決策①～②) ③市民ギャラリー開設(1999年) ④NPO 法人設立発起人会が発足 (2004年)
流れ	解決策 の窓 ①彫刻作品を後世に伝えたい(1985年) ②開基百年、旧炭鉱町整備(1990年)	③一層市民参加の促進(1999年) ④市民参加組織の必要性(2003年)
活動の流れ	活動 1 ①旧栄小学校改修のため、市民有志 と市吏員の若手による有志の会発足 ②「彫刻美術館」第一期整備 計画が完成する(旧体育館のアート スペースと彫刻公園)。 (1998年)	③「彫刻美術館」第二期整備 事業が、開始する。(2002年) ④アルテピアッツァびばいがNPO 法人として設立される。(2005年) 以下「NPO法人びばい」等
組織のやる気の流れ	活動状況 D	活動状況(活動①～②)
組織のやる気	組織のやる気 の窓 ①アルテピアッツァ市民有志の会発足 (1998年)	②天皇皇后両陛下が行幸啓(2003年)
組織のやる気	①美唄市民のやる気 (1998年)	②市民とNPO法人の一層のやる気 (2003年)
組織のやる気状況 C		組織のやる気状況(組織のやる気①)
自信の窓		
アジェンダ諸 解決策・組織 のやる気状況 ・活動状況の 四つの結び付 き (A,B,D,C)	【アジェンダ(問題①)、諸解決策(解決策①～②)、組織のやる気状況(組織のやる気①)、活動状況(活動①～②)】の間には、相互に部分的に結びついていた。 (A-1,B-1,D-1,C-1の間)	【アジェンダ(問題①～②)と諸解決策(解決策①～④)及び組織のやる気状況(組織のやる気①～②)と活動状況(活動①～④)】は、部分的に結びついていたが、パッケージを構成しなかった。、①利雪のまちづくりが生成された。

	協働実現期 (第3期) 2006年1月～2009年12月 指定管理者受託から内閣府元気再生 キックオフ事業選定まで	協働展開期 (第4期) 2010年1月～2016年4月 アルテ市民ボボロ制度発足からNPO 法人認定まで
協働activist	①安田侃(作家)、⑨森田肇(市民) ⑥井坂紘一郎、⑩桜井道夫(政府)	①安田侃(作家)、⑩桜井、⑫高橋幹夫(政府) ⑪NPO法人役員等(市民)
参加者	①美唄市 ②美唄市教育委員会 ⑥NPO法人 ⑦マスコミ	①美唄市 ②美唄市教育委員会 ⑥NPO法人 ⑦マスコミ ⑧企業
協働の場	①美唄市 ③「彫刻美術館」	①美唄市 ③「彫刻美術館」
問題の流れ	アジェンダA 問題 1 問題の窓	アジェンダ(問題①～③) ④緊急雇用創出推進事業受託(13年) ④NPO法人の財政事情は厳しい (2012年)
解決策の流れ	諸解決策 B 解決策 1 解決策の窓	諸解決策(解決策①～⑥) ⑦真無野外コンサート大盛況(10年) ⑧じん肺根絶の碑・寄贈設置(11年) ⑥より広範の市民とのかかわり (10年)
活動の流れ	活動 1 活動の窓	⑤より一層の市民参加の必要性 (2006年) ⑤スタジオアルテ～体験工房 「カフェアルテ」喫茶開始(2007年) ⑥コンサート等の充実化 (2008年) ⑦内閣府元気再生事業を受託(2009年)
組織のやる気の流れ	活動状況 D	⑧音の広場に真無・施設最大・設置 (10年) ⑨アーカイブ(保存記録)事業(13年) ⑩市民参加増と、企業の参加(14年)
組織のやる気	組織のやる気 組織のやる気 組織のやる気状況 C	活動状況(活動①～④) ⑤地域づくり総務大臣賞受賞(10年) ⑥北海道地域文化選奨を受賞(13年) ④市民とNPO法人のさらに一層のやる気 (10年)～(13年) 組織のやる気状況(組織のやる気① ～③)
自信の窓	自信の窓	①利雪のまちづくり
アジェンダ諸解決策・組織のやる気状況・活動状況の四つの結び付き(A,B,D,C)	協働activistは、【A,B,C,D】に部分的(市民・政府・マスコミ)なパッケージを構成し協働が実現した。	協働 activist は、【アジェンダ(問題①～④)、諸解決策(解決策①～⑧)、組織のやる気状況(組織のやる気①～④)活動状況(活動①～⑩)】の完全なパッケージを構成。

「NPO 法人アルテピアッツァびばい」

を「NPO 法人」としている。

(年代記分析の説明)

1 参加者と協働の場

協働アクティビストとは、戦略的協働の事業推進において主要な参加者を指しており、第1期から第4期ですなわち協働の形成期、実現期、展開期等に活躍している各個人で、主として市民代表や作家などの活動家、首長等や企業等の代表者などである。そして、彼らの役割は、小島(2011-23-24)らによれば参加者の特定や解決策の推進など7つが示されている。

協働アクティビストの中で、全期間を通じ継続的参加者は、①安田侃である。

一時的な参加者で第1期における市長職の④沢田孝夫は、美唄市の開基90と市制施行30年の節目の年に際し、懸案であった炭鉱の記憶等に関わる記念碑として安田侃作品の「炭山(やま)の碑」を設置し記念事業を終え市長職を退任している。

後任は、獣医の⑤滝正が80年から96年まで担い「彫刻美術館」事業を⑥井坂紘一郎に引き継いでいる。②開業医の花田太郎は、市民代表として市の若手職員③板東知史らと共に、美唄市出身でイタリアで活躍しながら当時知名度がなかった安田の作品に理解を示し市民等に親しまれる文化的な作品である旨を掲げ応援団として活躍した。

第2期の首長は、③井坂が引き続き担っている。市職員の⑦馬場克広や企業に所属する⑧勝見渥らは、それぞれ市民の立場で長期にわたり多くの市民やイタリアと美唄を行き来する安田侃らと共に「彫刻美術館」の第二期整備事業で活躍している。

第3期には、⑥井坂と⑩桜井道夫の両首長が、市教育委員会関係者³⁵、そして、市議会議員団や、市民代表であるNPO法人の⑨森田肇(市民)らと共に「指定管理者制度」の制定や委託や受託などの手続きなどに取り組んでいる。

第4期には、安田を始め首長の⑩桜井と⑫高橋幹夫、美唄市諸団体関係者そして、⑪「NPO法人びばい」の役員等と共に協働で運営に参加した。同法人事務局の加藤知美の言葉を借りれば、「安田、市、市民、全国の支援者の方々の熱意」がNPOの運営をサポートしている。

継続的な協働の参加者は、美唄市と美唄市教育委員会である。一時的な協働の参加者は、第1期の③市民有志、第2期の④安田侃の世界展サポーター会議とNPO法人設立発起人会、第3期と第4期の「NPO法人びばい」ら市民グループと、第3期と第4期のマスコミそして第4期の企業である。

協働の参加者である①美唄市や②美唄市教育委員会(政府)、③～⑥の市民組織、⑦マスコミ、⑧企業の資源は、それぞれ次のようであった。

行政は、炭鉱の記憶施設と、文化によるまちづくりを推進するための財源やハード面の技術と、関連する条例の制定などの資源を持っていたが、文化芸術の運営に必要なネットワークや専門知識を持っていなかった。

³⁵ 教育委員長、教育長、教育部長ら

市民は、世界的な作家の芸術作品を市民が気軽にふれあえる場としての企画や施設の維持管理という基礎的な資源を持っていたが、施設の運営に必要な資金などは持っていなかった。マスコミは、時に安田の「エリザベス女王への謁見」（久米 2014-170）や、今上天皇皇后両陛下の「彫刻美術館」への行幸啓などの報道を通じ、当施設が世界的な芸術・文化施設である旨の情報を発信するという資源を持っていたが、個々の運営に関するノウハウなどは持っていなかった。

企業は、アルテ市民ポポロ制度に理解を示し団体会員になる資金を持っていたが、まちづくりにの熱意は持っていなかった。

協働の場としては、協働アクティビストの各個人が主として美唄市と「彫刻美術館」の会合を活用した。

2 問題の流れ

第 1 期に、問題の窓①「開基 90 年(市制施行 30 年)に際し炭鉱の記念碑の制作を依頼」が開いた。この窓が開いたことを契機に問題①(P1)「ファミリー公園に炭山の碑(やまのひ)を設置」が認識・定義され、問題の流れの中に投げ込まれた。問題①(P1)は、開いている問題の窓①を通して、活動の流れの中に浮遊した。

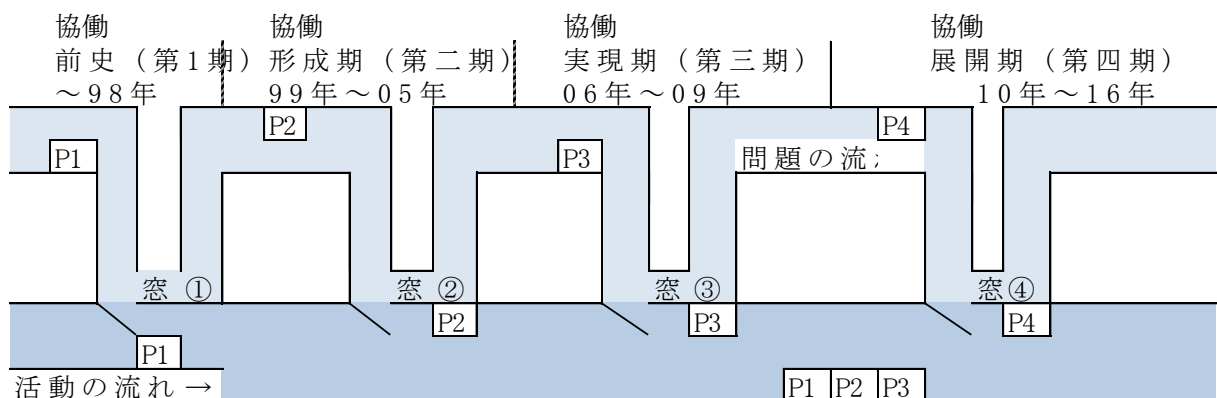


図 3- 協働の窓モデル概念図のうち「問題の窓」と「問題」(Problem) (運営・管理者は、継続及び期ごとに人の出入りがある協働ア)

第 2 期に、問題の窓②「安田侃の世界展作品の輸送等の財源不足」が開いた。この窓が開いたことを契機に問題②(P2)「安田侃の世界展サポーター会議が発足」が認識・定義され、問題の流れの中に投げ込まれた。問題②(P2)は、開いている問題の窓②を通して、活動の流れの中に浮遊した。特に問題①に関して協働アクティビストの沢田らは、開基 90 年の記念事業とともに、炭鉱の度重なるガス爆発事故による犠牲者を悼む鎮魂という背景が存在していた。

同じく協働アクティビストの馬場や勝美は、問題の窓②を認識しているが、その背景には札幌で開催される世界展と、炭鉱を支えてきた従業員の多くの子弟が通っていた旧校舎・校庭等再利用の、「彫刻美術館」で同時開催される世界展を成功させなければという強い使命感を持っていた。このように協働アクティビス

トは、協働の契機となる問題を認識し行動していた。

第3期に、問題の窓③「NPO法人運営の安定化の必要性」が開いた。この窓が開いたことを契機に問題③(P3)「指定管理者制度の管理運営を受託」が認識・定義され、問題の流れの中に投げ込まれた。問題③(P3)は、開いている問題の窓③を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。

第4期に、問題の窓④「NPO法人の財政事情は厳しい」が開いた。この窓が開いたことを契機に問題④(P4)「緊急雇用創出推進事業受託」が認識・定義され、問題の流れの中に投げ込まれた。問題④(P4)は、開いている問題の窓④を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。

第4期の問題の窓④にあるように、NPO法人の厳しい財政事情を踏まえ、問題③と④にみられる指定管理者制度による管理運営と緊急雇用創出推進事業の受託とともに、新たな対応策として市民自らが生み出す「アルテ市民ポポロ制度発足」を創設したことなどから、協働の実現可能性が高まった。

3 解決策の流れ

第1期に、解決策の窓①「彫刻作品を後世に伝えたい」が開いた。この窓が開いたことを契機に、解決策①(S1)「旧栄小学校体育館の改修工事着工」が生成・特定化され、解決策の流れの中に投げ込まれた。解決策①(S1)は、開いている解決策の窓①を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。同じ第1期には、解決策の窓②「開基百年に際し、旧炭鉱町の整備」が開き、これが契機となって解決策②(S2)「アルテピアッツァ美唄条例の制定」が生成・特定化され、解決策の流れの中に投げ込まれた。解決策②(S2)は、開いている解決策の窓②を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。なお、概念図には、解決策の窓①と②とをまとめている。

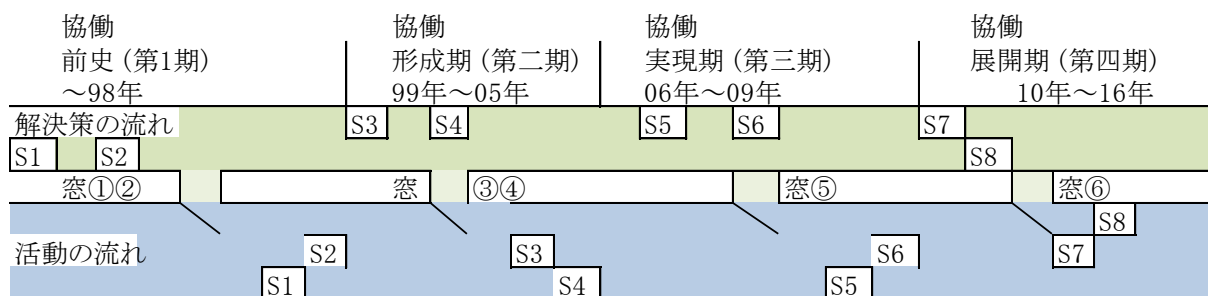


図 3-2 協働の窓モデル概念図のうち「解決策の窓」と「解決策」(Solution:S)

(運営・管理者は、継続及び期ごとに人の出入りがある協働アクティビスト)

(解決策の窓は、期ごとに二カ所ある場合にあっても一つとして表示している)

彫刻作品を「後世に伝えたい」(安田 2014)とは安田侃が、まだ未整備であった旧栄小学校体育館で大理石の彫刻に取り組んでいる時に、好奇心の旺盛な栄幼稚園の「園児らに毎日窓の外からのぞかれながら、この子らが大きくなっても心に残るような作品に仕上げたい」(安田 2014)との思いがあったからである。

第 2 期に、解決策の窓③「一層市民参加の促進」が開いた。この窓が開いたことを契機に、解決策③(S3)「市民ギャラリー開設」が生成・特定化され、解決策の流れの中に投げ込まれた。解決策③(S3)は、開いている解決策の窓③を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。同期においても解決策の窓④「市民参加組織の必要性」が開いた。この窓が開いたことを契機に、解決策④(S4)「NPO 法人設立発起人が発足」が生成・特定化され、解決策の流れの中に投げ込まれた。解決策④(S4)は、開いている解決策の窓④を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。

なお、市民ギャラリーは、旧栄小学校木造校舎の二階にあり、重さが数百キロ程度と小型ながら親しみのあるもので、時に階下の幼稚園児らが作品に戯れている様子が見られるといった状態である。

第 3 期に、解決策の窓⑤「より一層の市民参加の必要性」が開いた。この窓が開いたことを契機に、解決策⑤(S5)「安田侃・こころを彫る授業を開始」と後年度に解決策⑥(S6)「非営利法人の熟練者が参入」が生成・特定化され、解決策の流れの中にそれぞれ投げ込まれた。解決策⑤(S5)と解決策⑥(S6)は、年度を隔て開いている解決策の窓⑤を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。

解決策⑥(S6)は、後に活動⑦で示される「内閣府元気再生事業」の受託が契機となるとともに NPO のネットワークなどから実現している。

なお、2010 年度の地域を超えた市民の巻き込みを狙いとした、アルテ市民ポロ制度の立ち上げは、改正 NPO 法の施行³⁶(2012 年)などが契機となっており、後に奏功し認定 NPO 法人(2014 年)に認定されている。

第 4 期に、解決策の窓⑥「より広範の市民とのかかわり」が開いた。この窓が開いたことを契機に、解決策⑦(S7)「真無(まむ)野外コンサート大盛況」と次年度に解決策⑧(S8)「じん肺根絶の碑・寄贈設置」が生成・特定化され、解決策の流れの中にそれぞれ投げ込まれた。解決策⑦(S7)と解決策⑧(S8)は、年度を隔て開いている解決策の窓⑥を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。

なお、解決策⑦「真無(まむ)野外コンサート大盛況」とは、彫刻公園の音の広場における 30 トンもの大理石を使用して造られた「真無(まむ)」において行われたコンサートである。鑑賞に当たっては、地元の市民だけでなく地域を超えた多くの人々とともに享受しており、まさに、「より広範の市民とのかかわり」といった状況である。そして、「じん肺根絶の碑」は、炭坑や金属鉱山で働いていた方々がじん肺で苦しんだ労苦をしのび、北海道じん肺基金が作家に依頼したものを当「彫刻美術館」に寄贈されている。作家は、「大きく息を吸い込んで呼吸している肺を表現」(聴き取り)して制作されたものという。

³⁶ 特定非営利活動促進法(認定 NPO 法)は、2011 年に改正された。主な改正点の概要は、次の通りである(内閣府等を参照)。^①優遇税制(税額の控除)認定 NPO 法人へ寄付した企業団体は、最大で寄付額の約半分が減税される。^②認証手続きの簡素化、柔軟化された。^③国税庁から主たる事務所の知事や政令市の長に所轄が変更された。^④NPO 法人会計基準の採用。^⑤認定基準に絶対値基準(三千万円寄付者が)年平均 100 人以上)が設けられた。^⑥仮認定制度も創設された。

第 2 期において市は、2000 年に開拓百十周年・市制施行五十年記念式典を終え、「彫刻美術館」整備事業・第二期の策定を控えていたが、一般市民の関心は必ずしも高いものとは言えなかった。このため、協働アクティビストの井坂らは、解決策の窓③「一層市民参加の促進」と解決策④「市民参加組織の必要性」を痛感し協働の参加者らと検討するとともに、協働アクティビストの馬場や勝見を含む参加者らと市民の理解と組織作りに奔走している。このような中であって「彫刻美術館」は、2001 年に北海道創設の「北のまちづくり賞」で知事賞を受賞している。そして、2003 年には、美唄と札幌で「安田侃の世界展」開催が決定し、イタリアから作品を輸送することになるが、大理石製でとにかく重く、ブロンズ製の彫刻作品では大きな容積であることなどにより、輸送費が大幅に不足することとなった。このため、「安田侃の世界展サポーター会議」が建築家を議長に結成され輸送費等の不足分を寄付で賄っている。

今上天皇皇后両陛下は、2003 年 7 月 3 日に「彫刻美術館」を行幸啓され、沿道には 4000 人を超える市民が送迎するとともに、4 月に当選し報道でしか見たことがない高橋はるみ知事を始め随行員の多さに二度もびっくりしている様子が伝えられている。このため、市民の当施設への関心は、これを契機に爆発的な伸びを示したとされる。

4 組織のやる気の流れ

第 1 期には、組織のやる気の窓①「アルテピアッツァ市民有志の会発足」が開いた。これを契機に組織のやる気①(M1)「美唄市民のやる気」が生成され、組織のやる気の流れの中に投げ込まれた。組織のやる気①(M1)は、開いている組織のやる気の窓①を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。

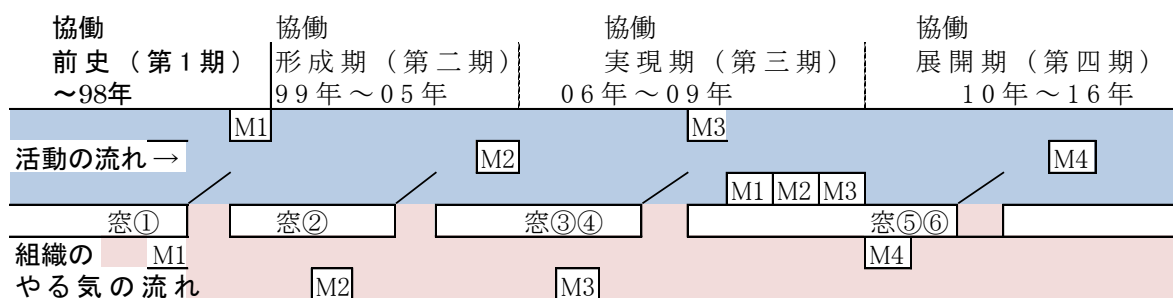


図 3-3 協働の窓モデル概念図のうち「組織のやる気の窓」と「組織のやる気」(I) (運営・管理者は、継続及び期ごとに人の出入りがある協働アクティビスト) (組織のやる気の窓は、期ごとに二カ所ある場合にあっても一つとして表示している)

第 2 期には、組織のやる気の窓②「天皇皇后両陛下が行幸啓」が開いた。この窓が開いたことを契機に組織のやる気②(M2)「市民と NPO 法人の一層のやる気」が生成され、組織のやる気の流れの中に投げ込まれた、組織のやる気②(M2)は、

開いている組織のやる気の窓②を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。

なお、当期には、活動③「彫刻美術館第二期整備事業開始」と活動④「NPO 法人として設立」を契機としてやる気が一層高まっている。

第3期には、組織のやる気の窓③(NHK教育の)「新日曜美術館で放送」と組織のやる気の窓④「北のみらい奨励賞を受賞」が開いた。これを契機に組織のやる気③((M3)「NPO 法人の一層のやる気」)が生成され、組織のやる気の流れの中に投げ込まれた。組織のやる気③(M3)は、開いている組織のやる気の窓③④を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。

一方当期には、NPO 法人の運営資金が枯渇すると、組織そのものが消滅するかもしれないという協働の危機が発生した。この協働の危機を乗り越えなければならぬと NPO 法人の一層のやる気が高まっている。この結果、美唄市の指定管理者制度の管理運営を受託するための努力を開始している。

第4期には、組織のやる気の窓⑤「地域づくり総務大臣賞を受賞」と後年度に組織のやる気の窓⑥「北海道地域文化選奨を受賞」が開いた。これを契機に組織のやる気④(M4)「市民と NPO 法人のさらに一層のやる気」が生成され、組織のやる気の流れの中に投げ込まれ、組織のやる気④(M4)は、開いている組織の窓⑤と⑥を通過して活動の流れの中に入り浮遊した。

なお、第3期の「日曜美術館で放送」と第4期「総務大臣賞受賞」及び「北海道地域文化選奨を受賞」を契機に、自然と調和した彫刻広場に興味を持つ市民のやる気と NPO 法人のさらに一層のやる気が高まった。これら2つの組織のやる気は、協働への社会的注目度が大きくなった場合に高まっている。

5 活動の流れ

協働が必ずしも意図しない偶然性が生じた活動として、活動⑦(A7)「内閣府元気再生事業を受託」があげられる。この事業は、内閣官房の地域活性化統合事務

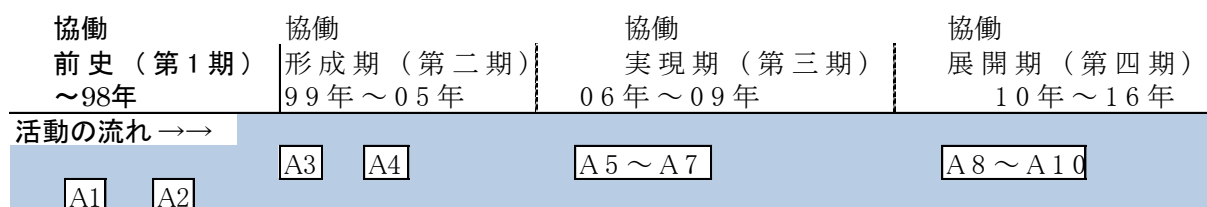


図 3-4 協働の窓モデル概念図のうち「活動」(Activity : A)

(運営・管理者は、継続及び期ごとに人の出入りがある協働アクティビストである局が所管している事業で、彫刻美術館の協働とはまったく無関係に展開された活動にすぎなかった。しかし、これがきっかけとなって、子どもたちに対する芸術

文化活動の支援や、市の基幹産業である農業への理解を含める食育への実施などから、関連団体との連携とともに体験による交流を促進する契機となった。さらに、NPO 法人びばいには、解決策⑥(S6)「非営利法人の熟練者が参入」し、非営利活動法人のマネジメントに詳しい加藤知美が参加している。協働アクティビスト各個人は、この偶然生じた活動を協働を意図した通常の活動に結びつけ対応している。

6 4つのパッケージ

第1期と第2期においては、活動等が部分的に結びついていたが、パッケージを構成しなかった。

第3期には、協働アクティビストが、完全なパッケージを構成した。すなわち、問題(P)、解決策(S)、活動(A)、組織のやる気(M)を結び付け、パッケージを構成している。これにより、組織のやる気③(M3)「NPO 法人の一層のやる気」を含む協働が実現した。

第4期に次の3種類の窓が、ほぼ同時に開いた。解決策⑦(S7)「真無野外コンサート大盛況」(2010年)、組織のやる気の窓⑤「地域づくり総務大臣賞を受賞」(2010年)、活動⑧(A8)「音の広場に真無(まむ)・施設最大・設置」(2010年)である。これにより、協働の実現可能性が高まっている。

凡例：①問題：Problematic、②解決策：Solution、③活動：Activity、④やる気：Motivation

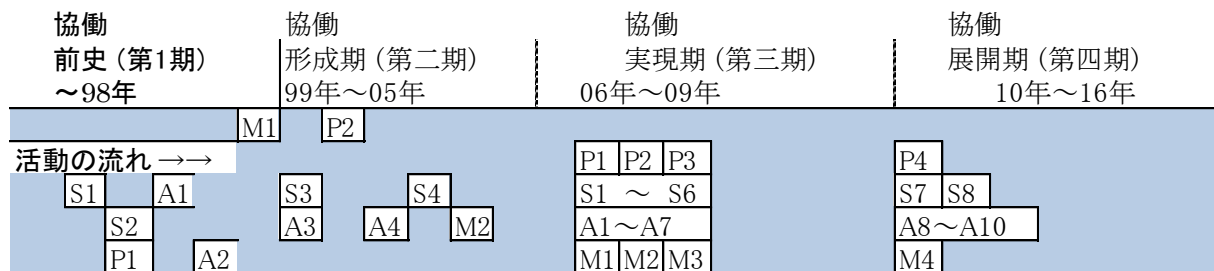


図 3-5 協働の窓モデル概念図のうち「4つのパッケージ」

(運営・管理者は、継続及び期ごとに人の出入りがある協働アクティビストである)

第4章 演劇のまち富良野の戦略的協働

富良野市は、北海道のほぼ中央部に位置し、西方に芦別岳などの夕張山系、東方に十勝岳などの大雪山系に挟まれた富良野盆地の中心的な都市である。市の南方には、市域(60,071ha)の約38%(22,716ha)を占める東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林があるなど環境に恵まれた地域である。なお、富良野市の「農産物生産状況」(富良野市2014)は、①水稲685.8ha、②畑作：麦類2,278.7ha、豆類201.4、てん菜(beet)577.7、馬鈴しよ206.0、③野菜：玉ねぎ1,502.9、にんじん181.7、メロン175.0、スイカ132.0、スイトコーンほか713.2、④畜産：肉用牛4戸196頭、養豚3戸3,436頭、酪農28戸4,823頭、飼料作物2,009haと面積の合計は8,673.4haである。

1977年は、脚本家の倉本聰が富良野に移住したことと、アルペン・ワールドカップ・(スキー)フラノ大会が開催された年であった。そして1981年に倉本聰原作の「北の国から」は、麓郷木材工業㈱の仲世古善雄が所有する山林を主舞台として、地元の全面的な協力の下制作が開始されている。

なお、この放送によって富良野の注目度は、急激に向上し1984年当時の観光入込客数が250万人(富良野市)に達している。それ以前には、本州へ修学旅行に行った高校生たちが「ふりょうの³⁷高校」(the bazaar 2004-3)の皆さん遠いところをと歓迎の意を表されるような状況³⁸であったという。

作家の倉本は、1984年に俳優や脚本家の養成を目的とした富良野塾を開塾・主宰している。この富良野塾の活動を支援し地域の演劇活動に期待をよせる篠田信子ら市民グループは、1997年に市内に小劇場設立の必要性を呼びかけて富良野演劇文化財団設立準備会を発足させている。

富良野市の高田忠尚市長らは、地域の活性化にも関心を寄せていたことから、演劇によるまちづくりの可能性にも期待を寄せることとなった。

このような経緯から市民グループは、演劇の拠点づくりとしての「これまでにない全く新しい発想を持った拠点づくりの必要性が浮かびあがってきた」(FIELDS2013)。そして小劇場が建設されたならば、我らが面倒を見ると富良野演劇文化財団設立準備会を発足させている。1998年には「特定非営利活動促進法」

³⁷ 富良野の地名は、「1858(安政5)年松浦武四郎」(上富良野歴史年表)らによる6回目の蝦夷地調査で、大河流域等のアイヌ民族の長らから、ここは「fura・nu-i 臭き火焰～上流に硫黄山(十勝岳)があって、臭い火炎が立ち上がっていた」(北海道2001-114)ことから後にフラノと命名されたという。

³⁸ 当時高校生であった人達は、地元がいかに無名であったのかと知らされたという。当時は、(現在の高校教員のように生徒に対して「子供たち」を連発するような時代とは全く異なり)、主に昭和一桁世代等の教師らからたえず早く一人前となって羽ばたくような叱咤激励を受けていた時代(高度経済成長期)であった。

(NPO 法)が制定され、これを機会ととらえた先の設立準備会のメンバーは、その名称を「ふらの演劇工房」と改称し、1999年2月にNPO法人として国内第一号の認証を受けている。

一方、この認証が全国に報じられ注目された背景には、非営利活動法人に対する運営費や人件費の財源が寄付行為に依存することに対し「本当に大丈夫なの」という懸念があったものと考えられる。

確かに寄附の実態については、「米国の一世帯当たり平均寄附額が82,940円であるのに対し、共同募金主体の日本では、3,200円」(樽見2007-235)という状況であった。

しかしながら、NPO法人活動に対する市民参加や、マスコミへの露出度が増すにつれ、富良野市民の理解も増加へと転じつつあったという。

富良野市は、幾多の懸案事への対応策を経て2000年に「富良野演劇工場及び管理に関する条例」を制定して自治体立の小劇場「富良野演劇工場」(以下：条例等で定めがある場合を除き演劇工場とする)を設置し、演劇工場の運営・運営をNPO法人に委託するとともに、2004年度からは指定管理者制度を導入して同法人を委託先としている。なお、先ほど述べた観光入込客数については、「北の国からのブームが沈静化」(元田2009-132)した現在では、「177万人、うち宿泊客数44万人」(2013年富良野市)程度の水準となっている。

第1節 前史 (第1期)

全国初のNPO法人設立前まで(～1997年)

1 市民

先述した劇場の設立などを呼び掛けた篠田信子は、倉本聰が移住した翌1978年に社会福祉法人北海道社会事業協会富良野病院医師の夫と共に転入している。そして、1997年には、先述した富良野演劇文化財団設立準備会の発足に際し、事務局長に就くとともに事業内容の充実化に向け奔走している。

なお、倉本は、1976年に自作・脚本によるTBS系列日曜劇場千回記念番組「幻の町」を小樽で収録している。「特別出演の北島三郎に対し見物者が大喝采。…この北島人気を把握するため青森や黒石を巡る演歌の公演に同行した。北島と客席とのやり取りを見ると、年齢や性別、職業や身分など一切の区別がなく、対等であった。これまでは上からの目線で仕事をしてきたが、テレビドラマは大衆の作品だとし、これからは市民の目線でドラマを書く」(日経15.8.19)。と倉本は述べている

一方、富良野市は、1969年に北海道のほぼ中央部ということで毎年7月下旬に「へそ祭り」を開催している。1979年に青年会議所理事長の仲世古善雄は、「市民劇団ラ・ノンブリ(nombril 仏語のへそ)を」(北海12.7.25夕刊)K.Cらと立ち上げている。これらの活動は、現在でも市民劇団「へそ家族」として継続している。

2 行政（富良野市、国）

富良野市は、1966年に「富良野町と山部町が合併」（富良野市史 1994）して誕生している。1972年には、富良野市ぶどう果樹研究所を開設し六年後に「ふらのワイン」として販売している。富良野チーズ工房は、1983年に設立する。さらに、1980年代には、生ゴミの埋め立て処分が「スイカやメロン畑におけるカラスや狐の食害」（北海 16.5.10）を招くとともに悪臭に悩まされていた。このため、市では、生ゴミの堆肥化に取り組んでいる。

国は、1974年になって国土庁の設置と、1987年に総合保養地域整備法（通称リゾート法）を施行している。

3 企業

西武鉄道グループ元オーナーの堤義明は、1974年に北の峰プリンスホテルそして、1988年に清家清設計による富良野新プリンスホテルを開業している。

日本国有鉄道は、1981年に石勝線を開通させており、北海道東部に向かう特急列車は、臨時便を除き富良野駅を通過していない。その後、国鉄は、1987年4月に廃止され北海道旅客鉄道株式会社等に分割民営化となり継承されている。

第2節 協働形成期（第2期）

ふらの演劇工房設立から市民プロデューサー育成事業開始まで
(1998年～2003年)

1 市民

第1期の富良野演劇文化財団設立準備会は、1998年にふらの演劇工房と改称して篠田信子が事務局長に就くとともに、NPOの法人格取得を目指し設立総会を開催している。このように同年のNPO法の施行は、構想実現に向けての大きな原動力となっている。当初財団法人の設立には、「約三千万円に上る基本財産集めが壁となっていた」（読売 99.1.1）だけに渡りに船であった。

年末には、特定非営利活動法人の申請書類を北海道上川支庁（現上川総合振興局）に厳寒の早朝から協働の参加者で司法書士の藤田嗣人が運転する国産オフロード・スポーツ用多目的車で駆け付け「朝一番で提出」（一般財団法人地域創造 15号）している。そして、翌1999年の2月には、「NPO法人の国内第一号」（小島 2009）として認証を受け、NPO法人ふらの演劇工房（以下「NPO法人ふらの」）の定時総会で理事長に篠田悠一を選出するとともに、「演劇工場」の管理・運営を受託する旨を加えた定款に改正している。なお、「NPO法人ふらの」の仮事務所は、未広町に開設している。

当時の高田市長は、作家の倉本や「NPO法人ふらの」の役員らと協議するとともに懇談を重ねている。その中で「NPO法人ふらの」側は、市長に創る、癒す、育むという豊かさを実感する要素によって、演劇によるまちづくりを提案する。

翌 2000 年 2 月に「NPO 法人ふらの」は、富良野市教育委員会と「演劇工場」の管理・運営に関する協議を開始するとともに、4 月の新年度予算から管理・運営の委託額を二千万円と提示され受託している。

富良野市は、限られた歳出予算であることから、外構工事の全てを賄うことが困難であった。このため、ボランティアが率先して「NPO 法人ふらの」の役員らと共に、駐車場と道路の法面(のりめん)の石積みなどに汗だくで格闘したという。

2002 年には、市民劇団「へそ家族」(朝日 15.10.19)が誕生している。

なお、「演劇工場」の工場長には、当初篠田信子が就いていたが倉本主宰の富良野塾十期生であった太田竜介が首都圏から移住し引き継いでいる(2002 年)。

1998 年には、富良野協会病院の介護老人保健施設ふらのに「長崎県から作業療法士の川口淳一が着任」(樽見 2003-126-128)し高齢者や幼稚園児らを対象に演劇リハビリテーションを開始するとともに、翌年には「NPO 法人ふらの」と協働で市民を対象に演劇リハビリテーション事業として引き継がれ、老人保健施設でのワークショップや演劇リハビリ指導者ワークショップ(体験講座)を開始する。

さらに「NPO 法人ふらの」の活動は、舞台公演のほか映写技術ワークショップ、映画、舞台技術初級講座、朗読ワークショップ、北海道舞台塾ふらの等事業、音楽会の開催、北海道へそ祭りへの参加、演劇工場まつり、小中生対象の演劇アカデミーの開始、観客等の足を確保するためにバスのチャーター、市民プロデューサー養成事業、「NPO 法人ふらの」の会員(賛助会員三千円、議決権付正会員一万円)制度の設置、さらに市民や企業のボランティア・スタッフ(約 120 名)との協働による運営体制への確立など多岐にわたり行っている(出所：NPO 法人ふらの)。

2 行政(富良野市・教育委員会、国)

国は、1998 年に「特定非営利活動促進法(NPO 法)」の施行や、「中心市街地活性化に関する法律」を施行している。

富良野市長は、作家や「NPO 法人ふらの」役員らとの三者協議を実施している。「演劇工場」の諸設備の設計・施工には、作家の意向が十二分に反映されており、舞台なら袖に至るまで広く使いやすく、リハーサルも容易であり、ヒノキ材でないために大道具などの舞台工作も容易で飛び跳ねる役者の膝も痛めなく、さらに、客席は詰められる長腰掛けを設置するとともに、衣装製作室の工夫や、観客室の後部別室にはガラス張りの親子室を設けるなど様々な工夫³⁹がなされた。そして、劇場の場所は、中心市街地から大きく離れている里山に設置するなど、従来の芸術・文化施設の多くにみられるような画一的タイプとは全く異なった、新しい発想のもとに創られた劇場の誕生であった。

富良野市は、2000 年に「富良野演劇工場設置及び管理に関する条例」を制定するとともに、予算を確保するため「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する

³⁹ 「演劇工場」より聴き取り。

法律(昭和 30 年法律第 179 号)」に基づき目的外使用などの規制が特に厳しい、国からの補助金の申請や地方債の発行などで財源確保に努めており、工場の運営は法人格を持った民間団体に委託するとの方針の下、同年の演劇工場完成後、「公設民営」(樽見 2003-68-69)により NPO 法人ふらののに引き渡している(10 月)。

高田市長、澤井教育長そして、作家や NPO 法人ふらのとの三者懇談は、次年度以降も引き継がれ実施されている。

国は、2003 年に「地方自治法の一部を改正(平成 15 年 9 月 2 日施行)」している。これにより、公の施設の管理は、指定管理者制度の導入で法人その他の団体⁴⁰に行わせることができることとなった。

3 企業等

富良野商工会議所は、1999 年に「北の文化フォーラム」を開催するなど NPO 法人ふらのが実施する活動に協力している。

ふらの農協(JA ふらの)は、2001 年に上川南部 5 市町村の 7 農協⁴¹が合併して誕生しており、関連事業として労務の請負、食料・雑貨店、葬祭・法要等(株富良野紫雲社)等を手掛けている。

地元の新聞社は、演劇工場について次のコメントを残している。「演劇工場は、市を愛しリードする信念・勇気・情熱の人による先駆的な熱意の建造物として、素晴らしく見えた……やがて新しい富良野の市民文化を育みその向上に寄与するものとして今に市民が誇るであろう、大いなる富良野の象徴的な殿堂になるのではないかという気が……した。難産(する)ほど大きく育つ」(日刊富良野新聞 2000,4.13)。

富良野商工会議所などは、中心市街地において地域の食資源等を提供する場としての役割やまちの活性化を目指し、市民目線での企画立案や事業を実施する目的で、富良野市やふらの農協との出資による「ふらのまちづくり会社」を設立する(のちに中心市街地活性化事業の受け皿となる)。

第 3 節 協働実現期 (第 3 期)

演劇工場の指定管理者から富良野塾閉塾前まで
(2004 年～2009 年)

1 市民(地元企業を含む)

2004 年 6 月に「NPO 法人ふらの」は、指定管理者制度の全国第一号として富良野市から「演劇工場」の管理を受託しており、受託額が「1,452 万円」(全国公立文化施設協会)である。

⁴⁰ その他の団体は、公社や企業、NPO 法人が含まれ、かつ、地方公共団体が条例で指定するもの。

⁴¹ 富良野、東山地区、山部、上富良野、中富良野、南富良野、占冠村の旧農協と合併。

NPO 法人ふらのが取り組んでいる活動は、引き続き「演劇に関する各種セミナーの開催、高校での演劇支援、高齢者を対象とした演劇リハビリテーションなどの演劇ソフト事業を中心に積極的に活動」(文科省 2005)しているが、当面、多数のボランティアの支援による環境美化清掃等の活動であった。そして、演劇工場活性化計画検討委員会⁴²を、開催している。

2004 年 10 月には、「全国アート NPO フォーラム」(北海 4.12.16-夕刊)が札幌で開催されこの中で 23 日に理事の篠田が「市民の目線」での運営を強調している。

一方、NPO 活動の進展に伴って、市民劇団の充実化や、多くの小中学生を含む市民劇団等の市民による芸術活動の支援、各種ワークショップの開催、創・楽・学・育に係る一層の推進、さらに一層の演劇によるまちづくりへと発展している。

2005 年の演劇に関する先進地調査は、「NPO 法人が劇場を運営し特に特にシェークスピア作⁴³による演劇公演等が全米で有名とされるオレゴン州のアシュランド市」(アシュランド視察 2005)へ NPO 法人ふらのからは 4 名が訪問・調査を行っている。そして、報告書(概要)によれば、NPO 法人が目指すべきことは、①地域社会への奉仕性や独自性の重視、②観光シーズン(7~8 月、1~2 月)のロングラン公演等である。

一方、当「演劇工場」の運営における成功要因は、「①市民ボランティアの協力、②補助金・助成金の有効利用、③赤字を出さないという決意、④演劇人・著名人からの支援、⑤倉本の存在」(樽見 2003-85)等が挙げられている。

2005 年には、作家が芸術自然文化の振興を通じたまちづくりの推進で北海道功労賞を受賞している。その表彰にかかわる記念誌の中で作家の移住から 28 年の付き合いという仲世古善雄(株富良野総研代表取締役)は、「人間の成長の過程には、様々な体験を通して、激しさや遊びや耐えることを学び、その中から本当の人の痛みや哀しみ、喜びや優しさを知るのではないだろうか」(北海道 2005: 62)と祝意で述べている。ちなみに作家は、仲世古より麓郷の森、五郎の石の家、拾ってきた家などの土地を借りている。

一方、作家が主宰し役者や脚本家を養成する「富良野塾」の卒塾者による「富良野塾 OB ユニツ」トは、2009 年に若手俳優が富良野を拠点に演劇を行う役者のグループとして誕生している。

2 行政(富良野市・教育委員会、国)

富良野市は、平成 16 年 3 月「富良野演劇工場設置及び管理に関する条例の一部改正」を行い、「条例の中に指定に当たっての審査基準として、平等な利用機会

⁴² 委員会のメンバーは、及川健司富良野文化協会長、宮武一典小中校長、山崎夏江幼稚園長、陰川のり子おやこ劇場、「NPO 法人ふらの」から西本伸顕理事長、森田武副理事長、広瀬寛人事務局長そして、篠田信子理事、横市英夫理事らである。

⁴³ 1920 年のアメリカ国民出身別は、欧州からの「白人 94,821 千人(89.7%)うちイギリスから 39,216 千人(白人の 41.4%)、(先住民は)244 千人(First Nations 原文旧称のインディアン)、黒人ほか 10,645 千人」(斎藤眞 1920-127)といった事情から「16~17 世紀英国演劇」北海(17.1.25)への愛好家が多いものと考えられる。

の確保、サービスの向上、管理費用の効率性、安定した管理能力などを盛り込み、多面的な観点から総合的に審査する仕組みを規定した。また、市では、行政の公平性及び透明性の観点から公募を行うこととし、商工会議所の代表や、演劇の専門家などを含む7人の選考委員によるそれぞれの項目について数値化(5点満点×20項目)による審査を経て、指定管理者としてNPO法人ふらのが指定」(文科省2005)された。

ちなみに2005年度～2008年度の指定管理料は、年額二千万円である。なお、2009年に改訂が行われ2013年度までは、二千六百万円に増額している。

2006年には、市長選が行われ高田市長から能登市長へと引き継がれており、翌年に市民等の協力を得てゴミの分別化さらにを進めるとともに、燃やさない・埋めないなどが評価されて「環境に優しいまち」(ブランド総研)として二年連続で日本一となっている。2008年度には、「富良野演劇工場設置及び管理に関する条例が全部改正」(市議会2008)される。

国は、北海道総合開発計画・第七期を閣議決定し、国土審議会北海道開発分科会で地球環境問題の重要な課題を踏まえて北海道の資源・特性を活かした開発を進める旨を強調している。

内閣府は、富良野協会病院跡地77haの利用を対象とした「中心市街地活性化基本計画」を2008年11月に認定している。建設計画の主な内容は、主として地場産品を提供するフラノマルシェ等を官民一体で取り組む内容である。

3 企業

前述の中心市街地活性化事業の事業主体には、2003年に第三セクターの「ふらのまちづくり株式会社」が設立されているが、代表取締役はNPO法人ふらの理事長の西本伸顕が就任している。

第5回ふらの演劇祭⁴⁴は、2007年9月26日に行われた。

第4節 協働展開期 (第4期)

富良野GROUP結成以降(2010年～)

1 市民(企業も含む)

作家が主宰して役者等を養成していた富良野塾は、「演劇工場」で「谷は眠っていた」という開塾当時の塾生たちの生活を描いた演劇を2010年に公演(朝日10.4.5)し閉塾している(卒塾者は延べ375名、2期生が芥川賞を受賞⁴⁵する)。

⁴⁴ 主催/ふらの演劇祭実行委員会、共催/財北海道文化財団、助成/財地域創造、後援は北海道、北海道教育委員会、富良野市、富良野市教育委員会、占冠村、占冠村教育委員会、富良野市文化団体協議会、富良野芸術文化事業協会、北海道新聞社富良野支局、日刊富良野新聞社、出所:(富良野イベントカレンダー2016.5)

⁴⁵ 山下澄人が156回芥川賞を受賞する(北海17.1.20)。

したがって、「演劇工場」を主たる公演の場としていた演劇集団は、「富良野 GROUP」を結成し、「倉本とフランチャイズ契約」(全国公立文化施設協会)を締結し、自主公演等を開始することとなり 2016 年現在も継続実施している。

富良野塾の閉塾後、NPO 法人ふらの等の活動概要は、次の通りである。

卒塾生の松本は、富良野高校の「身体表現 A の授業」(朝日 15.10.19)で、母音の発音などを指導している。

NPO 法人ふらののは、2011 年に地域に根差した活発な文化活動や文化支援活動を行い、地域文化の振興に貢献したと認められ、「平成 22 年度北海道地域文化選奨」(北海道平成 22 年)を授賞している。

演劇工場の太田工場長は、市内の市民団体の会合で「演劇によるまちづくり」を題目として講演するとともに、企業の創立記念事業において富良野塾 OB と市民劇団へそ家族との協働で演劇『百年 GO!』の脚本と演出を担っている。

市民のボランティアは、小中生や市民の演劇等による「ふらの演劇祭」や、コンサートなど盛りだくさんな催しの「演劇工場祭り」などの活動をサポートし祭りなどを盛り上げている。

NPO 法人ふらののは、文化庁から平成 26 年度(2014)「劇場・音楽堂等活性化事業の活動別支援事業により公演で 5,444 千円、普及啓発で 1,083 千円を、翌年度には公演で 6,585 千円、普及啓発で 919 千円」(文化庁芸術文化課 2015 年度)の交付を採択されている。

NPO 法人ふらは、2015 年度の役員⁴⁶を選出した

富良野 GROUP の俳優は、「北海道教育大学旭川校で教師に必要とされるコミュニケーション能力などを育成する講座」(産経 10.3.29)を受け持っている。

作家は、(健康上の理由から)「演出はやめる」(朝日 16.1.12)と発表する。

2 行政 (富良野市・教育委員会、国)

2010 年には、市長に「能登芳昭が再選」(北海 14.4.14-夕刊)し、同年度の演劇工場管理運営事業費は、25,810 千円が計上された。その内容は、施設運営消耗品、設備の保守管理委託料、水道光熱費、舞台設備の維持管理費、イベント開催の広告宣伝費等である。なお、施設利用人員は、2007 年から 2009 年度の平均で約三万五百名であった。

市は、「富良野市中小企業振興条例」で示される団体の中に NPO 法人を含み内容を(平成 24 年 1 月 26 日)改正した。そして、「富良野演劇工場設置条例」と、

⁴⁶ 理事長：瀬川謙二郎、副理事長：荒木徹、野呂宏子、事務局長：太田竜介、理事：青木賢亮、秋田恵、足立敬太、伊東忠、桐澤博、黒岩優佳、今野富士保、篠原綾子、城寶和広、福岡榮一、山崎夏江、監事：鷹嘴充子、三瀬博之である

、「富良野演劇工場設置及び管理に関する条例」を大幅に改正している。さらに、「富良野市公の施設に係る指定管理者の指定手続きに関する条例」に関する事務を教育委員会に行わせることが出来る旨に改正している(2014年)。

次に、市のまちづくりに関連する事項としては、近隣町村との連携でゴミ処理施設の分担や十四種類⁴⁷に及ぶ資源ゴミの分別化、そしてモットーである有害物質のダイオキシンを出さないため「燃やさない」鳥獣類の食害や悪臭を防止するため「埋めない」であり、「リサイクル都市」としてふさわしい内容である。

再生利用率は、91%(2014年度)であることから富良野方式と全国から注目されており観光客からも好評の様様である。

2013年9月の中心市街地宣言に続き、12月に「富良野地区定住自立圏(多自然居住拠点都市)形成に関する協定を上富良野町、中富良野町、南富良野町そして占冠村との間で締結」(富良野市2014)している。

2014年には、高齢者の地域見守り活動に関する協定を市民生活協同組合のコープさっぽろとの間で(2月12日)、4月8日にはホクレンの移動販売車による見守りをふらの農協との間でそれぞれ協定を締結している。

国は、次の補助事業を採択する。それは、文化庁が①富良野 GROUPによる「明日、悲別で」の、「2012夏と2013冬の公演」(FIELDS 2013)を、国交省が②中心市街地活性化基本計画第二期「フラノマルシェ 2」(北海 15.9.17)を、経産省が③観光地づくり支援対象にふらの観光協会のプラン「演劇工場、水や森の役割などを役者が朗読、散策路歩き、役者が農作業の現場で演じる農業の歴史を五感で体験」(北海 15.6.5)等である。

3 企業

大北グループは、2014年8月2～3日に創立70周年記念事業で、富良野塾 OB×市民劇団へそ家族による公演『百年 GO!』を入場無料で開催している。

ふらのまちづくり株式会社のフラノマルシェ(第一期)がオープンし、地元食材によるおいしさを提供しており、「平成18年(2006)」の入場者数が8万人、平成25年(2013)には79.5万人(経済産業省2015)であったが、2014年までには、三百万人を達成している。2015年には、フラノマルシェ2が完成したが、隣接する商業地の基準地価(2015年)は、北海道内の多くの自治体が低迷する中であって「平米当たり二千円上昇」(北海 15.9.17)している。

47 ①生ゴミ②紙屑・木製品・衣類など③枝・草④空き缶・金属類⑤乾電池類⑥新聞雑誌・段ボール⑦大型ごみ・電気製品⑧空き瓶・陶器類・ガラス⑨灰⑩ペットボトル⑪プラスチック類⑫おむつなど⑬動物の死骸⑭消火器・タイヤなどの処理困難物(北海 16.5.10)

演劇のまち年代記
全国初のNPO法人設立前までの協働前史

表 4-1 (第1期、～1997年12月)

年	月	市 民	行 政	企業その他
1896			富良野原野殖民地区画の策定	民法施行
1897		中村千幹ら筑後組合農場を興す、福岡県出身		
1899			富良野損戸長役場が開設 東京大学が木材収入を目的に演習林を設置する	・商法 施行
1900			旭川間の鉄道が敷設・開通	・未成年者喫煙禁止法が施行
1903			下富良野村戸長役場が開庁	・ライト兄弟が動力飛行成功
1908			下富良野村から、南富良野村が分村する。	・刑法が施行。1907年には、旭川～釧路間鉄道全線開通。
13			滝川と富良野間の鉄道が開通 根室本線	北海道中央経緯度観測標が設置(富良野市指定文化財)
26				・上富良野町等十勝岳周辺泥流被害
33				・えりも町等が昭和三陸津波で被災
35		倉本聰こと山谷馨が出生 (1934年12月31日出生)		・全道が冷害凶作、水害被害
44		山谷が山形県上山に学童疎開		・東南海地震発生(12月)
45		山谷が岡山金光町に学童疎開		
47			第一回全道滑降競技会が開催スキー。	・日本国憲法S22. 5. 3施行 ・学校教育法S22. 4. 1施行 ・私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律
49			東山地区に平沢小学校が開校	・刑事訴訟法・少年法施行
55		東京大学文学部入学。俳優座の劇団等に参加(山谷馨)。	道内初・世界連邦平和都市宣言～旧山村村	・社会党が再統一、保守合同 富良野芦別北海道立公園に。
56			富良野町となる	・日本が国際連合に加盟
58				富良野芦別北海道立自然公園(4市1町)
59				・伊勢湾台風
60				・日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約 ・所得倍増計画策定
63		作家倉本が脚本家として独立		・ケネディ大統領が暗殺
66			富良野市となる 高松竹次が市長に就任。	・中華人民共和国文化大革命
70			ごみの分別化を開始する。 北海へそ祭りが再開。	
72			富良野市ぶどう果樹研究所が開設され、六年後から「ふらのワイン」を販売する。	連合赤軍あさま山荘事件

年	月	市 民	行 政	企業その他
1974			国土庁設置	西部グループが、北の峰プリンスホテル・現プリンスホテルを開業・堤義明代表。
77		前年に小川東洲書家より富良野を紹介され移住 ●	オーストリアのシュラートミンク市と友好都市提携。	アルペン・ワールドカップのフラノ大会開催(スキー)
78		篠田信子が、転入。社会福祉法人北海道社会事業協会富良野病院後の理事長が夫。	滝口國市郎が市長に就任する 兵庫県西脇市と友好都市締結	ふらのワイン新発売 市民演劇への関心 ●
79		ごみの埋め立て処分で、スイカやメロンが、カラスや狐による食害と悪臭も問題視。		仲世古善雄青年会議所理事長時に劇団ラ・ノンブリ設立。
81			ごみ分別収集で生ゴミ堆肥化	北の国から：放送開始麓郷木材工業㈱らが協力 ●
82				・浦河沖地震発生 ・「駅」 キネマ最優秀脚本賞
83		倉本が、西布礼別・心和農場所有原野を借地し、富良野塾を建設。	㈱ふらの農産公社設立十年後富良野チーズ工房設立。	・インターネットが誕生 ・「北の国から・83冬」
84		富良野塾設立。 ●		・電電公社民営化法成立 ・「北の国から・84夏」 ・「昨日・悲別で」
85				「昨日、悲別でON STAGE」 (舞台初演年度)
86				「ライスカレー」 山路ふみ子文学財団特別賞
87		富良野塾四期生に高齢者が入塾	総合保養地域整備法～通称リゾート法施行・法律第71号	「北の国から87初恋」 ・北海道旅客鉄道が設立する
88				「谷は眠っていた」を上演。
89				・消費税導入3% 「北の国から89帰郷」
90			九十年代前半に大手不動産社のリゾート構想に対し市は、田園風景を守ると回答	「今日、悲別で」 「火の用心」 ギャラクシー賞大賞
92				「北の国から92巣立ち」
94			高田忠尚が市長に就任する。	・関西国際空港が開港
95		新富良野プリンスホテル前にニングルテラス開設		「北の国から95秘密」
96		篠田らが市民の組織化に奔走 ●		衆議院選小選挙区比例代表 モンブラン国際文化賞受賞
97	9	富良野演劇文化財団設立準備会発足 ●		・消費税が5%に

当年表は、聴き取りのほか、次の資料で補い筆者が作成した。

1997 『北海道新聞』、樽見(2007)、活性化計画、富良野市、北海道町村課資料、北海道、倉本(1987)、ふらの観光協会、

ふらの演劇工房設立から 市民プロデューサー育成事業開始までの協働形成期
(第2期、1888年1月～2003年12月)

年	月	市民	行政	企業その他
1998	4	「ふらの演劇工房」に改称し NPO法人の必要性 ●	特定非営利活動促進法施行 (NPO法)	<ul style="list-style-type: none"> ・民事訴訟法施行 「北の国から98時代」 「もしもあなただったら～富良野警察物語」 オメガー・アワード国際賞、文化庁芸術祭テレビドラマ部門大賞・倉本が受賞
		ふらの演劇工房通信発行開始	中心市街地の活性化に関する	
		富良野協会病院「介護老人保健施設ふらの」に、川口淳一作業療法士が着任し、演劇リハビリテーションを開始。	法律・平成10年法律第92号	
	11	特定非営利活動法人ふらの演劇工房設立総会を開催		
	12	特定非営利活動法人の申請書類を上川支庁に朝一番で提出		
99	2	NPO法人ふらのが発足 ●	市長、作家、工房協議、九月市長がNPO法人ふらのと懇談	<ul style="list-style-type: none"> ・臓器移植に関する法律に基づき初の脳死臓器を移植。
		定時総会、理事長は篠田悠一に、定款の改正、演劇工場の管理・運営受託を追加		
		「NPO法人ふらの」の仮事務所を開設		
		演劇リハビリテーション開始 演劇ワークショップ開始●		
2000	2	教育委員会と劇場の管理・運営に関する協議を開始	富良野演劇工場設置及び管理に関する条例制定●	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度開始 倉本が、紫綬褒章を受ける
	4	NPO法人が公設の演劇工場管理・運営を受託● 受託料二千万円 市民と工場の石積み作業	富良野演劇工場：以下演劇工場が開設	
	10	演劇工場落成記念式典と一般公演で・富良野塾グラフィティを公演 篠田信子が工場長等になる 太田竜介十期生が移住する	設計には、倉本が関与する。鉄筋三階建、客室三百音七席衣装室、親子室等～8.7億円 市長、作家、工房協議、十月演劇工場引き渡し式挙行。	
2001	4	富良野演劇アカデミー開始・小中生●	高田市長・澤井教育長と作家そしてNPO法人ふらのの理事との三者懇談	<ul style="list-style-type: none"> ・中央省庁の再編 ・小泉内閣発足 ふらの農協が誕生。上富良野・中富良野・富良野・山部・東山・南富良野が合併する。
	5	篠田信子が、理事長・工場長 富良野塾と塾OB公演が開始 ●		
2002	5	太田竜介が工場長	ごみを燃やさない・埋めないの理念に基づき、ごみ焼却炉を廃止する。 市長・教育長、倉本、理事らが懇親会	<ul style="list-style-type: none"> ・住民基本台帳ネットワーク開始 「北の国から2002遺言」
	10	富良野演劇工場祭り・第二回 倉本が、北海道新聞文化賞特別賞受賞。富良野塾が、北海道地域文化選奨を授賞		

年	月	市 民	行 政	企業その他
2003		NPO法人ふらのの正会員は、 年会費一万円・議決権付き 賛助会員三千円	下富良野村戸長役場から百年	・イラク戦争開戦 倉本が、富良野市名誉市民と なる。 向田邦子賞の「北の国から二 千二遺言」 ふらのまちづくり会社が設立 商工会議所・市・農協などが 出資(10年フラノマルシェ)
		市民プロデューサー育成事業 ●		

当年表は、聴き取りのほか、次の資料で補い筆者が作成した。

1998 『北海道新聞』、長崎県文化振興課資料、小島(2009)、活性化計画、総務省定住圏、樽見(2007)、
2003 富良野市資料、NPO 法人ふらの、

演劇工場の指定管理者から富良野塾閉塾前までの協働実現期
(第3期、2004年1月～2009年12月)

年	月	市 民	行 政	企業その他
2004	6	NPO 法人ふらのが演劇工場 の指定管理者となる ●	平成十六年度六月より指定管 理者制度導入。富良野演劇工 場設置及び管理に関する条例 の一部改正。 ●	・営団地下鉄が東京メトロに 民営化
		一層の演劇によるまちづくり の必要性。 ●		
2005		環境美化清掃～ボランティア 演劇工場活性化計画検討委員 会を開催 ●	五年～八年度の指定管理料は 二千万円。	・郵政民営化関連法案が成立 倉本が、北海道功労賞授賞 「優しい時間」のテレビ放映 で、ニングルテラスが人気に 「祇園ばやし」 ・知床が世界自然遺産に
		多数のボランティアが事業を 支援 ● オレゴン州アシュランド 演劇の先進地を調査 ●		
2006		市民劇団の充実化。 ●	能登芳昭が市長に就任	倉本が、富良野自然塾を主宰 ・会社法施行 ・日ハム優勝(44年ぶり)
2007		市民による芸術活動の支援 ●	環境にやさしいまち全国一に 二年連続、ブランド総研発表	卒塾式で閉塾発表(2010. 3)
2008		創・楽・学・育を一層推進 ●	北海道総合開発計画・第七期 閣議決定	・中国輸入餃子から殺虫剤 ・リーマン・ショック
			中心市街地の活性化基本計画 承認される(11月11日)	ふらのまちづくり株式会社の 代表取締役役に西本伸顕が就任
2009		富良野塾OBユニット旗揚げ	年間指定管理料九年～十三年 二千六百万円	・裁判員制度が開始 「歸國」原作：棟田博

当年表は、聴き取りのほか、次の資料で補い筆者が作成した。

2004 『北海道新聞』、樽見(2007)、北海道功労賞、NPO 法人ふらの
2009 全国フォーラム、富良野市、

富良野G R O U P 結成以降までの協働展開期
(第4期、2010年1月～2016年3月) 2017年の特記事項も記載

年	月	市民	行政	企業その他
2010		富良野G R O U P を結成 ●	能登芳昭が市長に再選 演劇工場管理運営事業の計上	富良野塾を閉塾 ● (延べ三百七十五名の卒塾生)
		富良野塾とのフランチャイズ 契約で自主文化事業を開始。 二十一年度は、一万四千人の 鑑賞者が訪れる。	額は、2,581万円。 施設運営消耗品、設備の保守 管理委託料、水道光熱費等、 舞台施設の維持管理等、イベ ント開催の広告宣伝等。 利用延べ人員～七年度28,506 八年度32,414、九年度30,650	倉本が旭日小綬章の受章 FURANO MARCHE がオープンし地元食材による おいしさを提供。 ・改正刑事訴訟法が施行：死 刑相当罪の公訴時効撤廃
2011	2	北海道地域文化選奨受賞 ●		・皆既月食が観測 「マロース」MOP3(露語)
	6	ボランティアが環境美化清掃		
2012		富良野クリエイティブ・シン ジケート久保隆徳は十一期生 NPO法人ふらのがと富良野GR OUPの取り組みは、演劇を通 じ地域との連携に取り組む ●	文化庁補助事業の富良野GR OUP公演、「明日、悲別で」 2012夏、2013冬。結城座の 「注文の多い料理店」道内公 演等。 富良野市中小企業振興条例～ (昭和50年を改正～平成22年)	・東京スカイツリーが竣工。 「明日、悲別で」富良野GR OUPが東日本大震災被災地 十四カ所で無料公演。
		作・演出～福島カツシゲ「嫁 に出来ないかあ！」出演八名 演劇工場、中富良野、上富良 野、占冠、南富良野、岩見沢 幕別、釧路で公演。	ごみの分別化は、十四種で再 生利用率約九十％と「富良野 方式」とされ全国的に注目。 定住自立圏の形成に関する協 定を富良野市と、上富良野町 中富良野町、南富良野町そし て占冠村との間で締結。12月	・JR北海道が、脱線事故。 レール幅の隠ぺい、データ 改ざんが明るみとなる。 富良野塾二期生山下澄人が、 コルバトントリで芥川候補と なる。候補三度目。 ・金環日食が観測。
2014		ふらびズム協議会開催の「演 劇によるまちづくり」で太田 工場長が講演する。	能登芳昭が無投票で市長三選 高齢者の地域見守り活動に関 する協定を富良野市と、生協 コープさっぽろとの間で締結	「マロース」～鳥インフルエ ンザ風評被害について、レイ チェル・カーソン(沈黙の春) の作品をヒントに制作。
		NPO法人ふらのが引き続き指 定管理者となる ●	富良野演劇工場設置条例及び 富良野演劇工場設置及び管理 に関する条例を全部改正する ●	
		富良野塾OBユニット公演で 水谷龍二脚本「乙女の祈り」		
		富良野GROUP コミュニケー ションプログラム：富良野市 委託業務コミュニケーション 教育推進事業で受信等実施。	富良野市公の施設に係る指定 管理者の指定手続きに関する 条例。 ●	長万部町：宝くじ文化公演 (自治総合センター助成)

年	月	市民	行政	企業その他
2014		大北グループ創立七十周年記念事業、● 富良野塾OBと富良野市民劇団へそ家族+市民との共演等	魅力度ランキングで全国市区町村で第六位。 ブランド総研(東京)発表	<ul style="list-style-type: none"> 消費税が8%となる。 改正少年法が成立。 懲役、禁錮の有期刑の上限が五年引上げ二十年に。 ウクライナ東ドネツク州でマレーシア航空機撃墜事件
		ふらの演劇祭、小中生、市民劇、富良野演劇工場まつり。	環境にやさしい町～ごみ分別十四種類、リサイクル率九十% 目標は、九十五%へ。	
		「水のかげら」富良野塾OBユニット公演、太田竜介脚本演出、工場、占冠、上中南各富良野、滝川、帯広、釧路で十一月まで公演。 NPO 法人ふらの通信・第百号が刊行	定住自立圏構想・多自然居住拠点都市に取り組み 中心市街地の活性化基本計画第二期が承認される。 (10月17日)	富良野オムカレーの道内経済波及効果約十億と発表。 フラノマルシェ入場者が三百万人を達成 ●
2015		NPO 法人ふらの平成二十七年 度役員 理事長：瀬川謙二郎 副理事長：荒木徹、 同上 野呂宏子 事務局長：太田竜介 理事：青木賢亮、秋田恵 足立敬太、伊東忠 桐澤博、黒岩優佳 今野富士保、篠原綾子 城寶和広、福岡榮一 山崎夏江 監事：鷹嘴充子、三瀬博之	経済産業省が、観光地づくり支援対象に、ふらの観光協会プラン「演劇工場、水や森にまつわる役者の朗読、散策路歩き、役者が畑で演じる農業に関する歴史を見て五感で体験する」を選定。 6月4日経産省発表 演劇・旅～「エンタビ」を実施10月3日(土)～4日(日)	<ul style="list-style-type: none"> フラノマルシェ2 を開設 基準地価2015年9月16日発表 フラノマルシェ2隣接の幸町7-28 の商業地地価が前年度より5.1%増。 (39,000→41,000円/㎡) 高齢者マンションのネーブルタウン・六階建が完成 富良野市は、魅力度ランキングで全国七位であった。 ブランド総研(東京・2015年)
2016		作家は、脚本家は続けたいが演出は最後としたいと発表。	富良野市が、演劇によるまちづくりで文化庁長官表彰受賞	ふらの観光協会が、DMO候補法人に登録(観光庁)。
2017		富良野GROUPと市民の「走る」が作演出・倉本聰、演出・中村龍史で特別公演		山下澄人が156回「茶川賞」「しんせかい」で受賞。 富良野塾二期生(85年入塾)

当表は、聞き取りのほか、次の資料で補い筆者が作成した。

2010 『北海道新聞』、富良野市、文化庁、

2016 富良野市議会会議録、NPO 法人ふらの、

表 4-2 第5節 演劇のまち分析結果

	協働前史 (第1期) (第1期 ~97年12月) 全国初のNPO法人設立前まで	協働形成期 (第2期) (第2期、1998年1月~03年12月) ふらの演劇工房設立から市民プロデューサー育成事業開始まで
協働activist	①倉本聰、③藤田嗣人、⑤高田忠尚 ②篠田信子(市民)、④仲世古善雄(企業)	②篠田夫妻(市民)、①倉本聰(作家) ⑤高田忠尚(政府)、⑥広瀬寛人(企業)
参加者	①演劇文化財団設立準備会 ②ボランティア	③NPO法人ふらの④市・教育委員会 ⑤演劇工場、⑥サークル活動 ②ボランティア、⑦富良野塾・塾OB
協働の場	富良野市・教育委員会、演劇文化財団 設立準備会、その他有志の集	富良野市・教育委員会、 NPO法人ふらの、演劇工場
問	アジェンダA	アジェンダ(問題①)
題	問題 1	①市民演劇への関心 (1978年)
の	問題の窓	②国内初のNPO法人設立 (1999年)
流	問題の窓	②NPO法人の必要性 (1998年)
れ	諸解決策 B	諸解決策(解決策①)
解	解決策 1	②NPO法人ふらのが公設の演劇工場 管理・運営を受託。(2000年)
決	解決策	②富良野演劇工場設置及び管理に関する 条例制定(2000年)
策	の窓	
の	活動 1	②演劇リハビリテーション開始(99年) ③演劇ワークショップ開始(1999年) ④富良野演劇アカデミー開始・小中生 (2001年) ⑤富良野塾・塾OB公演が開始(01年) ⑥市民プロデューサー育成事業(03年)
流	活動状況 D	活動状況(活動①)
れ	活動状況 D	
組	組織のやる気の流れ	
織	組織のやる気の窓	②NPO法人ふらのが発足 (1999年)
の	組織のやる気	②市民とNPO法人ふらのがやる気 (1999年)
や	組織のやる気状況 C	組織のやる気状況(組織のやる気①)
る	自信の窓	
気		
状	アジェンダ諸解決策・組織のやる気状況・活動状況の四つの結び付き (A,B,D,C)	【アジェンダ(問題①~②)、と諸解決策(解決策①~②)、および組織のやる気状況(組織のやる気①~②)、と活動状況(活動①~⑥)】は、部分的に結びついてはいたが、完全なパッケージを構成しなかった。
況	【アジェンダ(問題①)、諸解決策(解決策①)、組織のやる気状況(組織のやる気①)、活動状況(活動①)】の間には、相互に部分的に結びついていた。 (A-1、B-1、D-1、C-1の間)	

富良野演劇工場は「演劇工場」としている。

	協働実現期(第3期) (第3期、2004年1月～09年12月) 演劇工場の指定管理者から 富良野塾閉塾前まで	協働展開期(第4期) (第4期、2010年1月～16年3月) 富良野GROUP結成以降
協働activist	⑦森田武(市民)、①倉本、⑤高田忠尚 ⑧能登芳昭(政府)、⑨西本伸頭(企業)	⑩瀬川謙二郎(市民)、⑧能登芳昭(政府) ⑪NPO・市民各個人、①倉本聰
参加者	③NPO法人ふらの④市・教育委員会 ⑤演劇工場、⑥サークル活動 ②ボランティア、⑦富良野塾・塾OB	③NPO法人ふらの④市・教育委員会 ⑤演劇工場、⑥サークル活動 ②ボランティア ⑧富良野GROUP等
協働の場	富良野市・教育委員会、 NPO法人ふらの、演劇工場	富良野市・教育委員会、 NPO法人ふらの、演劇工場
問題の流れ	アジェンダA 問題 1 問題の窓	アジェンダ(問題①～③)
解決策の流れ	諸解決策 B 解決策 1 解決策の窓	諸解決策(解決策①～③)
活動の流れ	活動 1 活動状況 D	諸解決策(解決策①～③)
組織のやる気の	組織のやる気の窓 組織のやる気 組織のやる気状況 C	諸解決策(解決策①～③)
自信の窓		諸解決策(解決策①～③)
アジェンダ諸解決策・組織のやる気状況・活動状況の四つの結び付き(A,B,D,C)	協働activistは、【A,B,D,C】間に部分的なパッケージを構成し協働が実現した。なお、①環境に優しいまちづくりが生み出された。	アジェンダ(問題①～④)、諸解決策(解決策①～④)、組織のやる気状況(組織のやる気①～③)、活動状況(活動①～⑫)のより完全なパッケージを構成した。

NPO法人ふらの演劇工房は、「NPO法人 富らの」としている。

(年代記分析の説明)

1 参加者と協働の場

富良野における協働アクティビストで全期間にわたり継続的な参加者は、①作家の倉本聰であり、一時的な参加者は、第1期が④仲世古善雄(麓郷木材工業の社長)、第1期～第2期にかけて②篠田信子(市民代表)と③藤田嗣人(市民)、第1期～第3期の高田忠尚(市長)、第2期が⑥広瀬寛人(ふらの観光協会元副会長・富良野タクシー社長)、第3期が森田武(森田工建社長兼市民代表)、西本伸顕(ふらのまちづくり会社社長兼市民代表)、第3期と第4期の能登芳昭(市長)、第4期が瀬川謙二郎(コダマ社長兼市民代表)とNPO法人ふらの・市民の各個人である。

但し、分析表の紙面の都合上から第2期に掲載していないが市民の藤田嗣人は、特にNPO法人ふらのの設立等で重要な役割を果たしている。

継続的な参加団体は、ボランティアであり、一時的な参加団体は、第1期が市民主体の①演劇文化財団設立準備会、第2期～第4期が③NPO法人ふらの、④富良野市・教育委員会、⑤演劇工場、⑥サークル活動、第2期～第3期が⑦富良野塾・塾OB、第4期が⑧富良野GROUP等で、特に、運営面で大きな貢献を果たしている。

①の作家は、特に第1期に「北の国から」の創作と脚本そして富良野塾の開塾等、第2期には演劇工場というハコモノへの関与と、富良野塾OBや塾生による演劇公演などで問題の窓が開くという大きな貢献を果たしている。②の篠田信子は、特に第1期から第2期に、⑥広瀬寛人は、特に第2期にそれぞれ市民の組織化を始めNPO法人ふらのの活動に多くの貢献を果たしている。

第3期の⑨西本伸顕や⑦森田武は、市民参加の増加等、第4期の⑩瀬川謙二郎は、富良野GROUP結成以降の活動等において、それぞれ積極的な戦略的協働の実現に貢献している。

なお、富良野市は、関係条例の制定、予算的措置、演劇工場の設置等で重要な役割を果たしつつ、NPO法人ふらのとの緊密な連携の下協議をかさねている。

これら継続的な参加者は、時期によって取り組みの強弱があるものの、協働のプロジェクトに常に参加している。特に、第2～第3期の⑦富良野塾・塾OBと第4期の⑧富良野GROUP等や②ボランティアは、演劇のソフト面や公演等に係る限られた資金を補完するなどから無償の活動でともに多大な貢献を果たしている。

一方、⑥のサークル活動は、市民劇団へそ家族等、富良野寄席倶楽部(立川志の輔)、学校演劇クラブ、展示や模擬店、手芸サークル、ゴスペル、エコファッション等で多くの市民参加増に貢献している。

一時的ながら重要な役割を果たした参加者は、行政(国、北海道等)、企業等やマスコミ等である。国は、文化庁補助事業を、北海道は海外先進地調査の補助事業等を、企業等は、JCやロータリークラブ後援事業や大北グループ記念事業、一般

財団法人日本宝くじ協会の社会貢献事業などである。マスコミは、その報道により全国的に知名度が向上し、市民の励みにもなっている。

協働の参加者である市民・NPO 法人ふらの、政府、企業は、演劇文化によるまちづくりの協働をそれぞれ次のように異なったものとして捉え、独自に活動していた。③ふらの演劇工房等の市民は、演劇によるまちづくり活動を協働として捉えていた。④の行政は、芸術文化の向上と市民の創造的な文化活動に供することを協働と捉えていた。企業やマスコミは、社会貢献や文化の振興の観点から協働を捉えていた。

協働の参加者である市民(NPO 法人ふらの、サークル活動、ボランティア組織、富良野塾等)、行政(国、北海道、富良野市)、企業・マスコミの資源は、それぞれ次のようであった。市民は、舞台芸術を通じて演劇によるまちづくりの着想や熱意を持っていたが、モノ(施設)やカネ(運営資金)を持っていなかった。行政(ここでは特に富良野市)は、財源の一部、ハード面の技術、条例の制定等の資源を持っていたが、文化活動等の十分な知識を持っていなかった。企業等は、文化振興のための資金や情報は持っていたが、まちづくりに対する熱意は持っていなかったことなどから、参加者間には、資源の相互補完性が見られた。

2 問題の流れ

第 1 期に、問題の窓①「倉本聰が富良野に移住する」が開いた。この窓が開いたことを契機に、問題①(P1)「市民演劇への関心」が認識・定義され、問題の流れの中に投げ込まれた。問題①は、開いている問題の窓①を通過して、活動の流れの中に浮遊した。

協働アクティビストの④仲世古や②篠田は、問題①(P1)を、認識・定義した。協働の契機となったこの問題が認識・定義された背景には、1981年から作家倉本聰の「北の国から」の放送とその3年後の富良野塾の開塾等であり、このように恵まれた場を演劇によって後世に伝えたいとの思いがあった。このように、協働アクティビストは、協働の契機となる問題を認識・定義した。

第 2 期に問題の窓②「NPO 法人の必要性」が開いた。この窓が開いたことを契機に、問題②(P2)「国内初の NPO 法人設立」が認識・定義され、問題の流れの中に投げ込まれた。問題②(P2)は、開いている問題の窓②を通過して、活動の流れの中に浮遊した。

第 3 期に問題の窓③「一層の演劇によるまちづくりの必要性」が開いた。この窓が開いたことを契機に、問題③(P3)「演劇工場活性化計画検討委員会を開催」が認識・定義され、問題の流れの中に投げ込まれた。問題③(P3)は、開いている問題の窓③を通過して、活動の流れの中に浮遊した。

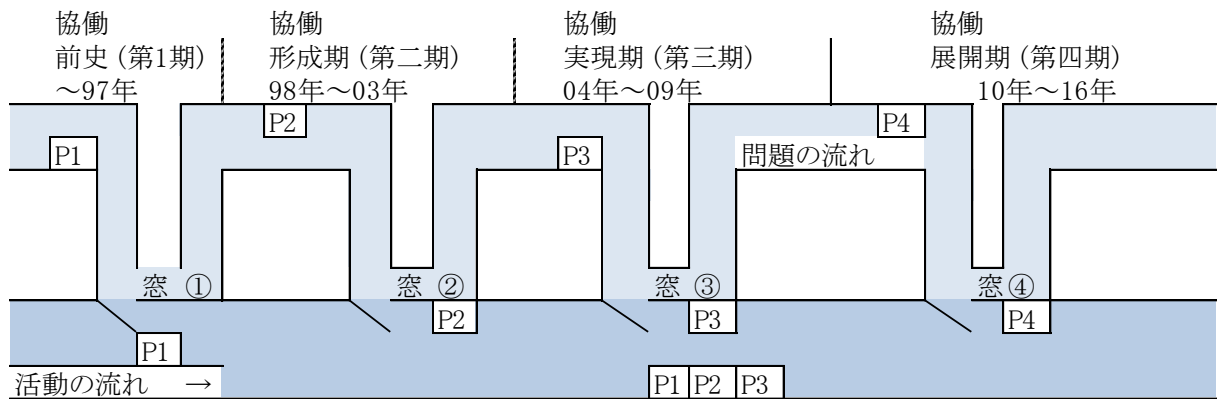


図 4-1 協働の窓モデル概念図のうち「問題の窓」と「問題」(Problematic :P)
(運営・管理者は、継続及び期ごとに人の出入りがある協働アクティビストである)

第 4 期に、問題の窓④「富良野塾が閉塾する」が開いた。この窓が開いたことを契機に、問題④(P4)「富良野 GROUP の結成」が認識・定義され、問題の流れの中に投げ込まれた。問題④(P4)は、開いている問題の窓④を通して、活動の流れの中に浮遊した。

以上のように、第 1 期に問題①(P1)「市民演劇への関心」と問題②(P2)「国内初の N P O 法人設立」の 2 つの抽象的問題が認識・定義されたが、第 3 期に問題③(P3)「演劇工場活性化計画検討委員会を開催」と第 4 期に問題④(P4)「富良野 GROUP を結成」というやや具体的な問題が新たに認識・定義された。

3 解決策の流れ

第 1 期に、解決策の窓①「北の国からの放送が始まり富良野が注目される」が開いた。この窓が開いたことを契機に、解決策①(S1)「倉本聡が富良野塾を開設する」が生成・特定化され、解決策の流れの中に投げ込まれた。解決策①(S1)は、開いている解決策の窓①を通して、活動の流れの中に浮遊した。

第 2 期に、解決策の窓②「富良野演劇工場設置及び管理に関する条例制定」が開いた。この窓が開いたことにより、解決策②(S2)「N P O 法人ふらのが公設の演劇工場の管理・運営を受託」が、生成・特定化され、解決策の流れの中に投げ込まれた。解決策②(S2)は、開いている解決策の窓②を通して、活動の流れの中に入り浮遊した。

第 3 期に、解決策の窓③「富良野演劇工場設置及び管理に関する条例が改正される」が開いた。この窓が開いたことを契機に、2004 年に解決策③(S3)「N P O 法人ふらのが演劇工場の指定管理者になる」が生成・特定化され、解決策の流れの中に投げ込まれた。解決策③(S3)は、開いている解決策の窓③を通して、活動の流れの中に入り浮遊した。翌年の 05 年には、05 年から 08 年の指定管理料は、年間

二千万円となった。なお、(the bazaar 2004)を要約すると、冬期間の除雪作業や工場(小劇場)内外の清掃等作業や日夜活動している理事職も全てボランティア、…パソコン、電話の第二回線、観劇者用送迎バスも個人の寄附に頼っている状況であった。

一方で、各種助成金がなくなったときはどうするか……演劇のまちづくりを市民とどう共有するか等を西本らは懸念していた。

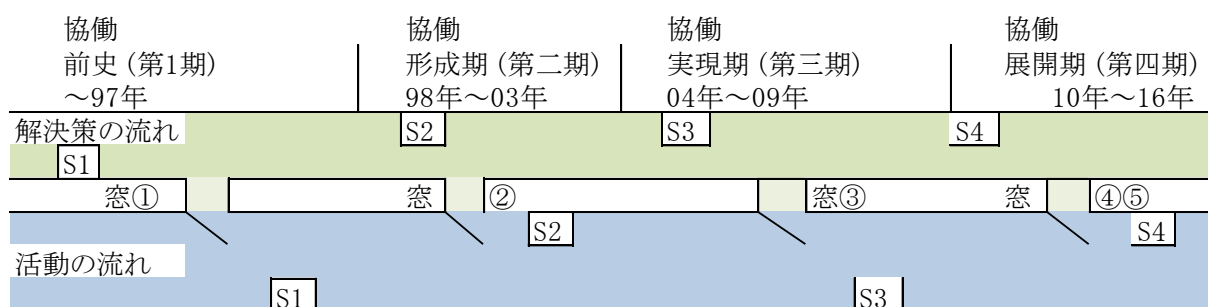


図 4-2 協働の窓モデル概念図のうち「解決策の窓」と「解決策」(Solution:S)
 (運営・管理者は、継続及び期ごとに人の出入りがある協働アクティビストである)
 (解決策の窓は、期ごとに二カ所ある場合にあっても一つとして表示している)

第 4 期に、解決策の窓④「富良野演劇工場設置条例を全部改正」と解決策の窓⑤「指定管理者の手続き条例を改正」が次々と開いた。この 2 つの窓が開いたことを契機に、解決策④(S4)「NPO 法人ふらのが引き続き演劇工場の指定管理者となる」が生成・特定化され、解決策の流れの中に投げ込まれた。解決策④(S4)は、開いている解決策の窓④と⑤を通して、活動の流れの中に入り浮遊した。

当期において、解決策④(S4)は、協働アクティビストである瀬川や⑩NPO 法人ふらの・市民各個人を含む協働の参加者の信念や思いから生成・特定化されている。彼らは、運営財源の乏しかった経験をもとに、全国第一号として認証された NPO 法人ふらのを、認定 NPO 法人として運営の安定化を図りたいとの構想を持っていたが、客席数 302 と小劇場ながら入場料を徴収していることなどから、認定基準を満たせず苦慮していたからである。

4 組織のやる気の流れ

第 1 期に、組織のやる気の窓①「篠田らが市民の組織化に奔走」が開いた。この窓が開いたことを契機に、組織のやる気①(M1)「富良野市民のやる気」が生成され、組織のやる気の流れの中に投げ込まれた。組織のやる気①(M1)は、開いている組織のやる気の窓①を通して、活動の流れの中に入り浮遊した。

第 2 期に、組織のやる気の窓②「NPO 法人ふらのが発足」が開いた。この窓が

開いたことを契機に、組織のやる気②(M2)「市民と NPO 法人ふらのがやる気」が生成され、組織のやる気の流れの中に投げ込まれた。組織のやる気②(M2)は、開いている組織のやる気の窓②を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。

第 3 期に、組織のやる気の窓③「オレゴン州アシュランド～演劇の先進地調査」が開いた。この窓が開いたことを契機に、組織のやる気③(M3)「市民と NPO 法人ふらのが一層やる気」が生成され、組織のやる気の流れの中に投げ込まれた。組織のやる気③(M3)は、開いている組織のやる気の窓③を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。この先進地調査は、マスメディアで大きく取り上げられるなどから協働への取り組み比重が増し組織のやる気③(M3)が増進することとなった。

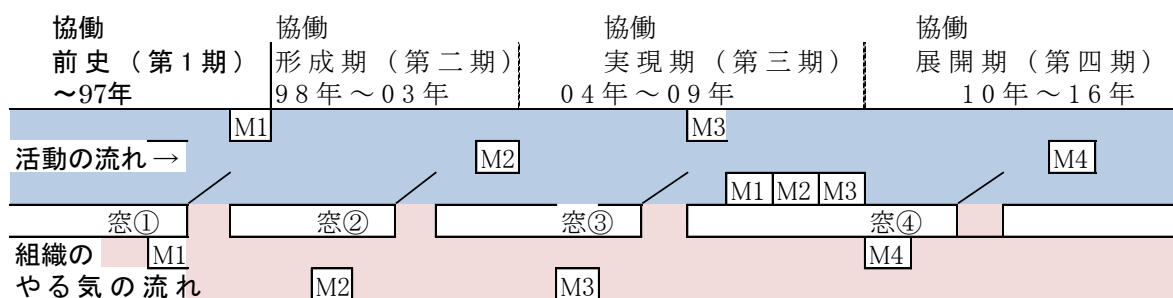


図 4-3 協働の窓モデル概念図のうち「組織のやる気の窓」と「組織のやる気」(I) (運営・管理者は、継続及び期ごとに人の出入りがある協働アクティビストである)

第 4 期に、組織のやる気の窓④「NPO 法人ふらのが北海道地域文化選奨で表彰される」が開いた。この窓が開いたことを契機に、組織のやる気④(M4)「市民と NPO 法人ふらのがより一層のやる気」が生成され、組織のやる気の流れの中に投げ込まれた。組織のやる気④(M4)は、開いている組織のやる気の窓④を通過して、活動の流れの中に入り浮遊した。

先述したように、認定 NPO 法人への申請は、不採択となり改めて自分たちの創意工夫や協働で、NPO を護持しようとしたこと。さらに、問題④(P4)「富良野 GROUP の結成」の結成を見たことから、独り立ちして間もないその GROUP を守っていこうという熱意の醸成があったことから組織のやる気は高まった。

5 活動の流れ

協働が必ずしも意図しない偶然が端緒となる活動としては、活動②「演劇リハビリテーション開始」があげられる。この活動は、社会福祉法人北海道社会事業協会富良野病院と同じ系列の、介護老人保健施設ふらのが 1997 年に設立され、翌年川口作業療法士が長崎県から着任したことによる。1999 年からは、ふらの NPO 法人と療法士との協働で高齢者と幼稚園児に演劇リハビリテーションを行ってお

り、これがきっかけとなって、協働が高まることとなった。



図 4-4 協働の窓モデル概念図のうち「活動」(Activity : A)
(運営・管理者は、継続及び期ごとに人の出入りがある協働アクティビストである)

第1期の活動①(A1)「市民が富良野演劇文化財団設立準備会を設立」は、「子どもたちが富良野を誇れるように、将来もこの町を愛して住んでくれるように」(the bazaar 2004: 4)すなわち、まちづくりの原点的といえる思いから演劇を始める動機である旨を劇場よりも「福祉や観光行政が先」(the bazaar 2004: 1)だろうという反対派に対し、篠田や藤田らが対話を繰り返した模様である。その後、紆余曲折を経て第2期の活動④(A4)「富良野演劇アカデミー開始・小中学生」等へと進展している。そのほかの摘記では、第3期活動⑦(A7)「多数のボランティアが事業を支援」と第4期活動⑪(A11)「NPO法人ふらのと富良野 GROUP が演劇を通じた地域とのより一層の連携に取り組む」らも事業の大きな成果と言えよう。協働の進展を経て、第1期～第2期のガバナンスは、NPO法人ふらのにおける協働の参加者間による定期的な会合、および非公式かつ日常的な相互の付き合い⁴⁸を通じて、活動の監視・調整が行われるという「自己ガバナンス」であった。

一方、第3期～第4期のガバナンスは、協働の中心的な立場にある参加者の理事会・監事等によって活動の監視・調整が行われるリーダー組織によるガバナンスである。

6 4つのパッケージ

次の3種類の窓は、次々と開いている。それは、第3期に問題の窓③「一層の演劇によるまちづくりの必要性」(2004年)と解決策の窓③「富良野演劇工場設置及び管理に関する条例の改正」(2004年3月)、そして、組織のやる気の窓③「オレゴン州アシュランド～演劇先進地を調査」(2005年8月)である。これにより、協働の実現性が高まった。

⁴⁸ NPO法人ふらのにおいて「経理担当職員が、380万円着服と監査結果を公表」(北海03.5.8)している。全額返済されているが、あえて「情報開示」したのは、「NPO全国第1号の誇りと市民への責任」(the bazaar 2004-5)と述べている。

凡例：①問題：Problematic、②解決策：Solution、③活動：Activity、④やる気：Motivation

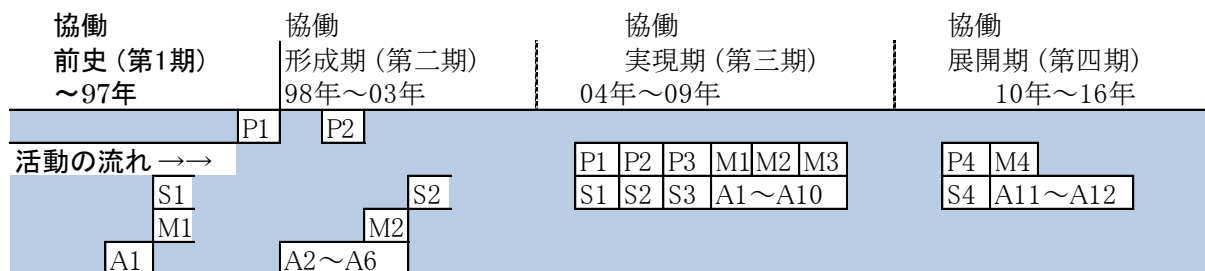


図 4-5 協働の窓モデル概念図のうち「4つのパッケージ」

(運営・管理者は、継続及び期ごとに人の出入りがある協働アクティビストである)

第1期～第2期には、活動状況を除くと不完全なパッケージであった。

一方、第3期に協働アクティビストが、アジェンダ、諸解決策、組織のやる気、そして活動状況の完全なパッケージを構成した。これにより活動⑦(A7)「多数のボランティアが事業を支援」を含む協働が実現した。

第4期には、新たなパッケージを構成した。これにより、活動⑩(A11)「NPO法人ふらのと富良野 GROUPが演劇を通じた地域とのより一層の連携に取り組む」を含む新たな協働が実現した。そして、演劇をテーマとしたまちづくりは、周辺の自治体にも広がりを見せている。空知管内の文化センターやホールの運営者は、「空知ホール連絡協議会」を結成し、2010年より「そらち演劇フェスティバル」で美唄、深川、滝川、砂川の4劇団により作品発表会を行っている。

さらに、オホーツク総合振興局管内の「演劇集団タカクト(美幌町)の立ち上げや……劇団そら(大空町)」北海(17.2.18)の拡充には地域とのつながりを持つNPO法人ふらのを富良野 GROUPの出張公演などが少なからず好影響を及ぼしたものといえよう。このように、NPO法人ふらのが取り組む協働は、小中学生等よる演劇活動の定着化など富良野管内での普及はもとより、あわせて新たな領域にも波及している。

第 5 章 自信の窓

第 1 節 自信の窓の概要

本章は、「改訂版協働の窓モデル」に基づいて、三市町が新たに取り組んだ政策を抽出し、果たして「自信の窓」が確実に開いたのか否かを検証する。

なお、参考までに三市町に共通する内容は、「農業振興地域の整備に関する法律」と「豪雪地帯対策特別措置法」の指定市町である。

市民と外部者との交流状況は、提案を無視することなく工夫を加えながら採り入れている。さらに、一部のまちでは、行政主導とはいいながら市民や農業並びに商業団体そして企業との協働で取り組んでいること。二市においては、NPO 法人や企業と取り組んでいること。北海道の文化行政や企画部門の幹部職員⁴⁹と三市町との交流状況は、それぞれ濃密的な接点が見られていることなどである。

これまで第 2 章から第 4 章にかけて述べた協働のプロジェクトは、いずれも成功を収めたと言える内容であった。このためここでは、当プロジェクトを手掛けた協働アクティビスト等が、自信を獲得し新たに取り組んだとみられる政策を抽出した中から、文献や新聞報道等の内容そして、市民らからの聴き取り調査を吟味の上、「自信の窓」を通過したと判断される政策をさらに抽出している。

一方、「自信の窓」を通過したと判断できない場合には、自信の窓が開く 4 条件のうちどの項目が満たされていないのか、あるいは、そもそも「地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く」（地方自治法第 1 条の 2）担っている「行政サービス」の一環であることからコメントを差し控える案件であるのかを述べることにしている。

第 1 に、写真のまち東川で今回「自信の窓」を通過した政策は、「君の椅子」、「水道普及率ゼロのまちづくり」、そして「東川米」の 3 本である。

なお、行政サービスの一環であるとみられるものは、「株主制度」、「幼保一元化」、「匿名による不妊治療助成」そして、「町立日本語学校」の 4 本である。

一方、「木彫り看板設置事業」は、東川町商工会(青年部)が主体となり、東川町が補助金を交付している。これは、市民と行政そして企業とが一体となった「戦略的協働」によるプロジェクトであり、多くの商店等によって町並みの景観保全にも大きく貢献しているが、すでに 30 年を経過しようとしていること、取り付け金具などはプロが製作しており問題はないと思われるものの、最近北海道内では

⁴⁹ 磯田憲一 東川町は、君の椅子など(後述)。美唄市は NPO 法人びばい理事長など。富良野ではオレゴン州アシュランドへの演劇の先進地調査(2005 年)など。そして北海道地域文化選奨(1993 年提言)では、東川が 2000 年、富良野が 2011 年、美唄が 2013 年それぞれ受賞をはたしてしている。

看板の落下事故に起因する重大事故などが見られることから今回は対象から除外することとした。

第 2 に、美術館のまち美唄で今回「自信の窓」を通過した政策は、「利雪のまちづくり」である。具体的な内容は、「雪冷房マンション」と雪の冷氣によってコメを貯蔵し食味の劣化を防いでいる「雪蔵米」である。

なお、行政サービスの一環としての取り組みは、「飼料用米の栽培」と「受動喫煙防止条例」制定の 2 本である。

一方、「ふゆみずたんぼ」とは、ラムサール条約に基づく湿地保全の一環として、湿地周辺の水田(paddy field)を無肥料・無農薬でイネを栽培し、渡り鳥の餌となるドジョウなどの淡水魚を育てるというものである。

さらに、刈り取り直後の水田に水を張ることで渡り鳥を誘引し湖沼の水質浄化にも一役を担っている。このような協力者に対しては、コメの減収分に相当する金額を上乗せして市民がコメを購入するというものである。

当プロジェクトの推進は、水鳥等の専門員である美唄市の職員が中心となって担っている。

なお、地方公共団体は、住民に対し役務をひとしく提供することを旨としていることから、特定の住民にコメの減収分に補填する事は制度的な仕組みがない限り採択が難しいものといえよう。

第 3 に、演劇のまち富良野において今回「自信の窓」を通過した政策は、「フラノマルシェ」である。この事業は、病院の移転に伴った中心市街地約 77ha の活性化に向けて、商工会議所をはじめとする企業、農協、富良野市、市民などによる新会社の「ふらのまちづくり(株)」を 2003 年に立ち上げ、2010 年に第 1 号となるフラノマルシェが完成している。そして、2014 年には、入場者 300 万人を達成している。さらに翌年の 2015 年に「フラノマルシェ 2」が完成するに至る。

なお、行政サービスの一環としての取り組みは、「小水力発電所」の 1 本である。これは、「北の国から」の放送でも知られる麓郷地区にある小中校への電力供給であり、市民と行政が保守管理を担っているものの企業は全く参入していない状況である。

なお、「自信の窓」が開くには、次の四条件を満たす必要がある。

- ① 自信の窓は外部の人(Outsider-Driven)などで開くことができる(略号：O)。
- ② 協働(Collaboration-Driven)などで開くことができる(略：C)。
- ③ 経済的(Economy-Driven)などで開くことができる(略：E)。
- ④ 市民の支持(Supporter-Driven)を得るなどで開くことができる(略：S)。

自信の窓が開く概念図は、図 1-9 に示すとおりである。この中で陽動アクティビスト(以下：CA とすることがある)は、外部の人、協働、経済的そして市民の支持などを確認の上、それぞれが達成されたと認めた場合にこれらを梱包して「自信の窓」をこじ開け新たな政策として送り出す役割を持っている。

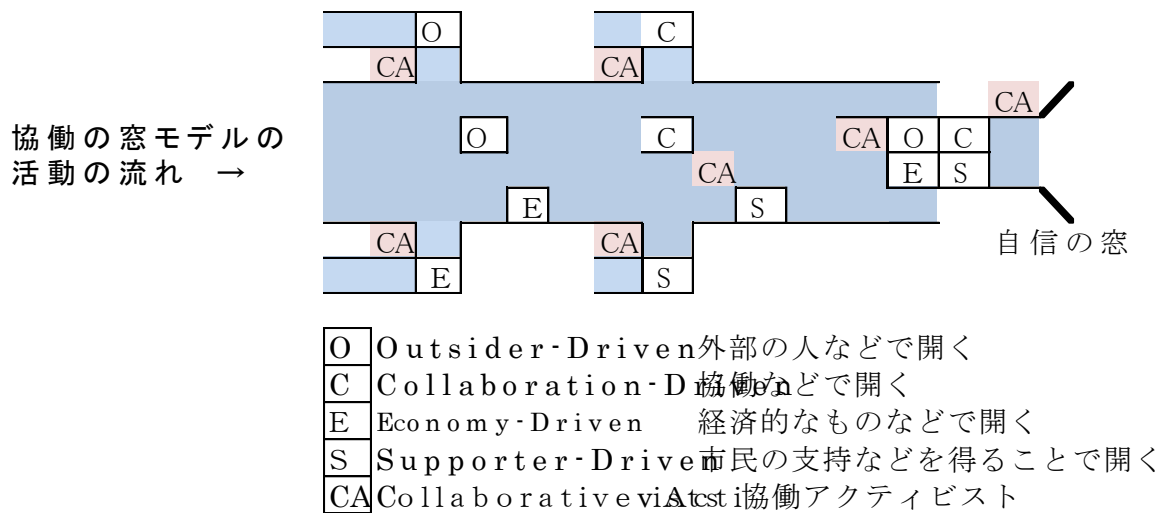


図 1-9 自信の窓の概念図

次に 3 市町における具体的内容は、次の通りである。

第 2 節 写真のまち東川

写真の町を 1985 年に宣言した東川町は、「写真によるまちづくり」を進めており、その後新たに開始された政策について果たして「自信の窓」が開いたのか否かについてを検証する。

1 君の椅子(2006～2015 年)

君の椅子プロジェクトは、旭川大学の大学院で客員教授(2004 年)であった磯田憲一ゼミの院生が、生命誕生の喜びを地域の人々と分かち合ってはとの一言から創設されたもので、新生児に対し「君の居場所はどこにあるよ A chair just for you.」そして「世界に一つだけの君の椅子」との内容である。その後、磯田が君の椅子プロジェクト代表に就いた 2006 年には、北海道の生活文化課長(1991 年)や上川支庁長(1999 年)当時から写真イベント等で親交のあった東川町に打診して開始され

ており、東川町が君の椅子プロジェクト発祥の地である。

協働では、デザインは建築家に、製作を町内外のクラフト作家(市民)が担い、北海道産の広葉樹であるクルミ(walnut)やイタヤカエデ、カバ、そしてナラ材などは、企業から調達し、揮発性の塗料や釘などは一切使用せず(創意工夫)手作りで、まちの子供は宝だとの意味を込めて名前、生年月日、ロゴマーク、一連ナンバーを刻印した椅子をプレゼントしている。財源は、公費(政府)であるが地元等のクラフト作家にも還元される。プレゼントは、百日齢経過後の幼児(市民)に製作者(市民)および町長(行政)が届けているが、その様子を広報やメディアによって人々(市民)に知らされ多くの共感と賛同を得ている。ちなみに2015年には、累計で「515脚を贈呈」(北海 15.10.14)している。

その後、君の椅子プロジェクトは、近隣町村に波及し2007年に剣淵町と愛別町、2014年に東神楽町と中川町、そして2015年に長野県木曾地方の売木(うるぎ)村が参加し、これら6町村で「千脚」(北海 15.10.10)の贈呈を達成(2015年)している。

なお、東川町の広報誌によれば、2011年の東日本大震災時には、被災三県で震災日の11日に被災地で生まれたことが判明した98人に、東川、剣淵、愛別の三町が市民や企業から寄付を募り君の椅子を贈呈している。

「自信の窓」通過の確認については、①大学院生などの外部の人からの提案を受け入れるとともに、塗料などを用いないなどの創意工夫がされている。②協働では、デザイナーやクラフト作家そして受贈者らの市民や町長などの行政そして希少価値のある天然の木材を供給している企業との連携から協働体制が成立している。③経済的な面では、行政サービスの一種であることから公費であり、結果的にはクラフト作家らや受贈者の市民に還元されているため、成立したものとみなされる。④市民の支持については、新生児の健やかな成長を地域住民と共に祝いながら、町に愛着を持ち将来も願わくは住民となってほしいなどと確実に支持が得られている。このため、自信の窓を通過する条件をすべて満たしているため「自信の窓が開いた」と判断する。

2 水道普及率ゼロのまちづくり

大雪山系で北海道最高峰の旭岳に大量に降らせた乾いた雪は、融水を地下深く浸透せしめ「ミネラルウォーター」となって数十年(地質専門職)をかけて流れ下っている。

町長は、「町には、国道、鉄道、上水道と三つの道がない」と全国に発信している」(松岡 2012-1)。

平成の名水百選ともなったこのおいしい地下水を市民は、あたりまえのことと捉えていたが、全国から訪れる多くの外部者との交流で、希少な価値であることを気づかされている。日本中を探しても塩素殺菌なしにそのまま飲める水が極め

て少ないという事実が背景としてある。

なお、市民と行政そして企業等の状況は、**市民**の自己責任で地下水を利用しているため上水道料金は**無料**であること、地下水の保全のために、市街地の住民は下水道の利用(料金の負担)、散居地の住民は合併浄化槽の設置(設置費の一部とくみ取り料金の負担)、さらに、ふるさと納税制度を活用した株主制度などの活用により町内外の市民は、水源涵養林の管理(植樹・下草刈り・野ネズミ対策・除間伐・樹種によっては枝打ち等)に取り組むとともに、地下水の保全に取り組んでいる。さらに、おいしい水を使用した「東川サラダ」など新鮮な野菜のアピールや水源地等の観光資源化などの創意工夫がみられている。

行政の役割は、下水処理(処理施設や下水管の敷設と維持管理、合併浄化槽の助成やくみ取りに関すること)、水質の「保全等の条例」(北海 11.6.23)に関すること、水源地や流域における水源涵養本林の管理に関すること、上水道に係る**公営等事業会計は不要**⁵⁰であること、

企業等では、北海道内の生活協同組合のコープさっぽろが、**東川町**や東川町農協(JA ひがしかわ)等と出資し 2012 年に(株)大雪水資源保存センターでミネラルウォーターを製造している。

そしてこの水を(株)東川振興公社と JA ひがしかわが「大雪旭岳源水」の表示で、コープさっぽろが「大雪旭岳大自然がろ過した天然の水」の表示でそれぞれ販売するとともに、ホクレン農業協同組合連合会が「北海道大雪山の水との表示で…無洗米とともにシンガポールへ」(北海 16.7.10)輸出している

このため「自信の窓」通過の確認にあたっては、外部の人、協働、経済そしておいしい水であることから市民の支持が得られたことから四条件をすべて満たしており、「自信の窓が開いた」とすることが可能となる。

次に、なぜこの町に転入したのかを聴き取りしたので参考までに取り上げる。

上州・前橋市出身の女性 E.O. は、写真甲子園の報道で地下水が良質で豊富なことを知り当町に移住し、喫茶・軽食店を起業するも、旭川保健所は法令に基づき塩素殺菌を命ずる。このため、十数万円の塩素殺菌装置を購入するが、お冷などに対して不評の客が多いとされる。各家庭は、自己責任において地下水を使用しており、現在のところ何ら問題となる事案は生じていない。

「世界一良い水に塩素消毒とはとんでもない」と少なからず遺憾な様子であった。確かに水道法施行規則(昭和 32 年 12 月 14 日厚生省令第 45 号)第 17 条 3 号で

⁵⁰ 計上が不要なため(参考資料表 3 の三市町の平成 26 年度決算状況を引用)、新たな政策を生み出す源泉ともなっている。

は、塩素消毒する旨が定められてはいる。今後は、許可される安価な「ろ過装置」等の開発が期待される。なお、参考までに彼女の海外渡航歴⁵¹を記す。

「東川の水は、世界で一番おいしい水。水道の水が飲めるのは、日本とスイスぐらい」との言葉には重みを感じられる。

これとは別に、プロの写真家は、「塩素が含まれておらず写真も退色しないため百年の保存には、この町の水が欠かせない」（町広報誌 2012・7）と述べている。

一方、大雪旭岳源水は、「カルシウムとマグネシウムが 2 対 1 の割合で含まれるアルカリ性で中硬度の水……チェイサーに最適」（藤田 2010-185）という。

3 東川米

東川米は、北海道で初となる特許庁の地域団体商標制度で**認証**されている「ブランド米」である。。

稲作農家は、JA ひがしかわが定めた 10 箇条からなるの東川米認証表示基準⁵²等を遵守して栽培・管理しており、東川町や北海道が経営指導を担っている。

イネの品種開発は、国の独立行政法人の研究機関や、「主要農作物種子法」（昭和 27 年法律第 131 号）に基づき北海道（都道府県）が担っており、「ゆめぴりか」は上川農業試験場が開発している。

「東川米」の種子消毒である種粃（たねもみ）の殺菌は、温湯による種子消毒であり薬剤処理を行っていない。この温湯処理は、種粃（種子）の休眠を打破することにもつながることでより催芽が促進される。このため、この種子消毒を創意工夫の一環と評価されよう。

米の食味ランキングでは、「ゆめぴりか」と「ななつぼし」が日本穀物検定協会より、最高ランクの「特 A 米」⁵³となった。「おぼろづき」や「ほしのゆめ」は A ランクであった。また、コメの販売⁵⁴が進んでいる。

このため「自信の窓」通過の確認は、外部の人、協働、経済、そしておいしい

⁵¹ ①グランドキャニオンを目指し出国 ②爾来、豪州・欧州 ③イタリアでミケランジェロ（1475-1564）の pieta（聖母子像）の一種を題材とする彫刻などに魅せられ 3 年間滞在 ④ルーヴル美術館で画家ジョルジュ・ラ・トゥールの絵画に魅かれる（『聖ヨセフ』等）⑤その後ポルトガル等滞在与と述べている（2012 年 8 月 17 日聴き取り）。

⁵² 東川米の認証表示基準の 10 か条：水稻栽培協定書を締結のうえ生産、「東川町稲作研究会水稻統一栽培基準」を遵守し生産、「東川米 GAP（栽培記録・生産工程管理）」を記帳提出、農産物検査等級銘柄品、種子更新率 100%、東川米統一包装資材使用、「生産者責任シール（顔写真）貼付」、品位基準仕分け対象、残留農薬分析試験等、JA ひがしかわ出荷。

⁵³ ほかに「ふっくりんこ」がある。

⁵⁴ コメの販売は、JA（全農）から「卸売業者や市場を通じた取引とスーパーや外食産業へ直接販売」と二通りあるが、後者の割合を「17 年度の 47% から 24 年度に 90%」（北海道 17.3.29）にするという。

コメであるため市民の支持もあり条件が満たしており、「自信の窓が開いた」ものと判断する。

参考までにコメの海外輸出に際しては、北海道米あるいは日本米(ジャポニカ種・単粒種、*Oryza sativa subsp. japonica*)としてのブランド化に向け、関係者のさらなる協働が必要であろう。

なお、平成 27 年産米の国内生産量は、7,986 千トンであり、うち 619 千トンが新潟県で、北海道は 603 千トン、秋田県が 522 千トンである。

図 5-1 は、美唄市と東川町の水稲 1,000 m²当たり収量の推移を掲載している。

4 行政サービスの事例

(1) 2008 年の「株主制度」は、後年度ふるさと納税制度の一環としているものの単なる返礼品の贈呈にとどまらず、「特別町民としてまちづくりに参加する制度」(2014-66「まちづくり自慢集」北海道町村会)と他に例が見られない斬新的なものである。

現在「8,349 人」(2016 年 3 月 31 日現在)の株主に対しイベント参加(市民との交流等)を呼び掛けている。外部者の応援者(株主)が多数であること、返礼品で市民、行政、そして企業との協働であること、経済的な面でも達成しているといえよう。

一方、多くの株主が存在するために彼らを迎えることは、非常に困難である。例えば田植などの体験イベントでは、期間もわずかしき設定できず、小区画の田んぼの確保が困難であるなど、メニューの設定が極めて難しいからである。しかしながら、植樹など一部のイベントでは市民の支持が得られているものの、「自信の窓」が開く要件に係る判断は、今後の交流の実績に委ねたい。

以降の政策内容は、地域行政を自主的かつ総合的に実施する役割の一環で行われており、企業等との戦略的協働で行う政策ではないことから、「**自信の窓が開く要件にはなじまない**ためにコメントは差し控えるものの、自信をもって策定されたものであり、参考までに掲載する。

(2) 2003 年の「幼保一元化」は、特区制度を活用したものである。いわゆる、当時の文部省所管の学校教育法に基づく幼稚園と、厚生省所管の児童福祉法に基づく保育所という組織が統合された先進的な施設である。

幼保のコースの設定は、それぞれ異なっているものの食事献立や各種行事などは全く同じという画期的なものと言えよう。なお、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和三十年法律第七十九号)等に基づき目的外使用は出来ないことから、この種の建物は、全く別な土地か隣接していてもプレハブの渡り廊下でつながるといった施設であった。近時の、幼保連携型認定こども園に係る法律は、2016 年に改正されているが、この幼保一元化も参考としたことであろうと推測される。

(3) 2011年の「匿名による不妊治療助成」(「生殖補助医療」日本生殖医学会)は、「匿名」日経(11.8.16)で治療出来るという「全国的にも充実しており……道内における自己負担分の全額助成は、東川町と豊浦町で……東川町には42組が指定病院から申請」北海(16.10.7)が上がっている。まちづくりにおける先進的な事例である。

(4) 2015年の「町立日本語学校」の開設は、1985年の東川町国際写真フェスティバルや1992年当時から始まるラトヴィア国⁵⁵と市民との草の根交流及び、その後姉妹都市を締結し交流していること、東川小学校旧校舎の有効活用策であること、町内にある旭川福祉専門学校で2010年日本語学科が開設していること、などが契機となっている。

なお、同専門学校では、1989年以降「東アジアから延べ450名」(北工学園HP)の短期日本語研修生を受け入れている。

日本語教育の分担では、専門学校が二年制を、町立日本語学校が6か月と1年の短期コースを担っている。

(参考)「2015年度全国の留学生は208,379人、うち日本語学校在籍数56,317人で大学院の41,392人より多い。……2016年の日本語学校数は568校である。日本学生支援機構の2015年度外国人留学生在籍状況調査」(日経17.3.23)

東川町では、これらの実績を基としてさらに「アジアのテレビ・映画人材育成・交流事業：FLY IN HIGASHIKAWA」(北海17.3.6)が開始され、町内がタイ国映画のロケ地等ともなっている。

5 「自信の窓」通過候補

(1) 1988年の「木彫り看板設置事業」は、商工会青年部等による、まちの景観保全と多くの人々に安らぎを与えているとともに、外部の人には現在地表示(例：西二号北五線)とあわせてわかりやすいことから、歩き回りたくなるような内容である。

看板の木彫りは、東川町が中国・東北地方等海外での指導実績があるなど氷彫刻発祥の地であり、その技術を生かしものである。東川町は5万円を補助、木材の調達には木材業者から、取り付け装置は鉄工所と協働体制である。デザインなどは、当時の西ドイツに出向き金属製看板の調査を行うとともに、外部の人の考え方も参照としているなどから、看板の内容がわかりやすく工夫されている。

市民や多くの人達から支持を得ているが、現在、約30年を経過しようとしているため、後年度に予想される更新に向けての旗振り役の選定、関係者の意向、デザイン、規格、町木カツラ材等の調達、資金面の確保等の見通しが確定し、更新

⁵⁵ 東川町と北欧のラトヴィア国との交流は、1992年にパウルズ文化大臣が来町し自作曲「マーラが与えた人生」を演奏し、それらがきっかけとなって町の若手らが同国の日本語学校に教材を贈るなどが嚆矢となっている。この大臣の原曲は、後に時のソ連が「百万本のバラ」として発売している。そして、この歌が縁となって歌手の「加藤登紀子は、東川町のPRソングを作曲し、2017年10月に同町で披露する」(日経17.5.9)予定である。

が概ね完了した時点で、判断したいと考えている。

その他の項目では、候補の全てを採り上げてはいないが、今後ますます実績が増すことによって自信の窓が通過することが期待されよう。

一方、2016年度から開始された国の地方創生拠点整備交付金(補助率 1/2)事業には、「東川町文化首都創生館整備計画が道内自治体の中では最高額で採択されている(2億 5056万円)」北海(17.2.4)。さらに、東川町は、企業版ふるさと納税⁵⁶にも認定されている。

〈参考事項〉

図 5-1 のグラフは、美唄市と東川町におけるコメの 1000 m² 当たり収量⁵⁷の推移(50 年分)を参考までに取り上げている。

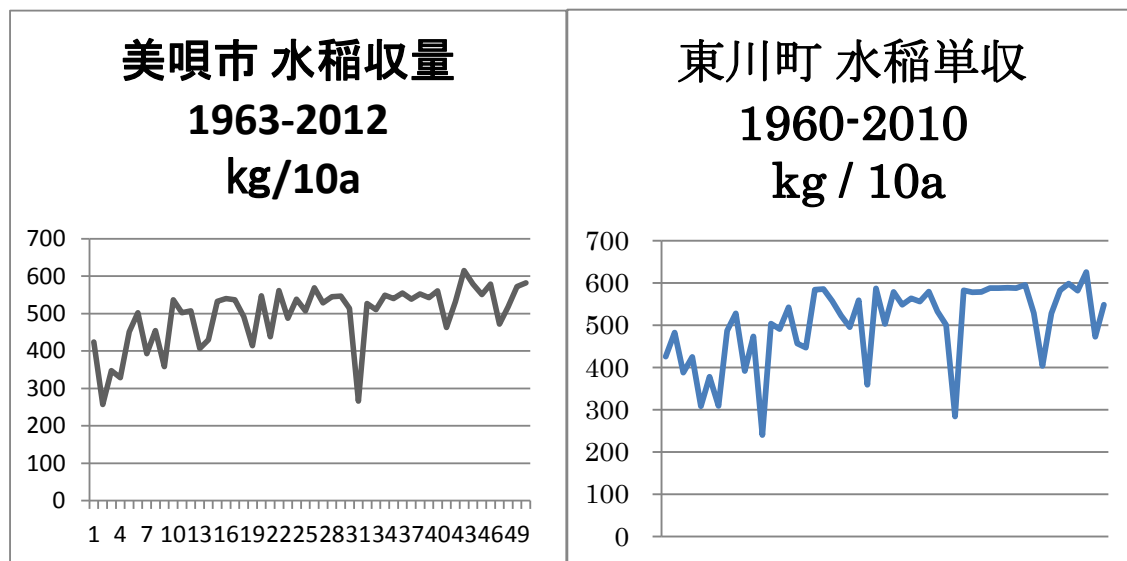


図 5-1 美唄市と東川町の水稲収量の推移

(出所：農林水産省北海道農政事務所の資料を基に筆者が作成)

参考：美唄市の標高約 16m～30m。東川町水田の標高約 180m～300m

(出所：地形図の等高線等を参照)

2017年主食米の北海道管内生産数量目標は、次の通りである。

管内別・生産目標トン・(2016年産比%) 出所：北海(16.12.21)

空知 248,589(▲2.6)、上川 149,763(0.4)、石狩 36,471(▲0.7)、後志 22,522(▲0.5)

留萌 20,670(0.8)、胆振 16,854(4.5)、檜山 16,805(▲0.2)、渡島 12,353(1.2)、

日高 6,834(▲6.1)、オホーツク 4,630(▲0.1)、十勝 52(▲4.2)、(東川町は 10.0%増)

農水省発表：最後の生産調整(減反)で全国生産目標 735万トン(▲8万トン)

⁵⁶ 内閣府の所管で、「地方創生に取り組む」東川町等に「寄付した企業が、税制上の優遇措置が受けられる」(北海 17.3.29)

⁵⁷ 尺貫法により 1958年まで反収(反 991.7355 m²)が使われていたが、計量法に基づき 10a(10アール=1,000 m²)に変更され、単収とも称されている。

第3節 美術館のまち美唄

「美術館によるまちづくり」は、「安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄条例」(平成4年6月30日条例第21号)を制定した1992年から進めており、その後新たに開始された政策について果たして「自信の窓」を通過したのかどうかを検証する。

美唄市は、1963年閉山の三井石炭鉱業や1972年閉山の三菱炭礦⁵⁸などによる炭坑が操業するという炭都であった。その当時石炭が「黒いダイヤモンド」といわれていたが、現在は、無尽蔵にあり厄介物の「雪」を資源として利用することで、まさに「白いダイヤモンド」に取って代わられた観がある。

これは、美術館によるまちづくりにより「協働」の経験から、多くの人たちとの交流によつてもたらされたものと言えよう。

1 利雪のまちづくり

美唄市の西部は、平坦な地形であることから日本海の湿った空気がシベリア大陸からの季節風によって雪を大量に降らせ「降雪量が717cm」(平成26年気象庁)に及ぶ豪雪地帯であり、市民の多くはこの雪を諦観的に捉えていた。

一方、美唄市の基幹産業は、国のエネルギー政策の転換によって石炭産業の撤退後、北海道内で「第四位(2013年産)の水稻作付面積4.340ヘクタールとコメ生産量が25,200トン」(美唄市)と水稻栽培を主体とした農業となっている。

このようなことから水田に関わる歴史的な施設等は、かんがい(irrigation)用の貯水池が溜池発祥の地(1886年造成)とされていること、1924年～28年造成の北海幹線用水路(美土里ネットほっかい)が北海道遺産等に指定されていること、そして、泥炭(peat)地改良のため1955年には、索道(さくどう、tramway)客土や軌道客土などが行われている。

最近の全国のコメ作付面積は、1970年から始まったコメの生産調整(減反)等により1969年の317万ヘクタールから2016年の147.8万ヘクタールと超半減している。一方生産量は、イネの品種改良や土地改良そして栽培技術の飛躍的な向上などから単位当たりの生産量が増加し1967年の1,420万トンから「2016年の804万トン」(農林水産省)と-43.6%にとどまっている。このことは、常に良質な食味を保持していなければ主食用米に向けての流通が困難となりその結果、価格の安い加工用米とならざるを得ないというコメ生産者にとっては厳しい内容である。

特にイネの登熟期における気温の昼夜の日較差は、平野部の美唄市が9.2℃⁵⁹で(8月の最高気温と最低気温の各平均値の差)あり、中山間の東川町が10.1℃であ

⁵⁸ 三菱石炭鉱業の美唄鉱業所が合理化により1965年に美唄炭礦(株)に1971年には三菱大夕張炭礦に吸収合併し翌年に閉山している。

⁵⁹ 八月最低気温平均値:美唄 17.2℃、東川 15.8℃。(c.f.魚沼最低気温 19.8℃差 10.4℃)

る(気象庁資料)。「食味」(全国農業改良普及支援協会等)においては、日中の高温で光合成が活発になり養分を蓄積させ、夜間の低温で呼吸(代謝)が抑制されて養分の消耗が抑えられるために食味が増すということから、日格差が大きい方がうまいコメとなる。なお、うまいコメの条件は、品種、栽培技術、貯蔵とされていることから、コメの保管中における品質の劣化防止に特化して挽回策を講じることが生産者である市民やJAびばいにとっての喫緊の課題であった。物理的には、電力利用による低温貯蔵によって解決されることであるが、コストに跳ね返り生産者の手取り減と消費者にとって食味の良さとともに値ごろ感のあるコメ以外は買い控えが生ずるため電力のみに依存することが躊躇されるのである。

このような事情により1990年後半には、雪冷熱の代替エネルギーとしての可能性が外部者によってもたらされ、1996年に「雪クラスター構想」(徳田拓也2011-77)を掲げた井坂紘一郎が市長に当選する。

このため翌年には、美唄エネルギー研究会(産学官)が発足するとともに、1999年には美唄市農協が雪冷房のコメ貯蔵の実用化に向けた実証実験を開始している。そして翌2000年に自己資金で雪貯蔵3,600トン規模にも及ぶ雪冷房による流通米の貯蔵庫「雪蔵工房」を企業の技術的な支援を得ながら建設している。

流通米の供給は、出庫時に外気との温度差を段階的にあげるなどで、コメの品質(風味)を保ちながら需要に応じて「雪蔵米」のブランド名で「おぼろづき」や「ななつぼし」を出荷している、

このように厄介者であった雪が、「戦後日本の高度経済成長を支えた」(北海17.1.29)黒いダイヤ(石炭)に替わる「白いダイヤへと発想が転換」(金子幸江2006-8-9)され、新エネルギー源に加わるとともに、省エネルギーや二酸化炭素排出量の低減化にも貢献している。

これらのことから、環境問題を「地球的規模で考え、地方で行動(Think globally, Act locally.)」(2002年環境白書)した事例といえよう。

本件の利雪という新技術を導入したきっかけは、売れるコメづくりへの熱意はもちろんであるが、美唄出身で彫刻家安田侃の手による白い大理石彫刻「炭山の碑」(1985年)の建立、旧炭住街に隣接する旧栄小学校に彫刻美術館が設置(1992年)されており、NPO法人びばいが指定管理者制度で管理を受託するなど、セクターを越えて資源を持ち寄りながら成し遂げたという自信が好影響を及ぼしているのである。

いいかえると、協働の経験によって自分たちの課題は、自分たちで解決するとの思いが醸成されたともいえよう。

(1)「雪冷房マンション」

現在、美唄市の利雪による冷房は、市営の福祉施設等でありマンションでは 1 例だけである。このように盛り上がらないのは、電力料金が kW あたり 32 円(アンペア 50、北海道電力)と約 7%の再エネ賦課金程度で賄えるからでもある。

しかしながら、今後電力料金の高騰は避けることが出来ないであろう。このため、原子力発電や、火力発電(石炭、LNG、石油)とともに、再生可能エネルギー(水力、風力、太陽光、バイオマス・木質系)に頼らざるを得ず、負担軽減策も必要とすることから、たとえ微小であって利雪(雪氷)による冷房もその一つとして位置付けが必要である。ちなみに、政府試算の発電コスト⁶⁰(kW あたり円)は、注記のとおりである。

利雪に関するノウハウは、次に示す関係者の資源を持ち寄った協働で開発されたものである

「市民」：美唄自然エネルギー研究会、NPO 法人利雪技術協会、一般社団法人日本機械学会、日本雪工学会、公益財団法人雪だるま財団。美唄市農協の組合員、美唄商工会議所参加の商店

「行政」：美唄市(経済部産業振興課)、北海道空知総合振興局、経済産業省北海道経済産業局、国土交通省北海道開発局、NEDO 新エネルギー産業技術総合開発機構北海道支部、独立行政法人土木研究所、国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所。

「企業」：(有)永桶、(有)ヤスマル設計事務所、(有)新栄合田建設、(株)大有、(株)雪屋媚山商店⁶¹、美唄市農業協同組合及び同氷室貯蔵研究所、伊藤組土建 Snow Cooling System 研究会、美唄商工会議所、美唄新産業創造研究会、美唄建設業協会、美唄建設事業協同組合等「22 社」(北海道 2012-19)である。

雪冷房マンションは、地上 6 階 24 戸建の「ウエストパレス」という名称で、冬期間に駐車場で除排雪した雪を夏期まで貯雪庫に 100 トン保存し、雪解けの冷水を循環させて冷房⁶²するシステムである。冷房に要する費用は、エアコンの電気料金に比べ約三分の一という。冬期間の熱源は灯油焚きにより同じダクトから戸別に供給している。

居住スペースと賃貸料金は、2LDK~62.7 m²と 69.3 m²の二種類で 59~65 千円という。

なお、美唄自然エネルギー研究会が、平成 14 年に資源エネルギー庁長官賞を受

⁶⁰ 原子力 10.1 円、水力 11.0、火力・石炭 12.3、火力・LNG13.7、風力・陸上 21.3、メガソーラー24.2、バイオマス・木質系 29.7、火力・石油 30.6。(北海 17.4.20)

⁶¹ 雪屋媚山商店の本社は、美唄市に移転(北海 15.2.13)している。

⁶² (財)北海道地域技術振興センター(現ノーステック(財))がビジネスプラン推進モデル事業により雪冷房部分の工事費の 3 分の 2 にあたる 2000 万円を補助(国交省)。

賞している。一方、参考までに述べると、当マンションの誕生は、雪クラスター構想を掲げた井坂紘一郎市長によるところが大きいのである。

さて、「自信の窓」を通過したか否かについては、外部の人の見解を十分に聞くとともに、美唄自然エネルギー研究会を立ち上げて再生可能エネルギーの利用について十分な検討を重ねていること、多くの協働により資源を持ち寄っていること、貯雪庫の設置には初期投資を必要とするが、暖房用の熱風循環装置が冷房と兼用であること、賃貸料や住み心地に対する不満は聞かれなかったことから概ね入居者の支持が得られているものと考えられる。

一方、雪冷房に関する波及効果は、介護施設などの公共施設では見られたものの、集合住宅における取り組みは見られなかった。とはいえ、新技術を協働による慎重な吟味の末導入にこぎつけたことを評価したいと考える。

以上のことから経済的な面を達成するとともに、市民の支持も得られたことなどから、「自信の窓が開いた」施策といえよう。

(2)雪蔵米(2000年)

次に、雪蔵米が「自信の窓」を通過したのかどうかについて検証を行う。

空知管内の美唄市で栽培されるイネの品種は、国や北海道⁶³により開発された「おぼろづき」や「ななつぼし」であり、米生産者が栽培し、JAびばいは美唄市と営農や経営指導を行うとともに、雪冷房を活用した農産物の低温貯蔵雪氷熱の利用設備を導入し、低温貯蔵農業施設雪蔵工房で「雪蔵米」として室温5℃、湿度70%で貯蔵している。このため、品質の劣化は、大幅に減少し食味が維持されることなどから消費者などから大いに支持されているとともにJAびばいは有利な条件で米穀卸商等に販売している。

なお、雪蔵工房のランニングコストは、従来の5℃保存の電力料金を100とした場合は、雪冷房が68と少なくなっている(JAびばい市営農部2000年実績)。

なお、雪冷蔵による品質管理は、雪蔵米のブランド化としての付加価値を高めたことで大いに期待されよう。

したがって外部者による提案も生かされるとともに、稲作農家においても減農薬栽培に努めていること、すでに述べた通り役割を分担しながら協働で進められていること、経済面においてもコメの貯蔵等が低コスト化となっていること、食味についても市民の支持を得られていることなどから、雪蔵米は「自信の窓が開いた」と判断される。

なお、国交省の資料によると、データセンター事業に係る冷房設備の稼働時間は、美唄が東京の57%に圧縮することが可能(4541時間が2567時間に)という。

⁶³ 「おぼろづき」は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センターが開発し2006年に品種登録(種苗法)。「ななつぼし」は、地方独立行政法人北海道立総合研究機構北海道中央農業試験場が開発し2004年品種登録された。

2 行政サービスの事例

(1) 飼料用米の栽培

北海道農業研究センター(国)が開発した飼料用米の品種「たちじょうぶ」(北海 15,4,26)の栽培が、JAびばいの組合員により 2014 年から始められているとともに、地方独立行政法人北海道立総合研究機構北海道中央農業試験場岩見沢試験地(北海道)が「2011 年から開発を進めてきた……新品種「そらゆたか」が 2016 年から道内で作付け」(北海 17.3.2)されているために、2016 年北海道内における飼料用米の作付面積が 2,770ha となっている。特に、「そらゆたか」は直播栽培⁶⁴に向いており、主食米品種よりも 1~2 割の増収が見込めるといふ。

飼料用米栽培における最大の利点は、非常時に主食用米に転換できること、牛乳やバターなどの乳製品、牛肉・豚肉・鶏肉、鶏卵などを生産する飼料が外国産のトウモロコシなどの穀物に大きく依存しているが、飼料用米で軽減が期待されること。さらに、美唄市(茶志内地区)においては、「国営農地再編整備事業」(北海道開発局資料)が約十年かけて(2012 年~2023 年)JAびばいや美唄市そして水士里ネットほっかいの営農支援を受け、国営事業で開始されている。

このため、水田の区画整理等においては、地力の高い表土を作土層に戻す「表土扱い(surfase soil handling)」(社団法人農業土木学会 1966-84)の工法が採られているため、イネの根群に吸収されずに残った肥料成分が造成直後の土壌に集積されこの結果、イネが多く窒素成分を吸収することで、コメのタンパク質が増え「数値が低いほどおいしいとされるタンパク質含有率が高くなりやすく、主食用米の栽培には向かない」(北海 15.4.26)。すなわち土壌の窒素(nitrogen)含有率が多くなることで、コメのタンパク含有率も高くなりデンプン質のアミロースが増えてばさついて粘りが少なくなり食味が劣る。したがって、過剰な肥料成分を減少せしめるためには、造成直後の作付けにおいては「飼料米の栽培」がクリーニングクロープとしての役割を果たすことで土壌の浄化が促進されるのである。

なお、水田を畑地にした場合のデメリットは、作物が水分を求めるために深耕せざるを得ず、その結果耕盤すなわち犁床(plowsole)が破壊され湛水(たんすい、ponding)が出来ず水田への再利用が困難となることである。

一方、そもそも飼料用イネの栽培が増加した理由は、育苗後移植する田植を経ないで省力的な直播(ちよくはん)ができることと、安定的な補助金が支給されるために、作付面積が増加したのであって、国政の変更によっては補助金⁶⁵の支給が廃止される場合もある。この場合には、飼料用米より 10 倍の取引価格とされる主食用米の品種に置き換わることが予想されることから、

⁶⁴ 直播栽培とは、田植(苗移植)栽培ではなく種もみ(種子)を直接田(乾田又は水田)に播種する栽培法で、乾田のは種では、主にグレーンドリル grain drill で施肥播種をしている。

⁶⁵ 関税が原資の場合は、国内や海外の情勢により関税率が大きく変動する場合もある。

経済面では不安定であり、自信の窓が開く要件を満たすとはいえない。

(2) 受動喫煙防止条例

美唄市の当条例は、平成 27 年 12 月 11 日に公布し、28 年 7 月 1 日から施行され、「道内自治体で初となる条例で……市内 600 カ所の施設が分煙や禁煙などの対策が求められる」(北海 16.7.1)内容である。この条例を制定するに至った背景には、炭鉱などの坑内等作業に従事し「じん肺」に苦しんでいた多くの人たちの「きれいな空気を胸いっぱい吸い込みたい」(作家・安田侃による「じん肺の碑」制作時の構想)や美唄市医師会(井門明医師会長兼 NPO 法人アルテピアッツァびばい理事)による受動喫煙による健康被害の啓発そして、市民らの願いが、他ではやられていない条例をあえて美唄市の役割と自信をもって制定されている。

なお、「都道府県では神奈川、兵庫」(北海 17.1.3)が制定されているが、今後の経過を見守っていきたい。

この政策は、地域行政を自主的かつ総合的に実施する役割の一環で行われており、企業等との戦略的協働で行う案件ではないことから、**自信の窓が開く要件に該当しない**ためにコメントは差し控えるが、自信をもって制定されたものであるため、参考までに掲載している。

3 その他

(1) ふゆみずたんぼ

宮島沼水鳥・湿地センター⁶⁶は、ラムサール条約湿地の保全を通じて自然や農業との触れ合いの場として、美唄市が 2007 年に設置している。

宮島沼には、「コハクチョウ⁶⁷が最大 7 千羽、マガンが 7 万羽」(湿地センター資料)が飛来する渡り鳥の中継地点である。

渡り鳥の主なルートは、10～12 月にかけて①カムチャッカ半島から北海道経由で東北に飛来し越冬する群れ。②サハリンと極東ロシア方面から北海道を経由して東北で越冬する群れ。③中国東北部方面から本州の日本海沿岸で越冬する群れ。④朝鮮半島近辺から山陰方面に飛来する群れ(北海 16.12.29 を参照)などであり、本州の越冬地においては群れの混在が見られるようでもある。2～5 月にかけては、逆ルートで戻るといふ。

⁶⁶ 牛山克己が担当している(北海 15.2.13)

⁶⁷ コハクチョウ *Cygnus columbianus* (Tundra swan)、マガン *Anser albifrons* (Pacific white-fronted goose)

「ふゆみずたんぼ」とは、宮島沼周辺の水田の中から次の目的を達成するために、イネの収穫直後から田に水を張り湿地の乾燥を防止する、淡水魚の泥鰌(どじょう、loach)などを繁殖させ、コハクチョウなどのエサとして供給する、過密状態の沼から水鳥を水田に誘引する、沼の水を水田に引き入れ糞によって富栄養化された湖水を浄化せしめるなどであるが、たんぼには化学肥料や除草剤は一切使用していない。

この趣旨に賛同し「ふゆみずたんぼ」として提供された水田のコメの収穫量は、肥料を施用しないことから本来必要とされる養分が不足し、斉一性のある登熟が進まず青米が増え減収となること、無農薬栽培のため人手により反復して田の草取り(除草)を必要とすることなどから協力者に対し何らかの形で補てんをする必要がある。

このため、宮島沼水鳥・湿地センターの牛山専門員は、美唄市のSファームや、宮城県大崎市のH.S農家、そして石川県加賀市のI.Y農家らと「ふゆみずたんぼ」(湿地センター資料)に取り組んでおり、収穫された3地域のコメを2kgずつ計6キロをこの取り組みに賛同する人たちに、4千円と送料で購入してもらい無肥料等に伴う低収益の農家などへの補てん策として市民主導で取り組んでいる。

なお、平成27年12月1日の美唄市のプレスリリースによれば、湿地の文化として当たんぼの稲わらによるしめ縄作りの講習会開催を呼び掛けている。

当事業は、環境保護とりわけ湿地保全の上からも意義が高く崇高な取り組みと言えようが、行政は役務を等しく提供することを旨とするため個別案件との協働が困難となるため、自信の窓が開く条件にはなじまない内容となっている。

今後は、企業や篤志家等の賛同を得ることが望まれよう。

第3節 演劇のまち富良野

富良野市では、1970年代に北の峰スキー場⁶⁸の開設、国土計画の堤義明による北の峰プリンスホテルの開業、ワールドカップ(スキー)フラノ大会の開催、ふらのワインの新発売等と観光地としての地歩を徐々に固めつつあった。1980年代には、作家倉本聰による「北の国から」のテレビ放送が契機となって、同市の知名度を一気に押し上げて、聖地巡礼などで多くの観光客が来るようになった。

さらに、富良野チーズ工場の設立や新富良野プリンスホテルの開業等があげられる。

先の作家は、1984年に脚本家や役者養成を目的として富良野塾を開設しているが、その後、卒塾生や市民による演劇等を発表する専属の場が必要と熱心な市民団体の要請を富良野市が受け入れ、富良野演劇工場という劇場を設置した。これが契機となり「演劇のまち富良野」が開始されている。

その後2007年には、市の中心街区における病院⁶⁹の跡地(77ha)利用が課題であった。その当時のまちの状況は、さきの演劇工場を始め主要なホテルなどがまちの郊外に分散していることから、一般市民の受け止め方は、利便性や、除雪などから疑問を持たれていたような状況であった。

一方、多くのまちでは、中心市街地のシャッターが閉ざされたままの状況から中心市街地の空洞化が問題視されていた。このような状況にあって、富良野市民の有志が病院跡地に対して「こんなだだっ広い土地を放置しておくなんて勿体ない、利用を考えよう」との一言が発端となって紆余曲折を経て「まちづくり三法」⁷⁰の一つであり1998年に施行された「中心市街地活性化法」による事業の活用が俎上に乗ることとなったのである。その当時は、一般の観光客が「新鮮なメロンをお土産にしたいのだが、どこで買えばいいの？ トイレは？」といった利用施設が分散しているという不便な状況でもあった。

そこでまちづくりの発起人となったメンバーは、当時、企業の経営者でNPO法人ふらの演劇工場の役員が呼びかけ人となって、多くの経営者を擁する富良野商工会議所らのメンバーが中心となって始められ、2003年の1月には、ふらのまちづくり(株)を次の出資者⁷¹を募り設立している。

ふらのまちづくり会社の目的は、「都市開発に関する企画・調整、設計及びコンサルティング事業や、施設の管理運営、各種イベントの企画、運営及び受託に関する業務など、まちづくりに関わる公共性の高い事業を主たる業務として事業展

⁶⁸ 現・富良野スキー場：1972年に西武グループのプリンスホテルが営業を譲り受ける。

⁶⁹ 北海道社会事業協会富良野病院

⁷⁰ ほかに都市計画法(1998年)や大規模小売店舗立地法(2000年)である。

⁷¹ 商店街団体、民間団体、商工会議所、金融機関3行、富良野市、JAふらの市等59名。

開し、富良野市の中心市街地の活性化に寄与すること」(会社資料)である。

1 フラノマルシェ

そして、中心市街地活性化基本計画(案)の構想を練ることから始められ、紆余曲折の末「フラノマルシェ」構想が確定し基本計画の策定に向けて多くの人たちとの協議が始まるのである。

設置に向けての構想段階では、先行する演劇⁷²によるまちづくりが各セクターの協働により成功を収めた経験から、自信を付けるとともに協働の参加者が「開かれた対話」(斎藤環 2015-19)を重ねている。設計に当たっては、市民の意向を重視するとともに、常に使い勝手の良さを念頭に置き、地元経済界や多くの市民の意向も取り入れながら進めている。それは、以前行われた富良野「駅前再開発事業が、行政主導から硬直的な内容であった」(元田 2009: 130)などの事情を踏まえ計画変更に際しても柔軟に対応するとともに諸手続きの迅速化に努めた模様である。

その後、「フラノマルシェ」は、富良野市中心市街地活性化基本計画として、2008年9月に経済産業省の「パイロット事業(TMO⁷³の支援)の認定」(西本 154)を受けている。

第一期工事は、カフェ、パン・スイーツ、「ふらのメロン」などの農産物直売所、富良野物産センター、アイスクリームなど店舗5カ所、イベント広場、駐車場として2010年4月に完成している。結果、2014年7月までの来館者数は、300万人を達成している。

第二期工事の「フラノマルシェ2」は、「中心市街地における市街地の整備改善及び商業等の活性化の一体的推進に関する法律(平成10年6月3日法律第92号)に係る事業に応募し、おにぎりなどを販売するおしゃれな店舗が11カ所、たまり場、冬期間に市民が交流できる空間のアトリウム等々であり、2015年6月に完成している。その結果、マルシェ2に隣接する幸町7-28の商業地基準地価(2015年)は、北海道の一部を除く都市部の多くが下落する中であって、「前年度より5.1%の増の41千円」(北海 15.9.22)と高騰するのである。

さて、フラノマルシェにおける「自信の窓」を通過如何に関しては、大学⁷⁴や観光客などいわゆる外部の意見も受け入れていること、多くの市民やスイカなどの農産物生産者や、富良野市(行政)や金融機関等を含む多くの団体を巻き込んで立ち上げていること、経済面においても、食に関する売り上げや物産の販売面でも好調であること、来館者が300万人を達成するなどから、自信の窓が開く条件をすべて満たしており「自信の窓が開いた」と断定する。

⁷² NPO法人ふらの演劇工房には、西本伸顕や森田武らが理事長に就任していた。

⁷³ Town Management Organization

⁷⁴ 「東大の堀(繁)教授」(西本 2013-85-87)、(景観工学等)。

2 行政サービスの事例

小水力発電所

富良野市麓郷地区にある麓郷小中学校の職員室の電力は、富良野市が水利権を持つ石狩川水系富良野川支流の白鳥川に由来する小水力発電所が賄っている。

この発電所は、富良野地域小水力発電普及協議会が、2016年3月に環境省の支援を受けて建設されている。

発電施設は、水車の直径が2.25m、羽根が16枚、出力1.9kWというまさにテレビドラマの「北の国から」で放映されたセットのようなものでもある。。

富良野地域小水力発電普及協議会は、発電施設を「富良野市に寄贈し……管理を市民が担っている」（北海 16.12.1）。発電施設の役割は、発電試験、環境学習、普及啓蒙という。

「自信の窓」が開くか否かについては、山間地であり送電網がないという立地条件から経済面では有利であること、再生可能エネルギーの利用から市民の支持も得られていること、観光資源として外部の考え方も聞き入れていることなどが見られるものの、冬期間の凍結が厳しい地帯であるために、設備や保守に関してさらに企業の技術力等の知見が必要とされようが、マーケットの規模が乏しいことから企業の参入が見込めない「企業参加がゼロ」（北海道 2012-28）の状況である。このため本件は、行政サービスの範疇と捉えている。

まとめ

「改訂版・協働の窓モデル」に基づいて抽出された政策は、次の通りである。

「自信の窓」が開いたプロジェクトは、地域の基幹産業そのものに関わる内容が多く含まれていた。第 1 に写真のまち東川では、「君の椅子」、「水道普及率ゼロのまちづくり」、そして、地域団体商標で認証された「東川米」であった。第 2 に美術館のまち美唄では、「利雪のまちづくり」であり、具体的な内容は「雪冷房マンション」と雪の冷氣利用によりコメの品質を維持する「雪蔵米」であった。第 3 に演劇のまち富良野では、富良野メロンなどを直売する「フラノマルシェ」であった。

3 市町それぞれに共通するのは、地域に賦存する地下水や雪、コメや農産物の生産、貯蔵、流通(加工、販売)そして木工製造などの技術といった地域が強みとする資源であった。

このことは、新たに政策の策定に際してトリクルダウン的な効果を期待するのではなく、地域資源という自前の水源地的な効果「**fountain effect**」(神野 2008-141)を優先すべきという考え方とも符合している。ひるがえって、3 市町以外の地域においても、地元の資源に対する再評価や分析を進めることで新たに取り組むべき政策も見えてくるのではないかと考えられる。

これらのことから、今回、新たに工夫した改訂版・協働の窓モデルは分析枠組みとして有効であると措定される。

他方で、「自信の窓」が開かなかった政策は、あえて 3 つの異なるセクターによる協働で推進するという性質のものではなく、そもそも行政サービスの一環として位置付けられるもの、または位置付けざるを得ない政策であった。このため、「自信の窓」による分析がすべての政策に該当するものではないという事も判明したこととなる。

しかしながら、人口減少等の危機的な諸問題や、厳しい財政状況を鑑みれば、可能なものは出来る限り市民や企業との協働により資源を補いながら、(法令に抵触しない範囲で)なりふり構わず柔軟な発想で事に当たらざるを得ないと措定される。

さらに、例えていえば地方創生に関する新事業の採択などにあっては、国会の動きによって、年度末に差し詰まって予算化される状況もみられることから、申請の機会を逃さないためにある程度の予想をつけて事前準備をすることが必要となる。それは、役所内部的には担当者、あるいは担当部局の周到な「事前準備」のことであるが、より重要なのは政府・企業・NPO といったセクター間の壁を超える十分な協働・協力関係が、「予算化」の前に醸成されていることに他ならない。「自信の窓」は開くに際して先行する、入念な自信を得るプロセスが不可欠なのである。

おわりに

今回、プロジェクトが成し遂げられた要因としては、次の点も挙げられよう。

(1) 過疎や辺地そして自然公園の指定は、二市町間に共通するなど自然条件には恵まれているものの、「文化芸術の東京一極集中が続く中」(北海 16.12.9)にあって文化活動には遠い存在であったものの、取り組んでいることが注目される。

(2) 本稿で取り上げた各市町における文化活動開始の契機は、次の通りUターン者や移住者そして企画会社などいわゆる外部者の提案等が大きく影響している。

写真文化を採り上げた東川町は、町内に昭和の記録を伝えるとされる写真愛好家がいたものの、写真の町の宣言と、そもそも中央で開催される写真フェスティバルをあえて導入したのは企画会社の提案を参考としている。

校舎再利用の美術館によるまちづくりを始めた美唄市は、炭鉱の記憶保存等の必要性があったことに加え、イタリアで修業し世界的に活躍する美唄市出身の安田侃の存在、そして市内外の市民による強力な応援が大きく影響している。

演劇活動によるまちづくりを手掛ける富良野市は、首都圏から移住しテレビドラマ「北の国から」の作家倉本聰により統制された役者や脚本家、そして、演劇活動を熱心に応援している転入者や市内外のファンなどである。

(3) 市民参加の多さは、市民と企業等とが互いに顔の見える近さであったこと、地方公務員と市民という「二足の草鞋」(田尾 2015-179)を履いている者の参加などから、濃密的なコミュニケーションであったことがあげられる。

(4) ボランティア活動が活発であったのは、小規模的な市町であるために全員参加を余儀なくされていたこと、市民が選ぶ表彰の設定や市民演劇などのように市民を巻き込んでいたことが市民のやる気を醸成させたものと言えよう。

(5) 文化活動に当たっては、外部者の提案や見解に対して排除や無視することなく前向きに取り組んでいる。

(6) イベントの開催では、第1に写真によるまちづくりの東川が行政主導とはいえ、あくまでも町の枠を超えて多くの市民の提案を採り入れるなどから、多くの支持を得ていること。第2に校舎再利用の美術館によるまちづくりの美唄並びに、第3の演劇活動によるまちづくりの富良野は、NPO法人の主導ではあるものの、ボランティアという市民力や行政そして企業との協働が大きな役割を果たしていること等があげられる。

(7) 各イベントに対する地元の反応は、各市町とも外部の評価によって大きな影響を受けている。例えば、第1に写真によるまちづくりでは、全国の高校(中高一

貫校も含む)や高等養護学校の写真部などを対象とした「写真甲子園」への予選参加校の増加、写真家を対象としている「東川国際写真フェス」などに対する国内外関係者の反響、さらにこれらに対するマスコミ露出の多さ。第 2 に美術館によるまちづくりでは、天皇皇后両陛下の行幸啓(2003)や毎年開かれる盆踊りなどの行事がエネルギー政策の転換によって転出を余儀なくされた市民の里帰りや帰省客にとっての望郷と癒しの場に対する評価によって。第 3 に演劇によるまちづくりでは、テレビドラマに対するロケ地巡礼など観光客の多さ、演劇工場という小劇場の使用を「プロの演劇人だけの使用ではなく、市民に開放されていることが理解」(編集工房 NODE 2004-89)されたこと。さらにそれぞれのまちなどが、文化庁などや各種団体の表彰を受賞するなどでまちの知名度が日増しに増すことに安堵感や好感をいただいていることが挙げられる。

(8) 文化活動と市民とのかかわりは、さきのボランティアの参加のみならず第 1 に東川では、ホームステイによる交流や写真少年団の活躍。第 2 に美唄では、野外音楽会などのイベントや落ち葉ひろいなどの交流を通じて。第 3 に富良野では、演劇などのワークショップや、演劇リハビリそして、小中学生や市民演劇などの交流を通じてである。

(9) 「北海道文化振興条例」(平成 6 年北海道条例第 31 号、6.3.31 公布)94 年や「文化芸術振興基本法」(平成 13 年 12 月 4 日法律第 148 号)2001 年が文化活動を安定的なものとしていることもあげられる。

(10) 首長による支援について、写真の町では二代目の町長が写真イベントを止めると公約し当選しているものの、市民や北海道並びに中央そして写真関係団体の意向と、特に市民団体等の「今やめるという確たる理由がない」との答申などから継続している。美術館や演劇についても市民の活動や歴代首長や地元経済界等の支援により継続を果たしている。

(11) 北海道内の NPO 法人 1166 団体に勤務する職員の給与は、15 万円未満が 34%、「15 万円から 20 万円未満が 41%」(北海 16.11.5)とされる。このため、美唄市と富良野市における NPO 法人の職員は、地方公務員対比で高いとは言えないが文化活動等を「次世代に(伝えたい)との思いを抱いている」(北海 15.7.6)。

一方、私見ではあるが近時の消費生活においては、現在の給与水準に対して厳しい面があるため、NPO 法人が社会的企業化などへの移行によって、人件費等の上積みや、役員に対しても専らボランティア活動だけではなく、せめてもの交通費の支給程度は必要と考える。したがって、認定 NPO 法人制度における要件の緩和策等が望まれる。

要件の緩和とは、例えば、コンサートに対し NPO 法人が入場料を徴収している

ことから認定要件には該当せず、あくまでも、多くの支援会員がいることが認定NPO法人への認可要件であるとするならば、それは再考の余地があるということである。

例えば、300席で2千円の入場料を徴収した場合の総額は60万円である、年間10回の開催であれば600万円となり地方公務員の年収⁷⁵に相当する場合もある。

一方、支援会員100名以上が認定要件という事であるならば、個人の年会費が3千円の場合100名で年間30万円に過ぎないのである。

ちなみに総務省の平成26年「地方公務員給与の実態」によれば、全国の市域における一般行政職(平均年齢42.5歳)の場合は、各種手当を含み324,410円であり、北海道の義務教育を担う教育職の平均給与月額は、392,838円(平均年齢43.2歳)である(北海道教育委員会、平成27年4月1日現在)。

(12) 最後に、さきの平成の大合併に際しては、「先人の開拓時の労苦を思えば(合併しなかったことによる)地方交付税の減額くらいは耐えられる」という気概を市民は保持していたようであるが、この考え方は次世代にも伝えていってほしいと願っている。それはもはや国の補助金などを過度に依存することが出来ないからである。

⁷⁵ 「栃木県佐野市607万円(平均年齢43.7歳)」(東洋経済)

【参考文献】

- 彩草じん子 (2005) 『安田侃、魂の彫刻家』集英社～28p.若者定住促進、校舎整備
美唄市史編纂委員会 (1970) 『美唄市史』
藤田紘一郎 (2010) 『水と体の健康学』ソフトバンク クリエイトィブ(株)～90参考資料
富良野市市史編纂委員会 (1994) 『富良野市史』～46 山部町と合併
Gary R. VandenBos ファンデンボス (監訳者: 繁樹等男、四本裕子、2013) 『APA心理学大辞典』self-confidence
東川町 (2010) 『町制施行50周年記念史 きずな』(株)ぎょうせい～14 君の椅子
北海道 (2005) 『北海道功労賞 受賞に輝く人々』平成17年～47 市民
北海道新聞社 (2002) 『アルテピアッツァ美唄: 安田侃の芸術広場』「炭山の碑」坑夫達は散りぢりに山を去った
神野直彦 (2008) 「グローバル下の地域開発を考える」北海道学術大学開発研究所『五十年史』～81 研究結果の概要
加藤知美 (2014) 『北海道の元気! NPO訪問』公益社団法人北海道地方自治研究所～32 元気再生
金子幸江 (2006) 「北海道、エネルギー新時代」北海道開発協会～白いダイヤへ発想の転換
久米淳之 (2014) 『安田侃一天にむすび、地をつなぐ』～25 堂田、栄小学校62人
久米淳之、中村聖司、北嶋晃子 編集 (2003) 『安田侃の世界一天にむすび、地をつなぐ』～30 サポーター786名
小島廣光 (2002) 「改訂・政策の窓モデルによるNPO立法過程の分析」北海道大学
小島廣光 (2003) 『政策形成とNPO法』～改訂・政策の窓モデル
小島廣光 (2009) [NPOと勤労者OB] 札幌学院大学論集・紀要～47 NPO法人国内第1号
小島廣光・平本健太編 (2011) 『戦略的協働の本質—NPO、政府、企業の価値創造』有斐閣～第1章
執筆者: 後藤祐一、畑山 紀、大原昌明、相原基大、菅原浩信、横山恵子、樽見弘紀と編者
圓山彬雄 (2006) 環境と建築(第4回)「また来ます。心のふるさと」『開発こうほう』2006.2 第211号～29 村野藤吾、34
松岡市郎 2012 『三つの道がない…』「町村週報」7月16日 全国町村会～3
松下勝秀、五十嵐八枝子、梅田安治 (1985) 「石狩泥炭地の生成とその変貌」地下資源調査所報告 第57号～28p.
宮川公男 (1995) 『政策科学入門』東洋経済新報社～ゴミ箱モデル
Moretti, Michael. (2008) 「安田侃、その根源的なもの」『KAN YASUDA』～29 天モク
守屋貴司 (2011) 「北海道東川町の地域活性化のための地域マネジメントに関する研究—」
『立命館経営学』第49巻第5号～14 変革、挑戦ほか
元田結花 (2009) 「地方自治体の持続可能性に関するアクターの問題構造認識: 北海道富良野を事例として」
共著者 工藤康彦、城山英明、加藤浩徳、辻 直行『社会技術研究論文集』Vol.6, 124-146～46北の国沈静化、86
西本伸頭 (2013) 『フラノマルシェの奇跡—小さな街に200万人を呼び込んだ商店街のオヤジたち—』
Nonaka and Takeuchi (1995) "The Knowledge-Creating Company"
(梅本勝博 訳 (1996) 『知識創造企業』SECIモデル
鬼塚幹雄 (1991) 「写真の町から—写真文化に力を注ぐ北海道東川町—」『新聞研究』(483)～13 やめるべき32.9%
Putnam, Robert.D. (2000) "Bowling alone: The collapse and revival of American community"
(柴内康文 訳 (2006) 『孤独なボウリング—米国コミュニティの崩壊と再生』 89 犯罪との関係
齊藤勇 (2013) 「思いのままに人をあやつる心理学大全」自信を持つことで能力は最大限に発揮
齊藤眞 (1976) 「世界現代史32 アメリカ現代史」1920年のアメリカ国民出身別表
斎藤環 (2015) 「オープンダイアログとは何か」開かれた対話
社農業土木学会 (1966) 『改訂三版農業土木標準用語事典』～85 トラクタショベル、表土扱い
タック編 (2005) 『「またきます。安田侃の彫刻広場 アツテピアッツァ美唄」求竜堂～30 天皇 守ってくださいね
立木義浩監修 (2014) 写真の町実行委員会編『写真甲子園—20年の軌跡』北海道新聞社～12 何が写真の町だ
玉村雅敏 (2013) 『地域を変えるミュージアム』栄治出版～13 倒産
徳田拓也 (2011) 「利雪事業の導入条件とはなにか」『冷熱エネルギーによるまちづくりの現状と課題』北海道教育大学
旭川校 社会学研究室調査報告6. 角一典編～井坂市長の「雪クラスター構想
樽見弘紀 (2007) 「非営利セクターとその資金調達」『変容する世界と法律・政治・文化』北海道学術大学～第4章 寄付
樽見弘紀ほか (2003) 『市民と行政が一緒に創る芸術文化政策—いま我々の手中にある道具—』
北海道自治政策研修センター政策研究室
田尾雅夫 (2015) 『公共マネジメント—組織論で読み解く地方公務員—』二足の草鞋
山内栄治ら (2004) 「生誕百年記念 更科源蔵作詞校歌集」
勇崎哲史 (2002) 「特集はくの日記帳は、カメラだった。」『自然と文化』68 昭和の記録

雑誌、官公庁資料、インターネット検索等関係資料

旭川駅 (mameno.blog.so-net.jp/)
アシュランド視察(2005) NPO法人ふらの演劇工房 (www.furano.ne.jp/engeki/pdf.down/ashland2005.pdf)
アルテ便り2008.2.27 新日曜美術館
文化庁(2014) 劇場・音楽堂等活性化事業
文化庁(2015) 劇場・音楽堂等活性化事業
ブランド総研(2006) 環境に優しいまち
美唄市議会会議録(2004.6.14:86) 35,000人來館
美唄市(住民情報サイト) 保存年限を99年
『チビスロウ』(2012:20) 継続/写真
『チビスロウ』(2012:18) ホームステイ
富良野イベントカレンダー 第5回ふらの演劇祭
ふらの演劇工房資料 市民劇団へそ家族
富良野市議会(2008) 演劇工場に係る条例の全部改正
富良野市(2014) 定住自立圏 (www.city.furano.hokkaido.jp/bunya/teijuu-jirituken/
富良野市(2014) 農畜産物生産状況
富良野市資料 250万人
ふらのまちづくり株式会社 www.furano.ne.jp/furano-machi/ 出資者と受賞歴
FIELDS (2013) 日本財団 文化庁の演劇鑑賞事業
FIELDS (2013) 日本財団 (http://fields.canpan.info/organization/detail/1320794819) 小劇場建設
浜辺啓 (2006) 「生き生きと輝く未来をとらえた「写真の町」」『電気のみつと』電源地域ニュース 9 Vol.5
一般財団法人電源地域振興センター 写真甲子園としている
ひがしかわ広報(8.10) 大阪工芸高校修学旅行
ひがしかわ広報 (2012・4) 希望の君の椅子
ひがしかわ広報 (2012・7) 塩素が含まず退色しない
ひがしかわ広報 (2014・3) 東アジア文化連盟
ひがしかわ広報 (2015・5) プロの写真家五名が移住
広島町広報(1982・9・15) 〈新生〉79年ジョルジョの工房で製作
編集工房NODE (2004) 「NPOが北海道を変えた一道州制と 市民自治へのチャレンジ」
北海道 (2001) 「アイヌ語地名リスト」 フラヌイ
北海道 (2006) 都市計画課 景観行政団体
北海道 (2010) (H22) 文化選奨 www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/bns/senshow/22senshow.htm
北海道 (2012) 「地域新エネルギー導入プロジェクト加速化事業 地域における民間主導による取り組み調査実施報告書」
北海道 (2014) (H26～H31) 認定NPO法人(北海道所管)2014.2.10～2019.2.9
北海道開発局(2000)第3章活用事例集 (www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_jigyoku/sinko/mn152o3.pdf)
北海道警察本部(2010～2014)人口1万に当たりの刑法犯認知件数
北海道町村会 (2014) 『まちづくり自慢集』
石巻市議報告(2012.10.25) 石森市雄市議会議員
一般社団法人地域創造(15号) バジエロ (www.jafra.or.jp/library/magazine/015/)
JAひがしかわ『大雪清流てっぺんだより』(2013) No.478 ,500 (2015.3)東川米
経済産業省(2015) 中心市街地活性化室・平成27年3月19日 マルシェ
国交省 平成25年度再生可能エネルギーの活用による地域活性化に関する調査事例集平成26年3月 国土政策局 雪冷房
国勢調査
宮内庁、行幸啓
Latvija(2006.3.15) 第4号日本ラトビア音楽協会ニュース 6/1～18 海外作家展・東京
水土里ネットほっかい (2008) 北海土地改良区 北海幹線用水路
mameno.blog.so-net.ne.jp/2011-11-23-1 旭川駅・天秘
Manchester Evening News (1996.8.5) エリザベス女王
メロディ・美唄市広報誌(2005・6) 設立準備会
メロディ・美唄市広報誌(2015.7) 高橋幹夫市長

メロディ・美唄市広報誌(2016.5) 安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄
 文科省(2005) 文化審議会文化政策部会報告(平成17年2月3日) 地域文化で日本を元気にしよう！
 NIKKEI BUSINESS(2012.12.10:124) 写甲2,700万円 うち850万円
 NPO法人資料・びばい 法学部カフェ
 農林水産省北海道農政事務所 水稲収量の推移
 内閣府(2003) 犯罪との関係、(2008) 中心市街地
 日本創成会議資料 2040年
 ポポロだより(2015・4) 村野藤吾賞
 ポポロだより(2016・4) クリスティーズ社
 佐藤友哉(1990)「北の彫刻の現在」札幌学院大学人文学部編『北海道の現代芸術＝公開講座北海道文化論一』洞爺湖
 空知の炭鉱関連施設等 (www.hokkaidoisan.org/heritage/010.html)
 空知総合振興局 (2015) そらち『炭鉱(やま)の記憶』ガイドマニュアル(美唄市版)
 (www.sorachi.pref.hokkaido.lg.jp/ts/tss/guidebibai6.pdf) 炭鉱の閉山
 写真の町ひがしかわ通信Vol.28,29,30,31,号外, 協賛
 the bazaar 2004 富良野高校→修学旅行でふりょうの高校の皆さん
 安田侃 (2014)「欧米諸国の彫刻と市民の関わり」第10回北広島文化連盟研修会3月14日
 横道清孝「日本における市町村合併の進展」政策研究大学院大学
 全国公立文化施設協会 初期の受託額
 全国公立文化施設協会 倉本とフランチャイズ契約

新聞各紙

朝日新聞	2010・4・5	「谷は眠っていた」
朝日新聞	2013・10・10	北海道文化賞・作家
朝日新聞	2015・10・19	へそ家族、身体表現Aの授業
朝日新聞	2016・1・12	演出はやめる
北海道新聞	1985・5・27 夕刊	写真の町宣言
北海道新聞	1989・11・1 夕刊	木彫り看板、五万円補助
北海道新聞	1991・6・2	投資効果
北海道新聞	1994・9・27	観光入込客、不満
北海道新聞	1994・10・24 夕刊	石ステージ
北海道新聞	1994・12・15	ジョルジョ
北海道新聞	1996・11・14	空知版・水の広場
北海道新聞	1998・4・29	S.T.老人会長
北海道新聞	1998・5・23	空知版・友の会
北海道新聞	2001・3・28 夕刊	エリザベス女王
北海道新聞	2002・7・3	飛翔
北海道新聞	2002・7・7	飛弾野
北海道新聞	2002・7・31	新生
北海道新聞	2003・5・8	380万円着服
北海道新聞	2003・7・2	イタリアからの作品輸送費が不足800万円、市民主体の寄付(サポーター会議議長 圓山彬雄)
北海道新聞	2003・7・3 夕刊	行幸啓
北海道新聞	2003・8・1	写真甲子園同窓会
北海道新聞	2003・8・18	協賛金
北海道新聞	2004・7・24	旭川版・企画委員を増員28名に
北海道新聞	2004・12・16 夕刊	全国アートNPOフォーラム
北海道新聞	2005・2・17 夕刊	アルテで写真甲子園の写真展
北海道新聞	2005・3・30	空知版・寄附金230万円、整備基金
北海道新聞	2005・4・2	アルテNPO法人設立
北海道新聞	2005・4・15	磯田
北海道新聞	2005・8・10	ファームギャラリー
北海道新聞	2005・10・26	落ち葉ひろい
北海道新聞	2005・11・18	施設の公募
北海道新聞	2006・5・1	滝本宣博
北海道新聞	2007・5・15 夕刊	漫画
北海道新聞	2007・6・12	旭川版・教科書
北海道新聞	2007・7・12 夕刊	UHB

北海道新聞	2007	・ 11	・ 7	旭川版・ボランティア
北海道新聞	2007	・ 11	・ 12 夕刊	食事ボランティア
北海道新聞	2008	・ 4	・ 23	インタープリター
北海道新聞	2008	・ 6	・ 18	UHB
北海道新聞	2008	・ 7	・ 24	旭川版・町民を巻き込む
北海道新聞	2008	・ 10	・ 18	旭川版・OG/OB
北海道新聞	2009	・ 3	・ 12	旭川版（勤地域活性化センター(https://www.jcrd.jp/)
北海道新聞	2009	・ 7	・ 4	空知版・三万人
北海道新聞	2009	・ 10	・ 7	空知版・未来奨励賞
北海道新聞	2009	・ 10	・ 17	空知版・磯田
北海道新聞	2010	・ 1	・ 6	空知版・総務大臣賞
北海道新聞	2010	・ 3	・ 24	文化庁表彰
北海道新聞	2010	・ 3	・ 25	旭川版・長沢
北海道新聞	2010	・ 6	・ 14	空知版・加藤知美
北海道新聞	2010	・ 7	・ 25	小岩
北海道新聞	2010	・ 7	・ 26	アマナホールディングス
北海道新聞	2010	・ 11	・ 3	江原道
北海道新聞	2011	・ 4	・ 21	東日本大震災カメラなど無償提供
北海道新聞	2011	・ 5	・ 22	旭川版・学芸員
北海道新聞	2011	・ 6	・ 23	地下水保全
北海道新聞	2011	・ 11	・ 24	旭川駅市民の寄付で
北海道新聞	2012	・ 6	・ 19	文化庁イニシアチブ
北海道新聞	2012	・ 7	・ 25 夕刊	茶畑和昭、森本毅
北海道新聞	2012	・ 11	・ 18	根室版・キッズ甲子園
北海道新聞	2013	・ 2	・ 19	北海道地域文化選奨
北海道新聞	2013	・ 4	・ 28	閉校、回生
北海道新聞	2013	・ 5	・ 28	旭川版・少年団
北海道新聞	2013	・ 7	・ 26	空知版・武田真美江
北海道新聞	2013	・ 8	・ 10	高橋はるみ知事
北海道新聞	2013	・ 9	・ 14	栄小学校
北海道新聞	2013	・ 11	・ 20	空知版・旭川駅周辺の清掃
北海道新聞	2013	・ 12	・ 25	高島屋
北海道新聞	2013	・ 12	・ 25	移住気分を味わうツアー
北海道新聞	2013	・ 12	・ 26	空知版・道民税控除の指定NPO法人13.11～18.12
北海道新聞	2014	・ 1	・ 8	少年団
北海道新聞	2014	・ 4	・ 14 夕刊	能登再選
北海道新聞	2014	・ 5	・ 14	521校初戦応募
北海道新聞	2014	・ 9	・ 25	沖縄タイムス
北海道新聞	2014	・ 11	・ 21	文化庁表彰
北海道新聞	2015	・ 2	・ 13	雪屋
北海道新聞	2015	・ 4	・ 26	タンパク含有率が高く、湿地センター
北海道新聞	2015	・ 6	・ 5	ふらの観光協会
北海道新聞	2015	・ 7	・ 6	「次世代に(伝えたいとの)思いを抱いている」
北海道新聞	2015	・ 8	・ 10	旭川版・高校生国際交流
北海道新聞	2015	・ 9	・ 17	基準地価2015年
北海道新聞	2015	・ 9	・ 22	フラノマルシェ近隣基準地価5.1%増
北海道新聞	2015	・ 10	・ 10	君の椅子千脚
北海道新聞	2015	・ 10	・ 14	君の椅子515脚
北海道新聞	2015	・ 10	・ 28	受動喫煙防止条例
北海道新聞	2015	・ 11	・ 3	北島三郎表彰
北海道新聞	2016	・ 4	・ 4	クリスティーズ社
北海道新聞	2016	・ 5	・ 10	ごみの埋め立て処分でメロン等に野獣被害が80年代
北海道新聞	2016	・ 7	・ 1	道内自治体で初となる受動喫煙防止条例
北海道新聞	2016	・ 7	・ 10	シンガポールへ水を輸出
北海道新聞	2016	・ 7	・ 27	527校が応募、ブロック別審査会を公開審査に変更

北海道新聞	2016・7・31	写真甲子園2016 優勝校島根・大田
北海道新聞	2016・10・7	不妊治療費42組が産科医から代理申請
北海道新聞	2016・11・5	米誌「ナショナルジオグラフィック」の旅行写真家コンテストで1位。道内NPO法人数1166団体。
北海道新聞	2016・12・1	小水力発電
北海道新聞	2016・12・5	写真甲子園は、「人を繋ぐ器」
北海道新聞	2016・12・9	分化芸術の東京一極集中
北海道新聞	2016・12・21	2017年産の主食用米の生産数量目標
北海道新聞	2016・12・29	渡り鳥ルート
北海道新聞	2017・1・3	受動喫煙防止条例
北海道新聞	2017・1・20	富良野塾二期生の山下澄人が芥川賞に
北海道新聞	2017・1・25	「16～17世紀英国演劇」シェイクスピア
北海道新聞	2017・1・29	戦後日本の高度経済成長を支えた石炭
北海道新聞	2017・2・4	地方創生拠点整備交付金 文化首都創生館が採択
北海道新聞	2017・2・18	美幌町の演劇集団タカトや大空町の劇団そら
北海道新聞	2017・3・2	道内の飼料用米作付け面積2,770ha、「そらゆたか」
北海道新聞	2017・3・6	アジアのテレビ・映画人材育成・交流事業、東川でタイの映画ロケ
北海道新聞	2017・3・29	企業版ふるさと納税。コメ販売における市場等を通さずにスーパー等へ直販割合拡大へ
北海道新聞	2017・4・20	発電コスト
北海道新聞	2017・5・1	第33回 写真の町東川賞 7月29日に表彰
日刊富良野	2000・4・13	工場は象徴的な殿堂(2000年)、日刊富良野新聞
日本経済新聞	2011・8・16	不妊治療健保適用外全額匿名助成
日本経済新聞	2014・6・6	写真文化首都宣言
日本経済新聞	2015・8・19	大衆の目線で
日本経済新聞	2017・3・23	日本語学校在籍数 56,317人、法務省(入国管理局)所管
日本経済新聞	2017・5・9	加藤登紀子、百万本のバラ (原曲は、マーラが与えた人生)
産経新聞	2010・3・29	教師にコミュニケーション能力を育成
読売新聞	1999・1・1	基本財産として3,000万円集める必要がある
読売新聞	1999・4・21	空市版・札幌駅妙夢
読売新聞	1999・5・10	市民が支える広場
読売新聞	2010・5・30	美唄のアートは我らが守る

参考資料

都道府県別面積 (2014年10月1日現在) 参考資料 表 1

都道府県	km ²	面積順 ①	km ²
北海	83,424.22	北海	83,424.22
青森	9,645.40	岩手	15,275.01
岩手	15,275.01	福島	13,783.75
宮城	7,282.14	長野	13,561.56
秋田	11,637.54	新潟	12,584.10
山形	9,323.15	秋田	11,637.54
福島	13,783.75	岐阜	10,621.29
茨城	6,096.93	青森	9,645.40
栃木	6,408.09	山形	9,323.15
群馬	6,362.28	鹿児島	9,188.10
埼玉	3,797.75	広島	8,479.38
千葉	5,157.64	兵庫	8,400.90
東京	2,190.90	静岡	7,778.70
神奈川	2,415.81	宮崎	7,735.31
新潟	12,584.10	熊本	7,409.32
富山	4,247.61	宮城	7,282.14
石川	4,186.15	岡山	7,114.62
福井	4,190.43	高知	7,103.91
山梨	4,464.99	島根	6,708.23
長野	13,561.56	栃木	6,408.09
岐阜	10,621.29	群馬	6,362.28
静岡	7,778.70	大分	6,340.61
愛知	5,172.40	山口	6,112.30
三重	5,774.39	茨城	6,096.93
滋賀	4,017.38	三重	5,774.39
京都	4,612.20	愛媛	5,676.10
大阪	1,904.99	愛知	5,172.40
兵庫	8,400.90	千葉	5,157.64
奈良	3,690.94	福岡	4,986.40
和歌山	4,724.68	和歌山	4,724.68
鳥取	3,507.05	京都	4,612.20
島根	6,708.23	山梨	4,464.99
岡山	7,114.62	富山	4,247.61
広島	8,479.38	福井	4,190.43
山口	6,112.30	石川	4,186.15
徳島	4,146.93	徳島	4,146.93
香川	1,876.73	長崎	4,132.32
愛媛	5,676.10	滋賀	4,017.38
高知	7,103.91	埼玉	3,797.75
福岡	4,986.40	奈良	3,690.94
佐賀	2,440.64	鳥取	3,507.05
長崎	4,132.32	佐賀	2,440.64
熊本	7,409.32	神奈川	2,415.81
大分	6,340.61	沖縄	2,281.00
宮崎	7,735.31	東京	2,190.90
鹿児島	9,188.10	大阪	1,904.99
沖縄	2,281.00	香川	1,876.73
	377,972.27		377,972.27

左①に同じ	km ²
愛媛	5,676.10
愛知	5,172.40
千葉	5,157.64
福岡	4,986.40
和歌山	4,724.68
京都	4,612.20
山梨	4,464.99
富山	4,247.61
福井	4,190.43
石川	4,186.15
徳島	4,146.93
長崎	4,132.32
滋賀	4,017.38
埼玉	3,797.75
奈良	3,690.94
鳥取	3,507.05
佐賀	2,440.64
神奈川	2,415.81
沖縄	2,281.00
東京	2,190.90
大阪	1,904.99
香川	1,876.73
	83,821.04

東川町国際写真フェスティバル2016年大会の主催等 参考資料 表 2

主催：東川町写真の町実行委員会（東川町、東川町観光協会、東川町農業協同組合、東川町商工会他）

後援：外務省、環境省、北海道開発局、北海道、北海道教育委員会、旭川市、公益社団法人日本写真協会、公益社団法人日本写真家協会、公益社団法人日本広告写真家協会、一般社団法人日本写真文化協会、日本旅行写真家協会、全日本写真連盟、日本写真家連盟、公益社団法人北海道観光振興機構、北海道新聞社、毎日新聞社、朝日新聞北海道支社、読売新聞北海道支社、日本経済新聞旭川支局、NHK旭川放送局、STV札幌テレビ放送、HTB北海道テレビ、UHB北海道文化放送、テレビ北海道、AIR-G' エフエム北海道、FM・ノースウェーブ、

協賛：エプソン販売株式会社、キャノンマーケティングジャパン株式会社、株式会社シグマ、株式会社ニコン、株式会社ニコンイメージングジャパン、富士フイルムイメージングシステム株式会社、サンディスク株式会社、株式会社コスモスインターナショナル、一般社団法人日本写真映像用品工業会、一般社団法人日本カメラ財団、ソニー株式会社、ソニーマーケティング株式会社、株式会社ビックカメラ、株式会社大雪水資源保全センター、ハッセルブラッド・ジャパン株式会社、マンフロット株式会社、株式会社モンベル、株式会社堀内カラー、TOKYO INSTITUTE OF PHOTOGRAPHY

三市町の平成26年度決算状況・(千円) 表 3

	東川町	美瑛市	富良野市
財政力指数	0.27	0.24	0.32
公債費負担比率	14.5	20.2	11.9
実質公債費比率	9.8	19.0	8.3
将来負担比率	67.4	181.1	54.6
積立金残高	2,259,454	991,795	2,466,785
地方債現在高	11,019,081	17,836,428	12,272,545
経常収支比率	79.3	96.9	90.7
うち人件費	17.8	24.1	25.8
うち公債費	19.4	24.3	13.2
公営事業等への繰出			
病院		842,496	
下水道	46,213	676,975	312,457
簡易水道	32,661		55,474
上水道		109,480	54,545
工業用水		21,005	
国民健康保険	136,421	343,987	245,343

人口(平成28.1.1現在)	8,105	23,390	22,975	人
うち外国人	188	47	141	人
人口増減率 注)1	2.84	-9.32	-3.89	%
同上 注)2	14.27	-27.55	-9.17	%
高齢化率(平成27.1.1)	31.4	37.1	29.4	%
合計特殊出生率 注)3	1.43	1.19	1.44	%
社会増減率 注)4	1.00	-1.02	-0.89	%

出所：北海道市町村ランキング、注)1～2010～2015年の人口増減率

注)2～1995～2015 同上

注)3～平成20～24年厚労省(ベイズ推定)

注)4～平成28.1.1現在、住民基本台帳北海道市町村別人口動態

写真甲子園の特別協賛等

参考資料 表 4

年(西暦)	94	95	96	97	98	99	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
〈主催〉																				
写真甲子園実行委員会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東川町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
美瑛町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上富良野町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東神楽町																		—	—	—
旭川市																		—	—	—
東川町写真の町実行委員会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
北海道新聞社	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全国新聞社事業協議会																		—	—	—
〈後援〉																				
文部省・文部科学省(2001年以降)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
北海道	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
北海道教育委員会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全国高等学校文化連盟	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
北海道高等学校文化連盟	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
北海道町村会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(財)北海道市町村振興協会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
はまなす財団	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(財)北海道地域総合開発機構														—	—					
(財)北海道文化財団		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日本郵政公社北海道支社												—	—	—						
全国新聞社事業協議会																		—	—	—
共同通信社																		—	—	—
NHK																		—	—	—
〈特別協賛〉																				
キヤノン(株)						—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
キヤノン販売(株)						—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
キヤノンマーケティングジャパン(株)																—	—	—	—	—
富士写真フイルム(株)						—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
富士フイルムイメージングシステムズ(株)																—	—	—	—	—
東芝北海道支社															—	—	—	—	—	—
〈協賛〉																				
キヤノン(株)		—	—	—	—															
キヤノン販売(株)	—	—	—	—	—															
富士写真フイルム(株)	—																			
富士フイルムイメージングシステムズ(株)																—	—			
コダック合同会社		—	—	—	—															
北海道情報処理専門学校				—																
北海道理工福祉専門学校					—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
北海道環境福祉専門学校																—	—	—	—	—
旭川福祉専門学校					—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
北海道録画センターオーラスネット				—	—	—	—													
北海道録画センターオーラス研究所								—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(株)わかさいも本舗					—	—	—	—												
(株)造形美術								—	—											
NTT東日本(株)旭川支店										—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
NTTドコモ北海道旭川支店																—	—	—	—	—

年(西暦)	94	95	96	97	98	99	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
東芝ソリューション(株)										—	—									
東芝ソリューション(株)北海道支社												—								
岩田飲料									—											
サントリーフーズ(株)											—									
北海道コカ・コーラボトリング(株)												—	—	—	—					
レキサー・メディア マイクロン ジャパン(株)												—	—	—	—	—	—	—	—	—
HJK(株)												—	—	—						
(株)カナモト														—						
ワカサリゾート(株) 旭岳事業部														—						—
花本建設(株)														—	—					
(株)スタート・ラボ																—				
宝塚大学																				—
東京工芸大学芸術学部写真学科																				—
東京総合写真専門学校																				—
日本大学芸術学部写真学科																				—
ビジュアルアーツ専門学校大阪																				—
サンディスク(株)																				—
(株)近畿日本ツーリスト北海道																				—
九州産業大学																				—
日本写真芸術専門学校																				—
(株)モンベル																				—
(株)ローソン																				—
〈協力〉																				
(株)朝日新聞出版	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(株)モーターマガジン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(株)学研パブリッシングCAPA	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(株)玄光社	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(株)日本カメラ社	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(株)日本写真企画								—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(株)キタムラ														—	—	—	—	—	—	—
(株)インプレスジャパン デジタルカメラ マガジン																	—	—	—	—
北海道コカ・コーラボトリング(株)																	—	—	—	—
(株)NTTドコモ北海道支社旭川支店																	—	—	—	—
HJK(株)																	—	—	—	—
花本建設(株)																	—	—	—	—
一般社団法人日本写真映像用品工業会																	—	—	—	—
富士フィルムイメージングシステム(株)																	—	—	—	—
(株)スタート・ラボ																	—	—	—	—
〈特別協力〉																				
全日本空輸(株)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(株)日本エアシステム				—	—															
〈助成〉																				
(株)ニトリ																—				

出所:『写真甲子園』(2014:.118-119、238-239)を基に筆者が表に加工
(一部の企業は、現社名とした)

写真甲子園本戦出場校と順位

参考資料 表 5

年	回	応募校	順位	ブロック	受賞校 ①	年	回	応募校	順位	ブロック	受賞校 ②
1994	1	163	1	四国	愛光	1996	3	144	3	東北	青森南
1995	2	146	1	北海道	函館白百合学園	1996	3	144	3	近畿	大阪市立工芸
1996	3	144	1	近畿 大阪	大手前(定時制)	1996	3	144	3	中部・東海	日大三島
1997	4	181	1	関東 東京	学芸大附属大泉	1997	4	181	3	四国	愛光
1998	5	185	1	東北	盛岡北	1997	4	181	3	北海道	北星学園余市
1999	6	188	1	中部・東海	新潟十日町総合	1997	4	181	3	中国	鳥取聾学校
2000	7	177	1	北海道	札幌厚別	1998	5	185	3	九州・沖縄	沖縄北山
2001	8	214	1	東北	横手	1998	5	185	3	九州・沖縄	福岡宇美商業
2002	9	197	1	東北	青森南	1998	5	185	3	近畿	大阪市立工芸
2003	10	227	1	九州・沖縄	沖縄真和志	1999	6	188	3	中国	広島三和
2004	11	217	1	東北	青森南	1999	6	188	3	近畿	大阪市立工芸
2005	12	201	1	北海道	旭川工業	1999	6	188	3	北海道	札幌静修
2006	13	224	1	九州・沖縄	沖縄真和志	2000	7	177	3	四国	大洲農業
2007	14	242	1	九州・沖縄	沖縄真和志	2000	7	177	3	中国	広島三和
2008	15	252	1	中部・東海	柏崎常盤	2000	7	177	3	中部・東海	新潟十日町総合
2009	16	331	1	九州・沖縄	沖縄南部工業	2001	8	214	3	四国	大洲農業
2010	17	377	1	九州・沖縄	沖縄南部工業	2001	8	214	3	近畿	小野工業
2011	18	403	1	近畿	大阪成城	2001	8	214	3	中部・東海	甲陵
2012	19	454	1	九州・沖縄	浦添工業	2002	9	197	3	近畿	三重上野
2013	20	522	1	関東	埼玉栄	2002	9	197	3	九州・沖縄	八代白百合学園
2014	21	521	1	中部・東海	津島東	2002	9	197	3	近畿	大阪市立工芸
1994	1	163	2	九州・沖縄	筑紫台	2003	10	227	3	関東	埼玉栄
1995	2	146	2	四国	大洲農業	2003	10	227	3	近畿	初芝
1996	3	144	2	北海道	函館白百合学園	2003	10	227	3	関東	埼玉大井
1997	4	181	2	近畿	大阪市立工芸	2004	11	217	3	中国	広島庄原格致
1998	5	185	2	北海道	札幌北	2004	11	217	3	近畿	大阪市立工芸
1999	6	188	2	九州・沖縄	八代白百合学園	2004	11	217	3	近畿	兵庫香寺
2000	7	177	2	近畿	大阪市立工芸	2005	12	201	3	中部・東海	新潟十日町総合
2001	8	214	2	近畿	大阪市立工芸	2005	12	201	3	近畿	大阪市立工芸
2002	9	197	2	中国	鳥取聾学校	2005	12	201	3	九州・沖縄	沖縄真和志
2003	10	227	2	九州・沖縄	八代白百合学園	2006	13	224	3	近畿	淀川工業
2004	11	217	2	九州・沖縄	沖縄真和志	2006	13	224	3	関東	埼玉栄
2005	12	201	2	東北	盛岡北	2006	13	224	3	四国	丸亀
2006	13	224	2	東北	青森南	2007	14	242	3	関東	栃木工業
2007	14	242	2	中国	広島庄原格致	2007	14	242	3	北海道	旭川工業
2008	15	252	2	近畿	大阪市立工芸	2007	14	242	3	四国	善通寺西
2009	16	331	2	九州・沖縄	沖縄真和志	2008	15	252	3	北海道	帯広南商業
2010	17	377	2	近畿	大阪成城	2008	15	252	3	関東	栃木工業
2011	18	403	2	九州・沖縄	沖縄南部工業	2008	15	252	3	関東	正則
2012	19	454	2	九州・沖縄	西南学院	2009	16	331	3	関東	栃木工業
2013	20	522	2	九州・沖縄	浦添工業	2009	16	331	3	中部・東海	新潟十日町総合
2014	21	521	2	関東	埼玉栄	2009	16	331	3	関東	埼玉栄
1994	1	163	3	中国	松江工業	2009	16	331	3	近畿	大阪信愛女学院
1994	1	163	3	中部・東海	中越	2009	16	331	3	東北	宮城柴田農林
1994	1	163	3	中部・東海	日大三島	2010	17	377	3	東北	宮城柴田農林
1995	2	146	3	近畿	市川	2010	17	377	3	九州・沖縄	八代白百合学園
1995	2	146	3	九州・沖縄	筑紫台	2010	17	377	3	関東	大宮北
1995	2	146	3	中部・東海	大垣工業	2010	17	377	3	北海道	帯広南商業

年	回	応募校	順位	ブロック	受賞校 ③	年	回	応募校	順位	ブロック	受賞校 ④
2010	17	377	3	関東	栃木工業	1998	5	185	4	中部・東海	大垣工業
2011	18	403	3	九州・沖縄	八代白百合学園	1998	5	185	4	中部・東海	中越
2011	18	403	3	関東	群馬大間々	1998	5	185	4	関東	笠間
2011	18	403	3	関東	正則	1998	5	185	4	関東	鶴見
2011	18	403	3	関東	栃木工業	1998	5	185	4	近畿	海星
2011	18	403	3	四国	坂出	1998	5	185	4	中国	玉野光南
2012	19	454	3	中部・東海	伊東城ヶ崎分校	1998	5	185	4	四国	今治東
2012	19	454	3	四国	坂出	1999	6	188	4	四国	香川土庄
2012	19	454	3	近畿	関西学院高等部	1999	6	188	4	東北	横手
2012	19	454	3	関東	新島学園	1999	6	188	4	関東	川崎総合科学
2012	19	454	3	中国	広島庄原格致	1999	6	188	4	関東	三浦
2013	20	522	3	中部・東海	富山東	1999	6	188	4	中部・東海	新潟村松
2013	20	522	3	近畿	大阪市立工芸	1999	6	188	4	近畿	小野工業
2013	20	522	3	北海道	岩見沢高等養護学校	1999	6	188	4	九州・沖縄	沖縄真和志
2013	20	522	3	近畿	伊丹西	2000	7	177	4	関東	笠間
2013	20	522	3	北海道	帯広南商業	2000	7	177	4	関東	三浦
2014	21	521	3	九州・沖縄	浦添工業	2000	7	177	4	東北	酒田商業
2014	21	521	3	四国	坂出	2000	7	177	4	東北	青森南
2014	21	521	3	東北	石巻女子	2000	7	177	4	関東	宇都宮白楊
2014	21	521	3	関東	芸術総合	2000	7	177	4	中部・東海	岐阜
2014	21	521	3	北海道	江別	2000	7	177	4	近畿	小野工業
1994	1	163	4	近畿	メリノール女子学院	2000	7	177	4	九州・沖縄	熊本東稜
1994	1	163	4	近畿	大阪市立工芸	2000	7	177	4	九州・沖縄	沖縄真和志
1994	1	163	4	北海道	函館白百合学園	2001	8	214	4	北海道	旭川凌雲
1994	1	163	4	東北	磐城女子	2001	8	214	4	東北	青森大畑
1994	1	163	4	九州・沖縄	東福岡	2001	8	214	4	関東	牛久栄進
1994	1	163	4	関東	宇都宮白楊	2001	8	214	4	関東	埼玉栄
1994	1	163	4	関東	足利工大附属	2001	8	214	4	関東	千葉成東
1995	2	146	4	中部・東海	新潟明訓	2001	8	214	4	中部・東海	新潟村松
1995	2	146	4	関東	千葉天羽	2001	8	214	4	中国	広島庄原格致
1995	2	146	4	中国	山口西京	2001	8	214	4	九州・沖縄	八代白百合学園
1995	2	146	4	東北	青森工業	2001	8	214	4	九州・沖縄	那覇工業
1995	2	146	4	九州・沖縄	八代白百合学園	2002	9	197	4	北海道	北星学園余市
1995	2	146	4	関東	足利工大附属	2002	9	197	4	東北	宮城泉松陵
1995	2	146	4	近畿	兵庫星陵	2002	9	197	4	関東	栃木農業
1996	3	144	4	関東	宇都宮白楊	2002	9	197	4	関東	川崎総合科学
1996	3	144	4	中国	広島三和	2002	9	197	4	関東	三浦
1996	3	144	4	関東	鶴見	2002	9	197	4	中部・東海	甲陵
1996	3	144	4	九州・沖縄	筑紫台	2002	9	197	4	中部・東海	大垣工業
1996	3	144	4	四国	愛媛上浮穴	2002	9	197	4	四国	松山西
1996	3	144	4	中部・東海	中越	2002	9	197	4	九州・沖縄	沖縄真和志
1996	3	144	4	九州・沖縄	福岡築上西	2003	10	227	4	北海道	旭川工業
1997	4	181	4	九州・沖縄	福岡築上西	2003	10	227	4	東北	宮城気仙沼向洋
1997	4	181	4	関東	成田	2003	10	227	4	東北	横手
1997	4	181	4	九州・沖縄	沖縄豊見城	2003	10	227	4	関東	栃木農業
1997	4	181	4	東北	青森南	2003	10	227	4	中部・東海	新潟十日町総合
1997	4	181	4	中部・東海	中越	2003	10	227	4	中部・東海	大垣工業
1997	4	181	4	中部・東海	豊川	2003	10	227	4	近畿	三重上野
1997	4	181	4	近畿	綾部	2003	10	227	4	中国	広島三次

年	回	応募校	順位	ブロック	受賞校 ⑤	年	回	応募校	順位	ブロック	受賞校 ⑥
2003	10	227	4	四国	大洲農業	2009	16	331	4	関東	柏南
2004	11	217	4	北海道	旭川工業	2009	16	331	4	関東	明星学園
2004	11	217	4	東北	大館	2009	16	331	4	中部・東海	東濃フロンティア
2004	11	217	4	関東	埼玉栄	2009	16	331	4	中部・東海	伊東城ヶ崎分校
2004	11	217	4	関東	千葉黎明	2009	16	331	4	近畿	大阪市立工芸
2004	11	217	4	関東	和光	2009	16	331	4	中国	松江南
2004	11	217	4	中部・東海	新潟十日町総合	2009	16	331	4	四国	坂出商業
2004	11	217	4	中部・東海	聖霊	2009	16	331	4	四国	伊予農業
2004	11	217	4	四国	坂出	2010	17	377	4	北海道	旭川実業
2004	11	217	4	九州・沖縄	浦添工業	2010	17	377	4	東北	盛岡中央
2005	12	201	4	東北	横手	2010	17	377	4	関東	柏南
2005	12	201	4	関東	埼玉栄	2010	17	377	4	関東	正則
2005	12	201	4	関東	和光	2010	17	377	4	中部・東海	富山東
2005	12	201	4	関東	東京光丘	2010	17	377	4	中部・東海	小牧南
2005	12	201	4	中部・東海	土岐商業	2010	17	377	4	中部・東海	津島東
2005	12	201	4	近畿	兵庫香寺	2010	17	377	4	近畿	姫路飾磨
2005	12	201	4	中国	玉野光南	2010	17	377	4	中国	出雲西
2005	12	201	4	四国	愛光	2010	17	377	4	中国	山口下松
2005	12	201	4	九州・沖縄	那覇工業	2010	17	377	4	四国	北宇和
2006	13	224	4	北海道	帯広南商業	2011	18	403	4	北海道	帯広南商業
2006	13	224	4	東北	横手	2011	18	403	4	北海道	旭川工業
2006	13	224	4	関東	埼玉大井	2011	18	403	4	東北	盛岡中央
2006	13	224	4	関東	柏南	2011	18	403	4	東北	石巻女子
2006	13	224	4	中部・東海	新潟十日町総合	2011	18	403	4	東北	石巻好文館
2006	13	224	4	中部・東海	岐阜成徳学園大附属	2011	18	403	4	東北	宮城柴田農林
2006	13	224	4	近畿	兵庫香寺	2011	18	403	4	関東	明星学園
2006	13	224	4	中国	松江農林	2011	18	403	4	中部・東海	中越
2006	13	224	4	九州・沖縄	久留米南筑	2011	18	403	4	中部・東海	伊東城ヶ崎分校
2007	14	242	4	東北	青森南	2011	18	403	4	中部・東海	愛知田口
2007	14	242	4	東北	宮城柴田農林	2011	18	403	4	近畿	大商学園
2007	14	242	4	関東	新島学園	2011	18	403	4	近畿	伊丹西
2007	14	242	4	関東	川崎総合科学	2011	18	403	4	中国	山口下松
2007	14	242	4	中部・東海	土岐商業	2012	19	454	4	北海道	帯広南商業
2007	14	242	4	中部・東海	伊東城ヶ崎分校	2012	19	454	4	北海道	札幌稲西
2007	14	242	4	近畿	兵庫香寺	2012	19	454	4	東北	石巻好文館
2007	14	242	4	近畿	近大附属豊岡	2012	19	454	4	東北	宮城柴田農林
2007	14	242	4	九州・沖縄	八代白百合学園	2012	19	454	4	関東	今市工業
2008	15	252	4	東北	大曲	2012	19	454	4	関東	埼玉栄
2008	15	252	4	東北	郡山東	2012	19	454	4	関東	小石川中等教育学校
2008	15	252	4	関東	柏	2012	19	454	4	中部・東海	新潟十日町総合
2008	15	252	4	中部・東海	伊東	2012	19	454	4	中部・東海	飯田女子
2008	15	252	4	近畿	市川	2012	19	454	4	近畿	生野
2008	15	252	4	中国	倉敷古城池	2012	19	454	4	近畿	伊丹西
2008	15	252	4	四国	坂出	2013	20	522	4	東北	宮城迫桜
2008	15	252	4	九州・沖縄	熊本学園大附属	2013	20	522	4	東北	石巻女子
2008	15	252	4	九州・沖縄	八代白百合学園	2013	20	522	4	関東	茨城藤代
2009	16	331	4	北海道	帯広南商業	2013	20	522	4	関東	新島学園
2009	16	331	4	北海道	留萌	2013	20	522	4	関東	小石川中等教育学校
2009	16	331	4	東北	郡山東	2013	20	522	4	中部・東海	飯田女子

年	回	応募校	順位	ブロック	受賞校 ⑦	年	回	応募校	順位	ブロック	受賞校 ⑧
2013	20	522	4	中部・東海	愛知昭和	2015	22	514	1	九州・沖縄	浦添工業
2013	20	522	4	近畿	滝川	2015	22	514	2	四国	坂出商業
2013	20	522	4	中国	松江南	2015	22	514	3	北関東	埼玉栄
2013	20	522	4	四国	宇和	2015	22	514	3	北海道	岩見沢高等養護学校
2013	20	522	4	九州・沖縄	那覇工業	2015	22	514	3	北関東	埼玉 県立芸術総合
2013	20	522	4	特別記念	長崎 聖和女子学院	2015	22	514	3	中国	下松
2013	20	522	4	特別記念	大分 東明	2015	22	514	3	近畿	神島
2014	21	521	4	北海道	名寄産業	2015	22	514	4	北海道	道尚志学園
2014	21	521	4	東北	泉館山	2015	22	514	4	東北	白石工業
2014	21	521	4	関東	藤岡北	2015	22	514	4	東北	弘前
2014	21	521	4	関東	浦和第一女子	2015	22	514	4	南関東	四街道
2014	21	521	4	中部・東海	中越	2015	22	514	4	南関東	松戸南
2014	21	521	4	中部・東海	伊東	2015	22	514	4	東京	小石川中等教育
2014	21	521	4	近畿	大阪成城	2015	22	514	4	東京	東亜学園
2014	21	521	4	近畿	手塚山学院	2015	22	514	4	北陸信越	富山東
2014	21	521	4	近畿	大阪市立工芸	2015	22	514	4	東海	津島東
2014	21	521	4	四国	新南陽	2015	22	514	4	東海	光ヶ丘女子
2014	21	521	4	九州・沖縄	真和志	2015	22	514	4	近畿	生野

年	回	応募校	順位	ブロック	受賞校 ⑧
2016	23	527	1	中国	島根・大田
2016	23	527	2	九州・沖縄	沖縄・知念
2016	23	527	3	東北	宮城・白石工業
2016	23	527	3	北関東	埼玉栄
2016	23	527	3	熊本大震災枠	八代白百合学園
2016	23	527	3	北海道	帯広工業
2016	23	527	3	東京	都立総合芸術
2016	23	527	4	北関東	埼玉・戸田翔陽
2016	23	527	4	近畿	和歌山・神島
2016	23	527	4	北海道	尚志→道科学大高
2016	23	527	4	南関東	千葉・四街道
2016	23	527	4	近畿	大阪市立工芸
2016	23	527	4	東海	愛知・一宮南
2016	23	527	4	四国	香川・観音寺第一
2016	23	527	4	北陸信越	福井・丹生
2016	23	527	4	東海	岐阜・富田
2016	23	527	4	東北	弘前南
2016	23	527	4	南関東	神奈川・川崎(定)
2016	23	527	4	東京	早大 高等学院

出所：第1回～第20回
立木(2014:39-59、158-180)

第21回～第22回)東川町写真の町
実行委員会資料等

第23回 (北海16.7.31)

写真甲子園の各賞受賞校等

参考資料 表 6

(1) 出場常連校(回数)

回	ブロック	出場校
15	近畿	大阪市立工芸
10	九州・沖縄	八代白百合
10	関東	埼玉栄
9	九州・沖縄	沖縄真和志
8	中部・東海	新潟十日町総合
7	東北	青森南
7	北海道	帯広南商業
5	北海道	旭川工業

(2) 賞状の種類

1位	優勝	北海道知事賞
2位	準優勝	北海道新聞社賞
3位	優秀賞	東川町長賞 美瑛町長賞 上富良野町長賞 東神楽町長賞 旭川市長賞
4位	敢闘賞	

(3) 上位入賞校(回数)

回	ブロック	出場校
11	近畿	大阪市立工芸
6	九州・沖縄	沖縄真和志
6	関東	埼玉栄
4	中部・東海	新潟十日町総合
4	東北	青森南
5	九州・沖縄	八代白百合

(4) 選手が選ぶ特別賞(事前投票)

順	年	受賞校
4	2014	大阪市立工芸
1	2015	浦添工業
2	2016	知念
キャノンスピリット賞・個人が受賞		
4	2014	大阪市立工芸
3	2015	岩見沢高等養護
4	2016	富田

(5) 町民が選ぶ特別賞(事前投票)

順	年	受賞校
1	2006	沖縄真和志
2	2007	広島庄原格致
3	2008	帯広南商業
4	2009	帯広南商業
3	2010	帯広南商業
1	2011	大阪成城
1	2012	浦添工業
3	2013	帯広南商業
4	2013	大分東明
3	2014	芸術総合(初日)
4	2014	真和志 (二日)
3	2014	江別 (三日)
3	2015	岩見沢* (初日)
2	2015	坂出商業(二日)
1	2015	浦添工業(最終)
2	2016	知念
4	2016	弘前南
3	2016	帯広工業

出所: 各表等は、次の資料を基に筆者作成

- ①立木(2014)、
- ②『写真の町通信』vol.29等
- ③ひがしかわ広報(2015年)
- ④(北海16.7.31)

順は、本戦の順位。

* は、岩見沢高等養護

東川町国際写真フェスティバル「写真の町東川賞受賞者」

参考資料 表 7

回	年	国内作家賞	海外作家賞	飛弾野数 右衛門賞	特別作家賞	新人作家賞
1	1985	須田一政 田原桂一	ジョール・スターンフェルド(英国)		志賀芳彦	該当者 なし
2	1986	篠山紀信	ルシアン・クレルグ(仏)		関口哲也	林 隆喜
3	1987	奈良原一高	ジョール・マイヤーウィッツ(米国)		神部弘二	今 道子
4	1988	植田正治	ルイス・ボルツ(米国)		竹田津実	伊奈英次
5	1989	渡部雄吉	石 少華(中国)シー シャオ フア		佐藤雅英	築田 純
6	1990	村井 修	グラシエラ・イトウルビーデ (メキシコ)		繰上和美	佐藤時啓
7	1991	荒木経惟	ヤン・ザウテク(チェコスロバキア)		掛川源一郎	蓑田貴子
8	1992	橋口譲二	オリーボ・バルビエリ(伊)		深瀬昌久	古屋誠一
9	1993	高梨 豊	ウィリアム・ヤン(豪州)		清水武男	猪瀬 光
10	1994	新正 卓	ミッシェル・カンポウ(加)		長倉洋海	今森光彦
11	1995	杉本博司	金 秀男(韓国)キム ソーナム		村田恒夫	瀬戸正人
12	1996	川田喜久治	グンドゥラ・シュルツェ(独)		中村征夫	松江泰治
13	1997	野町和嘉	カラム・コルヴィン(英国)		齋藤亮一	金村 修
14	1998	菅 洋志	アンソニー・ヘルナンデス(米国)		津山正順	細川 剛
15	1999	石内 都	クラウディオ・エディンガー (ブラジル)		高田邦彦	やなぎみわ
16	2000	畠山直哉	チェマ・マドウス(スペイン)		窪田正克	野村恵子
17	2001	細江英公	アンドリュース・グランツ (ラトヴィア)		飛驒野 数右衛門	オノデラユキ
18	2002	森村泰昌	エドウィン・ズワックマン(蘭)		風間健介	尾仲浩二
19	2003	齋藤亮一	ガイ・ティリム(南アフリカ)		吉田ルイ子	糸崎公朗
20	2004	中川幸夫	アントワヌ・ダガタ(仏)		倉沢栄一	藤部明子
21	2005	小山穂太郎	金 寧万(韓国)キム ヨンマン		鈴木涼子	小檜山賢二
22	2006	鈴木理策	ケタキ・シェス(インド)		綿谷 修	安楽寺えみ
23	2007	杉浦邦恵	マニット・スリワニチプーン(タイ)		山田博之	今岡昌子
24	2008	檜橋朝子	クラウス・ミッテルドルフ (ブラジル)		小畑雄嗣	澤田和子
25	2009	柴田敏雄	アン・フェラン(豪州)		露口啓二	石川直樹
26	2010	北島敬三	陳 敬寶 チェン チンパオ (台湾)	小島一郎	萩原義弘	オサム・ジェームス・中川
27	2011	オノデラユキ	ピーター・ドレスラー (オーストリア)	百々俊二	奥田 實	北野 謙
28	2012	松江泰治	アリフ・アシュジュ(トルコ)	南 良和	宇井真紀子	志賀理江子
29	2013	川内倫子	ミンストレル・キューク・ チン・チャー(マレーシア)	山田 實	中藤毅彦	初沢亜利
30	2014	野口里佳	ヨルマ・プラーネン (フィンランド)	増山たづ子	酒井広司	石塚元太良
31	2015	佐藤時啓	アン・ノーブル(ニュージーランド)	福島菊次郎	吉村和敏	春木麻衣子
32	2016	広川泰士	オスカー・ムニョス(コロンビア)	池本喜巳	マイケル・ ケンナ(米)	池田葉子
33	2017	本橋成一	アンナ・オルオーブスカ (ポーランド)	小関与四郎	岡田敦	野村佐紀子

出所:東川町。北海(17.5.1)

2010年より、国内、海外作家賞:各百万円、三賞:各五十万円。

三市町別地域開発等の指定状況 参考資料 表8

共通事項
豪雪地帯対策特別措置法
農業振興地域の整備に関する法律
美唄市と富良野市
過疎地域自立促進特別措置法
東川町(国立公園)と富良野市(国立と道立)
自然公園法
辺地に係る公共的施設の総合整備のための 財政上の特別措置等に関する法律
富良野市
低開発地域工業開発促進法
山村振興法の一部指定
特定農山村地域における農林業等の活性化 のための基礎整備の促進に関する法律の 一部指定
基本構想・総合計画名(上段)
副題(下段)
東川町～平成25～29年度
東川町プライムタウン計画(21-Ⅱ)
人と自然がおりなす輝きの大地 ひがしかわ
美唄市～平成23～32年度
びばい未来交響プラン(第6期美唄市総合計画)
食・農・アートが響き合う緑のまち美唄
富良野市～平成23～32年度
第57次富良野市総合計画
安心と希望、協働と活力の大地「ふらの」
キャッチフレーズ～へそとスキーとワインのまち
出所:北海道

三市町における地域間連携等 参考資料の巻末

「東川町」:一部事務組合:税務の電算処理(1962年)、清掃と消防(1973年)、葬斎が(1976年)。広域連合:国保事業、介護や老人保健等事務(2004年)。

定住自立圏:医療、福祉、教育、産業振興(2010年)。上川広域滞納整理機構は(2009年)。上川教育研修センターは(1972年)。上川管内全般は富良野市を含む。

「美唄市」:南空知ふるさと市町村圏組合(1991年)。桂沢水道企業団(1955年)。空知教育センター組合(1968年)。石狩川流域下水道組合(1985年)。

「富良野市」:富良野生活圏一般廃棄物広域分担処理検討協議会(1999年)。富良野地区定住自立圏(2013年)。

北海道全般では、市町村職員退職手当組合(1957)や公務災害(1952)。町村議会議員の公務災害補償等組合(1952)。市町村の備荒資金組合(1956年)等がある。

五市町における葬儀に関する状況調査

市町	掲載 件数	葬儀会場等の割合 %				認知 件数	葬儀 委員長
		寺院	公営	民営	終了		
旭川	698	4		61	35	77	17
美唄	86	17	39	32	12	50	53
富良野	80	1	1	80	18	43	38
東川	732	55	7	23	15	34	66
大空	31	74		23	3	32	81

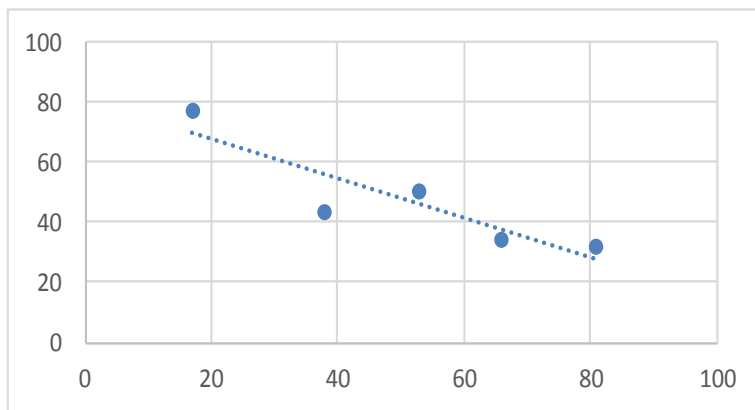
認知件数は、2010～2014年人口1万人当たりの平均。

旭川市	地方紙	15.1.3～15.3.31
美唄市		15.1.3～15.3.31
富良野市		15.1.3～15.4.30
東川町		07.1.3～1612.31
大空町		15.1.3～15.3.31

地縁等の葬儀委員長が多い地域では、社会関係資本(互酬性の規範等)の蓄積からか刑法犯認知件数が少ない傾向であった。

(相関係数-0.8933)

社会関係資本と犯罪との関係： Putnam (2000-360)、内閣府(2003)



出所：筆者作成

刑法犯認知件数と葬儀委員長との関係